

下淵名塚越遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

（第二分冊）

遺物観察表編

1991

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	埋藏文化財 業団保管	01-330
		17-2
No. 3-163	平成 3 年 6 月 14 日	(5)

SIMO HUTI NA TUKA GOSI
下淵名塚越遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

（第二分冊）

遺物観察表編

1991

建設省
群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

凡 例

1 出土遺物の個別の特徴については、この項において一括して記載する。遺物は出土した遺構ごとを原則に、本文と同じ番号で統一した。表にはスペースの都合で略語や慣用語を多く使用している。

2 器種は器形と土器種類を併せて記し、以下の略号を用いた。

(S) 須恵器 (H) 土師器 (K) 灰釉陶器 (R) 緑釉陶器 (Y) 弥生式土器

また金属製品や石製品についても、製品名を記した。

3 出土状態や遺跡での検出状態と整理作業での復元状況を記した。なお、復元状況での分数表示を行う場合は、分母を8までとし、1/8以下のものは小破片と記した。

4 計測値はセンチメートルを単位とし、ミリメートルまで実際に遺物を計測した値を記した。そのため、実測図とは必ずしも数値は一致していない。計測は外径を測り、歪みの大きな遺物は最大値と最小値を～を使って併記した。図上復元の数値には()を付した。計測部位の表示に以下の記号を使用した。

「口」口縁部径 「頸」頸部径 「胴」胴部径 「脚上」および「脚下」脚部の上端と下端の径

「台」高台の下端径 「鈕」蓋の鈕部径 「鏝」羽釜の鏝部径 「高」器高 「径」土錘等の最大径

「長」土錘等の長さ 「不安」計測値等で疑わしいもの

5 成・整形技法と器形の特徴

ロクロ（回転台などの総称）使用の土器は、「回転の方向」→「切り離しの手法」→「切り離し後の調整」の順で製作技法を記した。切り離し後にロクロを使用して調整を加えたものは、本遺跡での検出例は総て成形段階と同じであるため、その回転方向は省略している。また、「回糸」は回転糸切り離し、「回ヘラ」は回転ヘラ切り離しの略語である。また、回転痕跡の表現に、指や工具により生じた段を「ロクロ痕」、回転により生じた擦痕を「横ナデ」として区別して使用した。

ヘラ削りについては、粘土をそぎ落とすようにしたものを「強い」、なま乾き状態で擦痕が目立つものを「鋭い」と表現した。

6 備考は「①胎土②焼成③色調④その他」の順で記した。

①胎土は素地と混入鉱物に分けた。素地についてはその粗密を記した。混入鉱物は肉眼観察によるものである。そのため輝石としたものの中には角閃石等が含まれる。赤褐色鉱物・黒色鉱物としたものは、いずれも鉄を主成分にすると思われるものである。砂粒については農学会の表記を使用し、以下のとおりである。

細砂→0.2mm以下 粗砂→0.2～2mm 細礫→2mm以上

なお、石製品・金属製品の場合、材質の特徴についてここで扱った。

②焼成については、その種類と状態を記した。種類は酸化焰と還元焰の他に、平安時代末期以降に現れる中間的なものを中性焰とした。状態については硬調と軟調に分けた。

③色調については、『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社発行）を使用した。二次的火熱による変色や、付着物の影響のない部分のうち、特徴的な場所を選んだ。なお、『土色帖』の色名を使用した場合は必ず記号を併記し、「黄色味をおびている」というような傾向の記載とは区別している。

④その他については、土器は「二次的火熱」や「凍てハゼ」、「墨書」などの焼成以後に加わった特徴を記載した。ただし、陶磁器類や瓦などについては、類推される生産地と使円の痕跡をこの項に記した。

7 観察表の執筆は、主に飯田陽一があたり、大木紳一郎、大西雅広、新倉明彦、木津博明がこれを補佐した。

目 次 (第二分冊 遺物観察表編)

凡 例

1 竪穴住居跡出土遺物	1
2 掘立柱建物跡出土遺物	96
3 古墳出土遺物と埴輪	98
4 土器集積跡出土遺物	113
5 中世館跡出土遺物	118
6 道路跡出土遺物	138
7 溝出土遺物	139
8 方形竪穴遺構出土遺物	157
9 井戸跡出土遺物	158
10 土坑出土遺物	170
11 遺構外出土遺物	177
(1) 弥生式土器	177
(2) 外来系土器 (古墳時代初頭)	187
(3) 瓦	190
(4) 古墳時代～平安時代の遺物	192
(5) 中世～近世の遺物	193
(6) 古 錢	196

1 竪穴住居跡出土遺物

I区 1号住居跡(第9図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	鈕 2.9	埋土 鈕ほぼ完存 天井部欠	右回転ロクロ→切離し不明→天井部回へう。鈕は端部尖る。横ナデ弱く内面平滑。	①素地やや緻密。砂粒・黒色鉱物粒含み、白色針状物やや目立つ。②還元焰、やや硬調。③青灰5B6/1、一様。
2 杯(S)	口(13.2) 底(9.4) 高 3.4	埋土 図示部欠	右回転ロクロ→切離し・調整不明。横ナデ弱い。	①砂粒やや多いが他の夾雑物まれ。②還元焰、硬調で焼締り。③青灰5B6/1、外面暗青灰5B3/1基調。④外面の硬化著しく、窯内で焼台使用の可能性。
3 杯(H)	口(13.4) 高 3.2	埋土 口縁欠 底部欠	外底の削りは強く、器面に凹凸ができ口縁下端は無調整。ナデは丁寧だが、器面の凹凸残る。	①素地は緻密。砂粒・赤褐色鉱物粒を若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3中心に、色調一様でない。内面灰黒色味が強い。

I区 2号住居跡(第10図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀(H)	口 11.5 高 6.3	北隅下10cm 体部欠く	外底に強く雑な削り。内面は板状の工具の強いナデで、内底平滑さ欠く。	①粒子緻密、ダスト状。砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③内面橙2.5YR6/6。外面暗く下半黒褐色。④やや脆弱で二次火熱を受けた可能性。
2 椀(H)	口(12.0) 高 6.6	カマド内 体部欠く	1とほぼ同巧。口縁部の屈曲はやや弱い。	①②1に同じ。③橙5YR6/6基調だが色相・彩度とも一様でない。④口縁の歪みや大きい。
3 鉢(H)	口(14.0)	埋土 図示部欠	輪積みか。外面削りきわめて弱く器面平滑。内面指頭状の横位ナデで細かな凹凸残すが平滑。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物のまじる細砂若干含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3、断面黒褐色。
4 高杯(H)	口 18.1~19.0 脚上 4.0	カマド内床直上 脚裾部欠く	器面の荒れのため整形痕不明瞭。内底縁部に接合痕とヘラ状工具の強いナデ痕が残っている。	①素地緻密、ややダスト状。砂粒・赤褐色鉱物散見。②硬調の酸化焰。③橙2.5YR6/6基調だが、色相・彩度とも一様でない。④二次火熱受ける。内底部若干摩滅。
5 甕(H)	口 16.7 頸 14.4 胴(21.6)	カマド東脇床上 8cm 図示部欠	内面に巻上げ状の接合痕あり。外面のハケ目は弱く不明瞭。内面のナデは雑で器面の凹凸強い。	①ボソボソしてやや粗い。不揃いの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、黒色部分広く一様でない。④二次火熱受け外面剥落進む。
6 甕(H)	口(23.0) 頸(19.6) 胴(24.6) 底(6.6) 高 21.6	カマド内床上8 cm 図示部欠	内面接合痕は輪積状に残る。内面は上半のみナデで仕上げるが、下半は器面凹凸。外面の削り不明瞭。器面凹凸。	①砂粒多く細礫も目立つ。粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。外面大半黒褐色。④二次火熱受ける。胴最大径以下にスス付着。

I区 3号住居跡(第11図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 10.4 底 5.1 高 2.6	東壁直下床上6 cm 個体	右回転ロクロか→回糸。外面口縁下半は削りか。器面は型膚状で砂粒の動きはない。糸切痕も不規則。内面ナデも不整な擦痕が残っている。	①素地やや粗く、バミス・輝石の目立つ砂粒の夾雑多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3でほぼ一様。

遺物観察表編

2 甕 (H)	口 21.2 頸 18.0~18.6	南東壁際 口縁 $\frac{3}{4}$ 肩部 $\frac{1}{4}$	口縁の形状一定せず、外端に部分的に沈線が巡り、「く」の字に屈曲する。内面は平滑。外面削りは強く細かい。	①砂粒多くザラザラする。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4基調。外面に黒斑。内面やや灰色味をおびる。
3 甕 (H)	口 21.1 頸 18.3	南東壁際床直上 図示部 $\frac{3}{4}$	器面荒れてナデの痕は不明瞭。外面削りは細かく、何度もくり返している。内面も平滑さ欠く。	①②2にほぼ同じ。③にぶい橙5YR6/4基調。外面に黄色味・黒色味のムラあり。
4 土錘	長 3.6 厚 1.0 重 3.0g	埋土 完形	外面に成形痕観察できず。外形に歪みがあるが、孔はほぼ直線だが一端で小さく曲がる。	①素地緻密で、輝石まじりの細砂を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/3。明度の低いムラも広い。

I区 4号住居跡 (第12図 PL.63)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(17.0)	埋土 図示部 $\frac{3}{4}$	右回転クロコ。砂粒の動き少ない。	①素地は緻密だが、粗砂・3mm大のパミスなど、夾雑物多い。②還元焰、普通。③青灰5BG6/1で一樣。
2 甕 (H)	口(20.0) 頸(17.8) 胴(20.4)	中央床直 図示部 $\frac{3}{4}$	口縁外面のみ接合痕残る。内面全体に指頭痕状の細かな凹凸多い。	①粗砂多くザラザラする。パミス・赤褐色鉱物散見。②酸化焰、やや軟調。③橙2.5YR6/6部分多いが、灰色味・黄色味強い部分などまちまち。
3 甕 (H)	口(17.0) 頸(14.0)	埋土 図示部 $\frac{3}{4}$	外面斜位の削りは部分的にハケ目状を呈している。内面のナデは雑で器面は不整。	①素地やや緻密だが、細砂の混入やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤橙10R6/4基調だが、黒色味おびる部分広い。内面は黒褐色。
4 土錘	長 3.1 厚 0.9 重1.6g	埋土 $\frac{3}{4}$ 個体	断面に接合痕あり。外面に成形痕観察できず。内面平滑。	①素地やや緻密で、細砂以外の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③橙2.5YR6/6、ほぼ一樣。

II区 1号住居跡 (第15図 PL.63)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口 15.5 底 6.6 高 2.8	南壁直下床直上 完形	右回転クロコ→回糸無調整。横ナデは弱い。口縁内側以外の器面の平滑さ欠く。口縁に弱い波状の歪み。	①やや粗い。片岩質の細礫やチャート散見。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG5/1。底部内外面に重焼き痕がセピア色を呈している。
2 碗	口 14.5 台 6.3 高 5.6	南壁下床直上 口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠く	右回転クロコ→回糸→クロコ使用高台取付け。横ナデは間隔狭く、砂粒の移動少ない。高台には棒状の圧痕による凹凸著しい。	①やや粗く器面ザラザラしている。輝石・細礫等を散見。②不十分な還元焰。やや軟調。③灰白5Y7/2。大部分は吸炭して黒褐色を呈している。④体部外面に墨書「支」あり。
3 杯	口 13.0 底 6.5 高 3.8	北東隅床直下 ほぼ完形	右回転クロコ→回糸無調整。内面にクロコ痕なし。器面は細かな凹凸多く不整。	①素地やや粗く、細礫等の混入物多く器面ガサガサ。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味の強いムラあり。重焼き状の黒斑内外面にあり。④外面に不明瞭な墨書「土」あり。
4 杯 (S)	口 13.4 底 6.5 高 4.3	中央床直上 体部上半 $\frac{1}{4}$ 欠く	右回転クロコ→回糸無調整。横ナデは細かく、内底は布で拭く。器面は不整の細かな凹凸あり。	①粗くザラザラしている。片岩質の細礫やや目立つ。②やや不十分な還元焰。③灰白5Y7/1。内面と一部外面は吸炭し黒褐色。④外底に墨書「土」。
5 杯	口 12.6 底 5.8 高 4.4	北東隅床下 口縁上半 $\frac{3}{4}$ 欠く	右回転クロコ→回糸無調整。外面接合痕状のヒビあり。内面は口縁で同心円状、底部一方向の丁寧な磨き。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3で、ムラ多い。内面黒色処理だが光沢欠く。④内面タール状の付着物あり。外面に墨書「呈」あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

6 台付甕 (H)	口(10.8) 頸(10.2) 台上 4.1	カマド内5片 図示部%	外面は細かな削り。台部直上に取付時の強いナデ。内面はヘラ状工具のナデで平滑に仕上げる。	①素地緻密。輝石まじりの砂粒夾雑。②酸化焰、軟調。③にぶい橙5YR6/4。黒褐色部分広く、一様でない。④二次火熱を破損後に受けている。
7 甕(H)	口(21.6) 頸(20.8)	北東側床直上 口縁% 肩部%	外面削り強く、砂粒の動き多い。内面ナデは一部ハケ目状。接合痕が深いヒビ状になって残っている。	①素地やや粗い。砂粒多く、土粒を散見する。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR4/4基調。全体に暗いが一様でない。

II区 2号住居跡(第17図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 12.8 高 3.4	南壁下床直上3片 口縁%欠く	外底の削りやや強く、器面に小さな凹凸あり。内面同心円状・中央部分で一方方向のナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの細砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
2 杯(H)	口 15.4 高 3.1	南壁寄床直上% 個体	外面削り強く鋭い。内面ナデは器面を濡らして施し、強い布状具の擦痕が残っている。底部に不規則な凹凸あり。	①素地普通だが、赤褐色鉱物や3mm大の土粒等夾雑物目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4基調。内面中心に黄色味、黒色味のムラ多い。
3 甕(H)	口(25.0) 頸(23.0)	南壁下床直上8cm 5片 図示部%	外面削りは鋭く、砂粒の動き多い。内面ヘラ状工具のナデで平滑さ欠く。頸部外面に指頭痕状の小さな凹みあり。	①素地やや粗く、石英まじりの粗砂混入。②酸化焰、甕類としては硬調。③橙5YR7/6基調。内面黄色味、外面黒色味のムラあり。

II区 3号住居跡(第18図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口(17.6)	埋土 図示部%	右回転クロー→天井部回ヘラ。内面は濡れた状態での横ナデ。	①やや緻密。細砂多い。②還元焰、普通。③青灰5BG6/1でほぼ一様。内面更に明度高い。
2 杯(H)	口 15.1 高 4.7	カマド右袖脇床 上5cm 口縁部%欠く	外面削りは強く息長く、器面に凹凸ができる。内面は丁寧なナデで平滑。口縁に小さな波状の歪みあり。	①輝石・パミスまじりの粗砂やや多い。普通。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。外面一部黒斑あり。赤色味をおびる部分もある。

II区 4号住居跡(第19図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(15.4)	カマド周辺埋土 15片 図示部%	外面削りは乾燥の進んだ状態で施す。ナデは丁寧で平滑に仕上げる。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地は普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。内面やや黄色味をおびる。
2 甕(H)	口(15.0) 頸(13.2)	カマド付近埋土 2片 図示部%	口縁部は内外面とも丁寧な横位ナデ。内面は平滑に仕上げる。	①素地緻密で夾雑物も少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。赤色味をおびる部分も広い。
3 甕(H)	口(23.0) 頸(18.2)	カマド周辺7片 図示部%	摩擦して不明瞭だが、強い削りの痕が頸部段差になって残る。	①ローム土、砂粒等多く、やや粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。黒色・灰色のムラ多く一様でない。
4 甕(H)	口(12.8) 頸(9.8)	埋土 図示部%	外面粗いハケ目。内面は細かな削り。やや雑な造りで器面に平滑さ欠く。	①やや粗く、粗砂の混入多い。②酸化焰、普通。③灰白2.5Y7/2基調。赤色味のムラ多い。内面黒褐色。

遺物観察表編

5 台付甕 (H)	口(11.2) 台上 4.3 台下 8.2~8.6 高 15.6	床面落込 体部 $\frac{1}{2}$ 欠く	台部を土台に体部を接合する。体部・ 台部とも内面は指頭状の弱く規則的な ナデ、外面幅広の弱いへら磨きが部分 的に観察できる。	①粗悪。パミス状の夾雑物多く素地もボソボソして いる。②酸化焰、軟調でしまり欠く。③にぶい褐7.5 YR5/4~黒褐5YR3/1。色相・明度とも一様でない。 ④二次火熱の影響で脆弱化。
-----------------	-------------------------------------------	-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

II区 6号住居跡(第21図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(14.0)	カマド内2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底に粗い削りを施し、体部下半は無 調整、内面丁寧なナデだが大きく緩や かな歪みあり。	①やや粗く気泡まじる。輝石散見。②酸化焰、やや 軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。外面は不規則に黒色味 をおびている。
2 杯(H)	口(13.6)	カマド内1片と 埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	体部下半の屈曲と口縁端部に差がある が、1と似ている。	①やや粗く気泡まじる。輝石散見。②酸化焰、やや 軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。外面は黒色味やや強 く、一様でない。
3 杯(H)	口(13.6)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外底の削りは弱く丁寧で砂粒の動き少 ない。内面も同心円状の丁寧なナデ。	①夾雑物少なく素地も緻密。②酸化焰、普通。③に ぶい橙5YR7/4、口縁付近は若干黒斑ある。
4 (刀子)		埋土 茎で先端欠く	材質、形状より刀子。関部分が残存す るようだが不明瞭。	①錆化によるふくれが著しいが、鉄地金は良い。

II区 7号住居跡(第22図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	脚上 5.7 脚下 9.8	西隅中央寄床直 上 図示部ほぼ完存	脚下端は内側へ折り返し。内面指頭状 の凹凸多い。ハケ目は丁寧だが、ハケ 目以前に平滑に仕上げられている。	①灰白色の細礫多く夾雑。気泡含みや粗い。②強 い二次火熱を受ける。やや硬調。③にぶい黄橙10 YR7/3。赤色味のムラあり。内面灰白色。
2 罎(H)	口(11.6) 高 5.4	埋土 上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	全体にへら磨きを施すが、内面やや雑 で、体部に斜位の丁寧な削りの痕が見 える。	①素地は緻密。石英・輝石等若干含む。②酸化焰、 普通。③にぶい橙5YR6/3で弱い光沢。外面に灰色味 のムラと火ダスキ状の黒斑あり。

II区 8号住居跡(第24図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(12.8) 底 4.9 高 4.2	南壁下床下7cm 体部上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転クロクロ→回糸無調整。横ナデは 弱い。内面は比較的平滑。	①素地やや粗く、パミス・細礫等夾雑。②中性焰、 軟調。③灰黄褐10YR6/2。黄色味・黒色味のムラ多 く一様でない。内面吸炭だが光沢欠く。
2 椀	口(13.6)	カマド内2片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クロクロ。横ナデは体部下半で不 明瞭。	①素地やや粗く、砂粒・土粒など夾雑。②酸化焰か、 やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。明度の低い部分多く 一様でない。
3 杯	口(15.0)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クロクロ。横ナデは強く細かい。 歪み著しく、口径不安。	①砂粒多く気泡含むが素地緻密。②ほぼ還元焰、や や硬調。③灰黄2.5Y7/2~にぶい橙2.5YR6/3で一様 でない。
4 椀	台 6.2	カマド前床上6 cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クロクロ→回糸→回転利用高台取 付け。高台雑で形状一様でない。横ナ デ弱く不明瞭。	①素地やや粗く粗砂の混入も多い。②中性焰、やや 硬調。③灰黄2.5Y7/2。黄色味等、細かな差異あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

5 椀	台(6.0)	南壁下床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クワ→回糸→高台は上から押 圧するような雑な取付。内面に重焼き 痕。	①素地普通だが砂粒・パミス等の夾雑物多い。②中 性焰、硬調。③にぶい赤褐5YR5/3、内底は黒色味強 い。
6 甕	口(28.0) 頸(27.0)	埋土 図示部小破片	輪積みか。外面削りは雑で上半に無調 整部分広い。内面やや雑なナデだが平 滑に仕上げる。	①素地はやや緻密だが、輝石・パミス・砂粒等夾雑 物多い。②二次火熱の影響強く脆弱。元来は硬調か。 ③明赤褐2.5YR5/6。ムラ少ない。

II区 9号住居跡(第26図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口13.4~13.8 底8.2~8.7 高3.7	南壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転クワ→切離し不明→底部全面 回へら。横ナデは内面で弱い。砂粒の 動き少ない。	①砂粒多く、チャート細礫散見。素地は緻密。②還 元焰、普通。③オリブ灰2.5GY6/1、外面青色味を おびるがほぼ一様。
2 杯(S)	口(12.0) 底(9.0) 高(2.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クワ→切離し不明→残存部全 面回へら。外底の凹凸からへら切りの 可能性。クワ痕弱い。	①素地普通。パミスまじりの細砂が多い。②還元焰、 やや硬調。③明オリブ灰2.5GY7/1。外面は彩度低 い。一様でない。
3 杯(H)	口13.3	南壁下床直上5 片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁内端やや肥厚。器面摩滅し不明瞭 だが、外底の削りやや雑。ナデは同心 円状で丁寧。	①素地やや緻密。細砂の夾雑物多い。②酸化焰、硬調。 ③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。
4 杯(H)	口(13.8)	南壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	口縁内端は折り返すようにして肥厚。 外底の削りやや雑。内面同心円状のナ デで粗い擦痕が残る。	①素地やや緻密。スコリア状の褐色夾雑物、砂粒や や多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外 面やや明度低い。④歪みあり口径不安。
5 杯(H)	口12.9 高3.5	南壁直下床直上 体部 $\frac{1}{2}$ 欠く	外底の削りやや粗く器面の平滑さやや 欠く。体部下半は無調整で残る。内底 のナデやや雑。	①素地やや緻密。外面に砂粒、内面に輝石まじりの 細砂目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/ 4、黒褐10YR3/1。一様でない。
6 甕(H)	口(20.2) 頸(17.0) 胴(20.0)	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りは弱く鋭い。口縁ナデは強く 布状具の粗い擦痕残る。また無調整部 分を残さない。内面やや平滑。	①素地やや緻密。砂粒や赤褐色夾雑物を含む。②酸 化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面下半彩度低い。 ④外面にカマド粘土の付着多い。
7 甕(H)	口(20.6) 頸(18.0) 胴(20.6)	南壁下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	口縁外面のナデやや雑。外面削りはや や強く丁寧。内面薄く長い工具により 丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地緻密。砂粒やや多く赤褐色鉱物の混入も目立 つ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。 内面灰色味をおびる。一様でない。④外面胴部中位 以下にスス付着。
8 甕(H)	口(20.2) 頸(9.6) 胴(21.4)	カマド内 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや鋭く不規則。内面ナデの 痕は不明瞭だが器面は平滑。	①②③6にほぼ同じ。
9 甕(H)	口(20.0) 頸(17.6)	南壁直下床直上 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや鋭く、丁寧。内面の工具 使用ナデも丁寧に平滑に仕上げる。薄 手で端正な造りである。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒若干含む。② 酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4基調だが 一様でない。④外面にカマド粘土付着。

II区 10号住居跡(第27図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	紐3.4	埋土 紐完存 天井図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クワ→天井部幅狭で雑な回へ ら→クワ利用紐取付。横ナデ弱い。	①素地普通。砂粒、細礫やや多い。②還元焰、やや 硬調。③灰白10Y7/1、ほぼ一様。
2 小型甕	口16.3	口縁~体上位破 片	体部斜めハケ→口縁ナデ。内面ナデ。	

遺物観察表編

II区 12号住居跡 (第29図 PL. 64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.8)	南東隅床下10cm 1/2個体 高台欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。横ナデ弱い。内面やや平滑。	①素地粗く砂粒の夾雑多い。②中性焰か。二次火熱 を受けている。軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。暗いム ラ部分あり一様でない。④高台剝落面摩滅。
2 椀	口(13.7) 台 6.4	埋土 4片 口縁1/2 底部完存	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕は内面で強い。高台は 不安定で形状一定でない。	①粗くボソボソしている。砂粒やや多い。②中性焰。 やや軟調。③黒7.5Y2/1。光沢なく、明度高く黄色味 おびる部分も広く一様でない。
3 椀	台(7.2)	埋土 図示部1/2	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕は外面で強い。内底縁 に高台の重焼き痕。	①素地やや粗い。片岩質の細礫若干含む。砂粒やや 多い。②還元焰、普通。③青灰10BG6/1で断面まで 一様。

II区 13号住居跡 (第30図 PL. 64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 ミニチュ ア	口(4.5) 脚上 3.0 脚下 3.8~4.2	中央床直上 体部上半1/2欠く	手づくね。外面くびれ部に強い押圧。 脚内面と胴中位外面にヒビが多い。口 縁、脚とも端部は波状に歪む。	①素地は粒子細かく緻密。砂粒・パミスを若干含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4、外面にやや薄 い黒斑あり。
2 砥石		埋土 一端欠く	一面は自然面。一方から穿孔し提砥と している。研き減った砥石の再利用。	①砥沢石。④断面糸巻き状の4面使用だが、摩滅は 2面に傾る。現状は表面に平滑さ欠く。

II区 14号住居跡 (第31図 PL. 65)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(10.8)	埋土 4片 口縁1/2 底部1/2	外面削りやや強い。内面ナデ丁寧だが 擦痕強く、器面の平滑さ欠く。	①細砂多く、ややしまり欠く。②酸化焰、やや軟調。 ③にぶい橙5YR6/4。外底付近は広く黒斑。
2 杯 (H)	口(13.6)	西壁直下床直上 図示部1/2	外面削りは細かく丁寧。内面のナデも 丁寧だが、器面に小さな凹凸残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。 ②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一 様。
3 杯 (H)	口(12.6)	埋土 3片 図示部1/2	口縁部の形状一様でない。削りやや強 い。内面ナデは丁寧で、平滑に仕上げ る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多い。②酸 化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/3でほぼ一様。
4 杯 (H)	口 14.0 高 4.2	南壁直下床直上10 cm ほぼ完形	外底削りは強い。側面一部摩滅して不 明瞭。厚手で重量感あり。内面器面や や荒れるが丁寧なナデで平滑。	①素地は緻密。パミス・輝石まじりの砂粒多い。② 酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。内面明度高 く、外面広く黒斑あり。
5 杯 (H)	口(15.0)	西壁下床上20cm 図示部1/2	器面摩滅して不明瞭だが、外面削りや や弱い。内面ナデは布状具のぬぐい痕。	①素地やや粗く、輝石・パミスまじりの砂粒、多い。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面に明 度の低いムラ広い。
6 杯 (H)	口 16.3 高 3.6	南壁直下床直上 ほぼ完形	外面削りはやや鋭い。内面ナデは丁寧 で平滑に仕上げている。	①素地はやや緻密。パミス目立つ砂粒やや多い。② 酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。低彩度で 赤色味をおびる小さなムラが多い。
7 甕 (H)	口 22.8~22.1 頸 18.5~17.8 胴 21.7~21.4	カマド前床直上 胴下半1/2と底部 欠く	薄手だが均整とれる。外面削りは鋭く 細かく単位つかみにくい。口縁端部に 強いナデ。内面工具使用ナデで平滑。	①やや緻密な素地だが粗砂の混入多く器面ザラつ く。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味の ムラや黒斑広く一様でない。④二次火熱受け、胴中 位以下で器面やや脆弱化。

1 竪穴住居跡出土遺物

8 刀子	関幅 1.60 棟厚 0.64~0.55	埋土 身部・茎部の両端欠く	棟側へ反るような歪みあり。関部分は不明瞭。	①錆化進むが鉄地金の質は良い。④切先側は調査時の欠失。
9 土錘	長 6.7 厚 1.3 重 9.8g	北壁下床上15cm 完形	外面平滑で成形痕見えず。若干ねじれ端部が屈曲気味となる。	①素地普通。砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③黒褐10YR3/1。にぶい黄橙10YR7/2。

II区 15号住居跡 (第32図 PL. 65)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚下(13.2)	埋土 脚柱部下半 $\frac{1}{4}$ 裾部 $\frac{1}{2}$	円孔は残存一カ所で小さい。全体でも4カ所以下。外面研磨雑で柱部では不明瞭。裾端部は両面丁寧なナデ。	①素地普通。砂粒の夾雑多い。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。一部暗く彩度も低いが、ムラは少ない。
2 杯 (H)	口(13.4)	埋土 $\frac{3}{4}$ 個体	外面削りは鋭く、擦痕が重なっている部分多い。内面丁寧なナデ。口縁部の形状は一定していない。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含むが、夾雑物は少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。内面は彩度低い。外面は赤色味のムラ。

II区 16号住居跡 (第34図 PL. 65)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.4 高 3.1	カマド前床直上 8片 底部若干欠く	外面削りは幅広く鋭い。内面ナデやや丁寧だが器面に細かな凹凸多い。口縁に大きな波状の歪み。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多く、ザラザラしている。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6でほぼ一様。
2 杯 (H)	口(13.0) 高 3.7	カマド前床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外面削りやや弱く雑。内面ナデは布状具の擦痕が残っている。内外面とも器面に細かな凹凸が多い。	①素地やや粗い。輝石・細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/3。外面薄い黒斑あり。
3 杯 (H)	口 12.7 高 3.2	カマド内西寄り $\frac{1}{2}$ 個体	外面削りやや強く丁寧。体部下半無調整部分も平滑。内面ナデ丁寧で平滑に仕上げ、擦痕少ない。	①②③2に近い。夾雑物やや多い。
4 杯 (H)	口 12.5 高 3.1	カマド前床直上 $\frac{3}{4}$ 個体	外底削りやや粗いが無調整部分まれ。内面ナデは布状具の擦痕が残る。成形時の凹凸が残る。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外面一部黒斑。ムラは少ない。
5 杯 (H)	口 13.0 高 3.4	カマド前床直上 完形	削りはやや鋭い。体部下半の無調整部分広い。口縁内部肥厚するが形状一様でない。内面ナデ丁寧。	①②③3に類似。細礫散見するが夾雑物少ない。④内面一部剝落。
6 杯 (H)	口(13.0) 高 3.3	カマド前床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	3にほぼ同巧。内面の細かな凹凸が多い。	①②③3に類似する。夾雑物はやや少なく、内面彩度低い。
7 甕 (H)	口(20.2) 頸(18.2) 胴(21.4)	北壁下床直上 図示部欠	口縁部小さな歪みあり、外端は不規則な沈線巡る。外面削りやや粗い。内面ナデは肩部付近でハケ目状。	①素地普通。パミス・長石等雑多な夾雑物あり。②酸化焰、やや軟調。二次火熱受け内面も剝落あり。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面黒斑広い。
8 甕 (H)	口 19.7 頸 16.6 胴 19.4 底 4.4 高 29.6	カマド前床直上 不規則に欠く	輪積みか。内面胴部下に合わせ痕。外面削り丁寧。内面も丁寧な仕上げだが器面凹凸。器形に歪みあり。	①薄手甕としては粗く、粗砂混入も多い。②酸化焰、やや軟調。二次火熱を外面下半に受けている。③にぶい赤褐2.5YR5/4、明度低いムラ多い。

遺物観察表編

II区 17号住居跡 (第36図 PL.65・66)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	口(20.4) 脚上 3.8 脚下 11.1~11.4 高 13.2	中央北寄床直上 体部上半欠く	脚部に4孔を穿ち、外面やや雑な面取り。ハケの上に太く粗い研磨。脚内面のみ工具使用のナデ。	①素地やや粗く、細礫の混入により器面にヒビが多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4から外面中心に黒色。一様でない。
2 壺(H)	口 13.2 頸 8.6	中央床直上5片 図示部口縁欠く	厚手で重量感あり。口縁部は強い研磨で器面に光沢。外面ハケは強く、磨きに近い効果。胴部内面は雑で接合痕が明瞭に残っている。	①素地やや粗く、灰白色の細礫を多く含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。低明度の色ムラ部分広く、一様でない。④凍てハゼあり。口縁端部の剝落多い。
3 甕(H)	口(15.2) 頸(13.2) 胴(16.0)	中央床直上 図示部欠	外面全面やや強いハケ目で器面に凹凸多い。内面はヘラの強いナデの上に棒状工具の粗く雑な磨き。	①素地粗く、石英・細礫など大粒夾雑物多い。②酸化焰、軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。外面ほぼ黒色。一様でない。
4 小型壺 (H)	口(12.8) 頸(8.4)	埋土 図示部欠	輪積みか。ハケ目のように粗い擦痕の横位ナデ後、下半にハケ目、その上から粗く雑なナデ。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③灰褐7.5YR4/2。明度・色相とも一様でない。
5 小型壺 (H)	頸(6.0)	東壁下床直上 図示部欠	外面強く研磨するが、やや雑で隙間が残る。内面肩部に接合痕と指頭圧痕顕著だが胴部は平滑。	①素地やや粗い。パミス等雑多に含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。内面明度高く、外面一部に黒斑。
6 小型甕 (H)	口(9.7) 頸 7.8~8.2 胴 9.2 高 9.7	P 2内床下20cm 口縁上半欠く	折り返し口縁、外面のみ横ナデ。ハケ目やや粗い。体部内面、器面荒れて不明瞭。	①素地やや粗い。輝石・パミス・細礫まじりの細砂多量に夾雑。②酸化焰、硬調。③明褐灰7.5YR7/2。黒斑広く、赤色味部分あり一様でない。
7 甕(H)	口 16.9~16.3 頸 14.5 胴19.7 底 5.4 高20.9	南壁下床直上 胴部一部欠くが ほぼ完形	輪積み。雑なハケ整形後、胴中位付近帯状に粘土を貼付し、その上に削りで再整形している。内面工具使用のナデでやや平滑。	①素地普通。パミス・細礫等混入する砂粒やや多い。②酸化焰、二次火熱の影響で不明瞭だがやや軟調か。③にぶい橙7.5YR6/4。内外面とも黒褐色部分広い。④外面胴中位以上にスス付着。
8 甕(H)	口(20.0) 頸(17.8) 胴(26.4)	中央床下7cm 口縁若干 体部欠	歪み強く口縁の形状は一定せず。胴中位の摩滅部分に接合痕顕著。ハケは細かく息短い。内面鋭い擦痕の調整、底部付近にハケ目残る。	①素地やや粗い。輝石・石英まじりの砂粒夾雑物多い。②酸化焰、二次火熱受け器面脆弱化。③黒褐7.5YR3/1。明度、彩度高い部分あり一様でない。④外面胴中位摩滅。

II区 19号住居跡 (第37・38図 PL.66)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小瓶 (K)	頸 2.3 胴 8.6 底 5.8~5.6	西壁下床上7cm 口縁端部欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。頸部内径1.5cmだが、内面は平滑。内底のロクロ痕やや強い。釉はやや薄く、施釉方法不明。内面無釉。	①細砂の混入多く、灰釉としてはやや粗い。②還元焰、硬調。③灰白10Y7/1。釉は黄白色。④二次火熱を受け、釉は部分的に剝落する。また、外底中心に薄くスス付着。
2 小瓶 (K)	頸 2.6 胴 8.8 底 5.6	北壁下床上5cm 口縁端部欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。頸部内径1.5cm。ロクロ痕は全体にやや弱め。ハケ塗りの釉がやや厚くかかる。内面無釉。	①ややボソボソした東濃系の素地。夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰白5Y7/1。釉は黄白色で厚い部分は緑色味をおびる。④口縁部割れ口が吸炭したように黒色味をおびる。
3 碗(K)	口 13.0 台 6.3 高 4.1	南壁下床直上 口縁若干欠く	右回転ロクロ。内面平滑に仕上げ、外面もロクロ痕弱い。施釉は漬掛け。内底に重焼き痕あり。外面降灰釉は厚い。	①緻密。細礫散見するが夾雑物まれ。②還元焰、普通。③明青灰5P7/1、内面黄色味強い。釉は外面白色味、内面黄緑色味強く、厚い部分はコバルト色に発色。

1 竪穴住居跡出土遺物

4 椀 (K)	口(16.6) 台 8.2 高 5.4	カマド前面床直上 口縁欠 底部欠	右回転ロクロ。内面平滑。外面ロクロ痕弱い。釉は漬掛け。外面の釉は特に薄い。内底僅かに重焼き痕あり。	①緻密。夾雑物少ない。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1ほぼ同様。釉は白色味、口縁付近でオリブ色味をおびる。
5 椀	口 15.0 台 6.2 高 5.8	埋土 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸→雑な高台取付。高台は不整で凹凸多い。横ナデ強い。内底は平坦。口縁は歪む。	①素地やや粗く、輝石・赤褐色鉱物を含む砂粒やや多い。②中性焰、軟調。③にぶい橙5YR6/4。灰色味の強い部分も広い。
6 椀	口 14.7 台 5.7~6.1 高 4.8	カマド前面床直上 ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用やや雑な高台取付。横ナデ弱い。内底広く平坦。厚手で重量感あり。	①②5に類似。③灰褐7.5YR6/2。灰色味・黄色味等まちまち。④内外面に薄く不均等にスス付着。
7 杯 (S)	口 12.8 底 5.6 高 3.5	中央東寄床7cm 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。外面に巻上げ痕状のヒビあり、横ナデ弱いが口縁端部の屈曲強い。	①素地やや粗く、バミス・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰やや不十分だが硬調。③灰白2.5GY8/1。外面に明度低いムラあり。
8 杯	口 12.1 底 6.1 高 3.8	南壁下床上10cm ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデきわめて弱い。内面に接合痕若干観察できる。	①素地やや粗く、細礫やや目立つ。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。口縁部は明度低く、底部両面広範に黒斑。④内面稜付近に著しい摩滅剝落、内底に広い剝落。
9 壺 (H)	口(19.0) 頸(18.2)	埋土 図示部欠	外面、削り・横位ナデとも粗く、頸部指頭圧痕下に接合痕顕著。内面ナデはやや丁寧だが、接合痕明瞭。	①やや粉っぽい。バミスまじりの砂粒若干夾雑。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ同様。
10 羽釜	口 18.9~19.7 鏑 23.7~24.2 胴 23.8~24.4	カマド北脇床直上 上半ほぼ完存	輪積みか→右回転ロクロ整形。ロクロ痕やや強い。11に類似。	①素地粗く、細礫等夾雑物多い。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2明度低い所、赤色味おびる所など一様でない。④外面口縁付近に薄いスス付着。
11 羽釜	口(19.0) 鏑(23.0) 胴(24.2)	埋土5片 図示部欠	右回転ロクロ。羽釜としては薄手だが下半中心に器面凹凸多く、ロクロ成形とは考えにくい。削り弱い。	①素地粗く、細礫・土粒まじりの夾雑物多い。②二次火熱の影響が全面に及んでいる。③橙5YR7/6~黒色でまちまち。
12 壺 (S)	底(13.8)	埋土 図示部欠	巻上げか→右回転ロクロ整形か。横ナデきわめて弱い。	①素地普通。チャートや片岩質の細礫やや多く器面に一部亀裂。②還元焰、やや軟調。③暗青灰5BG4/1。内面灰褐5YR5/2。④内底の剝落著しい。
13 壺 (S)	胴(41.0)	埋土 胴上半欠と底部一部欠く	輪積みか。外面全体を研ぎ込むように調整し、成形痕残さない。内面は指頭状の細かなアテ具痕。	①細礫、土粒等含むが大型品としては緻密。②還元焰、やや硬調。③青灰5B6/1、明度高い所、黄色味をおびる所などまちまち。
14 砥石	幅 3.1~2.8 厚 3.5~0.8	埋土 一端を欠く	一面は自然面。小孔を穿ち提砥としているが、摩滅面が不自然で、研ぎ減った砥石の再利用か。	①砥沢石。④断面糸巻き状の4面使用。摩滅は一面に傾いており、その両側の面は平滑さにやや欠けている。

II区 20号住居跡 (第41図 PL. 66)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	口(14.6) 台(7.0) 高 2.8	埋土 口縁欠 台底欠	右回転ロクロ。高台取付丁寧で、外底に切離し痕残らない。内底縁部に重焼き痕。釉はハケ塗り。	①緻密。灰釉としては砂粒やや多い。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1。釉は剝落多いが、残存部では白色味が強い。
2 杯	口(10.8) 底 5.7 高 3.5	埋土 口縁欠 底部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内面平滑。横ナデ外面でやや不規則。	①素地粗く、輝石・石英まじりの砂粒やや多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。赤色味や明度低いムラ多く、内面重焼き状のムラあり。

遺物観察表編

3 土釜	口(26.2) 胴(25.0)	南壁下床上8cm 図示部 $\frac{1}{4}$	輪積みか。外面削りは雑だが、乾燥状態で行ない磨きに近い。内面は器面の剥落著しく、観察できない。小破片からの復元で、口径不安。	①素地やや粗く、パミスまじりの細礫きわめて多い。 ②酸化焰、やや軟調。二次火熱受ける。③にぶい赤褐2.5YR5/4、一様でない。④外面下位にスス付着。
4 羽釜	口(24.0) 鐙(27.2)	カマド袖上22cm 図示部 $\frac{1}{4}$	輪積みか→右回転ロクロ整形。鐙は工具使用の取付で端部尖る。横ナデやや弱い。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒多い。②中性焰、やや軟調。③褐灰2.5Y5/1。断面明るい。明度の低いムラ外面に広い。外面胴部にスス付着。
5 羽口	径 8.4	カマド袖上21cm 基部若干と先端部欠く	全体にナデ。鞆口側の端部は強く折り曲げる。	①素地は粗く、多量の植物繊維と大粒の長石・軽石を含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。④炉嵌込み部は溶融不純物が付着する。

II区 21号住居跡 (第42図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口 14.7 頸 8.9~9.9	中央床直上 端部 $\frac{1}{4}$ 欠く 図示部ほぼ完存	輪積みか。横位ナデはやや雑で器面平滑さやや欠く。外面頸部は弱い削りで磨きに近い。平面形状は楕円形に歪み口縁端部も一定していない。	①素地やや粗い。パミス・細礫まじりの砂粒・細砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。明度・彩度の低いムラが内面に広く一様でない。
2 鉢 (H)	口(10.0) 底 4.1 高 5.7	北壁下床直上4片 上半 $\frac{1}{4}$ 欠く	外面のハケは雑。外面下端と底部に粗い磨き。内底縁部に板状の弱い圧痕が残っている。口縁丁寧な横位ナデ。	①素地やや粗いが、砂粒以外混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/4。明度の低いムラ多く一様でない。
3 埴 (H)	頸(5.6) 胴 8.0 底 2.2	埋土 口縁と胴部の $\frac{1}{4}$ 欠く	外面丁寧な研磨で平滑に仕上げるが、単位不明瞭。内面も丁寧な横位ナデでやや平滑。	①素地やや緻密。輝石まじりの粗砂が小型品としては多量に夾雑。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3基調。明度・彩度とも一様でない。
4 甕 (Y)		埋土 体部	9本単位の櫛I種で波状文を重ねて施文。上から順に反時計回りに施す。下位は縦へら磨き、内面は粗い斜へら磨き。	①赤色粒・軽石・細礫と細砂サイズの長石・石英等多く含む。②やや軟質。一部に黒斑。③橙7.5YR6/6。

II区 22号住居跡 (第43図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (Y)		埋土 口縁	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横へら磨き。口縁に縄文。原体R L。	①きめ粗く、粗砂サイズのチャート・長石等を含む。 ②良好。③にぶい橙7.5YR7/3。
2 高杯	脚上 3.1	埋土 底部付近ほぼ完存 孔付 $\frac{1}{4}$	4孔を外側より穿つ。図は1孔からの復元。内底方向不定の研磨で平坦。外面も丁寧なナデだが単位不明瞭。	①素地やや粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③明褐灰7.5YR7/2。研磨部分に弱い光沢。明度低いムラ多く一様でない。
3 土釜	口(32.0) 頸(28.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	小破片からの復元で口径不安。ロクロ使用整形と思われるが砂粒の動き少ない。口縁端部カキ目状。	①素地普通。大粒パミス・細礫まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。外面暗く、内面明るいムラ広い。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 25号住居跡 (第45図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 砥石	幅 3.2~2.6 厚 1.8~1.1 重 44.6g	床直上 %個体	断面糸巻き状の4面使用。小口側の一端は自然面を残すか。	①砥沢石。④4面とも丁寧に使用されている。

II区 26号住居跡 (第46図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土釜	口(23.0)	カマド左袖上 図示部% %	輪積みか。外面弱く雑な削り。内面幅狭で強く不規則なナデで、粗い擦痕が残る。口縁小さな歪みで径不安。	①素地粗く、細礫・石英・輝石まじりの砂粒きわめて多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4、赤色味をおびるムラあり。
2 小皿	口(8.8) 底 4.8~5.2	中央床上5cm 口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。横ナデは弱い。内底にヘラ先状の工具による不整な円を描く沈線あり。	①細礫多く、素地にしまりない。輝石・パミス散見。②中性焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。外面一部明度低いムラ少ない。

II区 28号住居跡 (第48図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿(K)	口(14.0) 台(3.5) 高 3.7	カマド内 図示部% %	右回転ロクロ→丁寧な高台取付。横ナデ弱い。釉漬掛け。内底に重焼き痕。高台端部も剥落多い。歪み大きい。	①素地緻密で砂粒以外夾雑物まれ。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y8/1で、断面までほぼ一様。釉は薄く、やや緑色味をおびる。
2 椀	口(14.4)	カマド前床直上 図示部% %	右回転ロクロ。外面横ナデ細かく、端正。内面同心円状の研磨の上に方向不定の磨きを加え、きわめて平滑。	①素地緻密。細砂やや多い。②中性焰か、きわめて硬調。③褐灰5YR5/1および橙2.5YR6/6。一様でない。
3 土釜	口(26.0) 頸(22.0) 胴(25.4)	カマド内床直上 図示部% %	巻上げか。外面にきわめて強い削り。頸部直下でやや弱いため接合痕残る。内面体部剥落著しく整形不明。	①素地やや粗く、細礫・赤褐色鉱物等が多量に夾雑。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。暗い部分広く一様でない。
4 甌	裾(22.0)	埋土 図示部% %	接合痕不明。外面削りはごく弱い。内面は指頭で押しきいたような、細かな凹凸あり。	①ザックリした素地に、やや大粒の石英・輝石を含んだ多量の砂粒を含む。②中性焰、硬調。③灰白10YR8/2、外面一部黒褐色にすすける。
5 鉢	関幅 0.68×0.66	埋土 甌被と茎 両端欠く	甌被と茎が関で区切られる。茎は細く甌被に比べかなり短いものか。	①錆化著しいが、鉄地金の質は良いようだ。

II区 29号住居跡 (第49図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	鈕 4.3	埋土 鈕完存 天井部 図示部% %	右回転ロクロ、外面回へら。内面横ナデ弱い。鈕取付は丁寧。	①素地やや粗く、乳白色の微細夾雑物目立つ砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③外面暗青灰5BG4/1、内面にぶい灰赤2.5YR4/2。
2 杯(H)	口(14.2) 高 3.9	南西隅床上15cm 口縁% 底部%	外面やや強い削りを施すが、器面摩滅し不明瞭。内面丁寧にナデているが器面に細かな凹凸あり。	①ダスト状で指に付いてくる。パミスまじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③橙5YR7/6、彩度の低い細かなムラあり。

遺物観察表編

3 瓶 (S)	口(10.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕は特に内面で強いが、砂粒の動きはあまり目立たない。口縁外端に弱い沈線が巡る。	①素地普通。砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③暗青灰5B3/1、内面やや明度高い。④内面に白色の降灰釉かかる。
4 土釜		埋土6片 口縁～肩部小片	内外面とも横位ナデ。	①素地粗く、細礫～細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。④II22住-3と同一個体と思われる。
5 手づくね	口 4.3 底 3.1～3.5 高 2.2	中央南寄床直上 端部若干欠く	外面の接合痕から巻上げの可能性。指頭状の弱い稜がある。内面指頭の強いナデで平滑さ欠く。	①素地普通。細礫等不揃いの混入物あり。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4、明度の低いムラ広い。
6 土錘	長 5.4 厚 2.7～2.9 重 30.7g	埋土 完形	外面平滑で圧痕や擦痕見えない。内面に接合痕状の小さなヒビが僅かに見える。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。

II区 32号住居跡 (第52図 PL.67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 11.4～12.1 底 6.7～6.9 高 4.2	中央床直上 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内底で強く平滑さ欠く。体部下端に糸切の糸を引きずった鋭い沈線あり。口縁部大きな波状の歪み。	①素地やや粗く、細礫の混入多く器面ゴツゴツしている。②還元焰か、硬調。③灰白7.5Y7/1。外面に赤色味の強い部分あり、還元焰としては均質さ欠く。
2 碗 (S)	口 12.6	中央床直上4片 体部 $\frac{1}{2}$ と高台欠く	右回転ロクロ→回糸。高台欠くが取付時のナデの幅は狭い。ロクロ痕強く、内面下半はコテ状で鋭い。内面に重焼き痕あり。	①素地やや粗く、片岩質の細礫まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。細かなムラあるがほぼ一様。
3 杯	口(11.6) 底 6.7 高 4.5	北壁下床直上6片 体部 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{4}$	外底全面砂底、型造りか。内面雑なナデで体部に指頭状の凹凸が残る。外面口縁端部のみ横位ナデで、下端に不規則な沈線が巡る。体部は指頭圧痕。	①素地やや粗く、パミスまじりの細礫多い。②酸化焰か、やや軟調。③黒褐5YR3/1。外面は黄色味の強い部分広い。
4 杯	口(12.0) 底(6.6) 高 3.9	埋土 口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{2}$	砂底。型造りと思われるが、外底端部が横へ突出気味。外面指頭の圧痕と擦痕。内面強いナデだが、器面に弱い凹凸。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石のまじり砂粒少量含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい橙10YR7/3。明度低い部分広い。④底部付着の砂には、パミスが多量に含まれる。
5 杯	底 10.9	北壁下床直上2片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。大型の底部片を割口を研磨して、再利用したもの。内面のロクロ痕強く瓶類か。	①素地やや粗く、片岩質細礫やや目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰10Y4/1。ほぼ一様。④内底部分摩擦している。
6 土釜	口(23.0) 頸(20.8) 胴(22.8)	カマド左袖上5片 図示部 $\frac{1}{2}$	接合痕不明瞭。外面幅広く鋭い削り。内面布状具の粗い擦痕の残る、やや雑なナデ。	①素地やや粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、硬調。二次火熱により不明。③にぶい橙5YR7/4。内面は彩度低い。④カマド粘土付着。

II区 33号住居跡 (第53図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.0	埋土 図示部ほぼ完存	円孔は3カ所。内底は剥落著しい。外面も摩滅し調整不明瞭。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。ほぼ一様。
2 杯 (S)	底 (6.0)	埋土 図示部 $\frac{3}{4}$	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデ弱く砂粒の移動まれ。器面細かな凹凸あるが、やや平滑。	①素地やや粗く、砂粒の混入やや多い。②還元焰、普通。③青灰5BG5/1。一様。④線刻は焼成前。断面は竹管状で勢いのある刻み。

II区 34号住居跡 (第55図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.6) 底(6.8) 高 3.6	埋土4片 $\frac{1}{2}$ 個体	右回転ロクロ→底部全面不規則な回へラ。ロクロ痕弱いが、内面下半はコテ状の工具痕。砂粒の動き少ない。	①素地粗くボソボソ。パミス・土粒状夾雑物等雑多な混入物あり。②やや不十分な還元焰、普通。③褐灰7.5YR5/1。ほぼ一様。④焼成前線刻あり。「大」とは筆順が異なる。
2 釘	頭部径 0.96×0.84	埋土 先端部欠く	平頭の大型釘か。	①鉄地金の質はやや悪く、縦位の強いヒビ多い。④頭部はやや傾いてつぶれている。

II区 35号住居跡 (第56図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.0) 底(6.0) 高 3.8	埋土 体部 $\frac{3}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸無調整。小片からの復元で、径不安。横ナデきわめて弱い。器面全体に微細な凹凸。	①素地やや粗く、細礫・土粒まじりの砂粒多い。②中性焰か、硬調。③灰白2.5Y7/1。外面彩度の高い部分あり。
2 椀 (K)	口 11.0 台 5.5 高 4.1	埋土 $\frac{3}{4}$ 個体	右回転ロクロ。回転利用高台取付時に口縁外面下を、若干削る。ロクロ痕弱い。釉は内面のみで薄く不明瞭。	①灰釉としてはやや粗く、黒色微細鉱物まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰5Y7/1で一様。釉は透明でやや緑黄色味をおびる。

II区 36号住居跡 (第57図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.2)	埋土2片 図示部 $\frac{3}{4}$	外面削りは鋭い。内面ナデは同心円状で丁寧だが器面に細かな凹凸あり。体部下半無調整部分に弱い指頭圧痕。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。一部彩度低いガムラは少ない。
2 椀 (K)	口(14.0)	南西隅床上20cm 図示部 $\frac{3}{4}$	右回転ロクロ。外面無釉。内面残存部は全体降灰釉で、施釉方法不明。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒若干含む。②還元焰、普通。③灰白5Y8/1。一様。釉は乳濁した緑色味をおびる。
3 椀 (S)	台 7.0	南壁下床直上 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸(痕跡不明瞭)→ロクロ使用高台取付。横ナデ弱い。高台歪む。内底に重焼き痕あり。	①素地やや粗い。チャートまじりの砂粒、やや多い。②還元焰、やや硬調。③青灰10BG5/1で濁った感じ。内面やや黄色味をおびる。

遺物観察表編

II区 37号住居跡 (第58図 PL.67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(16.6) 頸(9.3)	床面下 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁折り返して、直下にハケ目が横位ナデの下に残る。磨きは幅太でやや粗い。厚手で重量感あり。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黄色味や明度の低い部分などまちまち。
2 甕 (H)	底 5.2	床面下 図示部ほぼ完存	底部孔は外方より、中心に向って若干傾きながら穿つ。外面細かなハケ目が見られるが不明瞭。	①素地普通。輝石・細礫まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙10YR7/4。内面彩度低い。
3 器台 (H)	脚上 2.4	床面下4片 柱部ほぼ完存 裾 $\frac{1}{2}$ で端部欠く	円孔3カ所で外面のみ小さく面取り。研磨は幅太で息長く丁寧。内面雑なナデで不明瞭。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。明度低いムラが内面を中心に広い。
4 蓋 (S)	口(19.4)	中央床直上2片 天井縁部 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→切離し不明→天井部回へラ→ロクロ使用、丁寧な鈕取付。横ナデやや弱い。	①素地やや粗く、細礫・白色鉱物粒まじりの砂粒多い。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。縁辺若干青色味をおびる。④天井部裏側、若干摩滅。
5 蓋 (S)	口(15.6) 鈕 4.7 高 2.3	床面下 鈕完存 天井部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→同ロクロ上の回へらと鈕取付。鈕基部にはへら先状の鋭い凹みあり。	①素地やや粗く、パミスまじりの細礫や、砂粒多い。②還元焰、やや硬調。内外面に重焼きの色ムラあり。③灰7.5Y6/1。外側は明度低い。
6 杯 (S)	口(12.8) 底(7.6) 高 3.7	中央床直上13cm $\frac{1}{2}$ 個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内底縁辺と口縁内端でやや強い。	①素地やや粗くボソボソ。細礫の混入、やや目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。明度の低いムラあり。
7 杯 (S)	口(13.4) 底 7.1~7.7 高 3.4	南壁下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→底部全面、幅広の回へら。内底のみロクロ痕やや強い。外底に焼成前の「大」の字の浅い線刻。	①素地普通。白色針状物とチャートに似た白色細礫やや目立つ。②還元焰、やや硬調。③オリブ灰2.5GY5/1。口縁外面セピア色の重焼き痕。
8 杯 (H)	口(12.4) 高 3.2	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りやや弱い。口縁ナデもやや弱く、下半無調整部分も不整。内面ナデは丁寧で強い。歪みあり口径不安。	①素地やや粗いが砂粒以外の夾雑物少なく良好。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面若干赤色味をおびる。
9 杯 (H)	口(12.8)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	底部削りは、細かくやや雑。口縁内端は小さく肥厚するが形状一定せず。外面下半の無調整部分も平坦。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR7/4。部分的に彩度高い。
10 杯 (H)	口(13.4)	床面下2片 図示部 $\frac{1}{2}$	底部削りは弱く、やや鋭い。体部下半無調整だが、やや平滑。内面ナデやや雑で、粗い布状具の擦痕あり。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。赤色味をおびるムラあり、一様でない。
11 杯 (H)	口(15.8) 底(8.0) 高 4.3~5.1	中央床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	口縁の歪み著しく形状一定せず。削りは体部で鋭く、底部やや弱い。内面平滑で底部広く平坦。	①素地普通。輝石まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。赤色味や明度の低いムラ多く一様でない。
12 大鉢 (H)	口(23.4)	中央床直上15cm 図示部 $\frac{1}{2}$	内面に紐積み痕状の凹凸残る。外面剥落多く不明瞭だが削りは粗い。口縁強いナデ。内面平滑。	①素地普通。輝石まじりの砂粒きわめて多い。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR7/6。ムラ少ない。④口縁内面にのみ、凍てハゼを見る。
13 土錘	長 5.5 径 2.4~2.1	中央床直上 完形	端部付近に弱い指頭圧痕残る。断面は隅丸の四角に近い形状だが、孔は歪みない。	①土錘としては粗く、輝石等のまじる砂粒の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。黒色味強いムラあり。
14 土錘	長 3.1 上径 0.5 下径 0.9	床面下 完形	平面は円錐形状になり、孔も下側でやや広い。器面は平滑で整形痕観察できない。	①素地普通。砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③灰黄2.5Y7/2。ほぼ一様。④下端にのみ使用痕である強い剥落あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

15 不明軽石 製品	長 6.8 幅 5.5 厚 3.2	埋土 完形	偏平円礫を加工せずを使用。	①軽石(二ツ岳)。④長軸方向をほぼ一方にやや幅太の断面半円形の溝が走る。棒状品の研磨に使用か。
16 鉄鏃	根幅 3.38 厚 0.77 筧被幅 1.53 筧被厚 0.69	床面下 筧被は基部のみ 根はほぼ完存か	根の両端欠け腸状の形状不明だが水平に広いと思われる。筧被と根中央は段差なく繋がる。	①地金の材質良い。④錆化の影響は少ない。

II区 38号住居跡 (第59図 PL. 68)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(10.2) 底 5.9 高 5.2	中央西側 口縁%欠く	右回転ロクロ→回へらか。底部は雑で不規則なナデで切離し痕不鮮明。横ナデやや弱い。	①素地普通。チャート状の細礫まじりの砂粒若干含む。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1。ほぼ一様。
2 杯 (S)	口(10.6) 底(8.8)	埋土 図示部%	右回転ロクロ。横ナデ弱く外面は平坦な感じ。	①素地やや粗く、細礫・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰7.5Y6/1。外面に一部青色味をおびるムラあり。
3 砥石		埋土 半欠品	断面糸巻き状の半欠品で、小口を除く4面使用と思われる。割口は無使用。	①砥沢石。2mm大の鉄錆色をした鉱物が含まれていることが、割口から観察できる。
4 不明鉄製品		埋土 完形か	3つの端は平坦で割口になるかは不明。上方には強く引き上げた時にできるような反りがある。断面中央は空洞。	①錆化進むが鉄地金は良質で、ヒビ割れはない。

II区 40号住居跡 (第61図 PL. 68)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.0 底 6.1 高 3.8	中央床直上2片 口縁%欠く	右回転ロクロ→回糸・無調整。ロクロ痕強いが内底は平坦。口縁は緩やかな波状の歪み。	①素地やや粗い。細礫・輝石まじりの砂粒若干含む。②還元焰やや不十分。やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。黒褐色や赤色味のムラあり一様でない。
2 瓶 (S)	底(13.6)	埋土 図示部%	右回転ロクロ。ロクロ痕は内面のみ。外底は雑な削りで、切離し痕跡なし。成形でのロクロ使用は考え難い。	①素地普通。チャートまじりの細礫・黒色鉱物目立つ。②還元焰、やや硬調。③灰N5/0。外面一部若干黄色味をおびる。
3 甕 (H)	口(20.0) 頸(18.6) 胴(22.8)	埋土4片 上半% 下半%	接合痕は輪積み状で、体部下半に合わせ痕あり。外面丁寧でやや鋭い削り。内面幅太工具の丁寧なナデ。	①普通。細礫やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒斑や色ムラ等まちまち。④二次火熱を受けているが、ススが傾いて付いている。
4 土錘	長 4.0 厚 1.6 重 8.5g	埋土 完形	粗いナデ。	①素地普通。粗砂を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。④先端部にわずかに摩滅痕がみられる。又器面に幅5mm大の先端の鋭い櫛歯状のもので刺突した痕跡あり。

遺物観察表編

II区 41号住居跡 (第63図)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (R)	台 7.8	埋土 底台部 $\frac{1}{2}$ 体部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロか。外底中央に糸切り痕の可能性のある擦痕あり。ロクロ使用高台取付。ロクロ痕は丁寧にきわめて弱く、器面平滑。全面に緑釉。	①素地緻密。細砂以外混入物少ない。気泡僅かにまじる。②いわゆる軟陶。③断面にぶい橙7.5YR7/3。釉は淡い黄緑色。
2 杯 (S)	口(13.0)	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。横ナデ弱く砂粒の移動少ない。内面やや平滑。	①素地やや粗い。細礫やや目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰7.5Y6/1。内面彩度高い。内外面に赤色味をおびた火ダスキ状の部分あり。
3 椀 (S)	台(7.4)	中央床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。高台丁寧な取付。内底縁辺に重焼きの高台痕か、沈線が巡りその外側に降灰釉。	①やや緻密。黒色鉱物散見、細砂含む。②還元焰、やや硬調。③灰白7.5Y7/1で同様。釉は緑黄色。
4 椀	台(9.4)	カマド内床直上 底部 $\frac{1}{2}$ 高台 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロから回転利用丁寧な高台取付。器面荒れて観察難しい。	①やや粗く、輝石・パミス・細礫まじりの砂粒多い。②二次火熱の影響強く、不明。③灰オリーブ5Y6/2。一部で赤色味強い。④脆弱化するむ。
5 甕 (H)	口 24.1 頸 19.1	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	接合痕より輪積みが。口縁外面、無調整。体部外面強い削り。内面横位ナデで丁寧に仕上げる。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。明度の低いムラ広い。

II区 42号住居跡 (第64図 PL. 68)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.1 底 6.3 高 4.1	貯蔵穴内中位 ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱く、内面では見えない。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、軟調。③灰白5Y7/1。ほぼ同様。④外底縁部摩滅すすむ。
2 杯	口(13.2) 底 5.4 高 4.7	中央床上10cm 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁内端工具による小さな凹みあり。ロクロ痕きわめて弱い。底部をつかみにくく、傾き不安。	①素地普通。細礫散見の細砂まじる。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。明度・彩度低い部分や赤色味強い部分などまちまち。④接地部分が著しく摩滅。
3 椀 (S)	台(5.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→回転利用丁寧な高台取付。ロクロ痕弱い。	①素地やや緻密。チャートまじりの砂粒を若干含む。②還元焰、やや硬調。③灰N5/0。同様。
4 杯 (H)	口(16.6) 底(8.8)	貯蔵穴内中位 3 片 図示部 $\frac{1}{2}$	摩滅すすみ観察難しい。薄手で軽量。外面幅広い鋭い削り。内面横位の丁寧な研磨。	①素地緻密。輝石・細礫散見の砂粒若干含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。明度・彩度ともまちまち。
5 甕 (H)	口(18.0) 頸(16.2)	中央床直上 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。厚手でガッシリしている。外面頸部の屈曲部は工具により作り出す。外面削り、内面ナデともに強い。	①素地普通。輝石・細礫まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびるが、ムラは少ない。

II区 43号住居跡 (第66図 PL. 68)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.8)	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底縁部 $\frac{1}{2}$	外底削りやや鋭い。内面横位ナデは布状具の粗い擦痕。	①素地普通。砂粒、やや多い。②酸化焰、やや軟調。③黒褐7.5YR3/2。断面明度高い。④口縁端部の剥落すすむ。

1 竪穴住居跡出土遺物

2 小型壺 (H)	口(10.0) 頸(9.4) 高(10.2)	北壁下床下10cm 1/2個体、底部完 存	丸底だが内底は比較的平坦。外面削り は鋭いが表面摩滅し不明瞭。体部内面 きわめて平滑。	①緻密。少量の砂粒以外夾雑物まれ。②酸化焰、や や硬調。③橙7.5YR7/6。内面やや彩度低い。④内底 ガサガサしないス状付着物あり。
3 甕(H)	口(16.4)	中央西寄床直上 と床上5cm 図示部1/4	輪積みか。口縁歪み強く、口径・傾き 不安。外面の削り強い。内面は横位の ナデだが不明瞭。	①素地粗く、輝石まじりの粗砂きわめて多い。②二 次火熱の影響著しい。③にぶい橙5YR6/4。内面彩度 低く、断面赤色味をおびる。
4 甕(H)	口(18.0) 頸(14.8)	中央床直上7片 図示部1/4	外面削り粗い。口縁のナデ粗く器面に 凹凸。内面はナデ粗いが平滑に仕上 がる。歪みあり口径不安。	①3に近似。夾雑物は更に大粒。②酸化焰、やや軟 調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおび る。
5 甕(H)	口(22.4) 頸(19.4)	北壁下床下10cm 14片 図示部1/4	外面削りやや強く、器面に細かな凹凸 多い。内面調整不明瞭だが平滑に仕上 げる。	①素地やや粗い。輝石・細礫散見の砂粒若干含む。 ②酸化焰、やや軟調。③暗赤褐5YR3/2。内面やや明 度高い。④外面胴部に若干ス状付着。
6 甕(H)	口(16.0) 胴(13.6)	中央床直上3片 図示部1/4	輪積みか。外面削りやや強く、口縁ナ デは沈線を作るほど強い。内面ナデは 上半のみ丁寧で、下半器面荒れる。	①素地粗く、パミスの目立つ粗砂多い。②酸化焰や や軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。外面に赤色味や黒 斑のムラ多い。④二次火熱を受ける。
7 甕(H)	口(19.0) 頸(15.6)	中央床直上 図示部1/4	外面削りは粗い。口縁のナデは雑で強 い。内端に強い押圧。内面横位のナデ は粗く、器面平滑さ欠く。	①3、4に同じ。②二次火熱の影響強い。やや軟調 の酸化焰か。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一部明度低 い。内面は黄色味強い。

II区 44号住居跡(第67図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(H)	口(14.2) 胴(20.4)	カマド内と埋土 図示部1/4	輪積みか。外面削り鋭い。頸部付近に 無調整部分あり。内面弱いナデで器面 に凹凸あり。口縁歪み、口径不安。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの砂粒を若干 含む。②酸化焰、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。や や赤色味をおびるムラあり。

II区 45号住居跡(第68図 PL.68)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(H)	口(15.0)	東壁下床直上 図示部1/4	外面丁寧なハケ目。内面ナデもハケ目 状の擦痕で、平滑さ欠く。口縁ナデ丁 寧。器形いびつで径・傾きとも不安。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ砂粒やや多い。②酸 化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面黒色部分 広い。
2 杯(H)	口(13.2) 高 5.7	埋土2片 体部1/4 底部ほぼ完存	輪積みか。外底削り強く細かい。外面 口縁下半無調整で型膚状だが平滑。内 面は幅太の鋭い斜位磨きで器面凹凸。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面やや 彩度低いが、ムラ少ない。
3 器台 (H)	脚上 3.0	埋土 図示部完存	脚部に杯部を接合。脚に4孔を穿つが 規則性欠く。内面器面凹凸多い。	①素地普通。チャートの多い細礫目立つ。②酸化焰、 普通。③にぶい橙7.5YR7/3。ほぼ一樣。
4 椀	口(15.0) 台(7.4) 高 5.8	埋土4片 1/2個体	右回転クロー→回転利用丁寧な高台取 付。クロー痕細かく、弱い。内面やや 雑な研磨で上端まで及ばない。	①素地やや粗く、砂粒やや多い。②中性焰か、やや軟 調。③内面黒色処理だが光沢弱い。外面にぶい黄橙 10YR7/2。上半に明度の低いムラ広い。④内底の剥 落がすすむ。
5 椀	台上 6.8	埋土2片 口縁下半1/4 底部完存	手づくねか。内面に強い指頭痕で器面 凹凸。高台と外底は同心円状にナデ。 外面粗い削り。	①素地やや粗く、砂粒夾雑物多い。②中性焰か、軟調。 ③にぶい黄褐10YR4/3。内面断面は、明度低い。

遺物観察表編

6 甕	口(14.8)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積み。外面強く雑な削りで、器面に凹凸。内面丁寧なナデで平滑。口縁はいびつで口径不安。	①素地普通。細礫・パミス・輝石まじりの砂粒含む。 ②酸化焰、やや軟調。③外面黒褐10YR3/1。内面浅黄橙10YR8/2。
7 甕(H)	口 20.3~19.9 頸 16.2 底 6.0	東壁下床直上 口縁と底部完存 肩部 $\frac{1}{2}$ 体部下半 $\frac{1}{2}$	輪積み。外面幅狭でナデに近い弱い削り。内面雑で、上半に接合痕顕著、下半で強い削りがある。底部は凹凸あり正置で安定欠く。	①素地やや粗く、チャート・パミスまじりの粗砂きわめて多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。明度・彩度とも低いムラ多い。内面やや黄色味をおびる。
8 甕(Y)		胴上部	頸部付近に簾状文。胴に櫛描波状文を施す。施文順は上→下。施文具は10本単位の櫛I種。内面はヘラ磨き。	①きめが粗く、粗〜細砂を含む。②普通。③器面は褐灰10YR5/1、器壁はにぶい橙7.5YR7/3。

II区 46号住居跡(第70図 PL.68)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿(K)	台 8.2	北東壁下床上9cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回転利用高台取付。器面平滑でロクロ痕殆ど残らない。内底縁辺に重焼き高台痕あり、その外側に降灰釉。外面施釉方法不明。	①緻密。黒色鉱物粒散見。②還元焰、硬調。③灰白5Y8/1で同様。灰釉は外面薄く透明で、若干白色味をおびている。内面降灰釉は灰褐色。
2 碗(K)	口(14.8)	埋土4片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。口縁端部肥厚し、外面は下方よりヘラ状工具で整形。釉は全面にあり、施釉方法不明。	①緻密。白色鉱物散見。②還元焰、硬調。③灰白N8/1。釉は外面透明、内面灰緑色で降灰釉もまじるようだ。
3 杯	口 13.1 底 5.3 高 4.6	北西隅床上5cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕大きい。内面細かくやや雑な磨きで、すき間が上半中心に多い。	①素地やや粗く、砂粒少量含む。②中性焰か、軟調。内面黒色処理。③にぶい褐7.5YR6/3。明度の高低まちまち。内面黒色で光沢あり。
4 杯	口(15.0)	カマド内床下8cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕弱い。外面下端の削りは高台取付時のものか。内面研磨は丁寧。	①素地粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。外面は上方ほど明度低い。内面黒色処理だが不十分で底部のみ黒色となる。
5 碗	口(10.9)	カマド内4片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	器面荒れてロクロ痕不明瞭。右回転ロクロか。高台取付丁寧。内面同心円状の丁寧な研磨。	①素地やや緻密。白色の夾雑鉱物やや目立つ砂粒含む。②中性焰か、軟調。③黒褐5YR2/2。同様でない。内面黒色処理だが光沢弱い。
6 碗	口(13.6~14.8) 台 8.6 高 7.2~6.3	南東隅床上5cm 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→同回転の丁寧な高台取付。ロクロ痕は内底のみ強く、同心円状。口縁の歪み著しい。	①素地やや粗く、パミス・石英散見の砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい褐7.5YR6/3。上半は明度低く、内面は黄色味をおびる。
7 碗	口(14.2)	北壁張出部底面直上2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底に型造り痕状のヒビあり。ロクロ使用の痕跡なし。外面上半のナデも、整った同心円状にはならない。中位に指頭痕。外面の削りは雑。	①素地普通。内面に赤褐色大粒夾雑物目立つ砂粒含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4、内面浅黄橙7.5YR8/4。小さなムラあり。④口縁内端で摩滅剥落見られる。
8 土釜	口(24.2) 胴(25.4)	カマド内 図示部 $\frac{1}{2}$	紐積み痕の凹凸より巻上げか。外面削り弱い。内面粗い布状具の強い擦痕。口縁に小さな歪みあり径不安。	①素地粗い。細礫のやや目立つパミスまじりの砂粒含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。外面下半は赤色味強い。
9 鉢	台(22.0)	カマド内 図示部 $\frac{1}{2}$	器面の凹凸の流れより巻上げか。内外面ともヘラ磨き。外面は幅広く粗く、削りの痕が残っている。	①素地やや粗い。輝石・パミス・石英まじりの粗砂やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。ムラ多い。内面黒褐色。光沢なし。
10 甕か	底(18.2)	埋土 図示部小片	輪積みか。外面ごく弱く、下端に強いナデ。内面丁寧なナデで平滑、下端に強い削り。厚手で重量感あり。	①素地粗く、輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。ムラ少ない。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 47号住居跡 (第71図 PL. 68)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.6)	東壁下床上5cm 図示部 $\frac{1}{4}$	外底細かな削り、口縁下半無調整部分は型膚状。器面に歪みあり口径、傾きとも不安。	①素地やや粗く、輝石・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。内面やや黄色味をおびるがムラ少ない。
2 杯 (H)	口(13.0)	南東隅床直上5片 $\frac{1}{4}$ 個体。	外面削りは弱く不規則。内面及び口縁外面のナデはやや鋭い同心円状の擦痕が残っている。	①素地やや粗く気泡が入る。輝石・バミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外底に黒斑広い。
3 甕 (H)	口(25.0) 頸(19.2)	中央床直上5片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面息の長い丁寧な削り。内面不明瞭なナデだが平滑。口縁のナデ弱く、接合痕明瞭に残る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰。二次火熱の影響で、外面やや脆弱化。③にぶい橙5YR7/4。明度のやや低い細かなムラあり。

II区 48号住居跡 (第72図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(16.2) 頸(14.2)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや強く、口縁のナデも粗く器面ガサガサ。内面は横位丁寧なナデで器面平滑。	①素地やや粗く、細礫・バミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。

II区 49号住居跡 (第73図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	口(13.6) 台(7.0) 高2.8	埋土2片 図示部小片	右回転ロクロ→回転利用高台取付で外面口縁下端に回転ヘラ削り状の擦痕。内面平滑。釉は漬掛けでやや厚い。小片からの復元で径不安。	①きわめて緻密。細砂若干含む。②還元焰、硬調。③灰白N8/0。釉は乳白色で、内面の降灰釉が緑色味をおびている。
2 碗 (S)	台(8.6)	埋土2片 底部 $\frac{1}{2}$ 高台若干	右回転ロクロ→回糸→回転利用やや雑な高台取付。内底ではロクロ痕やや強い。	①素地やや粗い。乳白色の細礫目立つ砂粒含む。②還元焰、普通。③暗青灰5B4/1。ほぼ一様。

II区 50号住居跡 (第75図 PL. 68)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	口15.6~15.0 台8.1 高6.7	東壁際床直上 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロか。外底には高台取付時の工具痕が同心円状の鋭い沈線として残る。ロクロ痕やや強い。内面研磨やや丁寧で黒色処理。	①普通。赤褐色鉱物・輝石など夾雑物雑多な砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味おびる小さなムラあり。内面と口縁外端、黒色で弱い光沢あり。
2 碗	口(15.8) 台7.7	カマド焚口付近 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部台部 ほぼ完存	右回転ロクロか。回転利用高台取付。ロクロ痕弱く細かい。内底二方向からの目の細かなナデで平滑。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石のまじる砂粒含む。②中性焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面彩度低い。
3 土釜	口(18.8) 頸(18.0) 胴(21.0)	カマド焚口付近 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面やや鋭い削り。内面ナデもコテ状の工具使用で、部分的に息長く、鋭い擦痕がある。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・バミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/3。内面やや明度高い。
4 土釜	底(10.0)	カマド焚口付近 6片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。器面摩滅し整形不明瞭。外面削りは幅太だが弱い。内面は指頭による、やや強いナデか。	①素地やや粗い。バミスの多い砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。二次火熱受け器面脆弱化。③にぶい黄橙10YR7/4。外面明度低いムラ広い。

遺物観察表編

II区 51号住居跡 (第77図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.0) 台(7.8) 高 5.9	南壁下床上 6 cm 1/2個体	右回転ロクロか。外面中位近くまで同回転上のヘラ削り。ロクロ痕弱い。内底縁辺に重焼きの高台痕あり。釉は漬掛けで内面は降灰釉もあり濃い。	①極めて緻密。白色鉱物散見。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1で同様。釉は透明で光沢あり、降灰釉はオリブ色味をおびる。
2 甕 (H)	口(20.4) 頸(18.2)	南壁下床上 7 cm 図示部1/6	輪積みか。口縁端部外面不規則な沈線巡り、内面鋭い擦痕。外面頸部下半無調整で指頭圧痕あり。内面ナデ丁寧。	①素地やや粗く、パミス・細礫等雑多な夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面彩度やや低い。
3 羽釜	口(23.4) 鏝(26.4)	南壁下床上 7 cm 図示部1/6	右回転ロクロ。ロクロ痕外面で強いが鋭さ欠く。鏝の取付丁寧でロクロ使用と思われる。	①素地やや粗く、細礫・赤褐色鉱物の目立つ砂粒含む。②中性焰か、硬調。③灰白5Y8/1。内面灰10Y5/1。

II区 52号住居跡 (第79図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.4) 底 12.2 高 4.5	埋土10片 口縁1/6欠く	口縁内端の凹みは小さく、内面ナデは布状具の鋭い擦痕が残る。外底削りは細かい。	①素地やや緻密。粗砂を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。明度低い部分広く色相もまちまち。
2 杯 (H)	口(12.6) 底(10.4)	埋土 口縁1/6 底部1/6	口縁外側に沈線1条巡り、内端に小さな凹み。外底の削りやや弱く、丁寧。内面ナデは布状具の鋭い擦痕が残る。	①②③1と同一。
3 甕 (H)	口(20.4) 頸(15.8)	埋土 図示部1/6	輪積みか。外面削り幅太できわめて強い。内面胴部もコテ状の工具による強いナデ。口縁部のナデは粗い。	①素地やや粗い。長石まじりの粗砂多い。②酸化焰、硬調。③橙7.5YR7/6。ほぼ同様。断面灰色になる。
4 壺 (H)	口(14.0) 頸(11.0)	埋土 4片 口縁1/6 肩部1/6	輪積みか。口縁ナデは鋭く、布状具の擦痕残る。外面削りやや弱く、ナデに近い。内面ナデ粗いが器面やや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等夾雑物雑多な砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。明度低い部分広く、同様でない。
5 羽口		埋土 小破片	内面平滑で孔の向きと垂直方向に細かな縞状の凹凸あり。外面ガラス化して不明。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②著しい二次火熱のため不明。③浅黄橙7.5YR8/3。外面ガラス質は黒色及び灰白色。

II区 60号住居跡 (第82図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	鈕 3.4	埋土 鈕完存 天井部1/6	右回転ロクロ→天井部回ヘラ。丁寧な鈕の取付。	①やや粗い素地に黒色鉱物・細礫等をやや多く含む。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。ほぼ同様。
2 皿 (S)	口(13.2) 底 5.7 高 2.2	カマド左脇床上 12cm 1/6個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕外面でのみ強い。口縁に大きな波状の歪み。	①素地普通。片岩質粗砂・褐色鉱物粒を含み、白色砂粒目立つ。②還元焰、やや硬調。③暗青灰10BG3/1。ほぼ同様。
3 皿 (S)	底(6.8)	埋土 図示部1/6	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く細かい。内底は平滑である。	①素地やや粗い。細礫まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③暗青灰10BG4/1。外面に暗いムラ。

1 竪穴住居跡出土遺物

4 椀	口(14.8) 台 7.0 高 6.1	南西隅床直上8片 口縁%欠く	右回転ロクロ→回糸→回転利用雑な高台取付。ロクロ痕細かく、内面ではほとんど見られないが、器面は不整。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物目立ち、片岩質細礫まじりの砂粒含む。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。断面は赤色味が強い。
5 椀	口(14.6) 台(7.0) 高 5.9	埋土 図示部%	右回転ロクロ→回糸→雑な高台取付。ロクロ痕・横ナデともに弱く不明瞭。歪みあり径・傾き不安。	①やや粗い。輝石まじりの細砂多い。②中性焰、軟調。③黒褐10YR2/2。内面に明度高い部分広がる。いぶしとは異なる。
6 椀(S)	口 14.4~13.9 台 5.9~5.6 高 5.6	中央床直上 口縁上半%欠く	左回転ロクロ→回糸→回転非利用の傾いた高台取付。ロクロ痕やや弱い。全体が大きく歪む。	①素地普通。パミス・細礫散見の砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③明オリープ灰2.5GY7/1。明度の低いムラあり。
7 甕(S)	胴(29.6) 底(18.0)	埋土 図示部%	輪積みか。内面不規則な指頭圧痕。外面は弱いナデだが器面平滑で整形痕残らない。	①素地やや粗くザラザラ。砂粒の混入多い。②還元焰、やや不十分。やや軟調。③暗青灰5BG4/1。内面明度低い。④破損後に二次火熱受ける。
8 土釜	口(27.0) 胴(34.0)	南壁下床直上およびカマド周辺 肩部% 胴部%	輪積みか。外面細かく雑でやや強い削り。内面ナデ雑で、器面平滑さ欠く。平面はだ円形に歪み、径不安。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス・輝石等、雑多な夾雑物含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。二次火熱受ける。③にぶい橙7.5YR7/4。ムラ多く一様でない。④口縁端部に細かな剥落集中する。
9 土鍾	長 3.9 厚 1.2 重 4.5g	床面 完形	外面の成形痕は見えないが、両端部に細かなヒジ多い。端部の欠けがない。	①やや緻密。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
10 土鍾	長 3.2 厚 1.2 重 3.4g	埋土 完形	外面成形痕は見えない。内面平滑。	①素地普通。粗砂の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
11 土鍾	長 3.7 厚 1.0 重 3.6g	床面 完形	成形痕は見えない。一端がややつぶれ孔が歪んで、図では拡がっている。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
12 土鍾	厚 0.9 重 4.4g	埋土 %個体	成形痕は見えない。孔は全体を通じていびつ。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/3。明度の低いムラあり。④割口にも使用痕状の凹みあり。
13 土鍾	長 3.9 厚 1.2 重 2.1g	床面 完形	外面に成形痕見えない。端部の欠けは少ない。	①素地普通。細礫まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
14 土鍾	長 4.2 厚 1.1 重 4.2g	床面 完形	外面僅かに指頭痕が残るが、全体に平滑。端部は一方だけ割口が広い。	①素地緻密。細礫散見する以外に夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③灰褐7.5YR4/2。ほぼ一様。
15 土鍾	長 3.5 厚 1.1 重 3.7g	埋土 完形	外面成形痕は殆ど見えず、平滑。	①素地緻密、細砂以外の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/4。一部赤色味おびる。
16 土鍾	長 3.5 厚 0.8 重 2.1g	中央床上20cm 完形	指頭痕が僅かに観察できる。全体が、小さくねじれている。	①素地普通。輝石・チャートまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/3。明度やや低いムラあり、一様でない。
17 土鍾	長 3.7 厚 1.1 重 4.0g	カマド前面床上10cm 完形	僅かに指頭痕が観察できる。	①②③9・10・13などと同一。

遺物観察表編

II区 61号住居跡 (第83図 PL.69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(22.0) 頸(19.4)	カマド内6片 図示部 $\frac{1}{2}$	均等に薄手。外面削りはやや鋭く丁寧だが、器面に細かな凹凸多い。	①素地普通だが、粗砂の混入多く器面ザラザラ。赤褐色鉱物・細礫まじる。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。
2 土錘	長 4.6 厚 1.8 重 13.5g	埋土 完形	孔は中心をそれて貫通しているが形状に歪まない。両端は鋭く削られる。外面に細かな擦痕あり器面やや不整。	①素地やや緻密。混入物も砂粒以外はまれ。②酸化焰、普通。③表面のみにぶい赤褐5YR5/4。他は浅黄橙10YR8/3。

II区 63号住居跡 (第87図 PL.69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罎 (H)	口 9.0~8.8 頸 7.9~7.7 底 3.0 高 7.6	焼土上 ほぼ完形	輪積み。内面頸部直下に強い接合痕が残る。外面弱く細かなハケ目で口縁部のみ弱くナデ消す。	①素地普通。混入物少なく良好。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙2.5Y8/3。外面に黒斑あり。
2 器台 (H)	口 9.7 脚上 3.3 脚下13.3 高 8.4	埋土 口縁端部 $\frac{1}{2}$ と裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く	脚部に3孔を穿つが高さは不揃い。外面は細かな縦位磨きを施すが不明瞭。脚内面は工具使用の弱いナデだが器面の凹凸は少ない。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物等の少量まじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③浅黄2.5Y7/3。赤色味おびるムラあり。脚内面彩度低い。④内底中央と脚下端の剝落が進む。
3 高杯 (H)	脚下(17.0)	P4内床面下7cm 図示部 $\frac{1}{2}$	脚上位に3孔を穿つと思われる。外面縦位の弱い磨き。内面はやや強いナデでハケ目状の擦痕が残る。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物・石英等混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面やや赤色味をおびる。
4 高杯 (H)	脚上 2.8 脚下 8.6~8.3	北壁下床直上 図示部ほぼ完存	外面細かく粗い削り。脚内面に幅広いハケ目状擦痕巡る。内底ナデはハケ目状擦痕残るが平滑に仕上げ、高杯か。	①素地普通だが、土粒や赤褐色鉱物含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味・黒色味のムラ多く一様でない。
5 小型壺 (H)	口 15.2~14.9 頸 6.7~6.4 胴 12.9~12.5 底 2.4 高 12.6	焼土脇床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。内面は接合痕明瞭で、外面も粘土紐状の凹凸残る。外面と口縁内面のヘラ磨きは強く、頸部付近で息短かい。底部不安定で座り悪い。	①素地やや緻密。細砂含む。混入物少なく良好。②酸化焰、普通。③灰黄2.5Y7/2、及び黒色。弱い光沢あり。断面も黒色味強い。
6 鉢 (H)	口(12.2) 底 4.4~4.0 高 5.1	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部完存	手づくねか。平面形はだ円形に歪む。内面ナデはハケ目状のやや鋭い擦痕を残す。外面方向不定のナデ。	①素地やや粗く、白色砂粒等混入している。②酸化焰、普通。③灰白2.5Y8/2。黒斑内外面に広い。断面黒色味強い。
7 小型壺 (H)	口(15.2) 頸(11.2)	P4内底面 図示部 $\frac{1}{2}$	胴部外面粗い磨きで、頸部にハケ目が残っている。内面ナデもやや丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物・石英まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。断面は黄色味強い。
8 壺 (H)	底 5.6	北壁下床直上 図示部中、胴中位 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。底部は高台状に中央凹む。内面やや粗いハケ目。外面細かなハケ目状に不明瞭なナデ。	①素地普通。ダスト状。細礫少量含むが混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3、黒斑あり。内面黒褐10YR3/1。
9 台付甕 (H)	口 19.8 頸 17.2 胴(26.0)	西壁下床上9cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	外面ハケ目は幅広く丁寧。内面不明瞭だが器面の凹凸多い。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、下半は黒褐色。④二次火熱の影響強い。
10 台付甕 (H)	台上 5.8 台下10.0	中央床上10cm 図示部中裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面胴部はハケ目不明瞭。脚部は丁寧な縦位のナデ消し。脚内面には指頭の強いナデ痕残る。内底中央砂粒多い。	①素地やや緻密で、赤褐色鉱物等の混入物も少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面黒色味強い。④内底中央摩滅する。

1 竪穴住居跡出土遺物

11 台付甕 (H)	口(17.0) 頸(15.0) 胴 22.8	中央床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	外面ハケ目やや細かく雑で一部に無調整部分残す。内面斜位のナデでやや平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂含む。 ②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。口縁付近で赤色味、下半で黒色味をおびる。
12 台付甕 (H)	口 14.1~13.6 胴 22.2~21.7 脚上 6.1 脚下 9.6	北壁下床直上 図示部中口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁部やや直立気味となる。外面ハケ目は細かく雑。内面は指頭による強いナデで器面に凹凸できる。	①②11に同じ。③にぶい橙7.5YR7/3。中位以下は黒褐色。④二次火熱の影響著しく器面脆弱化。内外面下半に薄くスス附着。
13 台付甕 (H)	口 13.9~13.4 頸 11.7 胴 22.0 台上 6.0 台下 9.5 高 25.8	北壁下床直上 ほぼ完形	外面ハケ目は細かく強く、台部下半では横位ナデで消している。台面内面は指頭の強いナデ痕残る。内面ナデやや丁寧で器面の凹凸少ない。	①素地普通。細礫・黄白色粗砂等夾雑物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。黄・赤色味のムラ広く一様でない。④内面中位以下にスス状の薄い附着物。外面下半も二次火熱ですすける。
14 甕(H)	口(12.2) 頸(10.2) 胴(14.4) 底 5.2	北壁下床上7cm 底部完存 他は $\frac{1}{2}$	輪積みか。胴部は器面摩滅著しく整形痕不明瞭だが、細かなハケ目が見られる。	①素地普通だが、パミス・輝石等の夾雑物多い。②酸化焰、二次火熱の影響著しく、不明。③にぶい赤褐5YR4/3~黒褐5YR2/1。一様でない。④内面下半に著しい剥落見られる。
15 小形甕		埋土 口縁~体部約 $\frac{1}{2}$	口縁は横位ナデ。体部外面ナデ、内面は板状具によるナデ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・石英・軽石等を含む。 ②酸化焰。③にぶい橙5YR7/4。
16 (Y)		胴部	横位縄文。内面ナデか。原体はR L。	①きめ粗く、白色・無色・赤褐色粒の粗砂多い。 ②やや軟調。③橙2.5YR6/6。
17 甕(Y)		埋土 頸部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①長石・軽石の粗粒が多い。②やや還元きみ。③明褐灰色~灰褐色。

II区 64号住居跡(第90図 PL.70)

№・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.4) 底(5.4) 高 3.7	カマド右脇床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕細かく、やや強い。内底やや不整。	①素地やや粗くザラザラ。金雲母、赤褐色鉱物等の夾雑物多い。②還元焰か、やや硬調。③灰白10YR8/2。
2 杯	口 11.5 底 5.2~5.6 高 3.8	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。厚手。口縁に小さな歪み。	①素地やや粗くザラザラ。パミス・輝石まじりの砂粒多い。②還元焰か、やや硬調。③灰白5Y7/1、外底付近黄色味をおびる。
3 杯	口(13.6) 底(6.1) 高 4.8	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	2に同巧。内面はロクロ痕弱い。	①②は2に同じ。③浅黄橙10YR8/3。彩度の低いムラあり。
4 杯	口(13.8) 底(5.0) 高 3.8	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。口縁の外反強い。	①素地普通。パミス・長石多く、細砂も混入。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色味強い。
5 椀	口(14.0)	西壁直下床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕細かく、内面特に平滑。	①素地普通。細礫やや目立つが夾雑物少ない。②還元焰やや不充分、普通。③淡黄2.5Y8/3。④高台剥落後も使用し、割口摩滅する。
6 椀	台(8.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→回転利用高台取付。ロクロ痕強い。高台端部外方へやや肥厚。	①素地やや粗い。細礫まじりの砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。外底は暗い。
7 甕(H)	口(20.0) 頸(19.0)	カマド右脇床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面に水平な接合痕残る。外面削り強く、器面凹凸。内面ナデはやや雑。口縁の歪み強い。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。外面明度低いムラあり。

遺物観察表編

8 甕 (H)	口(16.4)	埋土 図示部々	接合痕より輪積みか。口縁端部外面に沈線巡り、外面の削り、内面のナデともに強い。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの細砂多い。②酸化焰、やや硬い。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色味をおびるムラあり。
9 甕 (H)	口 18.9~18.4 頸 17.1 胴 21.3	カマド内床直上 図示部々	輪積み。口縁に強い歪み。外面削り強い。体部内面ナデ丁寧で接合痕顕著。	①素地やや粗く、粗砂多く混入する。②酸化焰、普通。③淡黄2.5Y8/3。
10 砥石	長 4.7 幅 2.5 厚 3.0~2.6	埋土 ほぼ完形	四角柱状の6面使用だが、1面だけ不明瞭。研ぎ減りは長軸に平行と垂直方向の両者あり。	①砥沢石。③灰白2.5GY8/1、表面の大半は鉄分の酸化により銹色を呈す。④擦痕はごく弱い。
11 土錘	長 4.6 厚 1.0 重 4.1g	埋土 完形	指頭痕が僅かに観察できる。中央部に陥没があるが、内外面とも全体に平滑。	①素地は緻密。②酸化焰、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。

II区 65号住居跡 (第91図 PL.70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口 16.5 頸 13.8 胴 23.0~22.3 底 6.2 高 24.9	南壁下P2内床 下10cm 胴部欠く	輪積み。外面摩滅し不明瞭だが、一部でハケ目状の弱い削りを施すようだ。口縁に波状の歪み。外底不整。	①素地普通。3mm大の細礫夾雑し、やや粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面下半暗褐色。④二次火熱受け下半中心に脆弱化。
2 小型壺 (H)	口(15.4) 頸(12.0)	南東隅中央寄床 直上 図示部々	輪積み。口縁ナデは粗い布状具の擦痕が残る。外面削りは細かく丁寧。内面ナデは強いが雑で接合痕顕著に残る。	①素地普通。黒色鉱物・輝石まじりの細砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に広い黒斑あり。
3 管玉	長 2.2 径 0.53	埋土 完形	両小口側は平行になっていない。両方向から穿孔するが、中心を外れる。	①硬玉か。④表面に細かなヒビが多い。

II区 66号住居跡 (第93図 PL.70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口 16.3~16.1 頸 13.4 胴 21.0	中央北寄床上13 cm 図示部々	輪積み。接合痕は内面で顕著に残る。外面削りは下半のみ強い。内面ナデは幅広工具使用で上面のみ丁寧。	①素地普通。細礫・パミス等の混入物やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/2。口縁および断面の赤色味強い。④二次火熱受ける。外面胴中位の細かな剝落多く、下半はすすける。
2 小型壺 (H)	口 6.3~6.0 胴 8.1 底 4.6 高 6.3	中央北寄床下15 cm ほぼ完形	外面口縁に粘土紐の強い接合痕巡る。外面と口縁内面に細かいハケ目残る。外底中央やや凹み輪高台状。	①素地普通。パミス・輝石まじりの細砂やや多く含む。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙7.5YR8/3。外面に薄い黒斑あり。内面やや暗い。
3 甕 (H)	口(15.8) 頸(13.0)	中央西寄床直上 図示部々	削り、ナデとも弱い。器面の凹凸少ない。口縁に強い歪みあり、径・器高不安。	①素地普通。赤褐色鉱物・細礫・輝石等雑多な夾雑物含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3でほぼ一様。
4 高杯 (H)	口(17.4)	焼土内床直上 口縁欠と脚部欠く	厚手で重量。器面の摩滅進み整形痕不明瞭。外面に縦位の磨きか。内面はやや平滑に仕上げる。	①素地普通。ダスト状。赤褐色鉱物・輝石・パミス等の混入物多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙2.5YR6/4。④強い二次火熱を受ける。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 67号住居跡 (第94図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(14.4)	カマド焚口床直上 図示部分	右回転ロクロ。ロクロ痕外面のみやや強く、口縁内面粗い布状具の擦痕が残る。高台が付くと思われる。	①素地粗くザラザラ。輝石・黒色鉱物多く混入する。 ②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/4でほぼ一様。

II区 68号住居跡 (第96図 PL. 70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	台(7.6)	カマド内床直上 図示部分	右回転ロクロ→回糸→回転利用丁寧な高台取付で、切離し痕はナデ消す。ロクロ痕細かく弱い。釉は漬掛け。	①緻密。細砂以外の夾雑物は少ない。②還元焰、普通。③灰白7.5Y8/1。釉は灰緑色で外面は白色味をおび、きわめて薄い。
2 椀 (K)	台(6.8)	埋土 図示部分	右回転ロクロ→回転利用の丁寧な高台取付で切離し痕ナデ消す。外面体部下端に回へら状の擦痕。釉は不明瞭。	①素地緻密。夾雑物少ない。気泡含みブクを生じる。②還元焰、硬調。③灰白N7/0。釉は降灰状で内のみ灰緑色。
3 椀	口 12.7 台 6.8 高 5.0	中央床上6cm 口縁%欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用やや雑な高台取付。ロクロ痕弱く、器面平滑。高台端部に細かな凹凸あり。	①やや緻密。細砂を含む。他の混入物まれ。②中性焰か、やや軟調。③灰白2.5Y8/2。赤味をおびるムラあり。外面に薄い黒斑状のムラあり。
4 杯	口 11.9~11.6 底 5.2 高 4.3	埋土 完形	右回転ロクロ→回糸か。ロクロ痕は弱く雑。口縁外端のナデ強く沈線状の凹み巡る。厚手。	①素地粗く、器面ザラザラ。パミス・細砂等の混入多い。②還元焰か、やや軟調。③灰白10YR8/1赤色味をおびるムラあり。内外面に重焼き状の黒褐色のムラあり。
5 土釜	口(20.4) 頸(18.6) 胴(21.8)	カマド内床直上 2片 図示部分	輪積みか。外面やや粗く雑な削り、器面に凹凸あり。口縁ナデやや雑。内面ナデは工具による息長い擦痕残る。	①素地粗くザラザラ。パミス・金雲母・黒色鉱物等の混入多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面に暗いムラ広い。
6 土鍾	厚 1.2 重 2.0g	埋土 中央部分	成形痕不明瞭。内面は平滑。	①素地普通。パミスまじりの砂粒少量混入。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面は橙色味強い。

II区 69号・70号住居跡 (第97図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (Y)		埋土 口縁	口縁下に直線文、頸部に連続山形文を施す。内面は整形不明。施文具は櫛I種。	①白色・無色の細礫～粗砂が多い。②やや軟調。③橙7.5YR6/4。
2 甕 (Y)		埋土 頸部	直線文と波状文とを上下に交互施文。胴部は縄文。施文具は7本単位の櫛I種。施文順は上から下。内面ナデ。	①きめ粗く、長石・軽石の粗～細粒が多い。②やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。
3 壺 (Y)		頸部	胴との境に直線文の後、頸部に波状文を重ねる。施文具は9～10本単位の櫛I種と思われる。施文順は下から上。内面ナデ。	①きめ粗く、長石と石英の粗粒多い。②普通。やや還元ぎみ。③黒褐7.5YR3/1。
4 甕 (Y)		埋土 頸部	波長の短い波状文を重ねる。内面は粗い磨き。施文具は9本単位の櫛I種と思われる。施文順は上から下。	①きめ粗く、石英の粗粒が多い。②普通。③黒褐7.5YR3/1。

遺物観察表編

5 甕 (Y)		口縁	口唇と口縁全体に横位縄文。原体は結束1種で附加条第1種のLR+2RとRL+2L。	①長石・チャートの細礫～粗粒を含む。②やや硬調。③黒色、器面は赤変。
6 甕 (Y)		頸部	横位の羽状縄文。内面はヘラ状具によるナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lの結節1種。結節は2段みられる。	①白色鉱物の粗砂を多く含む。②やや硬調。③黒色。
7 甕 (Y)		埋土 胴部	横位の縄文帯を巡らす。原体はLR。内面はナデ。	①ややきめ粗く、チャート・長石・輝石・角閃石等を含む。③黒褐7.5YR3/1。
8 甕 (Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2L。	①長石と石英の細礫～粗粒が多い。②還元。③黒色。
9 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面はナデか。原体は複節LR L。	①長石の細礫、粗砂が目立つ。②普通。③橙10YR7/6。
10 甕 (Y)		埋土	横位縄文。原体はRLRと思われる。	①きめやや粗く、石英・輝石等の粗砂多く含む。②普通。③にぶい褐7.5YR5/3。
11 甕 (Y)		埋土 胴部	頸部との境に楕直線文、胴部横位縄文。原体は附加条第1種LR+2R。	①石英の粗粒が多い。②還元で硬調。③黒色。
12 埴	口(17.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	細かなハケ目の上に外面斜位、内面横位の弱い磨きを施す。外面口縁下端にヘラ状工具による沈線巡る。	①素地緻密。輝石を含む細砂混入。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。内外面とも暗いムラ広い。④外面一部にスス附着。

II区 71号住居跡 (第99図 PL.70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	鈕 2.9 天 6.2	中央床上5cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸→天井中央部に回へら。鈕部はロクロ使用の取付と思われるが、中心からややずれている。	①素地やや粗く、片岩質細礫・黒色鉱物等まじる砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰7.5Y6/1。一様。
2 蓋 (S)	口(18.6)	東壁直下床上16cm 天井部 $\frac{1}{2}$ 口縁 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→天井部回へら。ロクロ痕外面でやや強く、内面で細かい。カエリの外面に凹みあり。	①素地やや緻密。細礫まじりの砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。一様だが、断面中央赤色味強い。
3 杯 (S)	口(13.4) 底(6.6) 高(4.0)	中央床上10cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕細かく弱い。外底に焼成前のヘラ描きか。	①素地普通。白色鉱物・細砂少量含む。②還元焰やや硬調。③灰白N7/0で断面までほぼ一様。
4 杯 (S)	口(11.4) 底(6.4) 高(3.3)	中央床上5cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデは内面でやや強い。内底やや凹凸。口縁端部わずかに外反。	①素地やや緻密。黒色鉱物・細礫やや多く含む。②還元焰、硬調。③灰N6/0。一様。断面中央一部セピア色。
5 (長頸瓶) (S)	台(8.8)	中央床上5cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→回転利用丁寧な高台取付。内面ロクロ痕は工具使用か。外面に弱い沈線巡る。	①素地やや粗い。白色鉱物・片岩質細礫等混入物多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y7/1。外面にムラあり。二次火熱を受けるか。
6 甕 (H)	口(22.0) 頸(19.2)	中央東側床上10cm 図示部 $\frac{1}{2}$	全体に薄手。外面削りはやや鋭い。頸部に指頭状の弱い凹凸が残る。内面ナデ丁寧。	①素地普通。輝石・粗砂等を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 72号住居跡 (第101図 PL.70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 15.2 台 7.6 高 5.6	中央南側床直上 ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸か→回転利用丁寧な高台取付。ロクロ痕は弱い。内面平滑。口縁端部外側に弱い沈線巡る。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物・細砂等含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR7/6。彩度の低いムラあり。
2 椀	台 (8.4)	中央床上11cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回転利用丁寧な高台取付→体部下端に弱い削り施す可能性。内面は弧状の細かい磨き。	①素地やや粗くザラザラ。黒色鉱物・パミス等混入。②酸化焰か、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色処理だが光沢欠く。
3 平瓶 (K)	口(29.0)	埋土 図示部細片	右回転ロクロ。ロクロ痕は外面弱く、内面は強い。釉は肩部外面と頸部内外面に丁寧に施し、ハケ塗るか。細片からの復元で怪不安。	①素地緻密。細砂以外夾雑物少ない。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。釉は灰緑色。
4 土釜	口(26.0) 頸(25.6) 胴(28.6)	中央床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	外面は幅広の指頭圧痕状の凹凸の上を雑で弱い削りで無調整部分も多い。口縁と内面は強いナデだが器面不整。	①やや粗い素地に細礫の混入きわめて多く、器面ザラザラ。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。黒色味のムラ広い。④二次火熱の影響強い。外面肩部付近にスス付着多い。
5 土釜	口(23.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁は大きく歪み、ナデも雑。体部の削りは細かく雑。内面やや平滑。	①素地やや粗い。パミス・黒色鉱物を含む砂粒多い。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR6/3。全体に黒色のムラあり。
6 土鍾	長 4.4 厚 1.1 重 4.2g	中央南側床直上 完形	成形痕は弱い。指頭痕残すが不明瞭。全体に平滑。孔はややいびつ。	①素地緻密。混入物は少ない。②酸化焰、普通。③黒N2/0。断面まで一様。

II区 73号住居跡 (第103図 PL.70)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.4) 底 6.6 高 4.3	北壁直下床上17cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内面平滑。外底に乾燥時のヒビあり、歪みを生じる。	①素地やや緻密。夾雑物少なく、良好。②中性焰か、普通。③明褐色5YR7/2。全体に黒斑状のムラあり。
2 椀	口(14.6) 台 (7.8) 高 5.5	カマド内中央床直上 口縁・高台 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回転利用高台取付で、切離し痕ナデ消す。外面のロクロ痕弱いが、内底中央のみ大きく凹む。	①素地粗くザラザラ。黒色鉱物まじりの砂粒、多い。②中性焰か、普通。③淡黄2.5Y8/3。内面は赤色味をおびる。④口縁端部摩滅する。
3 椀	口(14.0)	北東隅床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕弱い。内面の磨きは口縁部で弧状、底部は一方でやや粗い。	①素地やや粗い。パミスまじりの細砂含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙5YR7/6。外面中央赤色味をおびる。内面黒色処理だが、やや光沢弱い。
4 椀	台 6.5	東壁下床直上 口縁下半 $\frac{1}{2}$ 高台 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロか→やや雑な回転利用高台取付で切離し痕ナデ消す。内底磨きは口縁で横位、底部で一方。	①素地やや粗い。細砂の混入多い。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。外底に黒色のムラあり。内面黒色処理だが、光沢弱い。
5 椀	口(16.4)	カマド内床上10cm 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロか。ロクロ痕やや強く、丁寧な横ナデ。内面は平滑で横位の細かい磨き。	①素地緻密。パミス・黒色鉱物まじりの細砂を混入。②酸化焰か、やや軟調。③浅黄橙7.5YR8/4。口縁と内面は赤色味をおびる。

遺物観察表編

II区 74号住居跡(第105・106図 PL.71)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(Y)		埋土 胴部	横位縄文。無文部ハケ目→ナデ。内面へら磨き。原体は前々段反燃LRL。	①きめやや細かく、石英・長石・軽石の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい褐7.5YR5/3。
2 甕(Y)		埋土 胴部下位	底部付近と思われる、下端まで縦位縄文を施す。原体は附加条第1種RL+2L。	①きめやや粗く、粗砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/2。
3 甕(Y)		埋土 胴部	縄文原体の押捺を境には波状文、下は縄文を施す。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①きめ粗く、長石の細礫・細粒が多い。②普通。③にぶい黄橙7.5YR7/3。
4 壺(Y)		埋土 頸部	波状文を重ね、上位に縄文原体の押捺を巡らす。内面粗いへら磨き。施文具は9本単位の櫛I種。施文順は下から上。	①きめ粗く、長石と石英の粗粒が多い。②やや還元ぎみ。③黒褐7.5YR3/1。
5 小型甕(H)	口(15.0) 頸(11.8)	埋土4片 図示部%	口縁は内外面とも丁寧なナデで、一部ハケ目あり。端部外方へ小さく肥厚する。肩部に細かく鋭いハケ目残る。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面中心に黒色味の強いムラ広い。
6 小型甕(H)	口(15.0) 頸(12.0)	周溝内 図示部%	口縁の歪みやや強く、頸部の接合痕も波状。外面肩部のハケ目細かい。内面のナデ丁寧で一部ハケ目状。	①素地普通。パミス目立つ砂粒多い。②酸化焰、普通。③灰白10YR7/2。赤色味・黒色味のムラ多く一様でない。④強い二次火熱を受ける。
7 台付甕(H)	口 13.1 頸 11.4 胴 17.9~17.6	貯蔵穴内底面上 図示部ほぼ完存	口縁ナデやや雑でS字の形状一定でない。外面のハケ目丁寧。ハケ目の単位は17mmで12本。内面頸部にやや強い接合痕残る。	①素地やや粗い。細礫と赤褐色鉱物をやや多く含む。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。④二次火熱を受ける。胴部下半剥落。
8 台付甕(H)	口 12.9~12.4 頸 12.0~11.5 胴 18.0	北壁中央側床直上 上胴中位以下と 台部欠く	口縁部やや直立気味。口縁のナデやや雑。外面のハケ目細かく鋭い。内面やや鋭い指頭のナデ痕残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。外面暗い。④被損後にも二次火熱を受ける。
9 台付甕(H)	口(18.0) 頸(15.6) 胴 21.7~21.3 台上(4.8)	北壁下床直上 口縁~肩部%と 台部欠く	口縁ナデは外面に沈線状の擦痕残す。外面のハケ目粗く、無調整部分広い。内面上半に指頭の強いナデあり。	①素地普通。粗砂多く含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面は暗い部分広い。④二次火熱を受け、外面下半に剥落あり。
10 台付甕(H)	台上 5.2 台下 9.3	中央西側床直上 5片 図示部ほぼ完存	ハケ目弱く不明瞭。台部は縦位にナデ消す。台部内面に指頭の強いナデの痕残る。	①素地やや粗い。パミス・黒色鉱物等のまじる砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、黒色のムラあり。④内底と脚端部の剥落進む。
11 鉢(H)	口(10.0)	貯蔵穴内底面上 図示部%	外面に指頭痕あり。内面のナデ粗く、工具痕が残る。歪み強く、径・傾きとも不安。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物含む細砂多い。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。口縁部は赤色味をおび、塗彩の可能性。内面黒色味をおびる。
12 高杯(H)	脚上 2.2 脚下 13.0	南東隅床直上 図示部ほぼ完存	脚に3孔を穿ち、外面弱い面取りを加える。外面の磨き丁寧。内面は粗い布状具の擦痕残る。	①素地やや緻密。パミス・黒色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/8。内面は彩度低い。
13 高杯(H)	脚上 2.7	中央西側床直上 底部%と脚裾端 部欠く	脚部に4孔を穿つが、配置は均等でない。外面の磨きやや丁寧。内面のナデはハケ目状の擦痕が残る。	①素地やや緻密。黒色鉱物含む砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3、ほぼ一様。
14 高杯(H)	脚上 3.0 脚下 13.0	貯蔵穴内底面上 4cm 図示部ほぼ完存	脚に3孔を穿つが、配置は大きくズレる。外面のナデ、磨きとも丁寧。内面は雑なナデを施しやや平滑。	①素地普通。輝石・黒色鉱物・パミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。一様。断面は白色味強い。

1 竪穴住居跡出土遺物

15 器台 (H)	脚上 3.7~3.5	埋土 2片 身部下半 $\frac{1}{4}$ 脚柱部 $\frac{1}{2}$	脚部は3孔か。外面へラ磨きは雑。身 部内面のへラ磨きは雑で器面平滑さ欠 く。中央孔は上方のみ丁寧な削りで整 形する。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物等、やや大粒 の混入物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③に ぶい赤褐5YR5/4。弱い光沢あり。一部に黒斑あり。
16 手づくね	口(4.2) 底(4.0) 高 2.2	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	口縁端部尖る。外面は幅広の指頭によ る押圧。底部中央薄い。内面平滑さ欠 く。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。外面に黒 色のムラあり。
17 壺(Y)		埋土 肩部	横ハケ目の後、2~4本の櫛II種で波 長の短い波状文を施す。施文方向は反 時計回り。波状文の下に鋭利な工具で 刺突を巡らす。胴部は縦へラ磨き。	①石英・軽石・黒色鉱物(輝石・角閃石類)・赤色鉱 物を含む。②二次火熱を受けたと思われる、外面の一 部が赤橙色に変化している。③浅黄橙7.5YR8/4。
18 壺(Y)		埋土 肩部	外面ナデの後、円形浮文を貼付し、半 竹管かへラ状具で円形文を刻む。内面 は横ハケ目。	①石英・長石・チャート・その他有色鉱物の小~細 砂を含む。②硬質。外面一部黒斑。③灰白2.5YR8/ 1~暗灰色。

II区 75号住居跡(第107図 PL.71)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 15.1 台 7.7 高 5.6	P3内底面より 12cm 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠	右回転ロクロか。外面の粗い擦痕は不 整で横ナデとやや異なる。内面の磨き 雑。厚手で重量。	①素地粗い。パミスまじりの砂粒の混入多い。②酸 化焰か。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面黒色処理。 光沢欠く。④内外面とも剥落多い。
2 長頸瓶 (K)	胴(20.0) 底(13.2)	北壁直下床直上 肩部 $\frac{1}{4}$ 胴~底部 $\frac{1}{4}$	二段成形。右回転ロクロ→回糸か。体 部下端は高台状に削り出す。内面はロ クロ痕下半で強い。釉はハケ塗り。外 底にも釉が見られる。	①素地緻密。夾雑物は少なく良好。②還元焰、普通。 ③灰白10Y7/1で同様。釉は灰緑色。外底の釉は白色 味強い。④肩部に剥落あり。二次火熱を受ける。
3 甕	口(20.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロか。外面には布状具の粗 い擦痕が残る。ロクロ痕弱い。内面の 磨き丁寧。全体に丁寧な造りである。	①素地緻密。粗砂を若干含むが夾雑物少ない。②酸 化焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/4。内面黒色処理 で光沢。④口縁内端摩滅する。
4 羽釜	口(25.0) 鏝(38.0)	P3内底面直上 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ。鏝の取付丁寧だが部分 的に歪む。横ナデはやや粗い擦痕残る。	①素地やや粗い。中礫・赤褐色鉱物を含んだ砂粒多 く混入。②酸化焰か、硬調。③明赤褐2.5YR5/6でほ ぼ同様。

II区 76号住居跡(第108図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ痕弱く、内面は不明瞭。 口縁端部弱く外反する。	①素地やや粗くボソボソ。砂粒の混入やや多い。② 還元焰か、普通。③灰白2.5Y8/2。ほぼ同様。

II区 77号住居跡(第109図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底 4.7~4.3	埋土 底部完存	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒含む。②酸化 焰か、やや硬調。③橙7.5YR6/6でほぼ同様。

遺物観察表編

II区 79号住居跡 (第110図 PL. 71)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 10.1 底 5.5 高 2.0	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕外面でやや強い。	①素地やや粗い。金雲母等を含む細砂やや多い。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。外面口縁に黒斑状のムラあり。
2 椀 (S)	台 (7.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→回転利用の丁寧な高台取付で外端は弱く尖る。ロクロ痕細かく強い。底部薄い。	①素地やや緻密。少量の粗砂以外に混入物少なく良好。②還元焰。やや軟調。③灰N6/0。底部付近はやや黄色味をおびる。

II区 80号住居跡 (第112図 PL. 71)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 8.0 底 4.4 高 2.4	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱い。全体に厚手。内底は平坦。	①素地普通。金雲母・黒色鉱物・パミスまじりの細砂含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3で断面まで一様。
2 土釜	口(24.0) 頸(22.8) 胴(25.0)	埋土 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。口縁に強い歪みあり、ナデも均一ではない。径不安。内面のナデは幅広いの工具使用。外面の削りは弱く細かい。	①素地粗い。赤褐色鉱物・パミス等の目立つ粗砂多く混入。②酸化焰か、厚手の土器としてはやや硬調。③橙5YR6/6。黒色味をおびるムラあり。
3 土釜	口(26.4) 頸(25.6) 胴(28.0)	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	口縁のナデ丁寧で、上端は外方を平坦に仕上げる。小さな波状の歪みあり。削りは外面下半でやや強い。内面ナデ丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つ粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。口縁、胴部に暗いムラあり。④二次火熱を受ける。

II区 81号住居跡 (第113図 PL. 71)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.0) 底 (7.8) 高 3.4	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回ヘラか。無調整。ロクロ痕弱い。口縁内面にやや粗い布状具の擦痕が残る。	①素地やや粗い。パミスまじりの細砂多い。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。断面まで一様。
2 杯 (H)	口(12.6)	7号掘立内床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外面の削りやや粗く無調整部分広い。内面のナデ丁寧で布状具の擦痕残り、底部には強い凹凸あり。	①砂粒以外の夾雑物少ない。素地緻密。気泡まじる。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。ほぼ一様。
3 瓶 (S)	台上(15.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。内面ロクロ痕細かく強い。外面ロクロ痕不明瞭で、櫛目状の擦痕が巡る。高台剥落か。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒多く含む。②還元焰、硬調。③灰N6/0。明度高いムラあり。
4 砥石	長 7.7 短 4.5 厚 1.8~0.5	埋土 半欠品か	割口、小口を除く4面使用、断面糸巻き状の半欠品と思われる。主な使用面は弱い凹面になる。	①砥沢石。混入鉱物の抜けた痕が小孔を作る。③明オリーブ灰5GY7/1。鉱物含み表面は広く銹色を呈す。④研ぎ減り著しいが強い擦痕はない。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 82号住居跡(第115図 PL.71)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 16.0 高 5.3	北東壁下床直上 完形	口縁のナデ、外底の削りともやや雑。内面平滑だが、底部に一方の強いナデの痕が残る。厚手でやや重量。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。黒色味をおびるムラあり。④口縁内面の剥落進む。
2 杯(H)	口 13.3~12.8 高 4.7	北東壁下床直上 ほぼ完形	外底の削り細かいが雑。内面丁寧なナデ。平面だ円形に歪む。	①素地やや粗くザラザラ。器面ダスト状で化粧粘土使用か。パミスまじりの細砂多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。断面は白色味強い。
3 杯(H)	口 11.8~11.3 高 4.0	北東壁下床直上 ほぼ完形	外面摩滅し整形痕不明瞭。口縁外面に不規則で弱い沈線巡る。	①素地緻密。ダスト状。長石等少量含むが夾雑物は少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で一樣。
4 杯(H)	口(11.6)~11.0 高 4.2	南東壁下床直上 口縁欠く	口縁大きく歪み平面だ円形。外底の削り強く、器面に凹凸ができる。内面のナデ強くやや粗い。	①素地緻密。砂粒以外の夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。口縁部赤色味をおびる。
5 杯(H)	口(11.2)	中央東側床上8 cm 図示部%	口縁の外反やや強い。外底の削りは強く、器面に凹凸ができる。内底にも不規則な凹凸あり。	①素地緻密。黒色鉱物含む細砂混入。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一樣。
6 鉢(H)	口(18.4)	北東壁下床直上 図示部%	口縁外端小さく肥厚するが、形状一樣でない。口縁外面のナデ強いが雑で接合痕残る。外面削り鋭い。内面平滑。	①素地緻密でダスト状。夾雑物少なく良好。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR7/6。一樣。
7 甕(H)	口(23.0) 頸(18.4)	カマド前面床上 7cm 小破片	器面摩滅著しく整形痕不明瞭。外面に接合痕残る。	①素地極めて粗くザラザラ。パミス・輝石・黒色鉱物等多く混入。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一樣。
8 土錘	長 2.7 厚 0.9 重 1.8g	埋土 ほぼ完形	外面平滑で整形痕見えず。孔はだ円で植物の茎状の圧痕がわずかに残る。	①素地やや緻密。パミスを含み、粗砂散見。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。暗いムラあり。

II区 83号住居跡(第117図 PL.71)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴(H)	口 6.8~6.5 頸 5.2 胴 6.9 底 4.1 高 6.1	埋土 ほぼ完形	口縁に歪みあり。体部の削り弱くナデに近い。内面のナデ丁寧だが指頭圧痕残る。	①素地やや粗い。パミス・輝石・石英等のまじる砂粒含む。②酸化焰、硬調。③橙5YR6/6。内面は白色味強い。
2 埴(H)	口(8.4) 頸(8.2) 胴(9.8)	埋土 図示部%	外面はハケ目の上を口縁から肩にかけて粗い擦痕残るナデを施す。内面下半には工具使用の鋭いナデが見られる。	①素地普通。砂粒以外の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③明赤褐5YR5/6。黒斑あり。断面は白色味強い。
3 器台(H)	口(9.0) 台上 2.5	埋土2片 口縁欠 台部上半完形	脚部に4孔を穿つ。口縁外端は平坦。外面の磨きはやや鋭く、脚内面は削りに近いナデ。	①素地緻密。パミス・輝石まじりの細砂含み、石英散見。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面に黒色のムラあり。
4 器台(H)	台上(3.0)	埋土 図示部%	脚柱部に4、脚裾部に4の孔を穿つと思われる。外面丁寧な磨き。内面のナデ平滑。	①素地緻密。細砂・輝石・白色砂粒等含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。暗いムラあり。
5 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。原体はLR+2R。内面はナデで剥落激しい。	①白色・無色鉱物の細砂が多い。②普通。③灰黄褐10YR5/2。

遺物観察表編

II区 84号住居跡 (第118図 PL.71)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(12.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{3}$	右回転クロー→天井部回転ヘラ削り。 口縁の歪み大きく径不安。厚手。	①素地普通。パミスの目立つ細砂を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰10BG4/1。断面明度高い。④天井部に降灰軸かかる。
2 甕 (H)	口(22.0) 頸(16.4)	埋土4片 図示部 $\frac{1}{3}$	口縁のナデ粗く接合痕を残し、肩部と内面上端に沈線巡る。体部に接合痕残る。外面削りやや粗い。	①素地粗い。輝石・パミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、甕類としてはきわめて硬調。③にぶい褐7.5YR6/3。内面は暗い。
3 土錘	厚 1.4 重 7.1g	埋土 $\frac{1}{3}$ 個体	外面にやや歪みあり。内面は縦位に植物の茎と思われる軸の圧痕が残る。厚手。	①素地緻密。夾雑物少ない。②酸化焰か、硬調。③灰7.5Y4/1。一様。

II区 85号住居跡 (第119図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	台下(14.0)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{3}$	脚部に3孔を穿つと思われる。外面の磨き摩滅して不明瞭。内面ナデは幅広の工具痕が残る。	①素地やや粗い。灰白色鉱物まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味のムラあり。

II区 86号住居跡 (第121図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(21.0) 頸(18.8)	西壁直下床直上 図示部 $\frac{1}{3}$	口縁ナデ鋭いが、接合痕を内外面ともに残す。外面の削りは強く細かい。口縁に波状の小さな歪みあり。	①素地普通。赤褐色鉱物・金雲母を含む砂粒が混入。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面暗褐色のムラ広い。

II区 88号住居跡 (第123図 PL.71)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罎 (H)	口(15.8) 頸(13.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{3}$	口縁のナデやや粗い。頸部外面には鋭い沈線が巡る。外面下半に弱い削り。全体に薄手。	①素地やや緻密。パミス・黒色鉱物・粗砂等やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/4で、内面彩度低い。
2 小型壺 (H)	頸(5.2) 胴(10.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{3}$	外面の磨きは雑で、摩滅し不明瞭。内面のナデは強い工具の圧痕残る。外面肩部雑なナデだが無調整部分あり。	①素地やや緻密。パミス・赤褐色鉱物まじりの細砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。内面明度高い。
3 台付甕 (H)	口(16.8) 頸(15.0)	中央床上12cm 口縁 $\frac{1}{3}$ 肩部 $\frac{1}{3}$	S字状の屈曲はやや弱い。肩部内面に板状工具による強いナデで、上方に小さな段ができる。	①素地普通。砂粒等の夾雑物を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面に黒斑あり。
4 台付甕 (H)	台上(4.6) 台下(10.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{3}$	外面の削り摩滅し不明瞭。内面のナデは上半に強い工具の圧痕残る。	①素地やや粗い。パミス・黒色鉱物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面赤色味強い。
5 甕 (Y)		埋土 頸部	14本単位節I種で波状文と簾状文を施す。施文方向は反時計回り。胴部に斜ハケ目を残す。内面は胴部にハケ目、頸部上位をへら磨き。	①素地粗く、石英・長石・軽石等の小砂を多く含む。

1 竪穴住居跡出土遺物

6 壺 (Y)		埋土 頸部	横位縄文。内面は整形不明。原体は前 前段多条LR。不明瞭だが復節の可能 性あり。	①きめ粗く、白色・無色の細礫と粗砂を含む。②普 通。③橙5YR6/6。
7 壺 (Y)		埋土 肩部	肩部に横位縄文。内外面ナデ。原体は 復々節LR LR。	①きめやや粗く、白色・無色・黒色の粗砂多い。② 普通。③暗赤褐2.5YR3/3。
8~11 甕 (Y)		埋土 頸~胴部	頸部は2段の波状文。胴部横位縄文。 境に直線文と縄文原体末端の押捺。施 文具は8本単位の櫛I種、附加条第1 種RL+2L。	①長石の細角礫を多く含む。②普通。③明赤褐5 YR5/6。

II区 91号住居跡 (第126図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 7.8	カマド上 口縁下半若干 底台部ほぼ完存	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台 取付で切離し痕ナデ消し、体部にヘラ 削り。内面は体部で弧状、底部で一方向 の磨きあり。黒色処理を施す。	①素地粗い。輝石・パミス・石英まじりの砂粒多い。 ②中性焰、普通。③褐7.5YR4/4。外面ほぼ一様。内 面は光沢弱い。
2 小瓶 (S)	底 4.6	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→切離し不明。外面僅か にロクロ痕残るが摩滅し不明瞭。内面 のロクロ痕細かく強い。	①素地緻密。細かい黒色鉱物含むが夾雑物は少ない。 ②還元焰、やや軟調。③灰5Y5/1。内面明るい。④外 底の剥落広い。
3 羽釜	口(27.0) 鏝(29.2)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{4}$	口縁の歪み大きく厚さも一様でなく、 鏝の取付は雑で歪み、接合痕を残す。 口縁のナデも雑で無調整部分あり。	①素地やや粗い。長石・細礫まじりの粗砂多い。② 酸化焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。鏝に赤色味 のムラあり。
4 土錘	長 4.5 厚 1.8 重 13.4g	埋土 完形	全体にいびつ。外面に僅かに指頭痕が 観察できる。	①素地普通。黒色鉱物まじりの細砂を含む。②酸化 焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/3で一様。

II区 92号住居跡 (第127図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 8.1	カマド内 図示部 $\frac{1}{4}$	91住-1に同巧。黒色処理か。厚手。	①素地粗い。パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、 普通。③にぶい黄橙10YR6/4。内面赤色のムラあり。 ④内面光沢弱く黒色部分は少ない。
2 小皿	口(9.0) 底(4.4) 高 2.1	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデ丁寧 で外面に沈線をつくる。	①素地緻密。黒色細砂含むが夾雑物少ない。②中性 焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面に黒色のム ラあり。
3 小皿	底 4.1	西壁寄床直上 図示部完存	右回転ロクロ→回糸無調整。切離し時 の糸が体部に鋭い傷をつける。ロクロ 痕弱く内面平滑。	①素地緻密。赤褐色鉱物の目立つ細砂を含む。②酸 化焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で断面まで一 様。
4 羽釜	口(23.4) 鏝(26.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	91住-3にほぼ同巧。同一個体の可能 性あり。	①素地粗い。パミスの目立つ粗砂多い。②酸化焰、 やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。内外面に黒色のム ラあり。

遺物観察表編

5 甕	口(24.0) 頸(22.8) 胴(27.0)	北東隅床直上 図示部 _△	輪積みか。口縁に小さな歪みあり、ナデ雑で外面不整。体部はナデ弱く、粘土紐状の凹凸や指頭圧痕が残る。内面のナデ息長く丁寧。	①素地普通。黒色鉱物多く、細礫散見。②酸化焰か、やや硬調。③明赤褐5YR5/6。外面に暗いムラあり。
6 土錘	長 6.0 厚 1.0~0.8 重 3.0g	西壁寄床直上 完形	外面に整形痕は見えないが、中央に凹みあり。湾曲するが孔は直線的に通っている。	①素地緻密。細砂以外の夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③灰10Y4/1。一様。

II区 94号住居跡(第130図 PL.72)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(15.2) 頸(12.2) 胴(19.6) 底 4.9 高 19.8	南壁下床直上 △個体 底部完存	口縁のナデ丁寧で、外端小さく肥厚する。外面ハケ目は細かく丁寧。内面ナデは工具痕が残り中位に接合痕明瞭。外底は蛇の目高台状。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物混入の砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/3。外面黒色部分広く、断面は黄色味強い。④強い二次火熱を受ける。
2 小型甕 (H)	頸(11.8) 底 4.3	南壁寄床直上 体部 _△ 底部完存	外面のハケ目細かく丁寧。内面は頸部に強い接合痕残り、底部付近は粗いハケ目状のナデ痕あり。	①素地普通。赤褐色鉱物を含む砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR5/4。外面黒色部分広い。④二次火熱を受ける。内面下半摩擦。
3 高杯 (H)	脚上 3.0	埋土 図示部ほぼ完存	外面脚柱部上下両端にハケ目が残る。器面摩擦減し不明瞭。内面のナデ粗く、接合痕、無調整部分を残す。	①素地やや粗くザラザラ。赤褐色鉱物・粗砂等多い。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。一様。
4 鉢(H)	口(20.6)	南壁下床直上 口縁 _△ 体部 _△	内外面ともハケ目の上に丁寧な磨きで器面平滑。口縁折り返し。	①素地緻密。黒色鉱物含む。②酸化焰、やや軟調③明赤褐5YR5/6。外面黒色のムラ多い。④二次火熱を受けるか。内面に凍てハゼあり。
5 手づくね	口(4.6) 高 2.1	中央床直上 口縁 _△ 底部完存	口縁外面に強い指頭痕あり。内面は不明瞭なナデだが平滑。全体に薄手。	①素地普通。パミスまじりの細砂多い。②酸化焰普通。③にぶい黄橙10YR6/4。外底黒色。
6 壺(Y)		埋土 口縁	口縁は幅広の粘土帯を貼付し、口唇から横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原体は複雑節LRLR。	①きめ粗く、石英・輝石・軽石の粗粒が多い。②普通。③赤褐5YR4/6。
7 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複雑節LRLRと思われる。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒を多く含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
8 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体は複雑節LRLR。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。

II区 95号住居跡(第131図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底 3.9	南壁直下床直上5cm 口縁下半 _△ 底部完存	右回転クローロー回糸無調整。クロー痕弱く不明瞭。内面平滑。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙2.5YR6/4。黄色味おびるムラあり。④口縁端部割れ口摩擦している。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 96号住居跡 (第132図 PL.72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (S)	口(14.4) 台(6.2) 高 4.7	北壁下床直上 %個体	右回転ロクロ→回糸→回転利用のやや雑な高台取付。口縁端部大きく外反する。器面の平滑さ欠く。	①素地やや粗い。5mm大の細礫が目立つ。粗砂多い。 ②還元焰、やや硬調。③暗青灰5BG1/3で断面までほぼ一様。
2 杯	口(13.0) 底(7.2) 高 4.6	中央北寄床直上 図示部%	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱く鋭さ欠く。厚手。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③灰白5Y8/1。内面吸灰し、外面一部とともに黒色。
3 土鍾	長 2.8 厚 1.0 重 2.5g	西壁寄床直上 完形	全体に指頭状の細かい擦痕あり。小さくねじれるが孔は通っている。	①素地緻密。夾雑物少ない。②酸化焰、軟調。③にぶい黄橙10YR7/4で一様。

II区 97号住居跡 (第133図 PL.72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 10.3 台 6.1 高 4.9	カマド内床直上 4片 口縁% 底台部ほぼ完存	右回転ロクロ→回転利用の高台取付で切離し痕ナデ消す。ロクロ痕弱い。横ナデは内底で鋭い擦痕残す。全体に厚手。口縁は波状に小さな歪み。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③明黄褐10YR7/6。外面明度の低いムラあり。
2 土鍾	長 4.9 径 2.5 重28.6g	西壁下床直上 完形	端部は平坦でヘラ削り等の調整を行っているか。外面は細かな凹凸あり。	①素地普通。砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、および黒褐10YR3/1で一様でない。

II区 98号住居跡 (第134図 PL.72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.0)	埋土 図示部%	ナデは口縁で強く全体に丁寧。外底に弱い削りで縁部は不明瞭。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。断面灰色味をおびる。④内面に凍てハゼ多い。
2 高杯 (H)	脚下(12.8)	南東貯蔵穴内 底面上28cm 図示部%	脚裾のナデ粗く、波状に歪み、指頭圧痕状の凹凸あり。脚柱部下端に沈線巡る。内面のナデは粗く強い。	①素地やや粗い。細砂含むが夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6でほぼ一様。
3 小型甕 (H)	口(11.2) 頸(8.4) 胴(11.0) 高 12.2	埋土18片 上半% 下半ほぼ完存	口縁上半に粗い布状具の擦痕巡る。体部の削りは細かいが雑で、器面はあれている。内面のナデ強く粗い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒以外の夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面に黒斑多い。④二次火熱を受ける。
4 甕 (H)	口 16.0~15.5 頸 11.6 胴 22.5 底 6.1 高 28.0	南東貯蔵穴内 底面上21cm ほぼ完形	口縁はナデ粗くやや雑。体部は全体に指頭状の凹凸が多く、弱いハケ目がある。内面は丁寧なナデで平滑だが接合の段残る。外底は粗い削り。	①素地普通。赤褐色鉱物・チャート・細礫等やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。外面体部に黒色のムラが広い。④二次火熱を受ける。外面の一方に片寄ってスス付着。
5 甕 (H)	口 19.6~18.3 頸 13.6 胴 24.5 底 4.8 高 25.2	南東貯蔵穴内 底面上28cm 胴部%欠く	口縁のナデは丁寧だが弱く、外面上半に指頭痕状の凹み残る。外面の削り雑で強く、胴部は歪む。内面は強く丁寧なハケ目状擦痕残るナデ。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物等を含む砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。内外面とも黒色のムラ広い。④二次火熱を受ける。内面下半に小さな剥落多い。

遺物観察表編

II区 99号住居跡 (第136図 PL.72)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 羽口	径 8.7~8.4	中央床上 8 cm 図示部完存	内面に縦位の筋状の細かな圧痕残る。 外面に削りの跡が残るが不明瞭。	①素地軽量で粗い。中礫目立つ。スサは見られない。 ③にふい黄橙10YR7/2。④上端はガラス化。鉄錆付着。断面は中央まで赤変。
2 土錘	径 0.9 重 1.6 g	埋土 %個体	外面に弱い指頭痕あり。全体に小さく ねじれるが孔は直線的に通っている。	①素地緻密で夾雑物は少ない。②酸化焰、やや軟調。 ③にふい橙7.5YR6/4。端部に黒斑あり。
3 土錘	長 3.4 径 0.9 重 2.9 g	埋土 ほぼ完形	内面に竹管状の縦位の筋状圧痕、外面 にやや粗い擦痕が見られる。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂含む。②酸化 焰、普通。③黒褐10YR3/2で一樣。

II区 100号住居跡 (第137図)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(14.0) 頸(12.8)	埋土 口縁% 肩部%	外面のハケ目は鋭く縦横に施すが、口 縁上端のみナデ消す。頸部に鋭い工具 痕が残る。内面は口縁に鋭いハケ目 があり、体部ナデは平滑だが接合痕が 残る。	①素地普通。細砂以外の夾雑物少なく良好。②酸化 焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。外面は黒色味をお びる。
2 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ヘラナデ。原体 L R。	①きめやや粗く、粗砂を含む。②やや軟調。③にふ い黄橙10YR6/4。
3 甕 (Y)		埋土 頸部	口縁との境付近に縄文原体の押捺。頸 部に山形文を施す。内面ナデ。施文具 は9本単位の櫛I種。施文方向は反時 計回り。	①長石・石英・チャート等の粗～細粒を含む。②外 面は還元きみ。③灰褐色～赤褐色。

II区 101号住居跡 (第139図)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 (6.2)	北壁下床直上 図示部%	右回転ロクロ→回転利用の丁寧な高台 取付で切離し痕ナデ消す。内面体部は 弧状、内底で一方向の丁寧な磨きの後 に黒色処理。	①素地やや緻密。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒 やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にふい黄橙10 YR7/2。内面黒色で光沢あり。
2 杯	底 5.8	カマド前面北側 床直上 図示部%	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱く不明瞭。	①素地普通。細砂以外の夾雑物少ない。②酸化焰、 普通。③にふい黄橙10YR7/3。④内外面ともやや摩 滅する。
3 高杯 (H)	脚上 3.8	埋土 図示部ほぼ完存	脚部中央に強い指頭圧痕があり屈曲す る。外面磨きは幅広く強く粗い。内面 のナデは強く粗く削りに近い。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒目立つ。 ②酸化焰、やや硬調。③にふい橙7.5YR6/4。赤色味 の強いムラあり。④混入品。

II区 102号住居跡 (第142図 PL. 72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	口 16.9~16.7 頸 14.5 胴 24.1 脚上 5.5 脚下 9.9 高 27.8	中央北西寄床直上 胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	粗いハケ目を強く雑に施す。内面工具使用のナデも強い。頸部外面に不規則な沈線が巡る。胴部の歪み、やや大きい。	①素地普通。赤褐色鉱物・細礫等やや大粒夾雑物を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味・灰色味等ムラ多く一様でない。④二次火熱受け外面下半脆弱化している。
2 台付甕 (H)	口 15.8 頸 13.4~13.0 胴 24.7 脚上 4.7	中央北西寄床直上 図示部 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積み。脚部下側と中位以上で外面ハケの工具異なり、ここで接合したことが判る。ハケ目は雑で、順序も不明瞭な箇所が多い。砂粒の動き少ない。	①素地普通。チャート質の細礫混入目立つ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は彩度低い。④二次火熱受ける。外面胴中位付近に薄いスス付着。
3 台付甕 (H)	台上 5.7 台下 9.7	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外面はハケ目をナデ消す。台部内面は上半に強い指頭のナデ痕残る。内底に鋭いヘラの圧痕残る。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味の強いムラあり。
4 小型甕 (H)	口(8.0) 頸(7.4) 胴(8.4)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面の削り弱く、摩滅し不明瞭。内面ナデは上半は指頭で弱く、下半はヘラ状工具使用で強く鋭い。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒が混入。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。口縁に黒斑あり。
5 高杯 (H)	口 15.7 脚上 4.1 脚下(19.4) 高12.0	中央床直上 口縁と脚裾部の $\frac{1}{2}$ 欠く	脚部に4孔を穿つ。外面はやや幅広い丁寧な磨き。内面磨きも丁寧で平滑。脚部内面のナデは裾部でハケ目状。	①素地やや緻密。夾雑物は少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。一様でない。④二次火熱受ける。赤色塗彩の痕跡が脚柱部に残る。
6 高杯	脚上 4.1	南壁下床土8cm 図示部の下端 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面の磨きはやや強い。脚内面丁寧なナデ。杯底部のナデは細い工具痕が残る。	①素地やや粗い。パミス・輝石・石英まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐10YR5/4。脚上端赤色味おびる。④裾部の摩滅進む。
7 甕 (Y)		埋土 胴上位	頸部に櫛描波状文、胴部に横位縄文、境に原体末端の押捺を巡らす。原体は附加条第1種LR+2R。内面ナデ。	①石英・長石の粗砂・細礫が多い。②普通。③黒褐10YR3/1。
8 土鍾	長 3.1 径 0.9 重 2.4g	埋土 完形	外面指頭痕観察できる。丁寧なナデで器面平滑。全体に小さく歪むが、孔は通っている。	①素地緻密。赤褐色鉱物・細砂を少量含む。②酸化焰、普通。③褐7.5YR4/6。一部黒色味おびる。
9 土鍾	厚 2.5~2.2 重 23.0g	埋土 一端を欠く	器面に不明瞭なナデの痕があり、部分的に指頭痕状に凹む。端部は平端。	①ややザラザラしているが素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。断面は彩度低い。

II区 103号住居跡 (第144図 PL. 72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 羽釜	口(25.0) 鏝(28.0)	カマド前面床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	ロクロ不使用。口縁の横位ナデ強く小さく波状に歪み、上端やや凹む。鏝の取付は雑。外面の削り粗く強い。内面ナデは粗い擦痕が残る。	①軽量でやや粗い素地。パミス目立ち、細礫まじりの砂粒が多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。外面暗い。④二次火熱受け外面やや脆弱化。
2 甕 (S)	底 14.8	P2内床直上 図示部ほぼ完存	接合痕より輪積みか。右回転ロクロ整形。内面のロクロ痕強い。外底に成形時の台の跡と思われる凹凸残る。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂を含む。②還元焰、硬調。③にぶい黄橙10YR6/3。暗いムラ広く一様でない。④二次火熱を受けるか。
3 釘	頂 1.13×1.10	埋土 先端部を欠く	折頭式のやや大型品である。頂部はやや薄い。	①鉄地金はやや悪い。錆化する。ねじれを生じており、使用の痕跡あり。

遺物観察表編

II区 106号住居跡 (第146図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	口(19.8)	埋土 口縁上半½ 下半½	口縁上半は丁寧なナデで端部は強く外反する。外面下半鋭い削りあり。内面やや雑で強い磨き。	①素地緻密。パミスまじりの細砂以外に夾雑物少ない。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。断面一部黒色。
2 壺 (Y)		埋土 肩部	上下2段に横位縄文。内面は粗いヘラ磨きとナデ。原体は複々節LRLR。	①きめ粗く、粗粒サイズの石英・輝石・軽石が多い。②普通。③赤褐5YR4/6。

II区 107号住居跡 (第147図 PL.72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口 11.6 胴 14.9 底 5.2~4.8 高 7.9	床直上 ほぼ完形	口縁ナデはやや雑。外面の削り粗く鋭い。内面上半のナデ強く鋭く、削りに近いが接合痕を明瞭に残す。	①素地普通。パミス・赤褐色鈹物含む細砂やや多い。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。外面に黒斑広い。④二次火熱を受けるか。
2 器台 (H)	口 8.2 脚上 2.8	埋土 図示部ほぼ完存	脚部に4孔を穿ち外面は面取り。器受部・穿孔は中心よりやや片寄る。内面ナデは丁寧で平滑。外面磨きは鋭い。	①素地普通。輝石まじりの細砂含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒色味・赤色味をおびるムラあり一様でない。
3 (Y)		埋土 底部	横位縄文。底面は布目圧痕。原体は附加条と思われるが、不明瞭。	①きめやや粗く、粗砂が多い。②普通。③にぶい褐7.5YR5/4。

II区 108号住居跡 (第148図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.1	埋土 脚柱部完存 裾部½	脚柱部に4孔あり。脚裾部に1孔が観察でき8孔となるものと思われる。外面磨き不明瞭だが平滑。内面は丁寧なナデでハケ目状の擦痕が残る。	①素地普通。赤褐色鈹物・石英・輝石等混入する砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。黒色味の強いムラあり。
2 高杯 (H)	脚上 3.1	埋土 脚柱部完存 裾部若干	脚部に不規則な配置の3孔を穿つ。器面摩滅し凹凸多いが、強い磨きの跡あり。内面に幅広工具使用の強いナデ。	①素地普通。赤褐色鈹物の目立つ細砂を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。彩度の低い部分広く一様でない。
3 土錘	長 4.6 径 1.8~1.6 重 12.3g	埋土 ほぼ完形	器面荒れ、凹凸多く成形痕不明瞭。ねじれたような指頭圧痕が残る。孔は直線的に通っている。	①素地やや粗い。輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。ほぼ一様。④割口含め器面摩滅する。

II区 109号住居跡 (第150図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(9.8) 高 5.0	埋土3片 %個体	口縁はナデ粗く、小さく波状に歪む。口縁外面下半は無調整で、下端に弱い指頭状の圧痕が見られる。外底は弱い削り。	①素地やや粗い。赤褐色鈹物・黒色砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。一様。④全体に摩滅進む。
2 甕 (H)	口(23.4) 頸(21.0)	埋土 小破片	口縁ナデやや粗い。外面幅広で粗い削り。内面ナデ強く丁寧で工具痕残る。薄手。	①素地やや緻密。少量の細砂以外の夾雑物まれ。②酸化焰、甕類としては硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。一様。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 111号住居跡 (第152図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	口 18.4~17.8 胴 24.5 脚上 6.0 脚下 9.9 高 29.8	貯蔵穴埋土 完形	ハケ目は 1.6cm幅に11本。肩部付近は下に削りの跡が残る。脚部は縦位にナデ消す。内面は胴部に息長い指頭の縦位ナデ、下半は工具痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。④外面は肩部付近まで火熱による黒色味強い変色あり。
2 台付甕 (H)	口 15.6~15.2 胴 23.3 脚上 5.5 脚下 9.9 高 28.4	貯蔵穴埋土 胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁上端やや広く、中央小さく凹む。ハケ目は細かく丁寧で脚部ではナデ消す。内面に強い指頭のナデあり。	①素地やや緻密。輝石・砂粒等を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。明度の低いムラあり。内面赤色味をおびる。
3 台付甕 (H)	口 14.3 胴 18.1 脚上 4.5 脚下 9.0 高 23.6	貯蔵穴内底面上 ほぼ完形	口縁は内外面ともやや粗いナデ。外面は細かく丁寧なハケ目。内面はやや粗いハケ目状擦痕で、指頭圧痕・接合痕残る。脚内面は丁寧で鋭いハケ目。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。④外面は脚から肩部付近まで火熱による黒色味おびる変色あり。
4 台付甕 (H)	口 14.4~14.0 胴 16.1 脚上 4.3 脚下 8.1 高 20.3	貯蔵穴内 完形	ハケ目は細かいがやや雑で弱く、肩部付近で一部ナデ消す。体部は内外面とも小さな凹凸多い。内面のハケ目は外面より幅広。	①素地普通。黒色細砂・赤褐色鉱物・パミス等夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。④火熱による黒色のムラ広い。
5 壺 (H)	口 14.1 頸 11.2	埋土 口縁完存 肩部 $\frac{1}{2}$	折り返し口縁。頸部は強い接合の段をそのまま残す。体部はハケ目の上に雑な磨き。内面はハケ目状の粗いナデで接合痕が残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・黒色細砂・輝石等夾雑物多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。内面は白色味強い。④口縁内側の剥落著しい。
6 杯 (H)	口 (9.0) 底 3.6 高 4.4	東壁下床土20cm 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁はナデやや粗く小さく波打つ。外面は弱いナデか。底部付近は小さな圧痕残る。内面はナデ鋭く工具痕残す。口縁部は丁寧なナデ。	①素地普通。石英・長石等の混入する砂粒含む。②酸化焰、軟調。③浅黄橙10YR8/3。内底は黒色味をおびる。

II区 113号住居跡 (第154図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口(13.6) 底(6.2) 高 3.0	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で細かく、内面で見えない。	①素地普通。パミスを含む砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰N4/0。一様。内面と口縁外端は明度が低い。
2 杯 (S)	台(9.2)	埋土 底部 上部 $\frac{1}{2}$ 口縁下半 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用丁寧な高台取付。ロクロ痕弱い。	①素地やや粗く、細礫の混入もやや多い。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。ほぼ一様。
3 杯 (H)	底(5.4)	埋土 図示部小破片	右回転ロクロ→回糸無調整。外面に強い段ができる。内面丁寧な磨きと黒色処理。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面黒色で光沢弱い。④外面体部に墨痕薄い墨書あり。判読できず。
4 広口甕 (S)	口(45.0)	埋土 図示部小破片	右回転ロクロ。ロクロ痕は外面で細かく、内面では弱い。	①素地普通。パミス・変質岩細礫を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰5BG4/1。降灰釉で内面白色味強い。

遺物観察表編

II区 114号住居跡 (第155図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 12.0 底 (5.6) 高 4.3	北壁直下床直上 %個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不規則で鋭さ欠く。外底に指頭状の擦痕あり、切離し痕不明瞭。	①素地やや粗い。長石・パミス等の多い砂粒を含む。 ②中性焰か、軟調でしまり欠く。③にふい褐7.5 YR6/3。内面黒色味強い。

II区 115号住居跡 (第157図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 11.2~10.9 底 6.6~6.4 高 4.5	東壁直下床直上 ほぼ完形	外底全面砂粒付着で型造りか。口縁ナデは外端に鋭い擦痕が残る。体部外面は強い指頭痕あり。内面ナデもやや強く、口縁下端に鋭い傷を残す。	①素地やや緻密。夾雑物は少ないがザックリしている。②中性焰か、やや軟調。③にふい黄橙10YR7/3~黒褐10YR3/1。一様でない。
2 杯	口 10.9~10.5 底 5.8 高 3.7	北壁下床直上 6cm 口縁%欠く	外底全面砂粒付着で型造りか。口縁は布状具の擦痕の残る強いナデ。体部外面は強い指頭圧痕あり、内面は丁寧なナデで平滑。	①素地緻密。夾雑物少ない。②中性焰か、やや軟調。③にふい黄橙10YR7/3。外面に黒色のムラあり。
3 碗	台(11.8)	カマド前面床直上 図示部%	ロクロ不使用。内面のナデが雑なことから、剥落・摩滅が端部に集中していること等より、足高台の高台部分と推定した。	①素地普通。細砂含むが夾雑物は少ない。②酸化焰、普通。③にふい黄褐10YR5/4。断面一部赤色味をおびる。④端部の剥落すむ。
4 杯	口(11.2) 底(5.6)	埋土 図示部%	ロクロ不使用か。口縁ナデやや粗い。口縁外面下半に指頭圧痕があり、外底に一方の削りあり。内面は粗い布状具の幅広いナデ。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物を含む砂粒やや多い。③にふい黄橙10YR7/2。外面黒色味と赤色味のムラあり一様でない。
5 杯	口 12.6~12.4 底 6.0 高 4.0	東壁下床直上 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で弱く、内面では細かく強い。口縁のナデは丁寧だが歪みあり。内面底部は凹凸多い。	①素地普通。パミス・黒色細砂多い。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。内面黒色味強く、外面にも黒色のムラあり一様ではない。
6 碗	口(13.4) 台 6.9~6.2 高 5.1	北東隅床直上 口縁上半若干 下半~底部完存	外底に砂粒の付着多い。型造りか。高台取付も回転非使用で雑。口縁は布状具のナデ。内外面とも凹凸多く、台部に粗い布状具のナデあり歪む。	①素地やや緻密。パミス・黒色細砂含むが夾雑物少ない。②酸化焰、軟調。③にふい黄橙10YR6/4。外底は黒色味強く、内面にも黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
7 杯	口 11.7~11.4 底 6.0 高 3.3	埋土 ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で強く細かい。内面は底部中心に丁寧なナデ。	①素地やや粗い。パミス・輝石まじる黒色砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③灰白10Y8/1。内外面とも黒色・褐色のムラあり一様でない。
8 杯(S)	底(7.8)	埋土 底部%	右回転ロクロ→回転ヘラ削りか。底部全面回転ヘラ削り。外底部に意味不祥の刻書あり。	①素地普通。パミス・黒色細砂含む。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。内面明度高い。
9 羽釜	口(21.0) 鏝(25.0)	カマド内床直上 図示部%	右回転ロクロ。ロクロ痕内外面とも強い。鏝はロクロ使用の丁寧な取付。口縁端部内外面に突出し、上端は平坦。	①素地普通。砂粒がやや多く細礫も散見。②酸化焰、やや軟調。③にふい黄橙10YR7/3。内外面とも黒色のムラあり。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 116号住居跡 (第158図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(9.0) 底 6.7~6.2 高 2.1	埋土 口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸→外底縁部に回転ヘラ削りの可能性。ロクロ痕弱い。全体に大きく歪む。内面のナデは丁寧。厚手。	①素地粗い。赤褐色鉱物・パミス等の目立つ砂粒多い。②酸化焰、軟調。③にぶい赤褐色2.5YR4/4。内外面とも黒色味強いムラ広い。
2 杯(H)	口(11.8) 底(9.0)	埋土 図示部欠	口縁丁寧なナデ。外面の削り幅広だが丁寧で無調整部分を残さない。内面のナデは平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。断面まで一様。
3 釘	頭部径 1.33~1.13 長 8.15	埋土 ほぼ完形	頭部は若干つぶれているが、身部は直線的で、使用の痕跡を感じさせない。	①錆化進むがヒビは少なく、釘としては地金は良いようだ。④先端の欠失は調査中のもの。
4 土錘	長 3.0 径 0.9 重 2.6g	カマド内床直上 完形	整形痕は観察できない。内面幅の狭い糸痕僅かに残る。	①素地普通。パミス含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。

II区 117号住居跡 (第159図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 有蓋高杯(S)	口 13.1 受 15.7 脚上 5.5 脚下15.2~14.7	西壁際床直上 図示部完存	右回転ロクロ。長脚二段透かしの高杯で、脚部上半を欠く。透かしは刀子状の金属器で穿っている。ロクロ痕は弱い。厚手で重量。	①素地やや粗い。パミス・白色の砂粒多く、器面ザラザラ。②還元焰、硬調に焼締まる。③灰白10Y8/1。一様。
2 杯(H)	口(13.0)	埋土 図示部欠	内外面とも強く丁寧なナデだが、口縁部に指頭圧痕状の歪み残る。内面口縁上端に弱い沈線巡る。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。内面黒色味強く、外面口縁も黒色のムラ広い。④二次火熱を受けるか。
3 甌か	口(24.4)	北壁寄床直上 図示部欠	口縁丁寧なナデ。外面頸部に弱い沈線が巡る。体部の削り粗く、強い工具痕を残す。内面丁寧なナデ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・長石含む砂粒が多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。内面赤色味強い。断面黒色味をおびる。
4 甌(H)	口(22.0) 頸(16.4)	南側床直上 口縁欠 肩部欠	口縁は大きく外反する。外面の削り強く、頸部には鋭い工具痕残る。口縁上端に強い段ができる。	①素地普通。パミス・輝石を含む粗砂多くザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR6/6。内面赤色味強い。
5 甌(H)	口(14.4)	中央西際床直上 図示部欠	口縁は内外面とも丁寧なナデ。内外面のナデ・削りとも丁寧。口縁端部外方へ肥厚。	①素地やや緻密。パミス・赤褐色鉱物等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。一部黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
6 甌(H)	口(21.4) 頸(16.0) 底 4.9	カマド右袖床直上 口縁欠 肩部欠	輪積みか。口縁ナデやや雑。外面削りは強く、摩滅すすむが器面に凹凸を残す。内面は強いナデで幅広の工具痕あり。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・輝石等夾雑物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面黄色味強い。④二次火熱を受ける。外面にカマド粘土付着多い。

II区 118号住居跡 (第160図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿	台 6.7	西壁際床上13cm 口縁下半欠 底台部完存	回転ロクロ→回糸→回転利用の丁寧な高台取付。高台端部凹む。ロクロ痕やや強く細かい。	①素地普通。白色粗砂目立つ砂粒を含む。②還元焰、不充分。③灰N4/0。底部内外面は明度高く一様でない。

遺物観察表編

2 甕 (S)	口(23.0)	埋土 図示部 ^㉔	口縁は大きく外反し、外折れの端部は平坦になる。ロクロ痕強くやや粗い。	①素地普通。白色細礫・黒色鉱物含む砂粒多い。②還元焰、硬調。③灰N5/0。ほぼ一様。
------------	---------	------------------------	------------------------------------	--------------------------------------------

II区 119号住居跡 (第162図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	口 12.0 台 6.0 高 2.9	カマド前面床直上 図示部 ^㉔	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。漬掛け。ロクロ痕は外面でやや強く、内面は丁寧にナデ消す。内底に重焼きの高台痕あり。	①素地緻密。白濁色の小粒夾雑物散見。②還元焰、硬調。③灰白N8/0で一様。釉は乳濁した緑黄色で薄い部分は乳白色を呈している。
2 杯	口 10.7 底 6.3 高 3.2	北西側床直上 口縁 ^㉔ 欠く	右回転ロクロ→静糸無調整。ロクロ痕弱い。全体に小さな波状の歪みあり。	①普通。赤褐色夾雑物まじりの砂粒、やや多い。②中性焰か、硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面中心に灰白色味の強い部分あり。
3 杯	口 10.3~10.1 底 5.8~ 5.5 高 3.6	北西側床直上 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱いが、内底中央は鋭い工具痕が渦巻き状に巡っている。	①素地普通。赤褐色夾雑物まじりの細砂、やや多い。②中性焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。不明瞭な黒斑状の色ムラあり。④内面下半に赤色顔料付着。朱色に発色している。
4 甕 (H)	口(22.0) 頸(20.6)	南壁下床直上 図示部 ^㉔	輪積みか。外面削りは強い。内面ナデは丁寧に、工具痕若干残るが平滑に仕上げる。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3、外面はススけたような暗褐色のムラ広い。
5 甕 (H)	口(20.0) 頸(18.6)	南壁下床直上 図示部 ^㉔	輪積みか。外面削りは弱く粗い。内面ナデは木口状の工具痕やや鋭く残る。口縁横位ナデは、強い布状具の擦痕あり。	①素地やや粗い。パミス・石英等散見する砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙2.5YR6/4。内面やや赤色味強い。
6 土釜	口(18.0)	埋土5片 図示部 ^㉔	輪積み。内外面に平行な接合痕残る。口縁外端に不規則な沈線巡る。外面削りやや鋭い。内面ナデは工具使用。	①素地やや粗い。パミス・粗砂等の混入物やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。内面黒色味強い。
7 土錘	長 4.2 径 1.2 重 5.3g	埋土 完形	外面にナデつけるような、弱い指頭痕あり。孔は歪む。	①素地普通。輝石等の混入物やや多い。②酸化焰、普通。③灰白7.5YR8/2で、ほぼ一様。
8 土錘	長 2.4 径 0.9 重 1.9g	埋土 完形	表面はナデにより、平滑に仕上げる。内面に縦位の弱い擦痕あり。	①素地やや緻密。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4で一様。
9 土錘	径 1.2	埋土 片側端部と一側面の大半欠く	孔が2~1.5mmと細い。器面は平滑。	①素地普通。夾雑物少ない。②酸化焰、普通。③浅黄橙7.5YR8/3で一様。

II区 120号住居跡 (第164図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 瓶 (S)	台 9.0	西壁隅床上10cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→静糸か→ロクロ使用高台取付。外底にヘラ記号あり。内面ロクロ痕強いが、ブクを生じて不整。内底中央、外面全面に降灰釉かかる。	①素地やや緻密だが、気泡が多い。酸化鉄らしい黒色鉱物やや目立つ。②還元焰、やや硬調。③灰白N8/0。断面は黒色味、黄色味の強い縞状。釉は緑色味が濃い。
2 砥石	中厚 3.3×1.7 端厚 4.0×2.6	北壁下床直上 半欠品か	現状長断面三角形で4面使用だが、平坦なのは一側面のみ。裏面が一部凹面となるが、他は凸面。	①砥沢石。やや鉄分強い。④擦痕は方向不定で強さも一様でない。平坦な側面のみ長軸に平行な擦痕が見られる。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 122号住居跡 (第166図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 11.7 台 6.7 高 5.1	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。外面のみロクロ痕やや強い。高台取付やや雑で接合痕が残る。	①素地やや粗く、石英・パミスまじりの砂粒やや多い。②中性焰か、やや軟調。③灰白2.5Y8/2。赤色味・黒色味の強いムラ多く一様でない。
2 杯	口(11.4) 底 5.4 高 3.6	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	ロクロ不使用。内面ナデは強く、鋭い擦痕が残る。口縁外面下半は指頭の弱いナデで、平滑に仕上げる。底部はきわめて薄い。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物・パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰か、きわめて硬調。③にぶい橙5YR7/3、内面黄色味をおびる。
3 杯	口(12.8) 底(5.6) 高 3.7	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面のみやや強い。	①素地普通。片岩質細礫等、大粒夾雑物を含む。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG5/1。口縁端部のみ黒色味をおびる。

II区 123号住居跡 (第168図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 7.1~6.9	埋土 口縁下半 $\frac{1}{2}$ 底部完存	右回転ロクロ→回糸→高台取付。内面ロクロ痕弱く平滑。高台は雑な取付で口縁側に接合痕顕著。	①素地緻密。細砂含むが夾雑物は少ない。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。底部両面で赤色味をおびる。

II区 124号住居跡 (第170図 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.8) 台(6.0) 高 4.8	南東隅床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台取付で糸切り痕をナデ消す。外面ロクロ痕やや強い。釉は漬掛けか。	①緻密な素地だが、白色粗砂の混入多く、灰釉としては粗い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y8/1、釉も灰白色で厚い部分は緑色味をおびる。
2 台付甕	台上 5.3	南壁下床直上 図示部中上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	台の取付丁寧で外面に同心円状のナデが巡る。外面の削りも弱く丁寧。内底指頭圧痕状の弱い凹凸あり。厚手。	①甕類としては緻密で赤褐色鉱物以外の混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面やや暗いムラあり。
3 甕 (H)	口(17.0) 頸(16.2)	南東隅床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	コの字口縁で上側は外面に強い沈線巡るが下側は不明瞭。内面は工具使用の鋭いナデで平滑。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石等少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面の大半は黒斑。

II区 125号住居跡 (第172図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(16.0) 台(7.8) 高 5.6	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロか。ロクロ使用高台取付で切離し痕不明。横ナデ丁寧でやや粗い擦痕残る。	①素地やや緻密。細礫まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③浅黄橙10YR8/4でほぼ一様。
2 椀	口(16.0)	カマド内 図示部 $\frac{1}{2}$	1に同巧。ロクロ痕やや強い。	①②③1に同じ。
3 椀	口(15.6)	カマド前面床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。横ナデ丁寧で内面は平滑。1にほぼ同巧。	①素地緻密。砂粒やや多い。②中性焰か、普通。③浅黄橙10YR8/4、内面やや灰色味をおびる。

遺物観察表編

II区 126号住居跡 (第173図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(8.2)	埋土 図示部内高台 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。内底に一方方向の丁寧な研磨。	①素地やや粗く、ボソボソ。砂粒含む。②酸化焰か、 普通。③にぶい橙7.5YR7/3。明度・彩度ともまちま ち。内面黒色処理だが、光沢欠く。
2 椀(S)	台(7.6)	西壁直下床上5 cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付。 切離し不明。器面やや平滑だが、内底 縁辺に重焼きの高台痕顕著。	①素地普通。ややザラザラしている。黒色鉱物粒や や多い。②還元焰、硬調。③青灰10BG6/1。外面上 半、明度低い。
3 羽釜	口(19.0)	カマド右袖床直 上 図示部 $\frac{1}{2}$	鐙の取付は画一的で強い擦痕が残る。 ロクロ使用の可能性。外面削り弱い。 内面丁寧なナデで、木口状工具痕があ る。厚手で重量。	①素地普通。砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。 ③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味や明度低いムラ多く、 一様でない。④内外面にカマド粘土状の付着物あり。

II区 128号住居跡 (第174図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(Y)		埋土 口縁	口縁は幅広の粘土帯を貼付し、口唇か ら横位縄文。内面は粗いへら磨き。原 体は複々節LRLR。	①きめ粗く、石英・輝石・軽石の粗粒が多い。②普 通。③赤褐5YR4/6。
2 壺(Y)		埋土 肩部	最大幅をもつ屈曲部に横位縄文。以下 の無文部は板状具ナデ。内面は粗いへ ら磨き。原体は複々節LRLR。	①きめ粗く、石英・輝石・軽石の粗粒が多い。②普 通。③赤褐5YR4/6。
3 壺(Y)		埋土 頸部	櫛描連弧文を上下2段に施す。反時計 回り。内面は粗いナデ。施文具は8本 単位櫛1種。	①きめやや粗く、長石・石英・赤褐色粒・金雲母の 粗～細砂を多く含む。②やや硬調。③黒褐10YR3/2。
4 壺(Y)		埋土 肩部	横位羽状縄文。内面工具によるナデ。 原体はRLRと附加条第1種LR+2 Rと思われる2種使用。原体束は糸。	①きめ粗く、粗砂を多く含む。②やや軟調。③にぶ い褐7.5YR5/4。
5 壺(Y)		埋土 肩部	横位縄文。内面は粗いへら磨き。原体 は複々節LRLR。	①石英・軽石・輝石・長石等の粗～細粒を含む。② 普通。③暗赤褐5YR3/6。
6 皿	口 10.7 底 5.7~5.3	中央北側床上10 cm 口縁 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 きわめて弱い。	①素地やや粗く、粗砂の混入も多い。②中性焰か、 軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。色調・明度とも一様 でない。④器面一部すすける。二次火熱を受けた可 能性あり。
7 (刀子)	棟 0.24~0.21	埋土	刃部を有すものと考え刀子としたが、 棟部が直線的でなく、不自然な点も多 い。	①重量で良質な鉄である。断面内部にも空洞はでき ない。④切先側の欠失は調査時のもの。錆化進むが 地金のふくらみや、歪みは少ない。

II区 129号住居跡 (第175図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(12.0) 高 4.1	埋土3片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底の削りやや雑。内面丁寧なナデだ が、器面に小さな凹凸あり。	①素地普通。細礫・輝石等混入物やや多い。②酸化 焰、硬調。③橙7.5YR7/6でほぼ一様。

1 竪穴住居跡出土遺物

2 杯 (H)	口(14.4) 高 4.2	埋土 %個体	外底の削りは幅広く丁寧。口縁外面の横位ナデ下に、接合痕が明瞭に残る。内面は平滑。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
3 杯 (H)	口(16.0) 高 4.1	埋土 %個体	器面剝落して不明瞭だが、外面は丁寧な削り、内面横位ナデも、平滑に仕上げている。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面一部明度の低いムラあり。
4 高杯 (H)	口 16.6~16.1	カマド内床直上 図示部%	内面中心に器面の剝落すすみ、整形痕不明瞭。外面底部付近に幅広い削り。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙7.5YR8/3。赤色味の強いムラ広い。④二次火熱を受けた可能性あり。
5 甕 (H)	口(20.0) 頸(17.4)	埋土 図示部%	口縁端部は内側面とも広く凹む。外面は弱く丁寧な削り。内面も丁寧な横位ナデで細かな擦痕が残っている。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや暗いがムラ少ない。
6 甕 (H)	口(22.2) 頸(17.6) 胴(19.6)	東壁下床直上 口縁% 胴部%	外面削りは丁寧で息長い。内面は幅広い木口状工具による丁寧なナデで、甕類としては平滑に仕上げる。	①素地やや粗く、輝石・パミスまじりの砂粒の混入多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラ多い。④破損後に火熱を受けているようである。

II区 131号住居跡 (第177図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付杯	口(15.6) 台(11.6) 高 7.0	東壁直下床下 6 cm 図示部%	右回転クロコか。横ナデ弱い。内面にやや粗い布状具の擦痕あり。口縁端部尖る。	①素地普通。細礫まじりの砂粒含む。②還元焰、きわめて硬調。③明青灰5B7/1。内面やや黄色味をおびる。

II区 132号住居跡 (第179図 PL.74)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(14.4)	南西壁下床上 10cm 図示部%	厚手。外面削りは細かく丁寧。内面に雑でまばらな暗文状の磨きあり。	①素地やや粗く、パミス・赤褐色夾雑物等の混入多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。暗褐色部分広い。断面は彩度低い。
2 罎 (H)	口 12.9 頸 12.0 底 5.3~4.9 高 6.4	南西壁下床上 10cm %個体	輪積みか。内底は、強い指頭圧痕で凹凸。外面下半に弱い削り。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。色相・明度ともまちまちである。
3 高杯 (H)	口(17.0) 脚上 3.3 脚下13.1 高 15.2	南西壁下床上 10cm 口縁% 脚裾部%欠く	脚柱部は巻上げか。外面磨きは鋭く、強く長い擦痕が残る。杯部内面は粗い横位ナデ後、雑で粗い磨き。	①素地やや粗い。赤褐色夾雑物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。口縁部に広い黒斑あり。
4 高杯 (H)	脚上 3.9	南西壁下床上 10cm 図示部ほぼ完存	外面削りに近い強い磨き。内面は幅広い雑で強いナデで、成形痕を消している。器形より129住-4と同一個体の可能性あり。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒を混入。②酸化焰、硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒褐色のムラあり。内面は彩度低い。

遺物観察表編

II区 134号住居跡 (第180図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.4) 底 5.1 高 4.0	西壁下床直上 1/2個体	右回転ロクロ回糸無調整。ロクロ痕弱く細かい。口縁部大きく、波状に歪む。	①素地やや粗い。赤褐色夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙2.5YR7/3。明度の低いムラ広い。④破損後に、二次火熱を受ける。
2 碗	口(14.6) 台 6.1 高 5.5	西壁下床直上 口縁1/2 底台部完存	右回転ロクロ。切離し不明。高台はロクロ使用取付。横ナデやや弱く、内面特に平滑。	①素地やや粗く、細砂の混入多い。②還元焰か、やや軟調でしまり欠く。③明オリープ灰2.5GY7/1。暗褐色のムラあり。
3 甕 (H)	口(19.4) 頸(18.0)	北壁下床直上14cm 図示部1/2	口縁端部は形状一定でない。頸部外面に指頭圧痕。削りはやや鋭い。内面は丁寧なナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。明度低いムラ多い。断面も黒色味強い。

II区 135号住居跡 (第181図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	厚 2.6 重 11.2g	埋土 図示部1/2	内面に竹のような縦位のスジ状の圧痕あり。また内面端部に弱い面取り。外面は弱く細かい指頭状の圧痕残る。	①緻密でやや軽量の素地。混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。断面は白色味が強い。

II区 138号住居跡 (第185図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 11.6~11.3 高 3.6	南壁際床直上 完形	外底削り丁寧で鋭い。内面のナデも丁寧で、同心円状のやや粗い布状具の擦痕が顕著。内面に焼成後線刻あり。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外面に灰色味の強いムラ広い。
2 盤 (H)	口(16.0) 高 3.3	南壁際床下6cm 口縁1/2 底部1/2	外底削りやや雑。内面ナデもやや雑。底部に細かな凹凸あり、形状は様でない。	①素地やや粗く、輝石まじりの粗石やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4基調。内面に暗褐色のムラあり。
3 杯 (H)	口(12.2)	埋土 図示部1/2	外面削りやや鋭い。内面横位ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや粗く、ガサガサ。砂粒若干含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
4 高杯 (H)	脚上 4.0	埋土 脚柱部完存 裾部若干	器面荒れていて観察難しい。外面下端にハケ目状のやや粗い凹みあり。内面に深く鋭い工具痕残る。	①素地やや粗い。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。暗褐色のムラが多い。④破損後に二次火熱受ける。

II区 139号住居跡 (第186図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.2) 高 4.1	カマド前面落込 内底面直上 口縁1/2 底部1/2	外底削りは丁寧でやや鋭い。内面も丁寧なナデで平滑。口縁部外面のナデやや平滑。	①素地やや緻密。粗砂等散見するが、混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で、ほぼ一様。④口縁内面のみに細かな剥落あり。

遺物観察表編

2 杯 (S)	口(18.0)	埋土 口縁部破片	右回転クロコ。内外面ともクロコ痕弱い。高台が付く杯か。外面に意味不明の焼成後線刻あり。	①素地やや粗くボソボソ。砂粒の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③外面明青灰5PB7/1。内面・断面灰白10Y8/1。
3 杯 (H)	口(14.2)	埋土 2片 口縁部 底部部	外底の削りやや強いが丁寧。内面ナデも丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ同様。
4 杯 (H)	口 15.0	貯蔵穴内床直上 図示部	外底削りは弱く丁寧。内面剝落進み、不明瞭だが、丁寧なナデの平滑な仕上げと思われる。	①素地普通。気泡混入。土粒・砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4、暗褐色のムラ広く、同様でない。
5 甌 (S)	頸(8.0) 胴(10.2)	埋土 胴中位部 頸部若干	右回転クロコか。クロコ痕弱い。内面に布状具の擦痕やや強い。肩部や、内面胴下半に、降灰釉多い。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、硬調で焼締る。③暗灰N3/0。灰7.5Y6/1。釉は黄色味が強い。
6 鉢 (H)	口(19.0)	埋土 図示部	輪積みか。口縁端部のナデ鋭く、布状具の擦痕顕著。外面削り弱い。内面やや幅広い雑な磨き。	①素地やや粗く、モグサ質。砂粒若干含む。②酸化焰か、普通。③外面黒褐7.5YR2/1。内面・断面灰白10YR8/1でほぼ同様。
7 甕 (H)	口(19.2) 頸(16.2)	埋土 図示部	外面削りは幅広くやや鋭い。口縁部ナデは外面でやや雑。内面肩部にも細かな凹凸が残る。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面赤色味が強い。
8 甕 (H)	胴 22.4~21.1 底 6.1	カマド前床直上 図示部のうち 胴上半部欠く	胴中位下の合わせ痕が、内面で明瞭。外面削りは幅広く鋭い。内面はやや丁寧なナデで平滑。	①素地普通。チャート・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③外面にぶい橙5YR7/4。内面にぶい赤褐5YR5/3。
9 甕 (H)	口(24.0) 頸(18.8) 胴(20.0)	埋土 口縁部 胴上半部	薄手で口縁に歪みあり口径不安。外面削りやや細かく粗い。内面やや丁寧なナデだが器面に凹凸あり。	①素地やや粗く、粗砂の混入やや多い。②酸化焰やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4~黒褐5YR2/1。同様でない。
10 甕 (S)	胴(45.0)	貯蔵穴南際床直上 50cm 上半部 下半部	外面全面強い平行たたきの上に、部分的な粗い横位のナデ。内面はアテ具痕を雑にナデ消し、一部で青海波状の痕が残る。	①大型品としてはやや緻密な素地で、砂粒の夾雑多い。②還元焰、普通。③灰N5/0で内外面ほぼ同様。
11 紡錘車	上 4.1 下 2.7~2.5 厚 2.0	北壁際床直上 6cm 完形	軸穴は中心をわずかにそれる。軸穴内には細かい工具の調整痕が、縦位に残る。全体に細かな凹凸多い。	①蛇紋岩。③黒色で表面に光沢あり。④上面と側面に線刻状の傷が多数残る。
12 紡錘車	上 3.3 下 4.3 厚 2.4	P5北側床直上 完形	土製。側面の凹凸やや強い。側面と下は布等による磨きを施し、同心円状にはならない弱い擦痕あり。	①素地緻密。輝石まじりの細砂やや多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味強いムラ広い。④下面軸穴縁辺の小さな剝落多い。

II区 146号住居跡 (第195図 PL. 74)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(15.0) 頸(10.0)	埋土 図示部	外面は端部を除いて細かなハケ目。内面肩部は接合痕上に指頭状の圧痕で、器面不整。	①素地普通。細砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③外面・断面黒褐5YR2/1。内面にぶい黄橙10YR7/2。
2 台付甕 (H)	口 14.4~14.1 頸 12.4	中央北側床直上 図示部ほぼ完存	外面ハケ目はやや鋭く、肩部のハケ下には丁寧な横位削り痕あり。内面弱く丁寧なナデでやや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内外面に広く黒斑あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

3 壺 (H)	口(20.0) 頸(17.8)	埋土2片 口縁部 肩部部	やや歪みのある土器を小破片から復元したもので、口径不安。頸部は帯貼付後、指頭の細かな押圧。口縁端部は棒状の細かな圧痕が不規則に見られる。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・細礫等の混入も、やや多い。②酸化焰、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面は黒褐色の不規則なムラ広い。
4 甕 (Y)		埋土 口縁	外反して開く単口縁で外面と口唇部に縄文を施す。原体はLR直前段4条。原体端部で2列の押捺を巡らす。内面は横ナデ。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調。還元。③黒色。
5 甕 (Y)		埋土 口縁	横位縄文。中位に縄文原体末端による押捺。内面はナデ。原体はLR直前段4条。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調。還元。③黒色。
6 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はRLと思われる。	①きめ粗く、チャート・長石・石英等の粗粒が多い。②普通。内面は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
7 甕 (Y)		体上位	胴部に横位縄文。胴上半以上に振幅の大きい楕円波状文。縄文原体は附加条第1種LR+2R。楕円施文具不明。	①無色鉱物の細角礫含む。②やや硬調。③黒色。
8 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はLRと不明瞭だが附加条らしき痕跡が一部みられる。	①長石の細礫～粗粒が多い。②やや硬調で還元。③黒10YR2/1。
9 甕 (Y)		埋土 頸部	波状文を重ねる。内面へラ磨き。施文具は9本単位の楕円I種。	①きめ粗く、長石・石英等の粗～細粒を含む。②普通。③黒7.5YR2/1。
10 (Y)		埋土	縄文施文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われるが不鮮明。	①5mm大の白色岩石片、石英の粗砂を含む。②やや硬調。③黒色。

II区 147号住居跡 (第196図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(22.0) 頸(17.8)	東壁寄床直上 図示部	輪積みか。外面は粗く幅広く、息の短い削り。口縁と内面の横位ナデはやや丁寧で、布状具の弱い擦痕が残る。	①素地やや粗く、細礫・パミス等混入物もやや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面・断面はやや黄色味強い。

II区 148号住居跡 (第197図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	口(15.0) 頸(12.8)	埋土2片 図示部	輪積みか。外面のハケ目は弱い。内面はへら状工具の粗いナデで、頸部付近にハケ目(外面とは異なる)が残る。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物・細礫等の混入多い。②酸化焰、普通。③灰黄褐10YR5/2。内面明度高く、断面は黒色。

II区 149号住居跡 (第198図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.2)～10.5 高 4.1	埋土14片 %個体	内面口縁下端の屈曲鋭い。外底の削り鋭い。内面ナデやや丁寧だが、底面やや不整。平面、だ円形に歪む。	①素地普通。砂粒の混入やや多い。②酸化焰、やや軟調。③黒褐5YR2/1。断面赤褐色。黒色処理の土器とは考えられない。

遺物観察表編

II区 150号住居跡 (第200図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (R)	口(14.0) 台 7.0 高 4.6	中央北側床直上 口縁部 底台部	右回転ロクロ→静系か(外底中央に僅かな痕跡)→ロクロ使用高台取付と外面口縁下半のごく弱い回転ヘラ削り。外面下半にまばらだが強いヘラ磨き状の押圧。釉は全面に施すが濃淡あり。	①緻密だがザックリした素地で、混入物少ない。②酸化焰、普通。③断面浅黄橙7.5YR8/3。緑釉は薄い黄緑色で光沢あり。④いわゆる軟陶系。
2 杯 (S)	口(14.2) 底 7.8 高 3.6	カマド前面南側床直上 口縁部 底部	右回転ロクロ→回糸無調整。厚手で重量。底部へ口縁下半の断面形状一定でなく、図示部はやや厚め。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒やや多い。②やや不十分な還元焰、普通。③灰白5Y7/1と灰5Y4/1で一樣でない。④外面に線刻か。
3 椀	台(6.2)	中央床直上 図示部	右回転ロクロか。切離し不明。ロクロ痕弱く不明瞭。高台取付やや雑。底部のみ薄手である。	①素地やや粗い。パミス・細礫まじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙5YR7/4～灰白10YR7/1。一樣でない。
4 杯 (H)	口(13.4)	埋土 図示部	外面削りやや細かく鋭い。内面ナデは丁寧で平滑。口縁にやや粗い布状具の擦痕が残る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。気泡散見。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面不規則に明度低く、断面明度高い。
5 小型甕 (H)	口(14.4) 頸(12.4)	埋土 図示部	輪積みか。器面荒れて整形不明瞭。外面削りはやや粗い。	①素地やや粗く、砂粒の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙2.5YR6/4。内面、やや明度低い。④二次火熱を受け、外面脆弱化。

II区 151号住居跡 (第202図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.2) 台(8.8) 高 6.5	埋土 図示部	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台取付。灰釉としては、ロクロ痕やや強い。釉は漬掛けだが、薄く不明瞭。	①緻密で黒色鉱物等の混入物も少ない。②還元焰やや硬調。③灰白7.5Y8/1で断面まで一樣。釉は透明で厚い部分のみ黄緑色に発色。
2 椀	口(14.0) 台 6.8~6.5 高 5.0	中央東側床直上 口縁部欠く	右回転ロクロ→回糸。高台取付やや雑で、外面は接合痕顕著でロクロ不使用の可能性。内面平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味や明度低いムラあり一樣でない。
3 杯	口 10.3~9.8 底 5.3 高 3.8	カマド前面床上 5cm 口縁端部欠く	外底は付着砂粒と剥れた砂粒の痕であばた状。口縁外面に接合痕顕著。ナデは不整でロクロ不使用。外面下端は指頭痕状・内面工具痕の不明瞭な凹み。	①素地普通。輝石・土粒まじりの粗砂やや多い。②中性焰か、普通。③浅黄橙10YR8/3。赤色味をおびるムラあり。
4 小型甕 (H)	口(11.0) 頸(10.8)	北壁下床直上 図示部	外面削りは強く細かい。口縁部ナデは粗い布状具の擦痕が残る。体部内面のナデには幅広の工具痕が残る。	①素地普通。細砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3～黒色。一樣ではない。
5 小型甕 (H)	口 12.0 頸 19.0	中央東側床直上 図示部	右回転ロクロか。横ナデの擦痕はやや鋭い。	①素地やや粗く、細礫等混入物も多い。②酸化焰か、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。一樣でない。④二次火熱を受ける。
6 甕 (H)	口(20.6) 頸(19.2)	カマド前面床上 5cm 図示部	輪積み。外面の削りやや強い。内面工具使用の強いナデで、粗いハケ目状の凹凸あり。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面灰色味、内面赤色味のムラあり。

1 竪穴住居跡出土遺物

II区 152号住居跡 (第205図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.2~10.4 高 4.4	カマド西壁下床 上 7cm 完形	歪み著しく平面だ円形を呈すが、器壁は薄く均質。外底削りやや強い。内面ナデはやや細かい布状具の擦痕残る。	①ダスト質。赤褐色鉱物やや目立つ。緻密。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。高彩度、低明度部分等まちまち。
2 杯 (H)	口(13.6) 高 3.6	中央北側床上10 cm 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	底部の歪み強い。内底に目の粗い布状の圧痕あり。外底削りはやや雑で、鋭い。	①ややダスト質。赤褐色鉱物・長石・チャート等の粗～細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。
3 杯 (H)	口 11.9~11.6 高 4.1	カマド前面床直 上 ほぼ完形	外底の削り不明瞭だが、器面に凹凸残り、やや強いものか。口縁に小さな波状の歪み。内底も不整。	①ダスト質。やや大粒の赤褐色鉱物目立つ。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。黄色味のあるムラあり。④器面の摩滅すすむ。
4 短頸壺 (S)	口 9.1 胴 13.6 高 10.0	P2北床直上 口縁端部 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ク口。胴部は上半と下半で厚さ著しく異なり、合わせたものであろう。外面削り鋭い。	①素地普通。白色砂粒等の混入物やや多い。②酸化焰、硬調。③青灰5B6/1でほぼ一様。
5 鉢 (H)	口 20.4	東壁際床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁のナデ強く、外面に3条の弱い沈線ができる。外端肥厚し内端は凹むが形状一定でない。外面削り強い。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒斑広く、内面赤色味をおびる。
6 甕 (H)	口 21.2 頸 16.1~15.4	中央床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴上 $\frac{1}{2}$ 胴中 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面削りは幅広の工具で、ごく強い。内面も幅広工具の丁寧なナデ。外面頸部は雑なナデでやや不整。	①素地やや粗い。パミスのやや目立つ粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ムラ多く一様でない。外面に黒斑あり。
7 甕 (H)	口 21.4 頸 17.5 底 3.8~3.5 高 43.0	カマド前面 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。胴中位下の合わせ痕も凹凸少なく丁寧な成形。外面削りは息長くやや鋭い。内面ナデも工具使用ナデで甕類としては平滑に仕上げる。	①素地やや粗く、パミス・細礫等の混入物やや多い。②酸化焰、普通。③橙2.5YR6/6。外面下半に広く黒斑。内面上半は黒褐色、下半は黄色味が強い。④二次火熱受けるが、器面の脆弱化少ない。
8 甕 (H)	口 20.8 頸 16.7 底 3.8 高 43.5	カマド前面 ほぼ完形	7と同巧。内面のナデやや鋭く、擦痕が残る。	①②7に同じ。③7に近い。内面の黒褐色部分少ない。

II区 153号住居跡 (第206図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 13.9 高 3.3	南壁下床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りやや粗い。内面ナデは目の細かな布使用。口縁に小さな歪みあり。底部はややいびつ。	①素地普通。細礫・輝石・パミス等雑多な混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3でほぼ一様。
2 小型甕 (H)	口(13.2) 頸(11.4)	埋土 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面粗く息の短いハケ目。内面は口縁部ハケ目、胴部は指頭の強い圧痕と雑なナデ。重量。	①素地やや粗く、パミスまじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黄色味をおびる部分若干あり。

II区 154号住居跡 (第208図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罎 (H)	口 11.7 頸 7.2 胴 13.1 底 5.1~4.7 高 14.6	P3床面上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。やや幅太の強い磨き施す。胴中位に横位へら削りの痕跡あり。底部いびつで片側半分は粘土貼付して上げ底状に修正している。	①素地やや緻密。細礫・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に橙色のムラや黒斑あり。

遺物観察表編

2 甕 (H)	口 14.8 頸 12.7 胴(19.0)	中央東寄床上15 cm 胴中位 $\frac{1}{2}$ と底部 欠く	外面削り雑でやや強い。内面の工具使用ナデは鋭く、やや丁寧に仕上げる。口縁部ナデには細かい擦痕が残る。	①素地普通。細礫の目立つ砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面黒斑広く、内面灰色味強い。
3 台付甕 (H)	口 15.3 頸 12.6 胴(18.7)	中央東寄床直上 上半 $\frac{3}{4}$ 下半 $\frac{1}{4}$	外面細かく短い丁寧なハケ目で、肩部付近までナデ消す。内面鋭い工具使用の丁寧なナデで、平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味・黒色味の強いムラあり一様でない。④二次火熱受け外面下半脆弱化。
4 器台 (H)	口 9.0 脚上 2.7 脚下 12.3 高 9.5	中央西寄床直上 完形	磨きやや弱く数も少なく、裾部にハケ目のがぞく。3孔は、規則的に穿たれる。杯部は丁寧な磨き。	①素地やや緻密。チャート・パミス等混入の砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒斑点在。④口縁内側縁辺にだけ擦痕多い。
5 高杯 (H)	口 12.3 脚上 2.6 脚下 19.1 高 11.1	中央西寄床直上 脚裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く	孔は裾部と柱部下端に各3カ所。外面丁寧な磨きで、裾及び口縁上半でハケ目が残る。杯内部不明瞭だが丁寧な磨きと思われる。脚内部も丁寧に平滑。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物等、混入物やや多い。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。口縁部はやや赤色味をおびる。黒斑散見。④口縁部中心に凍てハゼ状の剝落著しい。
6 罎 (H)	口(18.6)	東壁下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 体部上半 $\frac{1}{4}$	輪積み。口縁外面は折り返しか。外面ハケ目の上に幅広くやや粗い磨き。内面ナデは工具使用で息長く鋭い。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。内面やや彩度低い。
7 甕 (Y)		埋土 口縁	横位縄文。内面へら磨き。原体LR。0段多条の可能性あり。	①ややきめ細かく、石英・輝石等の細砂を含む。②普通。③灰褐7.5YR4/2。
8 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はRL。	①長石・石英・パミスの粗砂多く含む。②普通。③橙7.5YR6/6。
9 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。原体は不明瞭だが、0段多条Rと思われる。	①長石・石英の粗砂が目立つ。②普通。③橙7.5YR6/6。
10 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。無文部へら磨き。内面はナデ。原体はRL。	①きめ粗く、輝石・石英の粗砂が多い。②やや硬調。③明褐7.5YR5/6。

II区 155号住居跡 (第210図 PL.76)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型壺 (H)	口(10.2) 頸(6.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	内面肩部に二段成形の接合痕と、指頭圧痕顕著。ハケ目は細かい。口縁端部は尖り、シャープな作り。	①素地やや粗い。石英・細礫散見の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面灰白色。断面黒褐色。
2 罎 (H)	胴 15.8~15.4 底 4.9	肩部 $\frac{1}{2}$ と口縁欠く	外面息長く、細かな磨き。内面工具使用の丁寧なナデでやや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物等若干まじる砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面下半は黒褐色。断面中央も黒色味強い。
3 鉢 (H)	口(19.2)	埋土6片 口縁へ体上半 $\frac{1}{2}$	外面へら削り→斜めハケ目→粗いへら磨き。内面は口縁にハケ目を残し、体部ナデ→粗い斜めへら磨き。	①素地はやや緻密。赤褐色鉱物・長石・チャート等の粗砂を多く含む。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR7/4。④体部外面の一部に黒斑。
4 高杯 (H)	口(22.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	器面荒れて整形痕不明瞭。外面上半にやや粗い磨きの痕跡がわずかに残る。	①素地やや粗く、砂粒の混入多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。明度の低いムラ、内面中心に広い。④内面の剝落著しい。

1 竪穴住居跡出土遺物

5 甕 (H)	口 24.0~22.4 頸 19.7~16.9 胴 21.7 底 6.0 高 21.1	床面 ほぼ完形	輪積みか。胴部下に強い接合痕の段あり。外面細かなハケ目で丁寧。内面工具使用の強いナデで、一部でハケ目状。平面だ円形に大きく歪む。	①素地やや粗く、パミス・赤褐色鉱物・輝石等雑多な混入物含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。外面黒色味の強いムラ多い。④強い二次火熱受ける。
6 甕 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ヘラ磨き。原体R L。	①長石・石英の粗砂目立つ。②普通。③褐7.5YR4/4。

II区 158号住居跡 (第212図 PL. 76)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	底 (8.4)	図示部欠	右回転ロクロ→底部残存部全面回転ヘラ削り。内底平坦。	①素地普通。細礫を僅かに含む砂粒やや多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。外面に明度の低いムラあり。

II区 159号住居跡 (第213図 PL. 76)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	口 14.2 頸(12.2)	口縁欠 肩部欠	外面ハケ目は鋭くやや粗い。ハケ目は8本1単位か。内面肩部は指頭状の圧痕により不整。	①素地普通。赤褐色鉱物やや目立つ砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味や黒褐色のムラ多い。④破損後に二次火熱受ける。
2 小型甕 (H)	口 15.2~14.9 頸 13.7 胴 14.5 底 3.6 高 11.7	南壁隅床直上 口縁欠胴部欠 く	輪積みか。外面削りは粗く鋭いが、単位は不明瞭。口縁端部は丁寧に仕上げる。夾雑物のため内面ヒビ割れ多い。	①素地粗く、細礫の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③灰褐5YR4/2。外面には赤褐色部分も広く、一様でない。
3 器台 (H)	口 (7.8) 脚上 3.0 脚下(12.2) 高 8.6	口縁欠脚部欠 く	脚部に3孔を穿つ。脚外面の磨きは、細かく強い。杯部のハケ目も細かく鋭く丁寧。	①素地やや粗く、細礫まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4、外面黒褐色のムラ多く、内面黄色味をおびる。
4 壺 (Y)		埋土 頸部	波長の長い櫛描連弧文を、上下に重ねる。上下の弧で単位を構成し、半時計回りに施文。下位は横位縄文。内面は粗いナデ。施文具は7本単位櫛I種。	①きめ細かく、石英・輝石目立つ。②やや硬調。③器面にはぶい褐10YR6/3。器壁は黒色。
5 甕 (Y)		埋土 胴上部	櫛描波状文を施す。施文順は下→上。施文具は櫛I種。	①きめやや粗く、細砂含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。

II区 160号住居跡 (第216図 PL. 76)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	口 14.7~14.4 台 8.5~8.3 高 6.6	南壁直下床直上6 cm 完形	左回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。厚手で重量。ロクロ痕、やや強い。高台取付片寄るため器形歪む。	①素地普通。細礫・輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。黒斑状や赤色味のあるムラあり、一様でない。
2 杯	口 11.6 底 6.9~6.4 高 4.0	南壁下床直上 口縁欠底部欠 く	ロクロ不使用。内面工具使用のナデ。外面少し引きずるような指頭圧痕で口縁端部のみ横位ナデ。砂底で口縁下端にも砂付着。	①素地普通。パミス等散見の細砂多い。気泡を含む。②中性焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。内面中心に黒褐色部分広い。④外底に付着の砂には、金雲母・輝石等を含む。

遺物観察表編

3 土釜	口(24.6) 頸(23.2)	カマド前面床直上 図示部1/5	輪積みか。外面やや鋭いが方向不定の削り。内面は丁寧なナデで、平滑に仕上げる。	①素地やや粗く、輝石・パミスまじりの砂粒含む。 ②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、やや明度の低いムラ広い。
4 羽釜	口(17.8) 鏝(21.0)	中央南側床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ使用だが、外面横ナデはきわめて弱い。口縁部は丁寧な作りで整っている。	①素地やや粗く、パミス・細礫まじりの砂粒含む。 ②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。上半黒褐色。内面は彩度低い。
5 羽釜	口(17.6) 鏝(21.6)	南壁下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴上半 $\frac{1}{2}$	4に同巧。内面に平行なロクロ痕が巡る。同一個体の可能性あり。	①4に同じ。②やや軟調。③橙2.5YR6/6。部分的に黄色味強いがムラ少ない。④二次火熱を破損後に受けている。
6 甔	底(18.6)	カマド前面床直上。 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。ロクロ不使用で、ナデの擦痕は不整。端部のナデ強く内外面ともやや凹む。	①やや粗くボソボソの素地。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒多い。②中性焰か。厚手としては硬調で締まる。③黄灰2.5Y6/1。断面明るい。

II区 161住号住居跡(第217図 PL.76)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 12.0~11.8 底 5.5~5.1 高 4.5	南壁下床直上口 縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で弱く細かい。口縁の平面形状に歪みがあり不整。	①素地やや粗く、輝石・細礫まじりの砂粒含む。②中性焰、硬調。③灰黄褐10YR6/2。外面に赤色味・黄色味の強いムラあり一様でない。

II区 162号住居跡(第219図 PL.76)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.4) 底 4.8 高 3.9	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面のみやや強い。全体に均等に厚手となる。	①素地普通。パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙2.5YR6/6。ほぼ一様。
2 小皿	口(11.8) 底(6.2) 高 3.2	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸。ロクロ痕弱い。	①素地やや粗く、細礫・輝石等まじる砂粒多い。②中性焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。内面明度低いが、ほぼ一様。
3 椀	口(11.8) 底 6.0 高 4.9	中央西側床12cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 高台 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸。高台は歪み大きく、取付時のロクロ使用は不明。ロクロ痕細かく強く、口縁内面のみ平滑。	①素地やや粗い。チャートやや目立つ粗砂含む。②中性焰か、やや硬調。③外面にぶい赤褐5YR5/4、内面断面は浅黄2.5Y7/3。
4 椀	口(12.4) 台 5.4 高 4.6	中央床上8cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロか。口縁外面と高台取付痕以外の横ナデ不明瞭。	①素地粗くザラザラしている。白色鉱物の混入目立つ。②中性焰か、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/3。色相も彩度も一様でない。
5 杯	口 11.4 底 5.6 高 4.4	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	ロクロ使用の痕跡なし。外底全面に砂粒付着。内面は工具使用ナデで一部にハゲ目状の擦痕。口縁外面は指頭による雑な押し痕。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③灰黄褐10YR6/2。下半は黒褐色。④外底付着砂は粗砂で、胎土夾雑物とは異なる。
6 椀	口(12.0) 台(6.4)	中央床上5cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 高台 $\frac{1}{2}$	口縁外面にロクロ使用の痕跡なし。内面は布で拭う。高台取付は丁寧で横ナデ様の粗い擦痕あり。	①素地やや粗く、砂粒の混入多い。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR6/3。赤色味・灰色味をおびるムラあり一様でない。

1 竪穴住居跡出土遺物

7 椀	口(19.0) 台(8.6) 高 7.8	南壁下床直上7cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用 高台取付。ロクロ痕は外面のみやや 強い。	①素地やや粗い。粗砂の混入多い。②中性焰、やや 硬調。③灰白2.5Y8/2。外面赤色味をおびる。④内底 のみ摩滅すすむ。
8 椀	台11.2	中央床直上10cm 図示部完存	足高高台で台部のみ。右回転ロクロ。 ロクロ痕は外面のみ強く、内面の粗い 擦痕は同心円状には並ばない。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。② 中性焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。細かなム ラ多く一様でない。
9 砥石	中厚 6.6×4.0	中央床直上 半欠品	短軸断面三角形の3面使用。正面は大 きく剥落し不明瞭だが、主な使用面は 側面のみ。小口・割口は無使用。正面 裏面には調整工具痕あり。	①砥沢石。きめ細かさにやや欠ける。鉄少量含む 表面褐色味をおびる。④正面のみ平滑。表面には不 規則で鋭い擦痕がない。
10 刀子	棟厚 0.52~0.43	埋土 両端欠く身部	著しい研ぎ減りは認められないが刃部 に対し棟が厚い。大型品となる。	①鉄地金の質は良い。④錆化進む。

II区 163号住居跡 (第220図 PL. 76)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 13.6 高 3.5	カマド前面南側 床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外底の削り粗く鋭いが縁辺は無調整部 分あり。口縁外面のナデ特に強い。内 面は細かな凹凸ありやや平滑さ欠く。	①やや粗くザラザラしている。パミス・輝石まじり の粗砂含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5 YR7/4でほぼ一様。
2 杯 (H)	口 13.8 高 3.3	カマド前面南側 床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りはやや鋭いが弱い。口縁外面 ナデだが下半に無調整部分残る。内面 丁寧なナデ。口縁端部に小さな歪み。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒若干含む。 ②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。外面一部 明度低いが、ムラは少ない。
3 杯 (H)	口(13.8)	南壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削り丁寧でやや強い。内面丁寧な 同心円状のナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。砂粒若干含む以外混入物まれ。② 酸化焰、普通。③橙5YR6/6でほぼ一様。

II区 164号住居跡 (第221図 PL. 76)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(18.0) 台(9.4) 高 8.0	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部部 $\frac{1}{2}$	ロクロ不使用。外面は口縁のみ強いナ デ。体部粗い削りで、上半に無調整部 あり。高台のナデ弱い。内面丁寧な磨 きで黒色処理。厚手で重量。	①素地やや粗い。細礫のやや多い砂粒含む。②酸化 焰か、普通。③褐灰7.5YR4/1。外面口縁端部と内面 は黒色で光沢。④口縁端部の剥落多い。

II区 168号住居跡 (第224図 PL. 76)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 10.8~10.3 底 5.2 高 3.6	埋土 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱く、内底以外では殆ど判らない。	①粗くザラザラしている。細礫の混入はやや少ない。 ②中性焰か、やや硬調。③灰白7.5Y8/1。外面は重焼 き状に中位以下で灰色を呈す。
2 杯 (S)	口 12.9 底 6.0 高 4.2	南壁下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 きわめて弱い。口縁内端に接合痕状の ヒビあり。均等に薄手で軽量。	①素地普通。片岩質細礫少量含む。②還元焰、やや 硬調。③灰5Y6/1。一部黄色味をおびる。

遺物観察表編

3 杯	口(13.2) 底 6.8 高 3.7	南壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 きわめて弱い、均等に薄く器形は 整っている。	①素地やや粗い。細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒含 む。②中性焰か、やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6～褐 灰5YR5/1。一様でない。
--------	---------------------------	-------------------------------------------------	------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

Ⅲ区 1号住居跡(第229図 PL. 77)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	口(8.2) 脚上 3.0 脚下 10.4 高 9.6	北壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	全体に丁寧で平滑に仕上げる。脚やや 上方に3孔を穿つが、配置不整。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・細礫まじりの砂粒含 む。②酸化焰、きわめて硬調。③浅黄橙10YR8/3。 内面中心に一部灰色味をおびる。
2 器台 (H)	口 9.0 脚上 3.1	北壁際床直上 図示部ほぼ完存	全体に丁寧で平滑。脚中に4孔を穿 つ。身部外面のみ鋭いハケ目状の擦痕 あり、内面の磨きは斜位で不明瞭。	①素地やや緻密。石英・細礫まじりの砂粒含む。② 酸化焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。わずかに赤 色味をおび、明度の低くなるムラあり。
3 器台 (H)	脚上 3.7 脚下(12.0)	北壁際床下14cm 図示部内裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く	上側に3孔を穿つ。外面磨きは丁寧で 強い。内面台部は整形雑。身部は強い ナデ。	①素地普通。細礫以外の混入物まれ。②酸化焰、や や硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味や明度低いム ラあり。

Ⅲ区 2号住居跡(第231図 PL. 77)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口 12.4~11.7 底 7.0~6.7 高 3.6	北壁下周辺16片 口縁若干底部 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 は全体で強く渦巻き状を呈す。平面形 はだ円形に歪む。	①素地普通。細礫若干含むが夾雑物少ない。②還元 焰、やや硬調。③灰10Y4/1。ほぼ一様。
2 杯(H)	口 10.8 高 3.6	P1底部上12cm $\frac{1}{2}$ 個体	外底やや鋭い削り。口縁下半は無調整 で器面不整。内面と口縁外面上半のナ デ強い。端部は内側に肥厚。	①やや緻密で砂粒以外の混入物少ない。②酸化焰、 やや硬調。③橙5YR6/6基調。やや黄色味をおびるム ラあり。
3 杯(H)	口 12.2~11.8 高 3.7	P1底部上4cm 完形	外底の削りは息長く鋭い。口縁下半は 無調整だが、指頭状のごく弱い圧痕が 巡っている。	①素地普通。粗砂やや多い砂粒含む。②酸化焰、や や硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
4 台付甕 (H)	口 11.3~10.8 頸 10.4~9.5 胴 12.5 台下 8.2 高 14.5	北東隅床上28cm 口縁・台部下 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面削りは上半で息長く幅太、下半は 細かく丁寧。内面不明瞭だが底部付近 に、板状の工具痕あり。内底は凹凸多 い。平面は、だ円形状に歪む。	①素地普通。砂粒の混入多い。②酸化焰、やや軟調。 ③にぶい赤褐5YR5/4。暗い部分広い。④二次火熱を 受ける。内面下半に細かな剥落多い。

Ⅲ区 3号住居跡(第232図 PL. 77)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.0) 高 3.1	埋土2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底やや鋭く丁寧な削りで、削り残し 部分なし。内面丁寧なナデで、平滑に 仕上げる。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、 やや硬調。③にぶい橙5YR7/4で断面までほぼ一様。
2 杯(H)	口(10.4) 高 3.3	中央南寄床上19 cm $\frac{1}{2}$ 個体	外面強い削りで器面に凹凸あり。内面 同心円状の丁寧なナデで平滑。	①素地やや粗い。チャート質の細礫まじりの砂粒含 む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。内面 赤色味をおびる。
3 杯(H)	口 12.8 高 3.7	北壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面は広範囲で細かく丁寧な削り。内 面は布状具の拭うような擦痕が残り平 滑に仕上げてある。	①素地普通。白色粗砂・輝石まじりの砂粒含む。② 酸化焰、硬調。③橙7.5YR7/6。外底に弱い黒斑あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

4 杯 (H)	口(9.4) 高 2.8	埋土 口縁僅か 底部 $\frac{1}{2}$	外面やや強く細かな削りで、器面に小さな凹凸あり。内面丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。細礫まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。
5 杯 (H)	口(14.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外底削りは強く細かい。また縁辺に無調整部分広い。内面ナデは布状具のやや粗い擦痕残る。口縁に細かな波状の歪みあり。口径不安。	①素地やや緻密。細礫・輝石・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。断面彩度低い。
6 杯 (H)	口(18.2) 高 5.2	P6内床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外面削りやや強く、器面に小さな凹凸できる。内面ナデは口縁中心にやや粗い布状具の擦痕あり。	①素地やや粗い。パミス・細礫等夾雑物雑多な砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4～黒褐5YR3/1。一様でない。
7 甕 (H)	口(21.6) 頸(17.2)	床下2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面削りはやや鋭い。頸部のみ肉厚で多量の粘土を削り落としてゐることが判る。内面のナデ丁寧。	①素地やや粗くボソボソ。輝石・細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、甕類としては硬調。③にぶい橙5YR7/4。ほぼ一様。
8 手づくね	口(5.2) 底 3.6 高 3.8	中央床上23cm 口縁 $\frac{2}{3}$ 欠く	輪積みか。内底にナデの工具痕と指頭の強い擦痕で平滑さ欠くが、他は丁寧なナデで平滑に仕上げる。外底に布状具の圧痕あり。	①素地普通。少量の砂粒以外混入物まれ。②酸化焰、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4、内面彩度低い。
9 手づくね	口 5.7～5.5 底 3.6～3.3 高 4.0	埋土 完形	手づくね。外面指頭の強いナデで器面に凹凸。口縁は小さく波状に歪む。薄手で軽量。	①素地やや緻密。少量の砂粒以外混入物まれ。②酸化焰、硬調。③淡黄2.5Y8/3。外面下半に黒斑広い。④内底に鋭い亀裂走る。
10 手づくね	底 3.5～3.3	床下 図示部ほぼ完存	外面に不明瞭な指頭状の擦痕残る。内面は工具によるやや鋭いナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③浅黄2.5Y7/3。外面に黒斑あり。断面も黒色味強い。
11 土錘	径 1.4 重 10.1g	中央床上31cm 両端若干欠く	一端に強い指頭痕あり。器面平滑で、整形痕残さない。	①素地普通で赤褐色鉱物・軽石等の粗～細砂を含む。②酸化焰、普通。③明褐灰色。
12 土錘	長 5.3 径 1.5 重 10.7g	中央床上29cm ほぼ完形	一方へ片寄って肥厚している。器面平滑だが、わずかに指頭圧痕残る。	①素地普通。白色砂粒等の混入物含む。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/3。黒斑も広い。
13 土錘	長 5.1 径 2.2 重 17.8g	西壁際床上6cm 両端部欠く	内面に直線的に継ぎ目が通っている。外面には整形痕は見えない。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。広い黒斑あり。

III区 4号住居跡 (第235図 PL. 77)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.8)	埋土 口縁 $\frac{2}{3}$ 底部 $\frac{1}{2}$	須恵器蓋杯の模倣杯。口縁端部は弱く外反し、口縁内端の凹みは広い。口縁外面に丁寧に2条の沈線を巡らす。外底削りやや鋭い。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化焰、普通か。③外面にぶい赤褐5YR5/4。黒斑あり。内面赤色味強い。④二次火熱を受ける。内外面とも剥落進む。
2 杯 (H)	口(10.6)	埋土5片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{2}{3}$	口縁外面に幅広の整った沈線が巡る。外底の削りやや鋭く丁寧。	①素地やや粗いが混入物少なく良好。②酸化焰、軟調。③黒褐7.5YR3/1。断面明るく彩度も高い。④内底の剥落と口縁内端の摩滅進む。
3 手づくね	底 3.0	埋土 図示部完存	外面にやや粗い磨き。外底整形痕不明だがきわめて平滑。内面やや雑な工具痕が残る。	①素地普通。石英・輝石等散見の砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に薄い黒斑あり。

遺物観察表編

III区 5号住居跡 (第236図 PL. 77)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(14.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	ロクロ不使用か。内外面とも丁寧な横位の磨きで平滑。高台の付く器形と思われるが不明瞭。	①素地粗くボソボソ。石英・赤褐色鉱物等、混入物雑多な粗砂含む。②酸化焰、軟調。③にぶい橙2.5YR6/4。内面黄色味をおび、断面は明度高い。小規模な黒斑あり。
2 甕 (H)	口(25.4) 頸(20.4)	P1南側床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面削りやや幅広く強く、頸部にL字状の切先痕が残る。外面のナデやや粗いが、内面は平滑。	①素地普通。輝石等雑多な夾雑物含む粗砂やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面明度・彩度低い。
3 甕 (H)	口(15.4) 頸(13.4)	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面削りやや強く雑。内面ナデもやや雑。口縁内端に弱い沈線が巡る。	①素地粗く、粗砂・輝石等混入物もやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3～黒褐10YR3/1。一様でない。
4 不明鉄器	厚 0.62~0.53 0.43~0.35	埋土 端部欠く	錆化のため不明瞭だが材質より釘か。両端とも尖る可能性。	①錆化によるふくれ多く、ヒビも走る。鉄地金はあまり良くない。
5 土玉	径 1.15 厚 1.02	床面 完形	棒の巻付けか。全体に平滑で器面を弱く磨いている可能性。両端を平坦に仕上げるが、角は緩やか。	①緻密で軽量の素地。輝石少量まじる。②酸化焰か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり。

III区 6号住居跡 (第240・241図 PL. 77・78)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口 8.4	埋土 3住埋土の 小片と接合 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。天井部同回転のヘラ削り。ロクロ痕は同心円状で、内面では弱い。	①素地普通。白色粗砂若干含むが、夾雑物は少ない。②還元焰、やや硬調。③暗青灰5B3/1。内面明度高い。
2 杯 (S)	口 13.3 底 8.4~8.0 高 3.4	埋土 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→切離し不明→底部全面幅広い回ヘラ。ロクロ痕弱く内底も凹凸少ない。底部厚く重量。	①ザクザクしたやや粗い素地。長石まじりの砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③明オリーブ灰2.5GY7/1。口縁外面はすすけたように黒褐色。④外底に墨書「子」。墨痕鮮やかである。
3 杯 (H)	底(7.6)	埋土 底部破片	右回転ロクロ→切離し不明→外底全面と体部下端に回転ヘラ削り。内底は平坦。	①素地普通。バミス・細礫等、混入物少量含む。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1。外面黒色味の強いムラあり。④外底に墨書あり。
4 杯 (H)	口(11.0) 高 2.8	埋土 4片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削り雑で弱く、縁辺に無調整部分残る。内面ナデは丁寧でやや平滑。	①素地普通。5mm大の細礫散見する砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。明度・彩度低いムラ広い。
5 杯 (H)	口(12.0) 高 3.0	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底の削り鋭い。内面と口縁のナデは同心円状で、外面の擦痕が強い。口縁外面下の稜は鋭く、整っている。	①素地やや粗い。石英等のまじる粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面やや赤色味をおびる。
6 杯 (H)	口(10.8) 高 3.1	中央床上16cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りやや強い。口縁端部は内屈するが形状は一定でない。底部中央のみ肥厚する。	①素地普通。バミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③外面にぶい橙5YR6/3。内面は灰褐7.5YR5/2。
7 鉢 (H)	口(17.4)	中央東寄床上 14cm 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや鋭い。ナデは丁寧。口縁部に小さな歪みあり、傾き不安。	①素地普通。バミス・輝石等の夾雑物含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒斑広い。
8 鉢 (H)	口(19.6)	埋土 6片 35住 埋土と接合 $\frac{1}{2}$ 個体	外面幅広くやや弱い丁寧な削りだが、上端無調整で残る。内面は丁寧な同心円状のナデでやや粗い擦痕残る。	①素地普通。粗砂含むが夾雑物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。内面やや黄色味をおびる。ムラ少ない。

1 竪穴住居跡出土遺物

9 高杯 (H)	脚上 6.0~5.6	図示部ほぼ完存	脚部分は巻上げ。外面強い削りで器面を弧状に削り取る。内面接合痕の上に指頭の粗い擦痕。	①素地やや粗く、砂粒の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。明度の低いムラ広い。断面黒褐色。④内面の剥落著しい。
10 小型甕 (H)	口 11.3~10.8 胴 14.0~13.4 高 13.2	中央床直上11片 体部 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面削りは幅広い工具使用で、上半で強く底部付近で鋭い。内面丁寧なナデで全面平滑。平面だ円形状に歪む。	①素地やや緻密。パミス・細礫まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外底中心に黒色味をおびる。
11 壺(S)	胴(18.8)	埋土 4片 図示部中肩部 $\frac{1}{2}$ 欠く	内面下半は粗い青海波状のアテ具痕が顕著で、上半では強くナデ消す。外面に叩きの痕跡観察できない。肩部付近は布状具の細かな擦痕のナデ。	①素地やや粗い。パミス・細礫・長石等の混入物多く、須恵器としては粗悪。②還元焰、普通。③灰7.5Y5/1。外面に赤色味・黄色味をおびるムラ広い。
12 壺(H)	口(14.0) 頸(7.0)	西壁際床上33cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 頸部 $\frac{1}{2}$	頸部内外面のハケ目は弱い。内面下端に接合の段が明瞭に残る。口縁部ナデやや粗い。	①素地普通。チャート・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、きわめて硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。断面灰色味をおびる。
13 甕(H)	口(15.6) 頸(12.4)	埋土 2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	輪積み。外面ハケ目強いが頸部下側で不明瞭。口縁上半ナデ消す。内面口縁のみ強い擦痕の残るナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物・粗砂等夾雑物がやや多い。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。黒斑が内外面ともに広い。
14 甕(H)	口(23.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁内端沈線巡る。外面削りは丁寧だが弱いため、頸部に帯状のナデ残し部分を生じる。内面ナデは丁寧。	①素地普通。輝石・パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3、黒色味をおびるムラあり。
15 甕(H)	口 20.5~20.3 頸 16.2~15.8	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴上半 $\frac{1}{2}$	口縁内端沈線巡るが形状一様でない。口縁のナデはやや雑。外面削りは幅広く強い。内面は粗いハケ目状の擦痕残るやや強いナデ。	①素地普通。パミス・輝石等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味・黒色味おびるムラあり。断面灰色味強い。④口縁端部に一部薄いスス附着。
16 甕(H)	口 21.5~21.0 頸 17.0~16.1	埋土 図示部ほぼ完存	口縁部は外面で強いナデ。外面削りは雑で強い。内面ナデはやや丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味・黒色味をおびるムラあり一様でない。

III区 7号住居跡(第242図 PL.78)

№・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(12.2) 頸(10.0) 胴(12.6)	中央西寄床上7cm 図示部 $\frac{1}{2}$	外面幅広く粗い(1単位10本以上)ハケ目。内面は木口状の工具で鋭い擦痕の残るナデ。	①素地やや粗い。輝石・細礫等まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③外面黒色。内面灰黄褐10YR6/2で一部黒色味の強いムラあり。
2 台付甕 (H)	台上 6.0 台下(10.4)	埋土 台上半 $\frac{1}{2}$ 台下半 $\frac{1}{2}$	外面不明瞭なナデで、ハケ目の痕跡ない。内面鋭く粗いナデで、切先の圧痕が残っている。	①素地普通。赤褐色鉱物・石英等雑多な夾雑物の多い砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味や明度の低いムラあり。
3 器台 (H)	脚上 3.7	埋土 2片 柱部完存 裾部 $\frac{1}{2}$	裾部上位に3孔を穿っている。外面磨きはやや丁寧。内面は端部のみ弱い横位ナデで他は器面不整。	①素地やや粗い。細礫やや目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面彩度低い。
4 甕(Y)		埋土 頸部	横位縄文後、山形文と思われる沈線。下位にへら状具による刺突を巡らす。原体は無節R。	①きめやや粗く、粗~細砂を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR4/4。

遺物観察表編

Ⅲ区 8号住居跡 (第245図 PL. 78)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口 16.0 鈕 2.7 高 3.6	西壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→切離し不明→天井部回転へら削り→鈕取付。ロクロ痕弱い。	①素地普通。チャート・黒色鉱物まじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に青灰色の不規則なムラあり。
2 杯 (S)	口 15.8 底 9.1 高 5.9	カマド前面床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺幅広の回転へら削り。ロクロ痕やや弱く、口縁内面では不明瞭。口縁内端は幅広に肥厚し直下に鋭い沈線が巡る。	①素地普通。白色針状鉱物顕著。黒色鉱物・細礫まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。口縁外面一部暗灰色。④外底に墨書の可能性ある薄く細いシミがあるが不明瞭。
3 杯 (H)	口(14.0)	中央床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{4}$	外底息長く丁寧な削り。口縁外面のナデ強く、布状具の擦痕残る。内面ナデも丁寧。口縁に小さな波状の歪み。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石含む。細砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。一部赤色味をおびる。④外底に薄い墨書あり。
4 杯 (H)	口(10.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	外底は鋭くやや雑な削りで、縁部は削り残すが平滑。内面は器面の荒れで不明瞭。	①素地普通。細礫・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
5 杯 (H)	口(12.8)	カマド前面床直上 図示部 $\frac{1}{4}$	外底やや強い削り。口縁下端に無調整部分あり。内面鋭い布状具の擦痕の残る横位ナデ。歪みあり口径・傾き不安。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス等散見の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4で断面までほぼ一様。
6 盤 (H)	口(16.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	外底やや強く丁寧な削り。内面も丁寧なナデだが器面やや不整。口縁に歪みあり口径不安。	①素地やや緻密。細礫散見する砂粒含む。②酸化焰、硬調。③橙5YR6/6。内面にぶい橙5YR7/4。断面は灰色味強い。
7 甕 (H)	口(22.2)	カマド内3片 図示部 $\frac{1}{4}$	横位ナデは外面口縁下半で弱い。外面に鋭い削りが僅かに観察できる。歪みあり口径不安。	①素地普通。パミスまじり細砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。内面やや明度高い。

Ⅲ区 9号住居跡 (第247図 PL. 78)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.2)	南壁際床上25cm $\frac{1}{2}$ 個体	外面は息長くやや弱い削りだが器面の凹凸少ない。縁辺に無調整部分あり。内面は同心円状の強いナデ。	①素地普通。パミス散見の砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面中心に黒斑広い。
2 盤 (H)	口(16.5)	南壁寄床上18cm 図示部 $\frac{1}{4}$	外底やや鋭く丁寧な削り。内面ナデも丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。細礫・赤褐色鉱物・輝石等を含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4で断面まで一様。
3 盤 (H)	口(15.6) 高 4.3	カマド前面床上 29cm 図示部 $\frac{1}{4}$	外底方向不定で細かなやや鋭い削り。内面丁寧なナデだが器面に弱い凹凸あり。底部縁辺が肥厚する。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等含む砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。断面中央で灰色味強い。
4 杯 (H)	口(12.6) 高 3.8	中央床上25cm 図示部 $\frac{1}{4}$	外面息長く鋭い削りで器面に波打つように凹凸できる。縁辺に無調整部分あり。内面目の粗い布状具の擦痕のある丁寧な同心円状ナデ。	①素地普通。細礫散見の砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6でほぼ一様。断面は黄色味強い。
5 鉢 (H)	口 20.5~20.3	南東隅床上19cm と29cm 図示部ほぼ完存	外面にやや強い削りで口縁下半は無調整。内面のナデは上半でやや粗い布状具の擦痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・細礫等散見の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面下半は黄色味をおびる。

1 竪穴住居跡出土遺物

6 甕 (H)	口(17.4) 頸(14.5)	南東隅床上23cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや強い。内面ナデは雑でやや強い。口縁部外面にやや強く、内面に弱い稜あり。	①素地普通。雑多な混入物含む粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面、やや彩度高い。
7 甕 (H)	口(21.0) 頸(16.8)	カマド内床上29cm 図示部 $\frac{1}{2}$	外面強い削りで頸部に凹凸できる。内面丁寧なナデで平滑に仕上げる。口縁端部は外方へ肥厚気味である。	①素地普通。粗砂・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR7/6。口縁付近黄色味をおびる。
8 甕 (H)	口(22.0)	中央床上29cm 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りやや雑で粗く、頸部付近は工具を引いた傷が多数残る。内面ナデやや粗く、頸部付近は鋭い擦痕残る。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物等混入する砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面下半黒褐色。④二次火熱受ける。

III区 10号住居跡 (第249図 PL.78)

№・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.8) 高 3.5	中央床上4cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りは鋭く息長い。口縁外面ナデもやや鋭く、下半無調整で残る。内面ナデやや丁寧。	①やや粗い素地に、パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外底に薄い黒斑あり。
2 杯 (H)	口 13.7~13.4 高 3.1	中央床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りは粗く息長い。口縁外面下半無調整。内面ナデ丁寧。口縁内端小さく肥厚するが全面には及んでいない。	①②1にほぼ同じ。③橙7.5YR6/6。黄色味の強い小さなムラあり。
3 杯 (H)	口 14.0	北壁下床上14cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	外底は鋭く丁寧な削り。外面口縁下半無調整だが凹凸少ない。内面丁寧なナデだが底部に凹凸多い。	①素地普通だが、パミス・輝石・長石等の混入で器面粗い。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。外底に小さな黒斑あり。
4 杯 (H)	口(11.8)	中央床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りやや細かく丁寧。口縁外面下半無調整。内面ナデ丁寧で平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・輝石等散見する砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4でほぼ同様。断面黄色味強い。
5 杯 (H)	口(12.8)	カマド内床上7cm 図示部 $\frac{1}{2}$	器面やや摩滅し不明瞭だが、外底の削り弱く、内面ナデは丁寧。口縁外面下半無調整部分は型膚状に不整となる。	①素地普通で、細砂含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。
6 杯 (H)	口(13.2)	貯蔵穴内 図示部 $\frac{1}{2}$	外底削りは息長く鋭い。外面口縁下半から底部縁辺まで広範囲に無調整。内面ナデやや丁寧。	①素地普通。黒色微細鉱物粒やや多い。細礫・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味をおびるムラあり。
7 甕 (H)	口(23.6) 頸(19.4) 底 4.7 高 11.9	中央床直上 口縁若干上半 $\frac{1}{2}$ 下半完存	外面幅広い丁寧な削り。口縁やや強いナデで内面に鋭い擦痕。外底は黄白色の砂粒付着。穿孔部分は鋭い切口である。	①素地普通だが、赤褐色鉱物まじりの粗砂多く、ザラザラ。②酸化焰、やや軟調。③橙2.5YR6/6。内面やや暗い。
8 甕 (H)	口(23.0) 頸(20.8)	西壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	外面やや弱く丁寧な削り。内面ナデの痕跡弱いが平滑。口縁上半に強いナデで外端やや肥厚、内側弱く凹む。	①素地普通。赤褐色鉱物・粗砂まじりの砂粒を含む。②酸化焰、甕類としては硬調。③明赤褐2.5YR5/6。内面やや淡く、外面黒色味をおびるムラあり。
9 手づくね	底 2.8	風倒木痕 口縁欠く	外面下半に指頭状の弱い圧痕あり。内外面とも底部は平滑。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物等少量まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③外面灰褐5YR4/2。内面にぶい橙7.5YR7/3。

遺物観察表編

Ⅲ区 11号住居跡 (第250図 PL.78)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.4) 底(6.4) 高 3.4	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや強い。外面は窯内で強い火熱を受けており焼台として使用した可能性。	①細砂多くややザラザラするが素地は緻密。②還元焰、きわめて硬調。③灰10Y6/1。内面黄色味をおびる。外面に灰緑色・濃緑色の自然釉。
2 杯 (H)	口(13.6)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削り弱く雑で、器面は不整。口縁のナデは強い。内面丁寧なナデの上に細かく弱い斜放射状の暗文あり。	①素地普通。砂粒の混入やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。内面は彩度低い。
3 小型甕 (H)	口(12.0) 頸(10.8) 胴(15.0)	カマド袖南床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部上半 $\frac{1}{2}$	外面細かくやや鋭い削り。内面平滑に仕上げる。ナデの単位不明。口縁部強いナデ。	①素地普通。輝石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面は一樣でない。④外面小範囲に薄いスス付着。
4 甕 (S)	頸(12.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面平行叩き上を棒状工具による横位ナデ。内面青海波状の深いアテ具痕。	①素地やや粗い。黒色鉱物・チャートのまじる砂粒含む。②還元焰、硬調。③灰白2.5Y7/1でほぼ一樣。

Ⅲ区 12号住居跡 (第251図 PL.78)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外底削り粗くやや弱い。口縁外面ナデは下端まで及び無調整部分残さない。内面丁寧なナデだが器面凹凸。	①素地普通。少量の砂粒以外、夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3でほぼ一樣。
2 台付甕 (H)	口 14.7~14.4 頸 13.0~12.8 胴 16.4 脚上 4.5	カマド内床上9cm 図示部中胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面は乾燥状態で強く鋭く削り、頸部無調整で残る。内面はヘラ状工具の丁寧なナデでやや平滑。口縁部は強いナデで粗い擦痕残る。	①砂粒やや多いが甕類としては緻密。②酸化焰、やや軟調。③外面黒褐5YR2/2基調だが、一樣でない。内面にぶい橙5YR6/3。④二次火熱受け器面やや脆弱。外面頸部に薄くスス付着。
3 台付甕 (H)	台上 3.6 台下 8.1	カマド内床上11cm 図示部 $\frac{1}{2}$	内底部分以外には強い横位ナデを施し内面は特に平滑。	①素地普通。黄白色砂粒含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味・赤色味のムラ多い。④二次火熱受けるが影響少ない。

Ⅲ区 13号・23号住居跡 (第266図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (Y)		肩部	頸部に凸帯を巡らし、ヘラ状具による刻み目を施す。幅19mm大の櫛Ⅱ種による直線文と波状文の交互施文。上から順に時計回りに施文。描継ぎあり。内面は斜ナデ。	①チャート・長石等の細礫を含む。素地はやや粗い。②均一だが、やや軟質。③にぶい橙10YR7/3。
2 甕 (H)	口 17.4~16.9 頸 15.1~14.8	埋土 図示部ほぼ完存	輪積みか。外面細かなハケ目。内面接合痕上に雑な指頭圧痕が巡る。口縁の横位ナデもやや雑。	①素地普通だが、細礫・赤褐色鉱物等の夾雑物多く粗い。②酸化焰、やや軟調。
3 甕 (H)	口(14.0)	床直上	口唇はつまみ上げナデで内傾する。外面は浅い斜ハケ目。内面ヘラ状具によるナデ。	①粗粒を含む。②普通。③にぶい橙色。
4 鎌	棟 0.45~0.23	埋土	刃部中央の研ぎ減り著しいが、鋒は直線的であり、原形は直刃の鎌か。	④錆化著しく不明瞭だが、基端部折り返しの下半親指幅ほどに欠失。半欠品を手鎌状に使用した可能性。

1 竪穴住居跡出土遺物

III区 15号住居跡 (第253図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.0~13.8 底 8.5 高 3.9	中央南寄床上7cm 口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸→底部縁どぐ弱い回転ヘラ削り。横ナデ弱いが内底には渦巻き状のロクロ痕残る。	①素地やや粗く、パミス・細礫まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。内面黄色味をおびる。④外底に墨痕様の薄く不明瞭な付着物あり。
2 杯 (S)	口 14.3 底 7.0~6.8 高 4.4	南東隅床直上 完形	右回転ロクロ→回糸→体部下端に手持ちヘラ削り。内面は底部のみ渦巻き状ロクロ痕あり。	①軽量でやや粗い素地。黒色鉱物・白色粗砂等、夾雑物やや多い。②還元不充分で内面は酸化鉄が赤色味をおびる発色。③灰白5Y7/2。重焼き状の黒色味をおびるムラあり。
3 杯 (H)	口 12.6~12.4 高 3.3	南東隅床上5cm 口縁欠く	外底はやや鋭く丁寧な削り。内面ナデも丁寧で平滑に仕上げ、口縁部には布状具のやや粗い擦痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。
4 杯 (H)	口(12.6) 高 3.2	埋土2片 1/6個体	外底削りやや強く粗い。口縁外面横位ナデもやや雑。内面ナデは丁寧に平滑に仕上げる。	①素地普通。細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4で外底に薄い黒斑あり。
5 砥石	厚 4.8	中央床直上	大型砥石の小破片。使用面は平坦。置砥と思われるが下面すわり悪い。	①砥沢石。④残存3面のうち2面使用。

III区 16号住居跡 (第255図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.2) 底(6.5) 高 3.9	カマド内床直上 4片 1/6個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内底も平坦である。	①素地やや粗くボソボソ。長石粒の混入がやや多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1で断面までほぼ一様。
2 甕 (H)	口(22.8) 頸(20.0)	中央床上8cm 口縁1/6 肩部1/6	外面削り強い。口縁は内面中心に丁寧なナデで布状具の擦痕残る。内面肩部に幅広工具使用の粗いナデ。	①素地普通。砂粒の混入多いが大粒夾雑物は見えない。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4でほぼ一様。
3 甕 (H)	口(21.6) 頸(17.6)	西壁際床上8cm 図示部1/6	外面削りはどぐ弱く、磨きに近いが雑である。口縁ナデは強く布状具の擦痕が両面に残る。	①素地やや粗いうえ、輝石・パミスまじりの粗砂多く、ガサガサ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。内面彩度低い。
4 甕 (H)	口(19.8) 頸(15.4)	中央床上35cm 図示部1/6	外面削りは幅広でやや雑。内面は丁寧なナデで頸部付近に幅狭の工具痕が残る。歪みあり傾き不安。	①やや粗い素地に粗砂の混入多くザラザラ。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラ多い。
5 長頸瓶 (S)	肩(22.6)	埋土 肩~胴上小片	右回転ロクロ。横ナデは肩部外上で弱いカキ目状、他では粗い布状具の擦痕を残す。	①素地普通。砂粒多いが、他の混入物まれ。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1で断面まで一様。

III区 17号住居跡 (第257図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.0) 底(7.8) 高 4.0	北壁直下床直上 口縁1/6 底部1/6	右回転ロクロ→回糸。底部縁に左回転ロクロ上のヘラ削りか。ロクロ痕やや強いが砂粒の移動少ない。	①素地やや粗くボソボソ。細礫まじりの細砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/2。ほぼ一様。

遺物観察表編

2 杯	口(12.6) 底(6.2) 高 4.3	カマド内 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→外底丁寧な手持ちヘラ削り。ロクロ痕内面で不明瞭。外面も上半は弱い。口径不安。	①素地普通。長石・細礫少量含む。②酸化焰か、やや硬調で須恵器的である。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一部暗褐色。
3 杯(H)	口(14.0)	埋土3片 図示部 $\frac{1}{2}$	外底削りやや弱い。口縁外面のナデやや雑で下半の無調整部分も不整。内面のナデは丁寧で強い。	①素地普通。細礫・輝石等散見の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外底にやや黒色味もつムラあり。
4 杯(S)	口 11.6 底 6.3 高 3.5	北壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁端部外反するが直下で内側に凹む部分あり形状一定でない。内底平坦。	①素地普通。長石中心の細礫やや目立つ。黒色鉱物粒散見。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。内面やや暗い。
5 杯(H)		埋土 底部破片	残存部分では外底削りほぼ一方方向で、丁寧。内底ナデも丁寧だが器面に細かな凹凸あり。	①素地普通。長石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。④内底中央寄りに、「佐」と思われる墨書あり。
6 甕(H)	口(21.6) 頸(20.0) 胴(24.2)	南東隅床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	口縁外端に小さな凹みあり。外面削り丁寧。内面ナデも丁寧で平滑に仕上げる。均等に薄手で丁寧な作り。	①素地普通。粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調だが二次火熱の影響か。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様でない。④外面にカマド粘土若干付着。

Ⅲ区 18号住居跡 (第259図 PL. 79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(15.8) 高 3.7	カマド前面床上 6cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底はやや鋭い丁寧な削り。内面は強いナデで布状具の擦痕が同心円状に巡る。歪み強く口縁の形状一様でない。	①素地普通。バミス・粗砂等含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味や黒色味をおびるムラあり。
2 小型甕 (H)	口(11.4) 頸(10.0)	カマド前面床上 14cm 図示部 $\frac{1}{2}$	外面強くやや雑な削り。内面ナデもやや雑で細かなハケ目状の擦痕残る。	①やや緻密で混入物も砂粒以外は少なく良好。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。
3 手づくね	口 9.4~8.5 高 3.5	東壁寄床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	手づくねで口縁に波状の歪みあるが、厚さ一律で丁寧な作り。内面方向不定の強いナデ下に指頭圧痕残る。	①素地緻密で赤褐色鉱物等、少量の混入物あり。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4、黒褐5YR2/1。一様でない。④破損後に二次火熱受ける。
4 羽釜	口(27.6) 鏝(30.0)	カマド前面床上 上 図示部小片	径・傾きとも不安。鏝の形状一定でない。外面弱く雑な削り。内面ナデ丁寧だが器面に凹凸あり。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。②中性焰か、やや硬調。③橙5YR6/6~にぶい黄橙10YR7/4。
5 羽釜	底(10.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積み。外面弱く雑な削りで縦位の後横位。内面丁寧なナデだが器面不整。4に類似し、同一個体の可能性。	①②③④に類似するが、細礫等混入物やや多く、焼成はやや軟調か。④破損後に二次火熱を受けている。

Ⅲ区 19号住居跡 (第261図 PL. 79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.8)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	均質に薄手で丁寧な作り。内外面磨きも丁寧である。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物やや多い砂粒含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。断面黄色味強い。外面に弱い光沢あり。
2 杯(H)	口(15.4)	カマド右袖脇床 直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外面削りやや強く、息長く丁寧。ナデも丁寧で内面の平滑さ著しい。	①素地普通。輝石・細礫等やや大粒夾雑物まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面帯状、内面点状の黒斑あり。

1 竪穴住居跡出土遺物

3 鉢 (H)	口(9.8) 胴(10.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	外面下半に強い削り。ナデはやや弱いが器面の凹凸少ない。口縁外端に弱い沈線が巡る。	①やや粗く軽量の素地。細砂やや多い。土粒含み粗く見える。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面に黒斑広い。
4 甕 (H)		埋土4片 図示部 $\frac{1}{4}$	口縁ナデ→体部横へら削り。体部内面は幅広工具による横位ナデ。	①素地普通。軽石・輝石等の細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③黒褐10YR7/3～にぶい橙色。
5 甕 (H)	口 24.2～24.0 頸 20.4～19.6 胴 29.3～28.9	カマド右袖 図示部ほぼ完存	輪積みか。胴下半内面に合わせ痕が残る。外面削りやや細かく弱い。内面口縁に布状具の強いナデ。胴部に工具痕あり。平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。赤色味・黒色味をおびるムラあり一様でない。④二次火熱を受ける。

III区 20号住居跡 (第262図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(13.8) 頸(11.6) 胴(13.2)	北西壁寄床上9cm 2片 図示部 $\frac{1}{4}$	胴部は内外面とも粗いハケ目。口縁のナデは外面で雑で器面やや不整。	①素地普通。混入物少なく、砂粒・赤褐色鉱物等を散見。②酸化焰、硬調。③灰白2.5Y8/2。断面中央黒色。

III区 21号住居跡 (第263図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(13.6) 頸(9.2)	埋土 図示部中口縁端部 $\frac{1}{4}$ 欠く	細かなハケ目の上に不規則な磨きを施すが、内外面ではへらの太さがかなり異なる。口縁端部にごく弱いナデ。	①やや粗い素地でボソボソ。チャートの混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙10YR7/3。外面に弱い黒斑。④内面肩部の剝落進む。

III区 24号住居跡 (第267図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕か	脚上 4.9	P1底面より8cm上 図示部ほぼ完存	天地不明だが、内底とした部分の方が丁寧。内外面とも幅狭のへら工具で整形。	①素地普通。土粒の混入で粗悪に見える。細砂少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に黒斑。内面赤色味をおびる。

III区 25号住居跡 (第268図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 13.8～13.5	カマド内床上14cm 8片 図示部 $\frac{1}{4}$	外底削り弱く雑。口縁外面上端のナデも弱く、下半の無調整部分広い。内面ナデは強く口縁に粗い布状具の擦痕。	①素地やや粗くボソボソ。石英・細砂まじりの砂粒含む。②酸化焰、軟調。③にぶい黄橙10YR7/3～にぶい橙5YR7/4。
2 杯 (H)	口(12.8)	カマド内 図示部 $\frac{1}{4}$	口縁上半のナデ強く、端部僅かに肥厚する。外面削り弱く、内面ナデ丁寧。	①1に類似するが混入物少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
3 甕 (H)	口(20.4) 頸(18.0) 胴 21.4	中央東寄床上30～38cm 口縁 $\frac{1}{4}$ 胴部 $\frac{1}{4}$	胴部内面に2段の接合時粘土帯あり。外面鋭く丁寧な削りだが、削りの方向より左利きの手によるものか。内面幅広工具のナデ。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黄色味・黒色味のムラあり一様でない。④二次火熱を受け、下半脆弱化。

遺物観察表編

Ⅲ区 27号住居跡 (第272図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.8)	埋土 図示部欠	右回転ロクロ。ロクロ痕外面で弱く細かい。内面平滑でロクロ痕は殆ど残らない。	①素地やや粗く、細砂の混入多く器面ザラザラ。②還元焰、やや硬調。③灰白5Y7/1。口縁端部は明度低い。
2 甕 (H)	口(18.8) 頸(17.0)	埋土 口縁欠 肩部欠	外面に明瞭な屈曲のあるコの字状口縁である。外面削りやや弱く、頸部に指頭痕あり。内面丁寧なナデで平滑。	①素地普通。黄白色の粗砂含む。②酸化焰、甕類としては硬調。③にぶい赤褐5YR5/3。内面胴部は明度高い。
3 刀子	棟0.40~0.14 茎幅0.90 茎厚0.31	埋土 茎端部欠	身は研ぎ減って先端側を欠いているが現状完存。柄に木質が若干残存している。	①良質の鉄地金で錆化によるふくれが少ない。④茎基部まで若干研ぎ込まれている。

Ⅲ区 28号住居跡 (第273図 PL. 79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 14.2~13.9 高 4.4	貯蔵穴内床下10cm ほぼ完形	外底鋭い削りで、同心円状に丁寧に巡らせた後、中央に弱い削りを追加する。内面には細かな凹凸多い。	①素地やや粗く、細礫・輝石等混入物多く、器面ザラザラ。②酸化焰、きわめて硬調で焼締る。③橙5YR6/6でほぼ一様。
2 碗	口(15.2) 台(7.0)	貯蔵穴際床上10cm 口縁欠 底部欠 台部欠	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。口縁外面中位付近のみロクロ痕やや強い。内面平滑。	①素地やや粗い。細礫少量含む。混入物少ない。②中性焰か、普通。③にぶい橙2.5YR6/4~にぶい黄橙10YR7/3。内面一部黒斑状。
3 甕 (H)	口(23.0) 頸(20.4) 胴(22.6)	貯蔵穴内床直上 図示部欠	外面に強い屈曲のあるコの字状口縁。外面削り鋭く丁寧。内面に指頭状の圧痕で器面凹凸。歪み強く傾き不安。	①素地やや緻密。赤褐色鉍物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。④二次火熱の影響あり。外面下半に薄くスス付着。

Ⅲ区 29号住居跡 (第275図 PL. 79・80)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.2) 高 2.7	中央北寄床直上 口縁欠 底部欠	外底削りは幅太で丁寧。口縁外面のナデは端部のみ。内面ナデは鋭い。口縁内端凹む。	①素地普通。細礫・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。④外底に墨書「古」か。
2 杯 (S)	口(12.8) 底(7.4) 高 3.1	南東隅床上18cm 口縁欠 底部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱い。底部中央が薄く、焼成時に歪みを生じている。	①素地やや粗い。チャート含む。細砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1でほぼ一様。
3 杯 (S)	口 12.3~12.0 底 5.7 高 4.0	南壁際床直上 口縁欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱く不規則だが、内底のみ同心円状の強い凹凸あり。	①素地やや粗い。細礫少量含むが混入物少ない。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。黄色味をおびるムラあり。口縁一部吸炭したように黒褐色。
4 高台付杯 (H)	台(9.4)	南西隅床上13cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕弱く、口縁内面以外は不明瞭。	①素地普通。細礫・白色砂粒等含む。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1で一様。④外底に「左」と思われる墨書あり。
5 杯 (H)	口(12.8) 高 3.3	埋土 口縁欠 底部欠	外底削りやや鋭く、平坦に仕上げる。口縁外面のナデ幅広い。内面ナデは丁寧。口縁は小さな波状の歪み。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。④内底中央に墨書あるが、判読できず。

1 竪穴住居跡出土遺物

6 杯(S)	口(12.4) 底(5.8) 高 3.6	カマド前面南寄 床上26cm 図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 きわめて弱く不明瞭。器面は全体に平 滑。	①素地普通だが、長石や5mm大の片岩質細礫等含む 粗く見える。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。内 面やや暗い。
7 椀(S)	口 13.5 台 8.3	南東隅床直上 口縁上半欠	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付で外面に棒状のアテ具痕が巡る。 ロクロ痕弱い。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒やや多い。②還 元焰、普通。③灰5Y6/1～青灰5B5/1。
8 椀(S)	口(15.0) 台 7.0 高 7.2	中央床直上 口縁上半欠	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕弱い。口縁外端小さく 肥厚する。	①素地やや粗く、片岩質細礫・土粒等含む。②還元 焰やや不十分。普通。③灰黄2.5Y7/2。口縁付近は黒 色味をおびる。
9 長頸瓶 (S)	口 4.6	中央南寄床下4 cm。 図示部中口縁端 部欠	右回転ロクロ。やや鋭い横位ナデだが、 ロクロ痕ほとんど残らない。火表に霜 降状の降灰釉がかかる。	①素地普通だが細礫まじりの砂粒含む小型品として は粗い。②還元焰、硬調。③青灰10BG5/1。火表で は明度低い。釉は黄白色。
10 長頸瓶 (S)	肩(18.4)	埋土 図示部欠	肩部外面に4条の沈線の上に、幅狭の 木口状工具による刺突を2段(各々は 逆方向になる)加える。	①素地やや緻密。黒色鉱物の目立つ砂粒を含む。② 還元焰、硬調。③灰白N7/0。外面やや暗く、白色の 降灰釉が霜降状にかかる。
11 紡錘車	径 4.5~4.4 厚 1.2 孔 0.75	西壁際床直上 ほぼ完形	下面に不規則な放射形の擦痕、側面には ごく細かな同心円状擦痕あり。	①砥沢石。

III区 30号住居跡(第277図・278図 PL. 80)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.0)	埋土 図示部欠	外底の削りはやや弱く鋭い。外面口縁 のナデは雑。内面ナデは丁寧で平滑に 仕上げる。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普 通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面一部黒色味をおび る。④外底に墨書あり。判読できず。
2 杯(S)	口(12.8) 底 5.6~5.3 高 3.9	埋土 口縁欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 は全体にきわめて弱い。	①素地やや粗く、砂粒多くザラザラ。輝石含む。② 還元焰、強い二次火熱受ける。③灰白5Y7/1～にぶい 橙5YR7/3。外面幅広く吸炭し黒褐色。
3 杯(S)	口 12.1 底 5.8~5.5 高 3.7	埋土 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。全体にや や厚手で小型品としては重量。外面に 接合痕状のわずかなヒビ巡る。	①素地やや緻密。白色砂粒の混入やや多い。②還元 焰、硬調。③灰N6/0。口縁端部のみやや黒色味をお びるが、ムラ少ない。
4 椀(S)	口 14.3~14.1 台 6.1~ 5.9 高 5.6	埋土 口縁上半欠	右回転ロクロ→回糸→高台取付はロク ロ使用だが歪み大きい。ロクロ痕全体 に弱い。	①素地やや粗い。混入物少なく良好。②還元焰、や や軟調。③灰白10Y7/1で同様。④外底に傷あり焼成 後線刻の可能性。
5 椀	口 14.8~14.3 台 6.9 高 6.1	埋土 完形	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。内面のロクロ痕弱い。高台内端 に工具痕状の沈線巡る。	①素地やや粗く、砂粒の混入多く器面ザラザラ。② 還元焰、普通。③灰白10Y7/1。内面のほとんどと外 面の半分は吸炭して黒褐色。
6 椀	口 15.2~15.0 台(6.8) 高 5.4	埋土 口縁底底部欠	右回転ロクロ→回糸→高台取付はロク ロ不使用か。外面下半のロクロは工具 状のやや鋭いものである。	①素地やや粗くボソボソ。細礫まじりの砂粒を含む。 ②還元焰か。軟調。③灰白10Y7/1。内底吸炭して黒 褐色。④内面に墨書と思われる部分あり。
7 椀	口(14.0)	カマド内 図示部欠	右回転ロクロ。外面下半でロクロ痕や や強い。内面平滑。	①素地普通。細砂多い。②中性焰か。軟調。③灰黄 褐10YR4/2。口縁中心に内外面とも黒褐色。
8 椀(S)	口(14.0) 台(6.0) 高 5.1	図示部欠	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕弱い。高台は均整のと れた丁寧な取付である。	①素地普通。細礫・土粒等の混入で粗く見える。② 還元焰、普通。③灰白5Y7/2。外底で口縁周辺など黒 色味をおびる。

遺物観察表編

9 小型甕 (H)	口(12.0) 頸 11.0~10.5 胴 14.5	カマド内 図示部中口縁迄 胴部迄欠く	輪積みか。頸部内面に顕著な接合痕あり。外面幅広くやや鋭い削り。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物目立つ砂粒含む。②酸化焰、二次火熱の影響で脆弱化。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味強いムラあり。④外面片側半分に中位~上位のスス附着。
10 甕(H)	口(19.8) 頸(18.2) 胴(22.6)	カマド内 口縁迄 胴部迄	輪積み痕が内面中位以下に残る。外面削り鋭いが、口縁部ナデは雑で無調整部分を残す。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/3。赤色味・黒色味のムラ多く一様でない。
11 壺(S)	口(20.0) 頸(17.4)	埋土 口縁迄 肩部迄	右回転クロコか。横ナデ弱く不明瞭。内面はクロコ不使用の粗いナデ。口縁の歪み強く、傾き不安。	①やや緻密な素地だが、黒色鉱物・白色細礫等の混入多く粗い。②還元焰、硬調。③灰N6/0。口縁付近明度低い。肩部に黄白色の降灰釉。
12 台付甕	台上 4.9 台下 9.7	埋土 図示部中裾部迄 欠く	全体に厚手で重量。外面削り丁寧で鋭い。台部は強いナデで平滑。内面も平滑でへら状工具痕残る。	①素地普通。砂粒以外の混入物まれ。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。外面に黒色味の強いムラあり。
13 甕(H)	口(20.0) 頸(19.0)	埋土 口縁迄 肩部迄	頸部外面には巻上げ状の接合痕あり。外面やや淡く丁寧な削り。ナデも丁寧で内面平滑。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス等含む。②酸化焰、甕類としてはやや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおびるムラあり。
14 土製品		埋土 半欠品	直径6cmほどの円盤状土製品と見られる。端部に指頭の強い押圧があり、平滑さを欠く。	①素地普通。チャート細礫・輝石・パミス等混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR6/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり。
15 甕(H)	口 19.7~18.9 頸 18.4~18.1 胴 22.0 底(3.8)	カマド内 上半迄 下半迄	輪積みか。削り、ナデともに強く、器面に凹凸多く、歪みも強い。やや厚手で重量あり、底部は接合できない同一個体片である。	①素地普通。細礫少量含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③暗赤褐2.5YR3/2。内面にぶい橙5YR6/3。④外面胴中位以下に薄くスス附着。
16 甕(H)	口(21.2) 頸(19.4) 胴(22.0) 底 4.9~4.6	口縁迄 肩部以下迄	接合できなかった口縁と胴以下とを還元。外面削りやや粗く鋭い。内面工具使用ナデは一部ハケ目状。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等含む。②酸化焰、やや軟調。③橙2.5YR6/6。外底付近に黒斑。内面にぶい黄褐10YR5/3。

III区 31号住居跡 (第279図)

№・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.3	埋土	外面縦へら磨き。内面は指頭によるナデ。脚部円孔は3カ所。外面に赤色塗彩。	①粗~細砂を含む。②普通。③橙色。
2 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。無文部と内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①輝石の粗砂が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
3 甕(Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lと思われる。	①長石・軽石・輝石等の粗粒を含む。②普通。③橙5YR6/6。
4 甕(Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2L。	①長石・赤褐色粒・安山岩片等粗粒を多く含む。②普通。③橙5YR6/6。
5 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①軽石・長石・石英・輝石等の粗~細粒を含む。②普通。器壁は還元ぎみ。③にぶい橙5YR6/4。

1 竪穴住居跡出土遺物

6 甕(Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2L。	①長石・石英・チャート・輝石等の粗粒を含む。②普通。③橙7.5YR7/6。
7 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第2種RL+R、LR+Lと思われる。	①輝石安山岩・角閃石等の粗砂が目立つ。②やや硬調。③褐灰10YR6/1。

III区 33号住居跡 (第282図 PL.80)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 16.9~16.4 高 4.7	北壁際床直上 口縁端部 $\frac{1}{2}$ 欠く	底部に歪みあり。外底削りは丁寧で鋭く、無調整部分も凹凸ない。ナデも丁寧で平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・石英まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR7/6。赤色味をおびるムラ広い。
2 杯(H)	口 13.5 高 3.7	西壁直下床直上 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りは粗くやや強い。内面ナデ丁寧で、ぬれた状態で拭っている。口縁内端に無調整部分もあり。	①素地やや緻密。砂粒等少量含む以外、混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。
3 杯(H)	口(13.2) 高 3.0	北西隅床直上 口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りは細かくやや雑で無調整部分広い。口縁ナデは外面で稜下まで及び内側では弱い。	①素地やや粗いが砂粒以外の混入物少ない。気泡まじる。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面に黒色味の強い部分あり。
4 甕(H)	口(22.2) 頸(18.8)	埋土4片 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	外面削りは弱く粗い。ナデはやや丁寧だが、頸部外面で弱い。	①素地普通。砂粒やや多いが他の混入物まれ。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。広いムラ多く一様でない。④外面不均等にスス付着。
5 瓶(S)	台上 8.9~8.5	北西隅 図示部ほぼ完存	右回転クロー→底部付近手持へラか→クロー使用高台取付。内面のクロー痕著しい。	①素地やや粗く、黒色鉱物や砂粒含む。厚手だが大粒夾雑物含まない。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。外面一部黒色味をおびる。

III区 34号住居跡 (第283図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 不明 鉄製品	幅 1.59~1.53 厚 0.20~0.09	埋土	板状品で片側やや尖るが刃ではないようである。薄手だが歪みは少ない。一端は完存か。	①錆化によるふくれ多く、あまり良くない鉄地金と思われる。

III区 35号住居跡 (第284図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(12.8) 底(6.8) 高 3.8	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{4}$	右回転クロー→回へラ無調整か。クロー痕きわめて弱い。	①素地普通。片岩質細礫まじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③青灰10BG6/1。内面やや明るい。
2 杯(S)	口 12.2 底 6.7 高 3.5	西壁寄床直上 完形	右回転クロー→切離し不明。外底は弱い手持ちへラ削り、またはナデで平滑。クロー痕やや弱い。	①素地普通。細礫・チャート・赤褐色鉱物等混入物雑多。②酸化焰か、硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面重焼き状に黄色味強く内底は灰白色。④外底中央に墨書「甲」。
3 杯(H)	口 12.1~11.8 高 3.5	北東隅掘込底面 より3cm上 ほぼ完形	外底削り息長く鋭い。無調整部分も凹凸少ない。内面強いナデだが成形時の凹凸残る。	①素地普通。細礫・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味・黄色味をおびるムラあり。

遺物観察表編

III区 36号住居跡 (第285図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.0) 底(7.4) 高 3.6	中央床上33cm 1/4個体	右回転ロクロ→回ヘラ→底部縁辺回転ヘラ削りで鋭い擦痕残る。ロクロ痕やや弱い。	①素地やや粗くボソボソ。黒色鉱物まじりの砂粒含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1。内面やや黄色味をおびるが全体にムラない。
2 杯(H)	口(14.2)	中央床上14cm 口縁1/4 底部1/4	外面は体部中位で屈曲し、その下側まで鋭い削り。内面丁寧なナデで平滑。口縁外面のナデやや雑。	①素地普通。パミス・細礫まじりの砂粒多く器面ややザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。外面に赤色味をおびる部分あり。
3 杯(H)	口(16.0)	北西隅床上26cm 図示部1/4	外底削り弱い。無調整部分広く凹凸残る。内面丁寧なナデで布状具の擦痕残る。口径不安。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石等含むが、いずれも微細である。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。
4 瓶(S)	底 7.1~6.8	中央床上33cm 図示部中体部1/4 欠く	右回転ロクロ。外底ナデで切離し痕消すが、回転ヘラ切りか。体部下端に回転ヘラ削りを加える。瓶としては内底平坦。	①素地やや粗くボソボソ。黒色鉱物目立つ砂粒多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に緑黄色の降灰釉。④内面厚くタール状の付着物あり。
5 甕(H)	口(21.4) 頸(18.6)	カマド内 図示部1/4	外面削りやや強い。ナデはやや強く、鋭い擦痕残る。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物等雑多な夾雑物含む。②酸化焰、甕類としては硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面黄色味をおびる。

III区 37号住居跡 (第286・287図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕	口 23.1~22.5 頸 19.0~18.5 胴 20.2 底(4.4)	カマド北側床直上 上半ほぼ完形 下端1/4欠く	輪積みか。接合痕はほとんど観察できない。外面やや鋭く丁寧な削り。内面幅広の工具使用の強いナデ。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物・輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黒斑や黄色味をおびるムラあり。④外面に一部に片寄って薄いスス付着。
2 甕(H)	口(21.8) 頸(18.6) 胴(22.0)	カマド前面床直上 図示部1/4	輪積みか。外面幅狭の丁寧な削り。口縁と内面のナデ丁寧で工具痕不明瞭。口縁端部僅かに肥厚。	①素地普通。白色砂粒等細かな混入物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。赤色味・黒色味のムラあり。④二次火熱でやや脆弱。
3 甕(H)	口(23.6) 頸(18.0) 胴(20.4)	カマド前面床直上 図示部1/4	外面削り強く鋭い。ナデは丁寧だが、頸部にのみ顕著な接合痕残る。	①2に類似する。②酸化焰、甕類としてはやや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面明るく黄色味もやや強い。④外面縦位に片寄ってスス付着。
4 杯(H)	口 12.4~12.2	埋土 図示部1/4	外底削り強く、鋭い擦痕が沈線状に器面を傷つけている。無調整部分は少ない。内面ナデ丁寧。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味をおびるムラあり。
5 杯(H)	口(13.8)	埋土3片 図示部1/4	外底削りやや強く粗く、器面不整。無調整部分も広い。内面ナデ丁寧。	①素地普通。パミス・石英まじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒斑広い。
6 杯(H)	口 12.7 高 3.4	カマド内床直上 完形	外底削り強く粗く、器面不整。口縁部内傾し、端部内側へ僅かに肥厚。内面ナデ丁寧で、布状具の擦痕残る。	①素地普通。細砂やや多い。石英・細礫等少量含む。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。④外底に濃いススが斑状に付着。

1 竪穴住居跡出土遺物

Ⅲ区 38号住居跡 (第289図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 13.4~13.0 高 4.7	西壁際床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	外底削りやや強く雑。無調整部分は少ない。内面丁寧なナデだが、底部付近に成形時の凹凸明瞭に残る。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR7/6。外面一部赤色味をおびる。
2 杯(H)	口(13.6)	北西隅床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	外面息長く強い削りで無調整部分を残さない。内面ナデも丁寧で布状具のやや粗い擦痕が同心円状に巡る。	①素地普通。砂粒を含むが他の混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外底に黒斑広い。④内面に凍てハゼあり。
3 羽口	先端孔 2.1 先端径 3.6	埋土 3片 先端部 $\frac{1}{2}$	外面大半がガラス化し不明だが、ヘラ削り状の擦痕の残る所あり。内面には斜位のヘラ状工具の擦痕あり。	①白色粗砂等含むがスサ状の夾雑物なし。羽口としては緻密。③にぶい橙5YR6/4。④形状から銅精練羽口だが緑青は見られない。

Ⅲ区 39号住居跡 (第290図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.6) 高 3.0	埋土 2片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りはやや強く鋭い。無調整部分を残さない。内面ナデはやや丁寧だが器面は不整。	①素地普通。粗砂・輝石等の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面黄色味をおび、外面やや暗いムラあり。
2 杯(H)	口 13.1~12.7 高 3.1	埋土12片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	器面の剥落著しく、観察難しい。外面削りは弱い。口縁に波状の歪み。厚手でドッシリしている。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通か。③にぶい褐7.5YR5/4でほぼ一様。④内面を中心に全面に剥落すむ。二次火熱の影響か。

Ⅲ区 40号住居跡 (第293図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.2) 高 3.6	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	外面やや粗い削り。無調整部分も整っている。内面ナデやや雑。口縁に歪みあり口径不安。	①素地やや粗い。パミス・輝石・石英等雑多な夾雑物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。黄色味の強いムラあり。
2 杯(S)	口(13.0) 底(6.0) 高 3.7	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや強く器面不整。底部中央のみ薄くなっている。	①素地やや粗く、3mm大の細礫等大粒夾雑物の混入多い。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。口縁は暗く、内底赤色味をおびる。褐色の火ダスキ状のムラあり。
3 甕(H)	口(20.0) 頸(18.4) 胴(21.4)	カマド内 8片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面やや鋭い削り。ナデはやや丁寧で平滑に仕上げるが、頸部外面のみ凹凸残る。	①素地普通。輝石・パミス等細かな混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面やや明るい。④外面に不均等にスス付着。
4 甕(H)	口(21.4) 頸(19.4)	カマド内 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁外端にごく弱い沈線が巡る。胴内面がきわめて平滑で幅広の工具痕が残る以外、3と同巧である。	①素地普通。パミス・砂粒等を少量含む。②酸化焰、甕類としてはやや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面やや暗く、外面も一様でない。
5 土錘	長 3.5 厚 0.8	埋土 完形	平滑で、弱い指頭痕以外の整形痕を残さない。	①素地普通。石英等やや大粒夾雑物あり。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。黒斑あり。

遺物観察表編

III区 41号住居跡 (第294図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(10.2)	埋土 1/2個体	外底の削りはやや鋭い。口縁と内面は丁寧なナデで平滑に仕上げる。口縁に歪みあり口径不安。	①素地やや粗い。チャート・輝石等まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。断面明度高い。
2 椀	台 7.1	埋土 図示部中高台1/2 欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用と思われる雑な高台取付。ロクロ痕弱いが器面の平滑さにやや欠ける。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒多い。②酸化焰か。やや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4～黒褐5YR3/1。一様でない。
3 土錘	長 6.7 厚 2.7 重 21.2g	床下 縦割れの1/2	外面平滑だが弱い指頭圧痕と、かすかな擦痕が見える。内面に竹の表面のようなスジ状圧痕あり。端部削る。	①素地普通。粗砂・輝石・パミス等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒色味をおびる細かなムラあり。
4 土錘か	重 9.4g	埋土	歪み著しい。孔も端部付近以外は凹凸多い。土錘なら全長6.5cm、径3cm程となるか。	①やや粗く軽量。輝石・赤褐色鉱物まじる。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/3。一様でない。割口が摩滅している。

III区 42号住居跡 (第295図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型壺 (H)	頸(6.6)	埋土 図示部1/2	外面鋭い削りの上を雑な磨き。内面細かなナデだが器面不整。	①素地やや粗く、パミス・細礫まじりの砂粒もやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面赤色味をおびる。
2 不明	平坦部径 3.7	埋土 上半1/2欠く	外面は器面を平滑にするが、指頭痕がみられ、ナデではない。内面はハケ目後、指で雑なナデ。	①素地やや緻密で、チャート・軽石・長石等の粗～細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR5/3。④器形や整形の特徴から、「台」として使用したものか。

III区 43号住居跡 (第297図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 19.0 高 4.2	埋土 口縁1/2 底部1/2	外底やや強い削り。内面布状具のやや粗い擦痕の残るナデ。底部は内外面とも歪みあり。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物等混入物の雑多な砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。外面一部黒色味強い。④内面に薄いスス状付着物。
2 杯(H)	口 12.6～12.3 高 3.8	カマド右袖前床 下6cm 1/2個体	外底やや粗い削りで、器面は平滑さ欠く。ナデは丁寧。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。外底は大半が黒斑。
3 甕(H)	口(24.6) 頸(20.2) 胴(22.0)	カマド右袖脇床 直上 図示部1/2	外面やや鋭い削りで高位置まで縦位。口縁ナデやや雑で外面頸部に鋭い擦痕残る。内面ナデは幅広い工具痕残る。	①素地やや粗く、輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味・黒色味のムラ多い。④外面下半カマド粘土付着。
4 甕(H)	口(24.0) 頸(19.4)	カマド左袖前床 上10cm 図示部1/2	外面やや弱く丁寧な削り。口縁外面ナデやや雑で器面不整だが無調整部分は残さない。内面ナデは丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石の少量まじる細砂含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4、赤色味をおびるムラあり。④二次火熱受ける。
5 手づくね	底 2.1～1.8	カマド内 図示部完存	手づくね。体部下端に指頭圧痕残る。歪み大きく、形状不明。	①やや粗い素地で赤褐色鉱物等含む。②酸化焰、軟調。③にぶい黄褐10YR4/3。内面明るい。

1 竪穴住居跡出土遺物

III区 44号住居跡 (第299図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 10.1 高 3.1	南壁下床直上 完形	外底削りは幅広く強い。無調整部分も平滑。内面ナデやや雑だが器面平滑。	①素地普通。パミス・輝石等雑多な夾雑物まじる砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。外底に黒斑広い。
2 甕(H)	口 21.2~20.8 頸 15.9 胴 20.0 底 5.4~5.1 高 32.9	カマド内 胴上半 $\frac{1}{4}$ 欠く	外面削り、内面ナデとも丁寧で均整のとれた造りである。口縁端部の凹みは内側のみやや強い。内面ナデは板状の工具痕が顕著。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に赤色味・黒色味をおびるムラあり。④外面は口縁以外に広くカマド粘土付着。
3 甕(H)	口 23.8 頸 17.4 胴 20.6~19.8 底 4.3 高 35.7	カマド左袖床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部一部欠く	口縁は外方へ大きく開き、上端にのみ凹み巡る。外面削りやや粗い。内面やや平滑。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面黒色味をおびるムラあり。④外面に剥落やや多い。
4 甕(H)	口(20.8) 頸(16.0)	P3底面上48cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴上部 $\frac{1}{2}$	口縁から頸部へかけ著しく肥厚する。口縁端部は強く外反。外面削りやや鋭い。ナデは粗い布状具の擦痕残す。	①素地普通。輝石・パミス・チャート等雑多な混入物多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3で内面赤色味をおびる。外面も一様でない。
5 甕(H)	口(22.0) 頸(17.2)	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	外面の剥落著しく、不明瞭。口縁肥厚し端部は外反、内側は弱い凹み巡る。内面ナデは幅広い工具痕残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。④二次火熱の影響強い。
6 甕(H)	口 21.4~21.1 頸 16.4~16.2	カマド前面床直上 図示部中胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	外面幅広く息長い削り。口縁内側に弱い凹み巡る。内面ナデは平滑で鋭い工具痕残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味・黒色味のムラあり。
7 甕(H)	口(21.6) 頸(16.8) 胴 18.3~17.6	カマド内 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	外面削り幅広く息長く丁寧。口縁は両側から強い押さえで凹みが巡る。内面ナデやや丁寧。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で外面暗褐色部分広い。④胴中位付近にカマド粘土の付着多い。
8 砥石	幅 2.6~1.1 厚 2.5~1.3	埋土 一端を欠く	一面は自然面だが凹凸少ない。	①砥沢石。④断面糸巻き状の4面使用で全面とも研ぎ減り著しい。
9 ミニチュア(H)		P2底面より21cm上 図示部完存	巻上げか。外面に部分的に不規則な幅狭の削り。内面板状工具と指頭の強いナデだが器面不整。厚手で重量。	①素地やや粗く、パミス・赤褐色鉱物等雑多な混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面に黒斑広い。

III区 45号住居跡 (第301図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(K)	口 15.6~15.1 台 7.0 高 5.6	北東壁直下床上 10cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用丁寧な高台取付。ロクロ痕弱く、内底きわめて平滑。釉は漬掛け。口縁の歪み著しい。	①細礫を含む。素地緻密だが灰釉陶器としては悪い。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1。釉は灰黄色で内面厚い部分では灰緑色。
2 碗	台 6.1	南東隅床下5cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕は全体に弱い。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒少量含む。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。一部赤色味をおびる。小さな黒斑あり。
3 瓶(K)	胴(16.6)	中央南寄床上10cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。内面でロクロ痕細かく強い。外面はロクロ上倒置のヘラ削りか。釉はハケ塗り。	①素地緻密。黒色鉱物僅かに含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y7/1。釉は灰黄色で厚い部分は黄色味強い。

遺物観察表編

III区 46号住居跡 (第302図 PL. 82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(H)	口(17.2) 頸(14.4)	中央西寄床上10cm 図示部欠	外面やや雑なハケ目の上に口縁上半のみ強いナデ。内面もやや雑なナデで、口縁下半のみハケ目状の痕跡。	①素地やや粗く、長石・細礫等雑多な混入物が多い。 ②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。明度の低いムラあり。
2 器台(H)	口 7.0 脚上 2.7	南西隅床直上 図示部完存	脚上位に3孔を穿つ。身部内面と脚部外面に雑で強い磨き。他は器面不整。口縁の歪み大きい。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等大粒混入物含むが、他はまれ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/2。赤色味・黒色味強いムラあり。
3 高杯(H)	脚上 3.6	中央西寄床直上 図示部中口縁欠。	脚部に杯部を接合。外側より4孔を穿つ。磨きはやや鋭く粗いため器面平滑さにやや欠ける。脚内面は不整。	①素地やや粗い。細礫・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。
4 ミニチュア	底(3.4)	埋土 図示部欠	手づくね。外面に弱い指頭圧痕あり。外底平滑。内面もミニチュア土器としては平滑である。	①やや粗い素地に、砂礫・長石・赤褐色鉱物等の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③灰褐5YR4/2。内面やや暗い。
5 紡錘車	上 4.5 下 2.6 厚 3.1 孔 0.8~0.7	埋土 ほぼ完形	紡錘車としてはいびつ。孔もやや歪み斜めに穿たれている。	①軽石(ニツ岳)。④二次火熱を受け一部で赤色味をおびる。細かな剥落が多い。

III区 48号住居跡 (第305図 PL. 82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.2) 底 6.4 高 3.7	カマド内床直上 口縁欠 底部完存	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕やや強く、内底では渦巻き状。	①素地普通。白色砂粒・細礫まじりの細砂含む。②還元焰、普通。③暗青灰5BG3/1。内面やや明度高い。
2 杯(S)	口(12.6) 底(6.2) 高 3.9	西壁直下床直上 口縁欠 底部欠	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕やや強いが内底平滑。底部いびつで径不安。	①②1にはほぼ同じ。③暗青灰5BG3/1。口縁上半は明度低く、内面やや黄色味をおびる。
3 椀	口 14.2~13.6 台 6.3 高 6.0	カマド前面南側 床直上 口縁上半と底部の欠	右回転クロー→回糸→クロー使用の雑な高台取付。クロー痕は細かくやや弱い。口縁歪み平面だ円形状となる。	①素地やや粗い。細礫・黄白色砂粒等の混入物やや多い。②還元焰、やや不十分で軟調。③灰白7.5Y7/1。ほぼ一様。
4 鉢(S)	口 19.1 底 11.2~10.9 高 10.7	P7内床面より 8cm下 口縁欠	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕整美。内面上半はクロー痕弱い。口縁端部の整形は工具使用か。	①素地粗く、細礫の夾雑多い。②還元焰、やや軟調。③灰白10Y7/1。外面に暗いムラあり。

III区 49号住居跡 (第307図 PL. 82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 13.8~13.5 底 6.8~ 6.2 高 3.9	北壁直下床直上 9片 口縁上半 欠	輪積み状の接合痕が残る。外面削りは幅広く鋭いが、指頭痕状の凹みの上では無調整となる部分あり。内面と口縁外面は同心円状の強いナデ。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物・バミス等やや大粒夾雑物あり。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。外面色相の異なる広いムラ多い。④口縁外面に墨書あり。「形井」か。
2 紡錘車	上 4.3~4.1 下 2.9~2.7 厚 2.4 孔 0.8	北壁直下床直上 完形	紡錘車としては形がいびつである。上面が最も平滑。孔は径が一定だが中心から僅かにズレている。	①砥沢石。②側面に小さな剥落あり。火熱を受けて脆弱化している。

1 竪穴住居跡出土遺物

III区 52号住居跡 (第310図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロか。内面磨き、外面摩滅で成形痕残らない。外面下半に棒状の圧痕のような凹みあり。	①やや粗くボソボソ。細礫・赤褐色鉱物含む。②酸化焰か、軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4で黒色味強いムラあり。内面黒色処理で弱い光沢。
2 甕(H)	口(18.4) 頸(16.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外面肩部は幅広のやや鋭い削り。頸部ナデはやや雑で中位に無調整部分が残る。内面丁寧なナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。暗いムラ広い。

III区 53号住居跡 (第312図 PL. 82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(6.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用丁寧な高台取付。ロクロ痕は外面のみで、内面は平滑。	①素地普通。黄白色砂粒・石英等少量含む。②酸化焰か、硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。明度のやや低いムラあり。
2 紡錘車か	上 4.8~ 4.3 下 4.3~ 4.0 厚 2.1 孔 1.0	埋土 ほぼ完形	両側面が平坦になり、砥石に転用した可能性あるが、不明瞭。全体に平滑さ欠く。	①砥沢石。④細かな擦痕が多いが、方向より紡錘車の整形痕と思われる。

III区 54号住居跡 (第313図 PL. 82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.0) 底 5.3 高 4.6	埋土7片 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱いが器面は平滑さ欠く。口縁内端に弱い稜が規則的に巡る。	①素地やや粗い。砂粒やや多い。②還元焰、やや軟調。③灰5Y6/1。やや暗いムラあり。④外底摩滅進む。
2 杯	口(14.0) 底(8.0) 高 3.4	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外面粗く強い削りで中位の指頭痕状の凹み残る。外底中央寄りに砂粒の付着多い。口縁は強いナデ。内面同心円状のナデだがロクロ不使用。	①素地やや粗く、細礫・石英・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや軟調。③灰5Y6/1でほぼ一様。
3 椀(H)	口(14.0) 台(6.8) 高 5.8	埋土 上半 $\frac{1}{2}$ 下半 $\frac{1}{2}$	ロクロ不使用。端部のみナデ強い。高台取付丁寧。外面は幅広の鋭い削り、内面は口縁が弧状、底部は一方向の雑な磨き。口縁の歪み著しい。	①素地粗い。チャート・赤褐色鉱物等やや大粒夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。口縁端部黒色。内面黒色処理で弱い光沢。④口縁外面に墨書あるが判読できない。
4 土釜	口(25.0) 頸(24.2)	埋土3片 図示部 $\frac{1}{2}$	小破片からの復元で径不安。外面削りやや強い。口縁と内面のナデは布状具の細かい擦痕が鋭く巡っている。	①素地やや粗い。細礫・輝石・赤褐色鉱物等雑多な混入物含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。やや明度の低いムラあり。
5 釘	頭部幅 0.95×0.70 中央幅 0.65×0.55	埋土 先端部わずかに欠く	折頭式の釘と思われる。断面は基部で長方形。中央からは正方形となる。	①錆化のため不明瞭だが、釘としては悪くない鉄地金である。④中央から先端にかけて緩やかにねじれている。頭部わずかにつぶれる。
6 土錘		埋土 一端の $\frac{1}{2}$	端部に強い指頭状の擦痕あり。表面の平滑さやや欠く。	①素地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。

遺物観察表編

III区 55号住居跡 (第315図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口(10.0)	埋土 図示部残	右回転ロクロ。天井部端部を除きロクロ使用ヘラ削り。内面カエリの形状は一定でない。鈕の付くもの。	①素地やや粗い。細礫・パミス等雑多な夾雑物含む。 ②還元焰か、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。断面彩度低い。
2 杯(S)	口(10.0) 底 6.0 高 4.7	中央南寄床直上 口縁残底部残	右回転ロクロ→回ヘラか→底部雑な回転ヘラ削り。ロクロ痕弱い。内面にブクを生じている。	①素地緻密。黒色鉱物まじりの砂粒少量含む以外夾雑物まれ。気泡がまじる。②還元焰、硬調。③灰白10Y7/1で断面までほぼ一様。
3 杯(S)	口(13.6)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→切離し不明→外底ロクロ使用の鋭い削り。内面ロクロ痕弱いが器面平滑さ欠く。	①素地やや粗く、白色砂粒等の夾雑物やや多い。②還元焰、硬調。③灰白N7/0で断面まで一様。
4 杯(H)	口(10.8) 高 3.0	埋土 口縁残 底部完存	外面削りは幅広くやや鋭い。内面のナデやや粗い。口縁に小さな歪みあり。	①素地普通。パミスまじりの砂粒少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。外面で赤色味、内面で彩度の低いムラ広い。
5 杯(H)	口(9.4) 高 3.7	埋土 図示部残	外面削りは細かく鋭く、無調整部分を残さない。ナデは丁寧だが擦痕をほとんど残さない。	①素地普通。輝石・パミス散見の砂粒含む、ややザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
6 杯(H)	口(10.2)	埋土 残個体	外面削りやや強く、無調整部分を残さない。内面平滑。歪みのない丁寧な造りである。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス・輝石等雑多な夾雑物含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に黒斑あり。
7 杯(H)	口(12.0)	西壁際床直上 図示部残	口縁中位が肥厚する。外面削りやや強く鋭い。	①粗砂やや多く器面ザラザラだが素地は普通。輝石・赤褐色鉱物含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外底で彩度低い。
8 杯(H)	口(12.2)	埋土3片 図示部残	器面の摩滅すすみ不明瞭。外底削りはやや強い。底部の凹凸大きい。	①素地緻密。赤褐色鉱物やや多い。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6。断面中央灰色。
9 杯(H)	口(12.8)	西壁際床上21cm 図示部残	口縁端部内傾し小さく凹む。口縁外面下端は不規則な沈線巡る。外面削りやや鋭く、底部薄い。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③灰褐7.5YR4/2。黒色味強いムラあり。断面明度高い。
10 甕(H)	口(20.0) 頸(16.2)	埋土2片 図示部残	口縁外面のナデ強く、沈線状の凹み巡る。外面削りやや雑。内面ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面は褐色灰色。
11 甕(H)	口(20.6) 頸(16.0) 胴(18.4)	埋土 図示部残	器面荒れて整形痕不明瞭。口縁内端は強い凹みが巡る。外面は頸部まで丁寧なナデの後、やや丁寧な削り。	①素地やや粗い。砂粒の混入も多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内外面とも黒褐色のムラが大半。④二次火熱受け外面脆弱化。
12 甕(H)	口(18.4)	西壁際床上6cm 図示部残	輪積みか。外面削りやや細かく強い。内面ナデやや雑で、接合痕が明瞭に残る。	①素地粗く、パミスまじりの粗砂混入多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。内面灰褐7.5YR4/2。
13 甕(H)	口(22.8) 頸(21.8)	埋土 図示部残	口縁ナデは粗い布状具の擦痕巡る。外面削りは幅広くやや強いが無調整部分を広く残す。	①素地やや粗く、輝石・パミス・赤褐色鉱物等雑多な夾雑物含む。②酸化焰、甕類としては硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黒斑あり。内面灰褐色。
14 甕(H)	口(19.6)	埋土 図示部残	外面削り幅広く鋭い。口縁と内面のナデはやや丁寧だが、器面に凹凸多い。	①素地やや粗く、細礫・赤褐色鉱物・輝石等雑多な夾雑物多い。②酸化焰、軟調。③灰褐5YR4/2。赤色味・黒色味のムラあり。④二次火熱受ける。

1 竪穴住居跡出土遺物

III区 56号住居跡 (第316図 PL. 82・83)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 11.7 高 4.3	北壁際床直上 完形	外面削り幅でやや鋭い。内面と口縁のナデやや雑で布状具の擦痕が同心円状に巡る。口縁端部小さく外反。口縁は小さく波状に歪む。	①ダスト状の素地。赤褐色鉱物少量含むが混入物少ない。②酸化焰、硬調。③橙5YR7/6。彩度の低い小さなムラあるがほぼ一様。
2 杯(H)	口 11.8 高 3.9	北壁際床直上 ほぼ完形	口縁端部小さく外反しやや肥厚。底部の丸み少ない。ナデ強いが器面不整。外面強い削りの後、鋭く削り直す。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6。内面赤色味の強いムラあり、外底には黒斑あり。
3 杯(H)	口 12.1~11.9 高 4.2	埋土 ほぼ完形	口縁外反し、端部は弱く尖る。外面削りはやや強く雑。ナデやや雑で口縁外面下半に強い布状具の擦痕残る。	①1に同じ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6。外底は黒斑広い。④外面は器面の摩滅進む。
4 杯(H)	口 12.3 高 4.5	北壁際床下7cm 口縁欠く	3に近いが薄手。器面摩滅し整形痕は不明瞭となる。外底削りはやや強い。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6でムラ少ない。外底に薄い黒斑あり。
5 杯(H)	口 11.7 高 4.1	北壁際床下7cm 完形	1に近い。口縁下端の稜弱い。口縁の歪みやや大きく、器面は不整。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6。外面に赤色味の強いムラあり。
6 杯(H)	口(20.2)	北壁際床直上 口縁欠く	全体に摩滅し、整形痕はほとんど判らない。口縁外面に接合痕残る。内面のナデは弧状か。	①1に同じ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6で断面までほぼ一様。④外底と縁内面の剥落進む。器面脆弱で二次火熱受けた可能性。
7 甕(H)	口 24.3~23.7 底 11.3~11.0 高 30.2	北壁際床直上 1/2個体	口縁外面のみ輪積み状の接合痕残る。口縁端部やや平坦。外面削りは幅広く丁寧。内面は雑な削りの上に指頭による息長く粗いナデ。	①素地普通。輝石まじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。黒色味・赤色味等のムラあり一様でない。

III区 57号住居跡 (第318図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.8)	中央東寄り床上 24cm 図示部欠	外面やや鋭く丁寧だが無調整部分を残す。口縁と内面のナデは丁寧に粗い布状具の擦痕が同心円状に巡る。薄手。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面やや彩度低い。
2 杯(H)	口(12.4)	中央東寄り床上 13cm 1/2個体	1にほぼ同巧。ナデの擦痕やや弱く、内面平滑に仕上げる。	①②1にほぼ同じ。③にぶい橙5YR6/4。外面口縁を中心に黒斑広い。
3 高台付杯	台(10.6)	中央東寄り床上 11cm 図示部欠	右回転ロクロ→切離し不明→底部全面回転ヘラ削り後、ロクロ使用高台取付か。ロクロ痕弱く、内底は平滑。	①素地普通。5mm大の細礫含む。白色砂粒の混入多い。②還元焰、やや硬調。③緑灰10GY6/1。外面に暗いムラあり。

III区 60号住居跡 (第321図 PL. 83)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴	口(10.3) 頸(7.6) 高 9.9	東壁際床直上 口縁欠 他は1/2	輪積みみか。整形痕不明瞭だが、外面のハケ目は細かい。歪み著しく、形状は一定でない。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・土粒等の大粒夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。外面に黒斑あり。④内面の剥落進む。
2 鉢(H)	口(9.6)	北壁直下床直上 図示部欠	輪積みみか。外面削り・口縁ナデは弱く雑で器面不整。内面は幅狭で、削りに近い強いナデ。	①素地やや粗く、パミス・輝石・細礫等、雑多な夾雑物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒色のムラ多い。④破損後に二次火熱受ける。

遺物観察表編

3 甕 (H)	口(24.0) 頸(21.0)	東壁際床直上 図示部迄	外面細かなハケ目上に、口縁部やや強い横位ナデ。頸部粘土紐貼付後に指頭の強い押圧。内面丁寧なナデ。	①素地普通。石英まじりの細礫含む。②酸化焰、やや硬調。③内面橙7.5YR6/6。外面全面黒褐色はススの付着によるもの。
4 台付甕 (H)	口(14.4) 頸(13.2) 胴(20.0)	東壁際床直上 口縁迄 胴部迄	外面やや粗いハケ目は強く深い。内面不明瞭だが平滑な仕上げ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの粗砂多い。②酸化焰、軟調。③にぶい赤褐2.5YR4/3～黒褐5YR2/1。内面特に黒い。④内面下半の剥落進む。
5 器台 (H)	脚上 3.3 脚下11.1	北隅床直上 図示部中裾端部 迄欠く	柱部に3孔を穿ち、外方は弱く面取りする。外面磨きは丁寧で強い。内面ハケ目状の弱い擦痕が残る。	①素地緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。明度・彩度ともまちまち。外面に黒斑あり。
6 高杯 (H)	脚上 2.7 脚下(11.6)	周辺 柱部迄 裾部迄	柱部に3孔を穿ち、外面面取り、内面も凸部を削り取る。外面は弱いが丁寧な磨きで平滑。内面も凹凸少ない。	①素地普通。赤褐色鉱物やや目立つ。粗砂まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味をおびるムラあり。

Ⅲ区 61号住居跡 (第322・324図 PL.83)

№・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (Y)		肩部	頸部に弱い凸帯を巡らし、部分的に弱い刻み目を施す。幅20mmの櫛Ⅱ種で直線文と波状文を施す。施文方向は時計回り。内面は粗いナデ。	①赤色の細礫・軽石・輝石・角閃石等の細砂を含む。②良好で堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 壺 (Y)		肩部	櫛Ⅱ種で波状文を重ねて施文する。内面はナデ。指紋を残す。	①赤色細礫・軽石・輝石・角閃石等の細砂含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
3 壺 (Y)		肩部	櫛Ⅱ種で直線文と波状文の交互施文。施文具は目の粗い板状のものⅡ種用いる。内面はナデ。	①赤色粒・角閃石等の細砂を含む。②堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
4 壺 (Y)		肩部	櫛Ⅱ種で波状文と直線文。内面はヘラ状具による横ナデ。	①赤色細礫・石英・軽石等の小～細砂を含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
5 壺 (Y)		肩部	櫛Ⅱ種で直線文。胴部は横ヘラ磨き。内面はヘラナデ。	①赤色細礫・軽石・輝石・角閃石等の細砂含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
6 壺 (Y)		肩部	櫛Ⅱ種で波状文と直線文。胴部は横ヘラ磨き。内面ナデ。施文方向は時計回り。	①赤色細礫・軽石・石英・チャート・輝石・角閃石等の細砂を含む。③にぶい橙7.5YR7/4。
7 壺 (H)	口 25.3 底 9.5～9.0 高 34.6～33.9	中央床上30cm 口肩部迄と胴中 位迄欠く	輪積み。外面口縁下端粘土帯には尖ったヘラの押圧による刻みあり。外面上半不明瞭。下半磨きの下にハケ目観察できる。内面ナデは鋭い擦痕残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細礫・石英等夾雑物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面にやや薄い黒斑多い。④外面肩部から胴中位にかけての摩滅進む。
8 壺 (H)	頸 6.9 胴 16.5～16.2 底 4.5	南東隅床直上 図示部中上半迄 欠く	輪積み。外面ハケ目残る上に縦位の幅太の磨き。胴部下端にツメの跡の残る押圧。外底蛇の目高台状。内面弱いナデ。	①素地普通。パミス・石英等のまじる砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③外面橙5YR6/6。黒斑や黄色味をおびるムラあり。内面にぶい黄橙10YR7/4。断面黒色。
9 小型甕 (H)	口 15.7～15.3 頸 13.9 底 4.7 高 14.1	中央床上25cm 迄個体 底部完存	輪積みか。胴中位に強い接合の段が残る。外面ハケ目は摩滅して不明瞭。内面はハケ目の上に胴中位で幅広く工具使用の強いナデ。口縁の歪み強い。	①素地普通。パミス・細礫・赤褐色鉱物等夾雑物雑多。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味・黒色味の強いムラが多く一様でない。内面暗い。④強い二次火熱受け、器面脆弱。外面の剥落多い。

1 竪穴住居跡出土遺物

10 甕 (H)	口(17.6) 頸(15.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	外面ハケ目は息短く単位の細かなもので、やや乱雑に施される。口縁ナデは強く丁寧。内面に幅広い工具痕。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③におい橙5YR6/4。赤色味・黒色味の強いムラあり。④二次火熱受ける。
11 甕 (H)	口(15.6) 頸(13.8)	中央床上35cm 図示部 $\frac{1}{2}$	ハケ目の単位粗く16mmで8本。内外面とも同一工具使用か。内面胴部は丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密で粗砂を含む。②酸化焰、硬調。③明黄褐10YR6/6。内面は黒ずむ。
12 台付甕 (H)	脚上 5.4 脚下10.4	埋土 胴部 $\frac{1}{2}$ 台部 $\frac{1}{2}$	ハケ目はやや強く、下→上で台部付近のみ逆。内面は整形痕不明瞭だが平滑に仕上げる。	①素地普通。チャート・赤褐色鉱物・粗砂等の混入が多い。②酸化焰、やや軟調。③におい黄橙10YR7/4。外面胴部と内面下半はスス付着で黒褐色。④内底剥落進む。
13 器台 (H)	口(8.6) 脚上 3.5 脚下10.2	南西隅床上6cm 身部 $\frac{2}{3}$ 欠く	脚部に3孔を穿つ。中央の孔きわめて大きく、柱部内面はしぼり目状。外面磨きは強いが粗く、磨き残しも多い。全体に厚手。	①素地普通。赤褐色鉱物・細礫等を含む。②酸化焰、やや硬調。③におい赤褐5YR5/4。外面にムラ多く黒斑も広い。
14 高杯 (H)	脚下12.8	中央床上22cm 柱部 $\frac{1}{2}$ 裾部 $\frac{1}{2}$	脚部に3孔を穿つ。裾端部は面取りして平坦に整える。外面磨きやや鋭い。内面上半に幅狭の工具使用ナデ痕。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等混入。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6。赤色味・黒色味の強いムラ多い。④破損後に二次火熱受ける。
15 手づくね	口 2.6 高 2.1	中央北寄り床上26cm ほぼ完形	手づくね。指頭痕が外面に弱い圧痕、内外に擦痕として残るが、器面の凹凸少ない。	①素地やや粗いが混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③におい黄橙10YR7/2。外面に黒斑広い。

IV区 1号住居跡(第327図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.0) 台 7.4~7.2 高 5.4	埋土 口縁 $\frac{2}{3}$ 欠く	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付で切離し痕ナデ消す。内面ロクロ痕は沈線上の鋭い凹みあり工具使用か。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。②中性焰か。硬調で焼締まる。③におい橙7.5YR7/4。赤色味・灰色味をおびるムラ多い。

IV区 2号住居跡(第329図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕 (H)	台上 5.7 台下 10.1	北壁直下床上8cm 図示部中裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く。	外面不規則なナデでハケ目を消す。脚内面に細かく強いハケ目残る。内面不整。底部著しく薄い。	①素地やや粗く、細礫・バミス等の混入物もやや多い。②酸化焰、普通。③におい橙7.5YR7/4。裾部付近は内外面とも黒色味強い。
2 器台 (H)	受 10.1 脚上 3.0	中央床上14cm 図示部完存	身部は口縁外面に横位ナデ。他はやや粗い磨きを施す。外面口縁下端には接合痕が明瞭に残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・バミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③におい黄橙10YR7/4。外面に薄い黒斑あり。
3 器台 (H)	口(15.8) 受(15.4) 脚上 3.4 脚下14.5 高 14.8	埋土 口縁の大半と、 身部・裾部の $\frac{1}{2}$ 欠く	脚中位に3孔を穿つが配置はややズレる。口縁下端で明瞭な接合痕を残す。外面整形不明瞭だが、ハケ目をナデ消しているようだ。裾下端は鋭く尖る。外面に靱の圧痕あり。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物等まじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり。
4 高杯 (H)	口(15.0) 脚上 2.9	北東隅床上9cm 脚柱部完存 口縁と裾部 $\frac{1}{2}$	脚柱部下端と裾部に各々3個の孔を穿ち、外面はすべて面取り。内面は下側の孔だけ縁を削る。外面磨きやや雑。脚内面にハケ目が明瞭に残る。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・細礫等やや大粒の混入物多い。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR7/6。外面に黒斑あり。断面黒褐色。

遺物観察表編

5 壺 (Y)		肩～胴上部	幅11mmの櫛状施文具による、直線文と波状文の交互施文。施文方向は時計回り。胴部は横へら磨き。内面はナデ。	①チャート・長石の2～7mm大の細塵を含む。②やや軟質。③器面が灰黄褐10YR6/2、器壁は浅黄橙10YR8/3。
------------	--	-------	-------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------

IV区 3号住居跡 (第332図 PL. 84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗 (K)	台(6.7)	北壁際攪乱内床下10cm 図示部%	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台取付で切離し痕ナデ消す。外面口縁下半に弱い回転へら削り。内面平滑。釉は漬掛けか。重焼き痕が残る。	①精緻な素地で、白色砂粒少量含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1で同様。釉は透明で濃い部分では灰緑色を呈す。
2 碗	口(12.0) 底 6.0 高 4.6	北カマド前床直上 口縁% 底部%欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く、外面下半では不明瞭。底部内端の押さえ強いが、ロクロ成形の鋭さは感じられない。	①素地やや粗く羽釜に近い。輝石まじりの砂粒を少量含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙10YR7/4。外面にムラ多い。④二次火熱受けるか、外面にタール状の付着物あり。
3 碗	口(14.0)	南カマド袖床直上 図示部 口縁%欠く	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付で切離し痕はナデ消す。内底はコテ状の工具痕が渦巻き状に残る。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰か、硬調。③橙7.5YR7/0。黒色味の強いムラあり。④高台剥落面摩滅している。
4 碗	台 7.6	北カマド前床上 5cm 図示部%	左回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕やや強い。	①素地やや粗い。バミス・石英等のまじる砂粒含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。灰色味をおびるムラあり。④高台端部摩滅すすむ。
5 土釜	口(21.6) 頸(21.2)	北カマド内床直上 図示部%	口縁部丁寧なナデの後、外面幅広の粗い削り、内面指頭の強く雑なナデ。	①素地やや粗くボソボソ。粗砂の混入多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/2～4。破片毎に色調異なる。④二次火熱受ける。
6 土釜	口(19.0) 胴(20.0)	南カマド内3片 図示部%	輪積みか。外面にきわめて雑な磨きが見られる。口縁ナデは工具痕残る。内面は不明瞭。	①素地やや粗く、バミス・輝石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰か、普通。③灰黄褐10YR6/2。外面黒色味強い。④内面の剥落すすむ。
7 羽釜	口(24.0) 鐙(27.6)	北カマド前床直上 図示部%	右回転ロクロ。鐙取付けも回転利用で丁寧。口縁上端は平坦。	①素地やや粗く、バミス・粗砂等の混入物やや多い。②中性焰か、普通。③浅黄橙10YR8/4。赤色味をおびるムラあり。④二次火熱受ける。
8 羽釜	口(19.6) 鐙(22.8)	カマド前 図示部%	輪積み。ロクロの使用は不明。鐙取付けもロクロ不使用で凹凸多い。外面幅広で息長い削り。内面幅広の工具使用の弱いナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含むが大型品としては緻密。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。黒色味の強いムラ多く一様でない。④二次火熱を受ける。
9 羽釜	口(28.0) 鐙(30.6)	北カマド内床直上 図示部%	輪積み。ロクロ不使用か。外面幅広の削り。内面指頭のナデの後、鐙を取付け、口縁のみ強い横位ナデを施す。傾き・径とも不安。	①やや粗いが重量のある素地。輝石・バミス等の混入やや多い。②酸化焰か、普通。③にぶい赤褐5YR4/4。黒色味をおびるムラ多い。④破損後にも二次火熱受ける。
10 刀子か		埋土 図示部片	切先側は割口ではない。棟と刃の区別できず、形態は不明。	①鉄地金はやや良好で、刀子と類推した。
11 土錘	厚 0.8	埋土 一端を欠く	内面に竹管状の縦位筋状の圧痕あり。器面平滑で僅かに表面指頭による弱い擦痕残る。	①少量の輝石以外混入物のまれな緻密な胎土。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。断面は彩度低い。

1 竪穴住居跡出土遺物

IV区 4号住居跡(第337図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.6) 底 5.3 高 3.8	カマド前床直上 口縁上半 $\frac{3}{4}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。外面に巻上げ痕状のヒビあり。ロクロ痕内面で弱く、平滑。	①素地やや粗く砂粒の混入多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y8/1。内外面の底部に重焼きの底部の痕のように黒斑状のムラあり。
2 杯(S)	口(13.2) 底(6.2) 高 4.1	南壁直下床直上 上半 $\frac{1}{2}$ 下半 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く全体に平滑。	①素地やや粗いが、少量の砂粒以外に混入物少ない。②還元焰か、普通。③浅黄2.5Y7/3。断面の一部で灰色味をおびる。
3 椀(S)	台(8.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付で切離し痕ナデ消す。ロクロ痕細かい。	①やや粗く、輝石・パミスまじりの砂粒多い。②還元焰不十分で軟調。③灰10Y4/1。内面やや明度高い。
4 椀	台 6.5	カマド内 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付でナデの範囲狭い。ロクロ痕は内面でやや細かい。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。明度の異なるムラあり。④外底に墨書「山」。
5 甕(H)	口 19.4 頸 17.3 胴(20.2)	カマド前床上13cm 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。口縁のナデ外面で粗い。外面の削りはやや鋭く丁寧。内面ナデは肩部付近にハケ目状の工具痕残る。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。内面やや彩度低い。④外面にカマド粘土少量付着。
6 羽釜	口(21.6) 鏝(25.2)	カマド前床上10cm 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。鏝取付もロクロ使用だが口縁とはねじれた状態で、別工程の取付の可能性。ロクロ痕内面で強い。	①素地やや粗い。パミスまじりの粗砂含む。②還元焰か、やや軟調。③灰白10Y7/1。黒色のムラが広い。④二次火熱受ける。外面にカマド粘土付着。
7 砥石	長 4.4 中厚2.0×1.6 端厚2.1×1.4 重 28.0g	埋土 ほぼ完形	四角柱状の小型品。使用面は長軸方向の4面で各面はおおむね平坦。割口は無使用。小口も無使用と思われる。	①砥沢石。鉄分少ない。④正面以外では横位の擦痕がやや目立つ。
8 土錘	厚 1.3 重 3.1g	埋土 半欠品	表面平滑で整形痕不明。	①素地普通。赤褐色鉱物・砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/3。断面明度高い。

IV区 5号住居跡(第339図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	底 5.1~4.9	貼床内 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや細かく、ほぼ同心円状に巡る。	①素地普通。細礫が僅かにまじる細砂含む。②還元焰、普通。③灰10Y6/1で断面までほぼ一様。
2 小型甕(H)	口(12.6) 頸(12.2) 胴(14.0)	東壁直下床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁ナデ、外面の削りともやや強く丁寧。内面も平滑で一部に工具痕残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・細礫等少量含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい褐7.5YR5/4。内面赤色味強い。④口縁内面にスス付着。
3 鉄鏃	幅 1.03~0.94 厚 0.58~0.40	東壁下 図示部片	断面方形で下方ほど細る。厚みのあることより鏃の茎と類推した。	①鉄地金はあまり良くないが、釘類ほど悪くない。
4 刀子	棟 0.53~0.43	東壁下床直上 図示部片	基部側の破片と思われ、研ぎ減りがすすんでいるようだ。	①鉄地金はやや良好。錆化する。
5 刀子	刀渡 9.41 棟 0.55~0.24 関長 0.78	埋土 刃部ほぼ完存 茎大半欠く	均等に研ぎ減りした整美な器形。茎部まで研ぎ込んでいる可能性。	④研ぎ減り著しく、現況は細身である。

遺物観察表編

6 刀子	棟 0.56~0.43 茎幅 1.41~0.44 茎上厚 0.52~0.18	東壁直下床直上 刃部先側欠く	刃部の錆化すすみ、不明瞭だが、研ぎ減っても刃部は直線的形状を保っている。	④茎基部まで研ぎ込み、刃区不明瞭。
---------	----------------------------------------------	-------------------	--------------------------------------	-------------------

IV区 6号住居跡(第340図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	台(6.2)	埋土 図示部残	右回転クロー→ロクロ使用の高台取付で切離し痕は削りに近いナデで消される。釉は漬掛け。	①素地緻密。黒色鉱物僅かに含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1。釉は透明で濃い部分で灰緑色を呈す。

IV区 8号住居跡(第342図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.2)	南東壁直下床直上 図示部残	口縁外面のナデは上半のみで下半無調整だが平滑。外底削りは鋭い。内面ナデは強く平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。断面は黄色味強い。
2 甕(H)	口(19.0) 頸(17.2) 胴(19.4) 底 5.2	東壁寄床直上 上半底部分近 ほぼ完存。	輪積みか。口縁不整で断面形状は一定でない。外面削りは息長く鋭い。内面ナデやや雑で平滑さ欠く。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。黒色部分広い。④強い二次火熱受け下半は内面も剝落。外面中位付近は広くスス付着。

IV区 9号住居跡(第344図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(S)	台(8.6)	埋土 図示部残	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台取付。高台端部は平坦。ロクロ痕弱く砂粒の動きも少ない。	①素地普通だが、片岩質の中礫まじりの砂粒多く粗い。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1でほぼ一様。
2 碗(S)	口(17.8)	埋土2片 図示部残	右回転クロー。ロクロ痕は外面のみやや強く、内面は平滑。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。一部青色味をおびる。一様でない。
3 土釜	口 25.8~25.3 頸 23.6 胴 26.7 底 10.3~9.5 高 29.8	上半欠く	輪積みか。口縁部のみ丁寧な横位のナデ。外面やや強い削りで上半無調整。内面指頭状の強いナデで器面は不整。底面凹凸多い。器形全体に歪みあり。	①やや粗い素地に、細礫・土粒・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。外面すすけていて黒褐色部分が大半。④二次火熱受けるが、器面の脆弱化少ない。

IV区 10号住居跡(第346図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.8)	埋土 口縁部破片	右回転クロー。ロクロ痕弱く、内面は平滑。小破片からの復元で口径不安。	①素地は軽量でやや粗い。混入物少ない。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1。④外面に墨書。墨痕薄く不明瞭だが「方」か。二次火熱受け外面一部にスス付着。

1 竪穴住居跡出土遺物

2 碗	台 6.6~6.4	カマド前面右寄 床上16cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸。高台取付雑でロ クロ不使用の可能性。内外面ともロク ロ痕きわめて弱い。	①素地粗い。輝石・細礫まじりの砂粒含む。②還元 不十分でやや軟調。③オリーブ黒5Y3/1。一部灰白 色。断面は黒色。
3 甕(H)	口 21.1~20.7 頸 18.9	南壁下床直 3片 口縁% 肩部%	頸部内外面に巻上げ状の接合痕残る。 外面削り、内面ナデとも丁寧。平面は 楕円形に歪む。	①混入物少なく、素地も緻密で良好。②酸化焰、や や硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。内面やや暗い。
4 小型甕 (H)	口(12.0) 頸(11.4)	東壁隅床直 5片 図示部%	口縁外面の接合痕は巻上げ状。内面肩 部に押圧に近い強い指頭のナデ。外面 削りは鋭い。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸 化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味強いムラ 広い。④二次火熱受ける。外面スス付着。
5 釘		南壁寄 両端部欠く	折頭式。身部の残存は良好で、直角に 近い側面が観察できる。	①鉄地金やや悪いが、錆化の影響はやや少ない。両 端の欠失は古いものである。頂部はつぶれる。

IV区 11号住居跡(第347図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.0) 底(5.8) 高 3.0	南壁寄床上5cm 口縁% 底部%	右回転ロクロ→回糸無調整。底部著し く薄い。ロクロ痕は外面のみやや強く 内面も平滑さ欠く。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・土粒・輝石等雑多な 夾雑物混入。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10 YR7/4。断面黒色味強い。④外面に墨書あり。墨痕 薄く判読できず。
2 杯	口(11.0) 底(4.4) 高 3.9	西壁中央寄床上 12cm 図示部%	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 やや弱い。全体に厚手で鋭さ欠く。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②中性焰か、 普通。③にぶい橙5YR6/4。黄色味・灰色味の強いム ラあり。
3 碗(K)	台(6.6)	埋土 底台部% 口縁下半%	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台 取付で切離し痕ナデ消す。ロクロ痕外 面でやや強い。釉は漬掛け。	①素地緻密。黒色鉱物僅かに含む。②還元焰、硬調。 ③灰白10Y7/1。釉は透明で、内面の厚い部分は灰緑 色。
4 甕	口(20.0) 頸(18.4)	カマド内 図示部%	外面削り雑で弱い。口縁のナデは鋭い 布状具の擦痕が巡る。内面弱いが丁寧 なナデでやや平滑。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒を含む。②酸 化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。黒色味の強い 小さなムラあり。
5 羽釜	口(26.0) 鏑(27.0)	貯蔵穴内とカマ ド内の7片 図示部%	輪積み。ロクロ不使用。口縁・鏑とも 歪み強い。外面削りやや弱い。内面ナ デやや丁寧だが接合痕残る。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒を含む。 ②酸化焰か、やや軟調。③にぶい褐7.5YR6/3。暗い ムラ多く内面は灰色味をおびる。
6 甕	底(17.6)	貯蔵穴内とカマ ド内の4片 図示部の約%	輪積みか。底部は粗い擦痕の強いナデ でやや歪む。外面の削りやや粗い。内 面ナデもやや雑。	①素地やや粗く、細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒含 む。②中性焰か、普通。③灰黄2.5Y7/2。黒色味をお びるムラあり。

IV区 12号住居跡(第349図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 11.5 底 8.1~7.7	南壁直下床上7 cmの3片 %個体	外底の削りは弱いが丁寧。口縁外面の ナデは上半のみで下半に指頭圧痕が顕 著に残る。内面ナデは丁寧。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒を少量含む。② 酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。 ④内面中心に広くスス付着。燈明皿として使用と見 られ、割口にもスス付着している。

遺物観察表編

IV区 13号住居跡 (第349図)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(7.4)	カマド脇住居外床直上 口縁下半 $\frac{1}{2}$ 底台部 $\frac{1}{3}$	外底砂底で型造りか。内面ナデは方向不定だが丁寧。外面は下半に息長いヘラ削りの後、やや粗い高台取付。	①素地粗い。金雲母・長石等雑多な夾雑物やや多い。外底の砂粒にも金雲母を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐10YR5/3。明度低いムラ広い。④高台端部摩滅進む。
2 甕	口(20.6) 頸(18.4) 胴(22.2)	東壁中央寄床上8~11cm 10片 図示部 $\frac{1}{2}$	胴部下半に強い接合の段ができる。口縁は歪み、端部の形状は様でない。外面幅広のやや鋭い削り。内面のナデもやや平滑に仕上げる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面の大半は黒色。④外面最大径部分にやや厚くスス付着する。
3 甕	口(21.8) 頸(21.0) 胴(24.0)	カマド内床上12cm 4片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。口縁のナデやや雑で外面に接合痕明瞭。外面の削りは強く器面に凹凸できる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細礫まじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4でほぼ一様。④内面下半やや摩滅する。

IV区 14号住居跡 (第350図 PL. 84)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿(S)	口12.7 底5.9~5.7 高7.6	南西壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。口縁端部外反するが器形に鋭さ欠ける。	①素地普通。やや重量。やや大粒の長石・チャート等を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰5B4/1。内面やや明度高い。
2 椀(S)	口(13.6) 台(7.4) 高5.3	南西隅床上10cm 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 下半 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用雑な高台取付。雑な横ナデだが内面はやや平滑。口縁端部は尖り気味に外反。	①土粒まじりの粗い素地だが混入物少ない。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1でほぼ一様。
3 甕(H)	口(20.0) 頸(18.2)	南西壁直下床直上 5片 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁外端にやや鋭い沈線が巡る。コの字状口縁の屈曲は上側で明確。頸部外面ナデの下に指頭痕あり。	①やや緻密な素地。赤褐色鉱物まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒色味をおびるムラあり。

IV区 15号住居跡 (第352図 PL. 84)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.2) 底6.2 高4.1	南壁中央寄床直上 3片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底は砂粒多く型腐状。外面はやや強い指頭圧痕が並び、口縁端部のみ強いナデ。内面上半は粗い擦痕残るナデで下半は指頭痕が残る。	①素地やや粗いが砂粒以外の混入物少ない。②酸化焰か、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面中心に黒色味の強いムラ広い。
2 椀	口(13.8)	カマド前床直上 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 下半 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。回転利用の高台取付。ロクロ痕内面で強く、器面不整。	①素地普通。細礫やや多い砂粒を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。内面彩度低い。
3 甕(H)	口(18.8) 頸(17.6)	カマド内床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	頸部外面にやや太い沈線巡る。口縁外端にも弱い凹みあるが、形状一定しない。外面削りやや鋭く、内面ナデは丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③外面にぶい赤褐5YR5/4、内面橙5YR6/6。

1 竪穴住居跡出土遺物

IV区 18号住居跡 (第349図 PL. 85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.0) 台(7.0) 高 5.3	東壁中央寄床上 10cm 上半 $\frac{1}{2}$ 下半 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付と口縁下半の回転ヘラ削り。内底縁辺に重焼き時の高台痕の凹みあり。軸は漬掛け。	①素地緻密。黒色鉱物を僅かに含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1。軸は黄色味をおび、厚い部分では灰緑色を呈す。
2 椀	口 14.2~13.9 台(6.8) 高 5.4	東壁中央寄床上 8cm $\frac{1}{2}$ 個体	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕細かい。内底では粗い布状具の鋭い擦痕が渦巻き状に巡る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②中性焰か、やや軟調。③灰褐5YR4/2。黒色味をおびるムラあり一様でない。
3 椀	口 14.0~13.2	東壁直下床直上 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付で切離し痕ナデ消す。ロクロ痕は外面と内底でやや強い。厚手で重量。	①素地やや緻密。細砂のやや多い砂粒含む。②還元焰、不充分。燻を加えるか。③黒褐7.5YR3/1。断面は明るい。④高台割口は摩滅し平滑。外面に焼成後の線刻「×」あり。

V区 1号住居跡 (第356図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢 (H)	口(22.4)	南壁際 5片 図示部 $\frac{1}{2}$	長く引き伸ばす接合痕が、断面より観察できる。口縁ナデは布状具の擦痕残る。外面削りやや粗く、内面下半のナデはヘラ状の工具痕残る。	①素地普通。砂粒やや多いが、他の混入物まれ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6。外面に黒斑あり一様でない。④口縁中位内面に細かな剝落多い。

VI区 3号住居跡 (第359図 PL. 85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(14.0) 高 3.4	埋土 口縁僅か 底部 $\frac{1}{2}$	外底の削りは粗く弱い、底部縁辺は丁寧。内底に崩れたラセン状の強くて雑な暗文。口縁にも斜放射状の暗文が巡ると思われる。器面には細かな凹凸多く、平滑さ欠く。	①素地やや緻密。混入物少なく良好。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。外面に明度の低いムラあるがほぼ一様。

VI区 4号住居跡 (第359図 PL. 85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 盤 (H)	口(16.0)	埋土 図示部小片	内面丁寧に鋭い斜放射状の暗文巡る。外底は弱く丁寧な削り。外面横位ナデは上端のみで、中位以下は無調整部分広い。小片からの復元で口径不安。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。黒色味おびる小さなムラあり。断面明度高く、一部で灰色味をおびる。
2 土錘	径 0.7 重 1.5g	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	表面平滑で、外面に整形痕見えない。	①素地やや緻密。混入物少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/3でほぼ一様。

遺物観察表編

VI区 5号住居跡(第360図 PL. 85)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口(18.4)	カマド付近 図示部%	右回転ロクロ→天井部回転ヘラ削り。 ロクロ痕弱い。	①素地普通。黒色鉱物まじりの粗砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白N7/0。内外面に火ダスキ状の黒色ムラあり。
2 高台付杯(S)	口 16.1	中央床下6cm 図示部%	右回転ロクロ→底部全面と口縁下端に 回転ヘラ削り→ロクロ使用高台取付。 ロクロ痕弱く細かい。高台剥落後、すり潰して再使用する。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物の目立つ砂粒やや多く含む。②還元焰、やや軟調で不充分。③灰白10Y7/1。暗いムラあり一様でない。④内底は研ぎ込んだように平滑。二次火熱受ける。
3 杯(H)	口 14.1~13.7 高 4.1	中央床下6cm 口縁%欠く	右回転ロクロ→底部全面と体部下端に 回転ヘラ削り。内面平滑でロクロ痕不明瞭。内底も広く平坦。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/2。外面は黒色部分広い。④外底に墨書2文字。「大」ともう一字は判読できず。
4 砥石	中厚 3.5×1.4 端厚 4.1×3.6 重 136.6g	中央床下7cm 半欠品か	長軸断面糸巻き状となるか。4面を主な 使用面とし、正面・裏面が強い凹面 になる。小口にも僅かに使用面残る。	①砥沢石。混入物・鉄分やや多い。④使用痕は方向不定で、側面で擦痕強い。小口に一方の強い傷が並ぶ。

VI区 7号住居跡(第364図 PL. 85)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.6)	埋土6片 口縁% 底部%	外底やや雑で弱い削り。口縁外面は上 半のみ雑なナデで下半無調整。器形の 歪みや強く、口縁形状一様でない。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
2 砥石	中厚 3.9×3.6 端厚 3.7×1.6 重 177.8g	南壁直下 一端を欠く	長軸断面三角形。小口・割口を除く全 面使用。裏面の使用が顕著で強い凹面 になる。	①砥沢石。混入物やや多い。④強く息長い傷が各面に見られる。擦痕も息長く鋭い。

VI区 8号住居跡(第366図 PL. 85)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(14.0) 底 7.9 高 3.9	カマド前2片 %個体	右回転ロクロ→回糸無調整。厚手で端 部のみやや細る。ロクロ痕弱く器面平 滑。	①素地やや粗い。細礫の少量まじる砂粒を含む。②還元焰、やや硬調。③灰白7.5Y7/1。外面一部暗い。④口縁上端やや摩滅する。
2 甕(H)	口(20.8) 頸(18.0)	南壁直下3片 図示部%	口縁端部外方に僅かに肥厚するが形状 は一様でない。外面は丁寧でやや弱い 削り。内面ナデも丁寧で、口縁に粗い 布状具の擦痕、胴部に工具痕が残る。	①素地やや粗く、粗砂を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面一部黒色味が強い。④外面カマド粘土付着する。二次火熱の影響は少ない。
3 甕(H)	口(21.0) 頸(17.8)	北壁直下床直上 8片 口縁% 肩部%	2にほぼ同巧。口縁内面のナデは擦痕 不明瞭。内面ナデの工具はやや幅狭。	①②2にほぼ同じ。③にぶい橙5YR6/4。赤色味おびるムラあり。④内面一部に凍てハゼあり。

1 竪穴住居跡出土遺物

VI区 10号住居跡 (第369図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.6)	中央床直上 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁端部内側に肥厚。外底はやや粗い 削り。口縁外面下半はナデが及ばず、 型膚状の不整面が残る。	①素地やや粗い。砂粒含む。②酸化焰、普通。③に ぶい橙7.5YR6/4。断面は彩度低い。
2 台付甕 (H)	台上 4.1~ 3.8 台下 8.5~ 8.3	北東隅床上 5cm 図示部完存	台部内面に布による幅の広いナデ。外 面に接合痕あり。	①素地普通。輝石まじりの細砂やや多い。②酸化焰、 やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。暗いムラあり一様で ない。④器面に凍てハゼ状の剥落多い。
3 甕 (H)	口(23.6) 頸(20.8)	カマド前面床直上 上17片 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部上半 $\frac{1}{2}$	口縁端部やや外方へ肥厚する部分ある が、形状は一様でない。口縁部内外面 に接合痕が残る。外面削りはやや鋭く 丁寧。内面ナデは工具痕残る。	①素地普通。細礫・輝石の僅かにまじる砂粒を含む。 ②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。内面やや明 るい。④外面にカマド粘土少量含む。

VI区 12号住居跡 (第371図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.6~14.4 底 8.8 高 3.7	カマド内 8片 口縁欠く	右回転クロー底部全面に幅広の回転 ヘラ削り。クロー痕弱い。	①素地普通。細礫・黒色鉱物等やや多い砂粒含む。 ②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。外面に明度低いム ラ広い。
2 杯 (H)	口 13.3~13.0 高 3.4	カマド前床直上 3片 ほぼ完形	外底は鋭いがやや弱い削りで、縁辺に は削り残りあり。口縁外面ナデは上半 のみで布状具の粗い擦痕が残る。内面 ナデはやや丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。② 酸化焰、普通。③橙5YR6/6。内面やや彩度が低い。 ④内底に薄いスス状の付着物あり。
3 杯 (H)	口 12.9~12.7 高 3.4	北東隅床直上 3片 ほぼ完形	2に近い。口縁端部一部で内側へ肥厚 するが形状一様でない。	①②③ 2 にほぼ同じ。
4 杯 (H)	口 13.9 高 3.7	北東隅床直上 5片 ほぼ完形。	外底の削りやや弱く雑で、削りの下に 型膚状のヒビ残る。口縁外面のナデは 上半のみで下半無調整部分広い。内面 ナデ強く丁寧だが、器面不整。薄手。	①素地普通。細砂以外の混入物少なく良好。②酸化 焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。口縁に墨斑あり。
5 杯 (H)	口 14.4~14.2 高 4.7	埋土 口縁上半 $\frac{1}{4}$ 欠く	外底は幅広で息長くやや粗い削りで、 無調整部分は少ない。内面ナデは丁寧 で、布状具の粗い擦痕が同心円状に巡 る。	①素地普通。バミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸 化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味・黒 色味のムラ多く一様でない。④割口も含めてスス状 の付着物あり。
6 杯 (H)	口 13.5~13.2 高 3.7	カマド内 8片 口縁上半 $\frac{1}{4}$ 欠く	外底の削りはやや鋭いが雑。また、中 央部分のみで無調整部分広く、縁辺に 指頭圧痕残り器面不整。内面ナデは丁 寧だが凹凸多い。	①素地普通。バミス・輝石等のまじる砂粒やや多い。 ②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一 様。
7 杯 (H)	口 14.0 高 4.0	北東隅床直上 口縁 $\frac{1}{4}$ 欠く	4に近い。外底の削りはやや丁寧。	①② 4 にほぼ同じ。③橙5YR6/6でほぼ一様。
8 甕 (H)	口 22.2~21.9 頸 18.0 胴 21.4	カマド内42片 上半ほぼ完形 下半 $\frac{1}{2}$	輪積みか。外面は幅広の丁寧な削り。 内面も痕跡をあまり残さない丁寧なナ デで平滑に仕上げる。全体に薄手で胴 部下半の接合痕も目立たない。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。② 酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面黒斑広い。 ④二次火熱受け、器面全体やや脆弱化。
9 甕 (H)	口 22.6~22.2 頸 18.1	カマド内30片 口縁完存 胴上半 $\frac{1}{2}$	8にほぼ同巧。	①② 8 に同じ。③橙5YR6/6。外面黒斑広い。④カマ ド粘土の付着はない。

遺物観察表編

10 甕 (H)	口 22.1~21.9 頸 18.5	カマド内26片 口縁完存 胴上半片	口縁端部は外方へ小さく肥厚する。口縁のナデ強く、粗い擦痕残る。内面ナデも8・9に比べ強い。	①②8にほぼ同じ。③橙5YR6/6。外面に黒色味をおびるムラ多い。④カマド粘土の付着ない。
-------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------

VI区 15号住居跡 (第375図 PL.85)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.0) 高 3.6	埋土 4片 図示部片	右回転クロー→残存する底部全面と口縁下端に手持ちへら削り。クロー痕きわめて弱い。外底に刻書の可能性。	①素地やや粗い。黒色鉱物・パミスまじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。口縁外面は明度低い。
2 杯 (H)	口(14.0) 高 2.5	カマド内 2片 口縁片 底部片	外底は幅広で鋭く丁寧な削り。口縁外面ナデは上半のみだが下半の凹凸少ない。内面鋭く丁寧な放射状の暗文。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物を僅かに含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。内面赤色味をおびる。
3 杯 (H)	口 12.9~12.7 高 3.8	南壁中央寄床直上 7片 片 個体	外底はやや鋭い丁寧な削り。外面口縁ナデは上半のみ。内面布状具の擦痕の残る丁寧なナデで、平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR6/6でほぼ一様。④外底に墨書あり、判読できず。
4 甕 (H)	口(22.2) 頸(18.4) 胴(22.0)	南東隅床直上 5片 図示部片	外面削りは鋭く、息の長い擦痕多い。内面ナデは丁寧だが、中位に明瞭な接合痕残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・粗砂等の混入やや多い。酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。彩度の低いムラ広い。

VI区 1号住居跡 (第379図 PL.86)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.8) 底(9.7) 高 2.7	埋土 3片 口縁片 底部片	内底緩やかな凹凸あり。丁寧なナデ。外底は細かな削り。口縁外面のナデは上半のみだが、下半の凹凸少ない。	①素地普通。粗砂・パミス・輝石を含む。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/4を基調に口縁部黒ずむ。断面明るい。④底部外面中心にハゼ多い。
2 杯 (H)	口(12.8)	埋土 片 個体	剝落すすみ外底の観察難しい。内面は丁寧なナデ。	①素地はダスト状。パミス・輝石少量含む。②酸化焰で普通。③にぶい橙5YR7/4。外面やや赤色味をおびる。④外底の剝落著しい。
3 杯 (H)		埋土 底部破片	外底は細かな削りで平滑。内面は同心円状ナデの後、立ち上がりに細かな暗文が見られる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6で同様。
4 短頸壺か (S)	底(7.0)	埋土 底部片	右回転クロー→底部全面と体部下端に回転へら削り。内底の横ナデは工具痕状の凹凸が残る。内面一部に降灰釉がかかる。	①白色夾雑物・砂粒多いが緻密。②還元焰で硬調に焼締まる。③灰白N7/0で断面まで同様。釉は白色味が強い。
5 杯 (H)		埋土 小破片	小破片で細部不明。内面のナデ丁寧で平滑。外面2方向からのやや強い細かな削り。	①輝石やパミス散見し、やや粗い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4で同様。④外底薄い墨書。なめらかな筆運である。
6 砥石		埋土 小破片	長軸断面糸巻状もしくは三角形で両側面が主な使用面。正面も使用面だった可能性あり。他の面は割口で無使用。	①砥沢石、鉄分少ない。④使用痕は弱く不明瞭。

1 竪穴住居跡出土遺物

VII区 2号住居跡(第380図 PL.86)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	底 6.9~6.6	東壁直下床直上 図示部完存	右回転クロー→回糸→外底縁辺と体部下端に弱い手持ちへら削り。底部やや平坦。厚手で重量。	①素地やや粗い。黒色鉱物僅かに含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。黒色味をおびるムラあり。④外底隅に墨書「甲」
2 杯(H)	口(13.2) 高 2.8	南壁際床直上4片 口縁部 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底は弱い削りで器面に光沢。外面口縁上半はナデ。下半無調整だが凹凸少ない。内面同心円状の丁寧なナデだが器面の凹凸やや多い。	①素地緻密。砂粒等やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。断面黄色味をおびる。底部両面に黒斑あり。④外底に墨書あり。墨痕薄く、黒斑にかかり不鮮明だが「土」か。内面にハゼ。
3 杯(H)	口(12.8)	カマド内 図示部 $\frac{1}{2}$	2にほぼ同巧。外底の削りやや粗く、口縁外面のナデは幅狭である。内底立上がり部分に弱い沈線が巡るようだ。	①輝石まじりの砂粒若干含む。緻密。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面・断面は黄色味が強い。④口縁内面に斑状のスス付着。
4 甕(H)	口(23.0) 頸(19.2)	カマド内の細片 17片 図示部 $\frac{1}{2}$	全体に薄手。口縁端部外面のナデが顕著。外面は乾燥状態での細かな削り。歪みあり怪不安。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。濃淡の差あり。内面は明るい。

VII区 3号住居跡(第382図 PL.86)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 14.5~14.1 高 4.0	南壁直下床直上 ほぼ完形	外底は強い削りで凹凸できる。内面は幅広で布状具の擦痕残るナデ。口縁外面下半は無調整で型膚状。	①素地やや緻密。砂粒を若干含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR6/6。一部黒色味をおびる。
2 杯(H)	口(13.8) 高 3.3	南壁直下床直上 5片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りは弱く丁寧で中央で一方向。内底と口縁部も丁寧なナデ。口縁外面下端に無調整部分残るが比較的平滑。底部のみやや厚いが形状一様でない。	①素地普通。パミス含む粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。断面は黄色味をおびる。④内面全体に霜降状のスス付着。
3 杯(H)	口(13.8) 高 3.6	中央南寄り床上 16cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底はやや強い削り。内面ナデは布状具の擦痕が残る。口縁下半無調整だが比較的平滑。	①素地やや緻密。夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6基調、赤色味・暗い部分などあり一様でない。④内底中央に焼成後の擦痕あり。
4 小型甕(H)	口 13.3 頸 12.1~11.9 胴 15.0	8号井戸上層 図示部中胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。外面削りはやや鋭く丁寧。内面ナデも丁寧で、器面平滑に仕上げられる。薄手。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味・黒色味をおびるムラ外面に多い。

VII区 4号住居跡(第383図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.2) 底(6.6) 高 3.6	埋土 口縁若干 底部 $\frac{1}{2}$	右回転クロー→回糸→底部縁辺幅広の手持ちへら削り。内面立ち上がりの屈曲強い。内底は平滑。	①素地緻密。2mm大のチャート等夾雑する。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1。口縁外端は重焼き痕がセピア色をおびる。

遺物観察表編

VII区 5号住居跡 (第384図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	底 7.7	東南壁下 底部完存	右回転ロクロ→回糸→周辺を幅狭の回転ヘラ削り。内底は平滑。円盤状を呈すが、割口に加工痕なし。	①素地やや粗い。細礫・粗砂・パミス等の夾雑多い。②やや不十分な還元焰。③外底灰白10Y7/1。他は橙色味をおびる。
2 杯 (H)	口(14.2)	東南壁下床上5 cm 3片 図示部 $\frac{1}{4}$	外面乾燥状態での丁寧な削り。内面も同心円状のナデで平滑。口縁端部は内側に小さく肥厚する。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂含む。②酸化焰、硬調。③橙5YR6/6。外面黒斑あり。灰色味をおびる部分が多い。④不規則にハゼあり。
3 杯 (S)	口(15.0)	カマド内3片 口縁 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ。内面にコテ状工具痕が沈線状に残る。外面不明瞭。	①素地やや緻密。夾雑物少ない。②還元焰、やや硬調。外面は火オモテとなり降灰釉かかる。③青灰5PB5/1。外面黒色味強く、釉は黄色味おびる。
4 短頸壺 (S)	胴(10.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ。砂粒の動きは少ない。内面下半は指頭の不規則な擦痕あり。外面は平滑。	①素地やや緻密。長石・パミス等の夾雑物やや多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。黄色味おびる部分あり一様でない。
5 砥石	中厚 4.6×3.5 端厚 3.8×2.7 重 130g	周溝上 半欠品	長軸断面糸巻き状で小口を含む5面使用。割口は無使用。使用痕は不明瞭。割口の角が落ちており、完形に近い可能性もある。	①砥沢石。混入物は少ない。④表面は脆弱化している。

VII区 6号住居跡 (第386図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	鈕 4.6	埋土 図示部完存	右回転ロクロ→外面回転ヘラ削り→ロクロ使用丁寧な鈕取付け。内面平滑。	①素地やや粗くザラザラ。細砂の混入やや多い。②還元焰で硬調。③灰白5Y7/1で一様。④内面に薄く霜降状にスス付着。
2 高台付杯 (S)	口(17.0) 台(10.8) 高 7.0	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	左回転ロクロ→切離し不明→回転利用の高台取付。口縁端部尖り、外方へ小さく肥厚する。ロクロ痕弱い。外底肥厚。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多い。②還元焰不十分で軟調。内面赤焼で外面は燻状。③外面黒5Y2/1、内面におい赤褐5YR5/4。④外底に明瞭な墨書あるが判読できず。
3 杯 (H)	口(13.2)	埋土 2片 口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	外底やや鋭い削り。口縁外面は端部のみ強いナデ。内面ナデは丁寧。底部中央著しく薄くなる。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③におい橙5YR6/4。外面やや暗い。④器面に凍てハゼ多い。
4 杯 (H)	口(17.2)	埋土 4片 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロか。外面に横ナデ状の擦痕残る。内面はやや幅太で強い弧状の磨き。内面黒色処理。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物の目立つ砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③におい橙7.5YR7/4。内面黒色で弱い光沢。
5 甕 (H)	口(17.4) 頸(15.6)	埋土 2片 図示部 $\frac{1}{4}$	外面の削り強く鋭い。口縁のナデやや粗く、外面平滑さ欠き接合痕残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③におい赤褐2.5YR5/4。断面は黄色味強い。

VII区 7号住居跡 (第387図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	鈕 5.2	埋土下層 図示部完存	右回転ロクロによる鈕部取付。	①素地やや緻密。細砂多い。②還元焰、硬調。③明オリープ灰2.5GY7/1。内面やや暗い。
2 高台付杯 (S)	口(16.4)	埋土2片 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→底部全面と体部下端に回転ヘラ削り。底部外端は高台接合のための凹みを巡らす。	①素地やや粗い。細礫やや目立ち、黒色鉱物まじる砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1。口縁外面明度低い。
3 杯 (H)	口(13.4) 高 3.1	埋土5片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底の削りやや鋭い。口縁外面ナデは上半のみだが、下半の凹凸少ない。内面丁寧なナデで平滑。	①素地やや粗い。細礫・輝石等雑多な混入物を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。外面やや暗いムラあり。
4 杯 (H)	口(13.0)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{2}$	外底の削りは弱い丁寧。口縁ナデは上端のみだが、無調整部分も平滑。内面丁寧なナデで平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス等の混入物は少量で良好。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で断面まで一様。
5 甕 (H)	口(22.8) 頸(20.0)	埋土下層4片 図示部 $\frac{1}{2}$	外面削りは鋭いがやや弱い。口縁外面ナデはやや雑で、端部小さく肥厚。内面ナデは丁寧。薄手。	①素地やや粗く、輝石まじりの粗砂含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙2.5YR6/4でほぼ一様。
6 砥石	重 250g	床面直上 半欠品	長軸断面は糸巻き状で、小口と割口を除く4面使用。上・下両面とも中央が凹む。	①砥沢石。混入物少なく、良好。④上面と一側面に息の長いやや鋭い傷が多い。

VII区 8号住居跡 (第388図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)		掘り方 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→天井部回転ヘラ削り。ロクロ痕弱く、内底平坦。	①素地やや粗い。輝石・砂粒等の混入物少ない。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。ほぼ一様。
2 杯 (S)	高 3.6	南壁際床上9cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺弱い手持ちヘラ削り。ロクロ痕弱い。口縁端部やや尖り外方へ小さく肥厚する。	①素地普通。細礫の少量まじる白色砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に黒色味をおびるムラあり。断面赤色味をおびる。
3 杯 (S)		埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→底部と体部下端に回転ヘラ削り。ロクロ痕弱い。底部著しく厚い。内底平滑。口径不安。	①素地粗く、砂粒の混入やや少ない。②還元焰、普通。③灰7.5Y4/1。外面紫色味をおびるムラ。
4 杯 (H)	口(14.0)	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削り弱く雑。無調整部分広い。内面ナデはやや丁寧で、口縁部には布状具の擦痕残る。口縁に波状の歪み。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。断面黄色味をおびる。
5 杯 (H)	口(16.0)	南壁際床上10cm 3片 図示部 $\frac{1}{2}$	外底削りやや弱い丁寧。口縁外面のナデやや粗く、不揃いの擦痕が残る。口縁に歪みあり口径不安。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を少量含む。良好。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
6 甕 (H)	口 21.3~20.6 頸 18.3~17.8 胴 21.0	カマド内14片 図示部中胴部 $\frac{1}{2}$ 欠く	輪積みか。口縁外面に接合痕が巡る。内面は幅広工具で、削りに近い強いナデ。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物まじる粗砂含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面一様でない。
7 甕 (H)	口(22.8) 頸(20.8)	カマド内 口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	外面やや強く雑な削り。内面は口縁で布状具の擦痕残る丁寧なナデ。肩部で工具使用のやや強いナデ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・輝石等の粗〜細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。

遺物観察表編

VII区 10号住居跡 (第390図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.6) 底 7.0 高 3.5	南壁際床直上 口縁 $\frac{2}{3}$ 底部完存	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 やや弱い。底部のみやや厚い。	①素地普通。細礫目立つ砂粒含み粗悪となる。②還元焰、やや軟調。③灰白N8/0。内面やや黄色味をおびる。④口縁内面の剥落すすむ。
2 杯 (S)	口 13.8 底 8.1 高 3.6	カマド南側床直上 7片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。内底は広く平坦。厚手で重量。	①素地やや粗い。黒色鉱物・チャートまじりの砂粒 含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。口縁外面上半 は黒色味やや強い。
3 甕 (H)	口(20.0) 頸(17.6)	カマド前面床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	口縁内端に沈線状の凹み巡るが、形状 一様でない。外面削りは幅広でやや強 い。内面ナデ丁寧。	①素地普通。パミス・細砂等の少量まじる砂粒含む。 ②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。細かな ムラあり一様でない。
4 甕 (H)	口(21.8) 頸(20.0) 胴(23.6)	カマド左袖上14 片 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁ナデは粗い擦痕が残り、頸部内面 には沈線状の凹みできる。外面削り鋭 い。内面ナデは幅広の工具痕残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸 化焰、普通。③橙5YR6/6。外面に灰色味・黄色味を おびるムラあり。

VII区 11号住居跡 (第392図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (R)		埋土 細片	いわゆる硬陶。外面に僅かに研磨の痕 残る。緑釉は薄く、内面中心に殆ど剥 落している。	①素地緻密。砂粒の夾雑やや多い。②やや硬調の還 元焰。③釉調は濃緑色。胎土は灰白色で、須恵器に 近い。
2 杯 (H)	口(12.2) 高 3.4	北壁直下床上10 cm 7片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りは弱く丁寧。口縁外面ナデは 上半のみで、下半は一部で型膚状。内 面ナデ丁寧。口縁に小さな歪み。	①素地やや緻密。パミスまじりの砂粒含む。②酸化 焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面までほぼ一様。
3 杯 (H)	口(17.6)	南壁際床上 7 cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底の削りやや強い。外面口縁下半も 幅広の削り。内面ナデ丁寧だが細かな 凹凸あり。口縁の歪み強く、径不安。	①素地普通。輝石・パミス少量まじる砂粒含む。② 酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/4。赤色味・黒色 味強いムラあり一様でない。
4 甕 (H)	口(19.8) 頸(17.0)	南壁際床上25cm 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。口縁のナデやや粗い。外面 削りやや雑で鋭い。内面ナデはやや粗 い擦痕が残る。	①素地普通。大粒赤褐色鉱物・輝石等のまじる砂粒 やや多く、粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤 褐2.5YR5/4。④器面脆弱化する。

VII区 12号住居跡 (第395～397図 PL. 86・87)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.0 底 7.9～7.2 高 4.1	東壁直下床直上 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→縁辺を雑な回転 ヘラ削り。ロクロ痕弱く不明瞭。内底 は平坦。薄手で全体に歪み強い。	①素地やや粗いが、砂粒以外の混入物少ない。②還 元焰不十分で燻し状態。③黒2.5Y2/1。内面は黄色味 やや強い。
2 杯 (S)	口(12.4) 底 7.2 高 4.0	中央床上 6 cm 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→縁辺回転ヘラ削 り。ロクロ痕やや強いが内底は平坦。 口縁に大きな歪みあるか。	①素地普通。細礫の少量まじる砂粒含む。②還元焰、 普通。③灰白10Y7/1。内面はやや黄色味をおびる。
3 高台付杯 (S)	口(14.4)	埋土 3片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回転利用高台取付。ロ クロ痕は内面でやや強いが底部平坦。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒の混入多い。② 還元焰、普通。③灰白5Y7/1。④口縁と高台端部の摩 滅すすむ。

1 竪穴住居跡出土遺物

4 杯 (H)	口(13.4)	中央床上9cm 2片 ½個体	口縁部のナデやや強く、端部は小さく内折れする。外面下半無調整。外底削りはやや弱く粗い。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂やや多く器面ザラザラ。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒色味をおびるムラあり。
5 杯 (H)	口(13.6)	南東隅床下7cm 口縁½ 底部¾	口縁外面にやや強い凹み巡る。外底は丁寧な削りだが不明瞭。内面同心円状の丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。④凍てハゼ状の剝落全面に多い。
6 杯 (H)	口(11.8)	カマド内及び埋 土7片 図示部¾	口縁端部は内折れし、外面に弱い沈線が部分的に巡る。外底の削りはやや強い。歪み強く、径不安。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面やや明度高い。
7 甕 (H)	口 22.2~21.4 頸 18.8~18.1 胴 20.8 底 4.3 高 27.3	カマド内床上5 cm 38片 胴部一部欠く	輪積み。内面胴下半に強い接合の段残る。外面幅広でやや鋭い削り。口縁部やや強いが雑なナデ。	①素地普通。パミス・赤褐色鋳物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。下半は明度低い。
8 甕 (H)	口 21.1~20.4 頸 18.0~17.6 胴 22.0~21.0 底(4.9)	カマド内36片 胴部一部と底部 欠く	内面接合の段は不明瞭。口縁ナデはやや鋭い。外面削りは弱いが丁寧。内面ヘラ状工具のナデで、圧痕が明瞭に残る。全体に薄手。	①素地普通。赤褐色鋳物・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面下半は明度低いムラ。内面は赤色味やや強い。④外面にカマド粘土付着。
9 甕 (H)	口 21.8~21.5 頸 18.7 胴 22.0 底 4.6 高 31.1	カマド内67片 下半½欠く カマド架構材	高い位置に内面の合わせ痕がある。外面ヘラ削りやや強く、頸部外面のナデも強い。口縁端部は一部で内側へ肥厚。	①素地やや粗い。輝石・パミス等のまじる粗砂含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6~黒褐色。内面と断面赤色味をおびる。④外面胴中位の器面の剝落すすむ。
10 甕 (H)	口 21.2~20.7 頸 17.9 胴 21.0 底 5.0 高 27.6	カマド内74片 胴一部欠く カマド架構材	胴下半の合わせ痕は、あまり目立たない。外面ヘラ削りは強い。内面丁寧なナデを施すが、底部付近に凹凸残っている。	①粗砂の混入やや多い。普通。②普通。③にぶい褐色~黒褐色で一様でない。断面・内面赤色味が強い。
11 甕 (H)	口 21.5~21.3 頸 18.2 胴 21.1 底(4.8)	カマド内81片 胴下半¾と底部 欠く カマド架構材	外面削りは上半のみ強い。下位で方向が変わる。上面ナデ丁寧だが胴部接合段は明瞭に残る。	①輝石散見するが粗砂含む。やや粗い。②普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4基調、黒斑広い。内面黄色味をおびる。④外面中位器面荒れ、内面ハゼ多い。
12 甕 (H)	口 20.7 頸 17.1~16.5 胴 21.1~20.6	カマド内26片 口縁¾と体部中 位以下欠く	内面に輪積み状の接合痕残る。口縁のナデ強く、波状の歪み生ず。外面削りやや強い。内面のナデは不明瞭。	①素地普通。白色砂粒やや目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味をおびるムラあり。④カマド粘土付着する。
13 甕 (H)	口(21.8) 頸(18.2) 胴(21.6)	カマド内 上半¾ 下半¾	内面の接合の段やや強い。外面削りやや鋭い。内面ナデは幅広の工具痕が圧痕状に残る。歪み強く、径不安。	①素地普通。輝石・赤褐色鋳物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面下半は彩度低い。
14 甕 (H)	口 21.7~21.1 頸 18.8~18.6	カマド南付近 図示部ほぼ完存	頸部外面に接合痕やや明瞭。口縁端部は小さく外折れする。外面の削りやや弱い。	①素地普通。輝石・赤褐色鋳物の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。明度の低いムラあり。
15 甕 (H)	口(22.0) 頸(20.0)	南壁際床上6cm 図示部¾	口縁のナデは丁寧で、外面上端でやや強く、頸部のナデ残しもない。肩部は内面で幅狭の強いナデ。外面削りはやや鋭い。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。ほぼ一様。
16 甕 (S)	頸(29.4)	埋土2片 図示部¾	肩部は外面に横位の平行叩き、内面に指頭のアテあり。頸部外面は2条の沈線の内側に細かな櫛描波状文。	①素地普通。黒色鋳物・輝石等含むが、大型品としては良好。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。口縁内外面は明度低い。

遺物観察表編

VII区 13号住居跡 (第398図 PL. 87)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.4) 底 5.7 高 4.3	埋土 4片 口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕きわめて弱い。体部下端に生じた焼成前の亀裂を、内面から粘土塊を当てて雑に補修している。	①素地やや粗く、パミスまじりの白色砂粒やや多い。 ②還元焰、普通。③オリープ灰2.5GY6/1。口縁外面やや黒色味をおびる。
2 杯 (H)	口(11.8) 底(4.0) 高 4.5	埋土 口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	外面は幅広で鋭い削りで、口縁上端のみナデ。直下に沈線が巡る。内面はやや雑な磨き。	①素地やや粗い。細礫・パミス等夾雑物やや多い砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。薄い黒斑あり。内面黒色処理だが光沢弱い。
3 碗 (S)	台(6.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。高台内側の基部に深い凹みが巡る。ロクロ痕外面のみやや強い。	①素地やや緻密。細礫まじりの砂粒少量含む。②還元焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/3。断面中央は灰色。火ダスキ状のムラあり。
4 碗 (S)	台(6.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸。高台付近の摩滅進み、取付にロクロ使用の有無不明。ロクロ痕内面で弱い。	①素地やや粗い。細礫含むが他の混入物少ない。②還元焰か、軟調。③灰黄2.5Y7/2、および黒色。
5 広口壺 (S)	口(20.0)	埋土 3片 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ。ロクロ痕は幅広でやや強い。	①素地普通。細礫・土粒のまじる砂粒含む。②還元焰、普通。③外面にぶい黄橙10YR7/2。内面灰白5Y8/1。
6 甕 (H)	口(20.0) 頸(17.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	口縁外端に弱い沈線巡る。口縁ナデ丁寧だが、頸部外面の接合痕顕著。外面削りは鋭い。	①素地やや緻密。輝石・パミス等のまじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR6/6。内面彩度低く、断面中央黒色味強い。
7 甕 (H)	口(16.0) 頸(14.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	外面削りやや鋭い。内面ナデやや雑。外面口縁のナデもやや雑で、頸部上方に指頭痕状の凹みあり。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。黒色味の強いムラ広い。
8 刀子	刃渡 10.02 棟 0.48~0.22 茎 0.68×0.43	埋土 茎端部と身部の一部欠く	研ぎ減りは少なく、茎と刃の残存は良好。剝落のため、厚みは不安。	①錆化すすみ、残存状態は悪い。刀子としては、鉄地金やや落ちる。茎部の欠失は古いものである。
9 釘か		埋土 図示部破片	材質より釘と判断した。2カ所で不自然に屈曲している。	①鉄地金やや悪い。錆化すすむ。

VII区 14号住居跡 (第399図 PL. 87)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	口(12.0) 台 6.4~6.2 高 4.5	埋土 5片 口縁 $\frac{1}{4}$ 欠く	全面に雑な研磨を施し、ロクロ痕不明だが、高台は右回転ロクロ上で取付けられる。内外面黒色処理。	①素地はやや緻密で須恵器に近い。砂粒以外の混入物まれ。②酸化焰か、やや硬調。③断面にぶい赤褐5YR5/4。器面は黒褐色で光沢やや弱い。④内面一部で剝落する。
2 杯 (H)	口(13.8)	埋土 3片 図示部 $\frac{1}{4}$	口縁内端小さく肥厚するが形状様でない。口縁のナデやや雑で細かな凹凸あり、下半は無調整。外底削りもやや雑で鋭い。内面ナデは丁寧。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒色味をおびるムラあり一様でない。④凍てハゼ状のやや大きな剝落多い。
3 播鉢 (S)	口(12.0) 底 9.2	中央 上半 $\frac{1}{2}$ と底部中央欠く	右回転ロクロ。外面に断面V字状の2条沈線巡る。ロクロ痕弱い。口縁上端は平坦でやや内傾する。	①素地やや緻密。細礫まじりの白色砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1。黄色味をおびるムラあり。④内面の摩滅は少ない。底部は内側から強く突いたような割れ方である。

1 竪穴住居跡出土遺物

4 甕 (H)	口(23.5) 頸(20.2) 胴(28.2)	北東隅床上7cm 6片 口縁欠 胴上半片	口縁のナデ丁寧だが、外面に接合痕残る。外面削りは丁寧でやや弱い。内面ナデも丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐2.5YR6/6。外面に彩度の低いムラあり。
------------	-------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

VII区 15号住居跡 (第402図 PL. 87)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.4 底 8.4 高 4.1	南東隅床上10cm 4片 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺に弱い回転ヘラ削り。内底に同心円状のロクロ痕やや強い。	①素地普通。輝石・パミス少量まじる砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/2。黄色味をおびるムラあり。④外底にうすい墨書あり。「方」か。
2 甕 (H)	口(21.8) 頸(18.4)	埋土 図示部欠	口縁部ナデ丁寧で、頸部外面にも無調整部分を残さない。口縁外端は凹みが巡る。外面削りはやや強い。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。ほぼ一様。

2 掘立柱建物跡出土遺物

2号掘立柱建物跡 (第405図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	鈕 4.9	P7埋土 図示部ほぼ完存	左回転ロクロ→天井部回転ヘラ削り→ ロクロ使用丁寧な鈕取付。残存部分で は平坦な器形。	①素地やや粗く、黒色鉱物・細礫等の混入物もやや 多い。②還元焰、やや硬調。③灰白5Y7/1でほぼ一様。 ④外面にカマド粘土付着。

4号掘立柱建物跡 (第409図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(21.0) 頸(18.0)	P6埋土4片 図示部 $\frac{1}{4}$	接合痕より輪積み。外面頸部には粗い 擦痕の残るナデが巡り、無調整部分を 残さない。内面やや平滑。	①素地やや粗い。輝石・パミス等の雑多な混入物多 い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。 一様でない。④外面にカマド粘土付着。

7号掘立柱建物跡 (第412図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 砥石	重 106.7g	埋土 小口片	長軸断面糸巻き状、短軸断面方形とな るもので、大きさより置砥と思われる。 小口は傷が多いが調整面である。	①砥沢石。鉄分やや多い。④両側面は横位の擦痕で、 やや不整な面ができる。正面は方向不定の擦痕。割 口も一部で研ぎ減っている。
2 釘か	厚 0.62×0.57	埋土 端部片	材質より釘か。先端に欠損があるかは 不明。	①鉄地金はあまり良くないが、錆化の影響はやや少 ない。

8号掘立柱建物跡 (第413図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(19.0)	P3埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。外面天井部に回転ヘラ 削りがあるが、表面摩滅し不明。	①素地普通。パミスまじりの砂粒少量含む。②還元 焰、普通。③灰白5Y7/1で一様。④割口も含め摩滅す ずむ。

9号掘立柱建物跡 (第414図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.0) 高 3.1	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りは鋭いがやや雑。口縁外面の ナデも粗い。内面は平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・輝石等混入する砂粒含む。② 酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外底は彩度 高い。
2 鉢 (S)	口(28.0)	P9埋土 図示部小片	外面に平行叩きだが、上からナデを加 え、やや不明瞭。胴部外面の沈線は鋭 い。内面は指頭によるアテか。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②還元焰、普 通。③灰白5Y7/1。内面やや明度低い。
3 台付甕 (H)	台上 4.7 台下 8.4	P7埋土 図示部中裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く。	外面ナデは丁寧で、端部は下方へやや 強く肥厚する。粗い布状具の擦痕残る。 外底は平坦だが、内底は不整。	①素地やや緻密。細砂以外の混入物少なく、甕類と しては良好。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。下端で 一部黒色味をおびる。

2 掘立柱建物跡出土遺物

10号掘立柱建物跡 (第418図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.4)	P1埋土 図示部迄	外面削りやや鋭く息長い。口縁ナデは丁寧で、内面平滑。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒がやや多い。 ②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3で断面までほぼ一様。
2 甕 (H)	口(19.4) 頸(17.8)	P1埋土 図示部迄	口縁のナデやや強く、内外面に布状具の擦痕残る。外面のナデも丁寧で、頸部にナデ残し見られない。外面の削り強い。	①素地普通だが、赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多くザラザラ。②還元焰、やや硬調。③外面にぶい黄橙10YR7/4。内面赤色味強い。

3 古墳出土遺物と埴輪

1号古墳 (第425・427図 PL.88)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 播鉢 (S)	口 14.8	図示部迄	内面右回転の横ナデ。外面斜位の粗いハケ目状 (18mmに8本) 施文後、中位に回転利用と思われる竹管状の工具による2条沈線を施す。	①素地普通。黄白色の砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③暗青灰5B4/1。一部で黄色味をおびる。④内面の口縁上半および底部とその周辺が摩滅している。
No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2 円筒埴輪	口(22.1)		3段構成。タガは断面M字形の発達したもの。口縁端部もやや鋭く仕上げられている。透孔は第2段に半円形のものが一対。外面縦ハケ。内面口縁寄り外面と同種ハケによる横ハケ。それより下寄りには縦方向の指整形で粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。粘土紐の幅は1~2cmと区々であり、高さ約10cmの粘土板による基部の上に、積み上げる。	①素地緻密で、白色微粒を含む。②硬調の酸化焰。③赤味をおびた暗褐色。④外面第2段にヘラ描きが施されたことが、かろうじてわかるが、形状は不明。
3 円筒埴輪	口(20.3) 底 14.0 高 39.0		2にほぼ同じ。内面の粘土紐積み上げ痕は2程明瞭でない。粘土紐の幅は約2cmである。	①②③2に同じ。④2と同一箇所にヘラ描きあり。
4 円筒埴輪	口(20.4)		3段構成の丁寧でしっかりしたつくり。タガは2稜の山形でやや発達している。透孔は丸味をおびた半円形。外面は縦ハケで、第3段はやや斜ハケの上から二次的な縦ハケ。内面は口縁部が横ナデ。他は縦方向の指調整、底部をヘラ調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰黄褐色。④本墳の円筒埴輪全体の中では、一辺の破片であるので、本来的に樹立されていたものかどうかの判定はむずかしい。
5 円筒埴輪	口(17.5)		外面の縦ハケはきわめて浅く、ハケ目が明瞭には認められない。内面のやや右下がりの横ハケはそれほどではない。口縁端部はやや鈍く、丸みをおびる。	①緻密で白色微粒が認められる。②酸化焰でやや軟調。③茶褐色。
6 円筒埴輪	口(24.2)		3にほぼ同じ。	①②とも3に共通。③やや赤味をおびた暗褐色。
7 円筒埴輪			タガは端部がやや鋭いM字形。透孔は明瞭な半円形をなす。外面は、第2段は縦方向の板状具による整形で、第3段はやや深い縦ハケ。内面口縁寄りはやや右下がりの横ハケ。それより下は指調整で粘土紐積み上げ痕を明瞭に残す。粘土紐の幅は約4cm。	①砂粒を含む。②酸化焰でやや軟調。③明赤褐色。④内面口縁部寄りで焼きヒビがやや目立つ。
8 円筒埴輪			3にほぼ同じ。	①②とも3に同じ。③赤味をおびた暗褐色。④3と同一箇所に、同一形状のヘラ描きあり。
9 円筒埴輪	底(13.6)		タガは幅1.2cm、高0.9cmとやや未発達で、外面の整形は縦方向のヘラ削りに近いものでハケ目は認められない。外面は指調整によるが、粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。やや粗雑なつくりである。	①緻密で砂粒を混入する。②酸化焰でやや硬調である。③明赤褐色。
10 円筒埴輪	底(14.0)		高さ約8cmの基部の上に幅1cmあまりの粘土紐を積み上げる。外面は縦ハケ、内面は指調整で、粘土紐積み上げ痕をよく残す。タガはやや未発達で、端部は鈍く丸い。	①緻密で、砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐色。
11 円筒埴輪			タガは稜の鋭い台形でやや発達している。外面縦ハケで内面は縦方向の指調整により、粘土紐積み上げ痕を完全に消している。	①非常に緻密で白色微粒が認められる。②酸化焰で硬調である。③にぶい橙色。④外面にヘラ描きあり。

3 古墳出土遺物と埴輪

12 (形象埴輪)			肉厚で外面ナデ。内面指調整。	①緻密。②良好。③明赤褐色。④外面へら描きあり。
13 (形象埴輪)			外面不定方向のナデ整形。内面指調整。器厚は2cmと厚い。	①緻密。②酸化焰でやや硬調。③浅黄褐色。④外面にへら描きあり。
14 円筒埴輪			3に同じ。	①②とも3に同じ。③赤褐色。④外面第2段に3にほぼ同一のへら描きあり。

2号古墳(第430図 PL. 88)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪			口縁端部破片。内外面とも横ナデ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③明褐色。④内面へら描きあり。
2 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面ナデ。	①緻密、細砂がまじる。②普通。③明褐色。④外面赤色顔料塗彩。へら描きあり。

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 器台 (H)	脚上 3.2	図示部のうち裾部 $\frac{1}{2}$ 欠く	脚上位に3孔を穿ち、内側に多量の粘土はみ出す。器面摩滅で不明瞭だが、外面丁寧な磨き、内面ハケ目状ナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・石英等のまじる粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面に黄色味強いムラあり。
4 提瓶 (S)	頸(7.2)	埋土 肩部破片	外面に降灰釉厚く器面観察しにくい。カキ目は強く、櫛描波状文は弱い。内面クロ痕弱い。紐はへらで整形か。	①素地やや粗く、細礫・黒色鉱物等混入物多い。②還元焰、硬調で焼締まる。③灰白N7/1。釉は濃緑色・黄褐色。
5 甕(H)	口 20.2~19.6 頸 16.6 胴 23.9 高 32.4	胴下半 $\frac{1}{4}$ 欠く	輪積み。外面細かく弱いハケ目で、下半はやや鋭い削り。内面は逆で下半にハケ目で、接合痕を消しきれない。	①素地普通。細礫の混入多く器面ゴツゴツする。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面彩度低い。④外面最大径付近、帯状に薄くスス付着。
6 大甕 (S)	口 23.3~23.0 頸 17.2 胴(48.4)	口縁ほぼ完存 胴中位 $\frac{1}{2}$	外面平行叩きの上に不規則なカキ目。内面青海波状のアテ具痕を指頭でナデ消し、肩部のみ残る。内面平滑。口縁は棒先状の工具で丁寧。	①素地やや粗い。細礫・白色鉱物・石英等夾雑物多い。②還元焰、普通。③青灰5B5/1。内面明度高く、断面一部赤色味をおびる。④内面胴部付近の剥落著しい。

遺物観察表編

3号古墳 (第432~434図 PL.88・89)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口22.2~23.0 底16.4~15.9 高 40.5		3段構成で、口縁部が直立気味である。器厚が1.6cmと厚く、きわめて重いどっしりしたものである。タガは断面M字形の発達したもので、透孔は明瞭な半円形を呈する。口縁端部はやや丸味をもつ。外面は、第1段および第3段に一次調整の縦ハケを、その後全体に右下がり斜めのハケが施される。内面は第1段がB種横ハケで、他はきわめて丹念な指調整により仕上げられている。	①緻密で、砂粒の混入が目立つ。②酸化焙でやや硬調。③白味をおびた明灰赤褐色。④第3段から第2段の中途にかけての外面を赤色顔料による塗彩。
2 円筒埴輪	口(26.0) 底(14.5) 高 38.6		3段構成で、タガは下部の稜が低いコの字形で、あまり発達していない。口縁端部は丸味をもつ。透孔は明瞭な半円形を呈する。外面は縦ハケを基調とし、口縁部寄りのみ二次的な斜めハケを施す。内面は、口縁部寄り、タガ付近を横ナデとし、他は斜めを主とするナデおよび指調整により全体を丁寧に面調整している。最下部に高さ5.5cmの基部をつくり、その上に幅2.5cm前後の粘土紐を積み上げている。	①1にほぼ同じ。②酸化焙でやや硬調。③淡灰褐色。④第3段から第2段の中途にかけての外面を赤色顔料による塗彩。
3 円筒埴輪			全体としては1に同じであるが、外面が縦ハケを基調とする点のみが異なる。1より手慣れたつくりである。	①②③④とも1に同一。
4 円筒埴輪			口縁端部が断面M字形を呈する以外は、2にほぼ同じ。	①2に同じ。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④内面第3段にヘラ描き、外面第3段から第2段にかけて赤色顔料塗彩。
5 円筒埴輪			最上段のみの破片で、口縁端部が断面コの字形をなす。外面は斜めハケで、内面は斜め横方向の指調整。	①1に同じ。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ描きあり。
6 円筒埴輪	口23.0~21.8 底(13.5) 高 33.2		3段構成で小ぶりなつくり。口縁端部は角張る。タガは明瞭なコの字形で、透孔は一方が大きく明瞭な半円形で、他方は小さく歪んでいる。外面は縦ハケであり、口縁部寄りには、斜めハケの上に二次的に縦ハケを施す。内面は第3段が不定方向の乱雑なハケを施し、他は縦方向の指調整。	①砂礫の混入が目立つ。②酸化焙で普通。③淡黄褐色。④第3段外面に赤色顔料塗彩。同じく第3段外面に幅広く深いヘラ描きあり。
7 円筒埴輪	底(15.7)		3に同一。	①②③④とも1に同じ。
8 円筒埴輪			第1段のみで、6に共通する点が多い。外面縦ハケで、内面は斜め方向の指調整。	①②③とも6に同じ。
9 朝顔型埴輪			口縁部寄りの破片で、外面は縦ハケ、内面はB種横ハケである。丁寧につくり。タガは稜の鋭い発達したM字形。	①砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で硬調。③にぶい橙色。④外面に赤色顔料塗彩。
10 朝顔型埴輪			仕上げが丁寧にシャープなつくりである。タガは稜が鋭く発達したM字形で、透孔は半円形である。外面は縦ハケ後、鑄状に横ナデを施す。内面は丹念な指調整である。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で、硬調さは須恵質に近い。③にぶい橙色。④くびれ部タガより上部外面に赤色顔料塗彩。
11 円筒埴輪			口縁部は強く外反し、口縁端部はやや丸味をもつ。外面やや斜めの縦ハケで内面は指調整。	①緻密で砂粒を多く含む。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料を塗彩。内面にヘラ記号あり。
12 円筒埴輪			口縁端部やや丸味のあるコの字形。外面やや斜めの縦ハケ。	①緻密。②酸化焙、普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料塗彩、内面ヘラ描きあり。

3 古墳出土遺物と埴輪

13	円筒埴輪		口縁端部が角張り、口縁部は直線的に外反する。外面は斜め縦ハケを縦ハケで再調整し、内面は縦の指調整。	①砂粒を混入する。②酸化焰で普通。③浅黄橙色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ描きあり。
14	円筒埴輪		口縁端部が角張る。直線的に外反する。外面はやや斜めの縦ハケの上に縦ハケで再調整。内面は指調整。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焰で硬調。③にぶい橙色。④外面に赤色顔料を塗彩し、ヘラ描きあり。
15	円筒埴輪		口縁端は丸く仕上げた後、内側に面取り。外面はやや斜めの縦ハケ、内面はB種横ハケ。	①緻密、砂粒を混入。②酸化焰で普通。③浅黄橙色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ描きあり。
16	円筒埴輪		口縁端丸味をもったコの字形。外面斜めの縦ハケ。	①緻密、砂粒を混入。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙色。④内面にヘラ描きあり。
17	円筒埴輪		最上段の破片。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、砂礫がまじる。②普通。③淡橙色。④外面赤色顔料塗彩。ヘラ描きあり。
18	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面斜め横ハケと下部指調整。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焰で普通。③にぶい橙色。④外面に三日月形のヘラ描きあり。
19	円筒埴輪		口縁部寄りの破片で、外面は縦ハケ後に口縁部寄りのみ斜めハケ。内面、口縁部寄り横ハケ、それより下は横方向の指調整。	①1に同じ。②酸化焰で普通。③浅黄橙色。④外面赤色顔料を塗彩。内面ヘラ描きあり。
20	円筒埴輪		最上段の破片。厚手で外面縦ハケ。内面は口縁寄りがB種横ハケ。それより下ナデ調整。	①②③とも1に同じ。④外面を赤色顔料で塗彩し、また三日月形に近いヘラ描きあり。
21	形象埴輪		形象の破片（種類は不明）。内面は不定方向のナデ。	①緻密。②酸化焰、普通。③浅黄橙色。④外面ヘラ描きあり。
22	円筒埴輪		薄手で、外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密。②酸化焰、普通。③浅黄橙色。④外面にヘラ描きあり。
23	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、砂礫がまじる。②普通。③淡橙色。④内面ヘラ描き、外面赤色顔料塗彩。
24	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡橙色。④外面赤色顔料塗彩。ヘラ描きあり。
25	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で砂礫がまじる。②ややあまい。③淡橙色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ描きあり。

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
26 大甕 (S)	口 28.6~28.0 頸 20.0 胴(42.2)	口縁欠 胴部欠	輪積み。外面は頸部を含め斜位の平行叩き後、不規則なヘラ状工具使用横位ナデを加える。内面アテ具痕不明瞭。口縁～肩部内面のみ丁寧な横位ナデ。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰N5/0。明度の異なる部分があるが、ムラは少ない。
27 平瓶 (S)	口(11.2)	図示部中口縁上半欠	巻上げ後、右回転ロクロ整形。内面下半ではロクロ痕不明で中位はヘラ状の工具痕が巡る。頸部接合部の傾きより大型の平瓶となろう。	①素地普通。片岩質や白色の細礫まじりの砂粒含む。②還元焰、硬調で焼締る。③灰白N7/0。内面全体と口縁外面縦半分が暗青灰5PB3/1で黄色味の降灰釉が斑状にかかる。

遺物観察表編

28 埴 (H)	頸 8.3	図示部内口縁% 欠く	底部いびつ。外面弱い削りて不明瞭。 内面鋭いナデで砂粒の移動大きい。	①素地普通。赤褐色鉍物・石英等のまじる粗砂多い。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内外面とも薄い黒斑あり。断面黒褐色。
29 埴 (H)	口(9.6) 頸(6.8) 胴 14.7	口縁% 胴部%	器面の剝落すすみ不明瞭だが、胴部外面には幅広く削りに近い横位の磨き、下半でやや粗い削り。口縁中位で屈曲し、外面は部分的に弱い沈線が巡る。	①やや粗い素地に細礫・パミス・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。黄色味ムラや黒斑広い。④二次火熱受けた可能性あり、器面やや脆弱。
30 高杯 (H)	口(13.6) 脚上 3.0 脚下(8.2) 高 7.9	口縁%と脚裾% 欠く	脚部成形後、杯部を接合。脚外面と杯部に磨き施すが、杯部は不明瞭。脚内面は削りに近い強いナデ。	①素地普通。輝石やや目立ち、パミス・赤褐色鉍物のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。断面黒色味強い部分あり。
31 器台 (H)	脚上 2.6 脚下(11.4)	周堀内 2片 図示部内裾部% 欠く	脚部成形後、身部接合。柱部は上下両方向から穿孔。窓は脚中位で、3孔穿つ。外面に強く息の長い磨き。	①素地やや緻密。細礫まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。黄色味・灰色味のムラあり一様でない。
32 杯 (H)	口(12.8) 高 4.4	周堀内 2片 口縁% 底部%	外面は雑なナデで口縁下端から底部は無調整。内面丁寧な磨きで平滑。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地普通。砂粒やや多いが他の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③外面黒褐5YR2/1。内面にぶい橙7.5YR7/3。④内底に赤色顔料の痕跡あり。

4号古墳 (第436～438図 PL. 89・90)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口(22.3) 底(14.4) 高 32.0		3段構成の丁寧なつくり。タガは2稜の山形でやや発達している。透孔は丸味をおびた半円形。外面は縦ハケで、第3段はやや斜ハケの上から二次的な縦ハケ。内面は口縁部が横ナデ、他はタテ方向の指調整、底部をへら調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰黄褐色。④外面第3段に赤色顔料の塗布が認められる。第2段にはへら描きあり。
2 円筒埴輪	口(18.2) 底14.0～13.1 高 32.7		3段構成で丁寧なつくり。タガはM字形でやや低い。透孔は明瞭な半円形。外面は縦ハケで何度も重ねて整形。最下段は格子状に交差している。内面は口縁部の横ナデ以外は、縦方向のやや粗い指調整で粘土積み上げ痕を完全に消す。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡褐色。④外面の第2～3段に赤色顔料を塗布。
3 円筒埴輪	口(19.8) 底(9.9) 高 33.0		3段構成の丁寧なつくり。タガは低いM字形でややシャープである。透孔は明瞭な半円形。外面は縦ハケで、斜めに交差する部分が目立つ。内面は口縁部が横ナデで、その他は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰褐色。④第3段に部分的に赤色顔料の塗布が認められる。
4 円筒埴輪	口(18.0) 底(13.0) 高 35.6		3段構成でやや粗雑なつくり。ぎこちなさが目立つ。タガはコの字形で歪みがあり、下部の接合が雑。透孔は半円形でかなりいびつ。外面は縦ハケで、タガ周辺の横ナデが不用意に広がる部分いくつもある。内面は口縁部が横ハケ。他は縦の指調整で、口縁の横ハケの上に無造作にのびる。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰。③にぶい橙色。
5 円筒埴輪	口(22.4)		肉薄でしっかりしたつくり。外面は最上段やや斜ハケの上から二次的に縦ハケ。内面は口縁部横ナデ、それより下は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③淡灰褐色。④外面最上段に赤色顔料の塗布が認められる。

3 古墳出土遺物と埴輪

6	円筒埴輪		やや薄手で丁寧なつくり。タガは2稜山形でややシャープ。透孔は明瞭な半円形。外面縦ハケで、内面縦方向のやや丁寧な指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡褐色。④外面の第3～2段に赤色顔料塗布。
7	円筒埴輪		タガはやや幅広く低く、稜は鈍いつくり。外面縦ハケ。内面縦の指調整、一部粘土紐積み上げ痕を残す。	①緻密。細砂がまじる。②良好。③淡灰褐色。
8	円筒埴輪		タガは低いM字形でややシャープ。透孔は明瞭な半円形である。外面は縦ハケで、やや斜めに交差する部分が目立つ。内面は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡褐色。④第3～2段中途まで赤色顔料を塗布。
9	円筒埴輪	底(14.0)	タガは断面M字形～2稜山形の丁寧なもの。透孔は半円形をなす。外面は縦ハケで、最下段はやや斜めのものが格子状に交差している。内面はやや粗い縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③淡灰褐色。④第3～2段に赤色顔料の塗布が僅かに認められる。
10	円筒埴輪	底(12.6)	肉厚で大振り。タガは発達したM字形を呈する。外面は縦ハケ、内面はなめらかな縦方向の指調整である。	①やや粗く砂粒が目立つ。②酸化焰、あまい。③浅黄褐色。
11	円筒埴輪	底(10.5)	タガは低いM字形でやや丁寧。透孔は半円形。外面は縦ハケで、第1段では斜めの交差が目立つ。内面はやや雑な縦方向の指調整。底部をヘラ調整している。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③淡灰褐色。④第3～2段に部分的に赤色顔料の塗布。
12	円筒埴輪	底(13.8)	タガはやや幅広いM字形で低い。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①10に同じ。②酸化焰、ややあまい。③浅黄褐色。
13	円筒埴輪	底13.3～12.6	しっかりしたつくりで、タガはやや細いが発達したコの字形。内外面とも丁寧な仕上げで、外面は縦ハケ、内面は丁寧な指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰褐色。
14	円筒埴輪	底(18.5)	肉厚で大振り。タガは2稜の山形で、歪んでいる。外面縦ハケ、内面はややなめらかな縦方向の指調整。	①②10に同じ。③淡灰黄褐色。
15	円筒埴輪	底(11.8)	丁寧なつくり。タガは2稜山形でややシャープ。外面は縦ハケを繰り返し施す。内面は縦方向のやや粗い指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡褐色。1・3より若干赤味をおびる。
16	円筒埴輪		丁寧なつくり。タガはシャープなつくりで、やや幅狭で低いハの字形。外面縦ハケ、内面は縦方向の丹念な指調整。	①緻密。細砂がまじる。②固く焼き締まっている。③淡灰褐色。④外面ヘラ描きあり。
17	円筒埴輪		比較的丁寧なつくり。タガはやや細く、明瞭な稜をもつハの字形を呈する。透孔は半円形。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整で丹念に仕上げる。	①緻密で砂粒・赤色粒を含む。②普通。③褐色。④透孔の右脇にヘラ描きあり。
18	円筒埴輪		比較的丁寧なつくり。タガは明瞭な稜をもつハの字形。外面縦ハケ、内面は縦方向の指調整により丹念に仕上げている。	①緻密で細砂を含む。②非常に良い。③淡褐色。④外面上から2段目にヘラ描きあり。
19	形象埴輪		筒状の本体からひれ状の張り出し部分である。表裏とも横ハケ整形で、本体と張り出し部の境に縦方向の貼付帯がある。盾の破片か。	①砂礫・赤色粒の混入が目立ち、ガラガラしている。②普通。③灰赤褐色。
20	形象埴輪		外面斜め縦ハケ、内面横ナデ。底部を内側に折り返している。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。
21	形象埴輪		やや内湾する板状の本体の外面の長軸にそって、断面コの字形の貼付帯がある。外面ナデ、内面粗い指調整。2カ所の小円形透孔がある。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。

遺物観察表編

22	形象埴輪		径10cmほどで、先がすぼまり気味の筒状をなすと思われる破片。外面は縦ハケ、内面は不定方向の指調整で粘土紐積み上げ痕を残す。筒状をなす底面は円形に削り抜いており、動物の口部の表現とも考えられる。	①緻密。砂粒・赤色粒を含む。②良好である。③淡黄褐色。
No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
23	杯 (H) 口(11.8) 高 3.8	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底削りは息長く強い。ナデは丁寧で口縁は内外面とも粗く鋭い擦痕残る。外面立ち上がり部の稜鋭い。	①素地やや緻密。砂粒多いが他の夾雑物まれ。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面赤色味の強いムラあり。
24	杯 (H) 口(10.8) 高 3.1	$\frac{3}{4}$ 個体	外底の削りはやや鋭く丁寧で、凹凸少なく仕上げる。内面ナデは強く、同心円状に粗い布状具の擦痕残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。外面は明度低い部分広い。一様でない。
25	杯 (H) 口(11.6)	墳丘上4片 図示部 $\frac{1}{2}$	外底は細かくやや強い削り。内面丁寧なナデで平滑。口縁部ナデに布状具の擦痕残る。大きく波状に歪む。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で、断面までほぼ一様。
26	高杯 (H) 口(18.8) 台(8.8) 高 7.4	脚裾 $\frac{1}{2}$ 他は $\frac{1}{2}$	脚部に強く規則的な削り。身部は弱く雑な削り。脚内面不整。身内面は不規則な同心円状ナデ。平面形やや歪む。	①緻密な素地に、細礫・輝石等若干まじる。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で、断面までほぼ一様。
27	鉢 (H) 口(15.6)	図示部 $\frac{1}{2}$	外面やや強い削り。内面のナデはやや粗い布状具の擦痕。端部外方へ肥厚するが形状は一定でない。	①ダスト状のつまった素地。粗砂等散見する以外混入物まれ。内面化粧粘土使用。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR7/4。内面明度低い。
28	甕 胴(10.0)	周堀内4片 胴部 $\frac{1}{2}$ 底部付近 ほぼ完存	胴部割口に円窓の一部がかかるが形状は不明。外底は布でぬぐうようにナデる。櫛描波状文は弱い。内面不整。	①緻密で夾雑物も若干の粗砂以外はまれ。②還元焰、硬調。③青灰5B5/1。内面明度高く、断面セピア色。内底と肩部に黄白色の降灰軸。
29	壺 (S) 台(19.2)	図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕は内面のみ強い。高台はがっしりとしている。底部はかなり薄かった可能性あり。	①素地やや緻密。砂粒以外の混入物まれ。②還元焰、硬調。③外面灰白N7/0。内面・断面灰白10Y7/1。
30	壺 (H) 頸(21.2) 胴 40.0 底 7.9	図示部 $\frac{1}{2}$	輪積み。胴下半に接合の大きな段がある。外面やや粗いハケ目の上に、下半のみ雑な削り。内面接合の段部分に削り。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒多くザラザラしている。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5Y7/4。赤色味のムラあり。外面黒斑。
31	甕 (S) 頸(14.0) 胴(21.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	中位以下に外面叩き目・内面青海波状アテ具痕があり、その上を横ナデの強い擦痕がある。	①素地やや緻密。黒色鉱物微粒・細礫まじりの砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③青灰5B5/1。断面セピア色。内外面に灰黄色の降灰軸厚い。

5号古墳 (第439図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1			発達したM字形のタガ。外面ナデ、内面粗い指調整。	①緻密、砂礫を混入する。②普通。③赤褐色。④外面へラ描きあり。
2			外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③赤褐色。④外面へラ描きあり。

6号古墳(第441・443図 PL.91)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢(H)	口 19.0~18.5 底 3.9 高 8.2	ほぼ完形	外面下半のみやや弱い削り。内面及び口縁外面のナデやや雑だが、器面はやや平滑。口縁大きく歪み平面形不整。	①素地普通。細礫多く、赤褐色鉱物・パミスのまじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。黄色味おびるムラあり。外底に黒斑。
2 甕(S)	口(22.0) 頸(19.2)	図示部欠	胴部内面にややクロク痕強い。小破片からの復元で、径・傾きとも不安。口縁はかなり傾いている。	①素地普通。黒色鉱物・細礫・粗砂等の夾雑物やや多い。②還元焰、硬調。③青灰5B6/1。外面と口縁内面に灰黄色や灰緑色の降灰釉あり。

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 円筒埴輪	底18.2~16.6		3段構成で、タガは発達したM字形でシャープである。透孔はやや丸味をもった半円形。外面は縦ハケ、内面は粗雑な横のナデで、粘土積み上げ痕を全体に残し、下端部のみ内外とも横ハケを施す。	①緻密でかなり大粒の礫(5mm大)がまじる。②酸化焰で硬調。器面に焼きヒビがある。③暗茶褐色。
4 円筒埴輪			タガはやや発達したコの字形。外面は縦ハケ、内面は斜横の指調整を施すが、粘土積み上げ痕を明瞭に残す。	①大粒の礫の混入が目立つ。②酸化焰、ややあまい。③淡褐色。
5 円筒埴輪	口(22.8) 底(16.8) 高(40.3)		3段構成で比較的丁寧なつくり。タガは2稜の山形をなし、歪みあり。透孔はいびつで小型の半円形の外面は縦ハケ、内面は横方向のヘラ調整。	①緻密で大粒の礫がまじる。②酸化焰、硬調で焼きヒビが目立つ。③淡褐色。④第2段中途~第3段の外面に赤色顔料を塗布。
6 円筒埴輪	底18.3~16.5		外面の調整・胎土・形状等は5と同じで、内面調整が口縁部横ハケ、それより下は斜縦方向の指調整による点異なる。粘土積み上げ痕を残す。	①緻密で大粒の礫がまじる。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。
7 円筒埴輪			タガは2稜の山形でやや発達。外面縦ハケ、内面は縦・斜縦方向の指調整。粘土積み上げ痕を残す。	①緻密、大粒の礫混入。②酸化焰、硬調。極端に焼きヒビが目立つ。③暗赤褐色。
8 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密で白色礫まじる。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。④外面ヘラ描き。
9 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、白色小礫を含む。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。④外面ヘラ描き。
10 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密。②酸化焰、やや硬調。③暗赤褐色。④外面ヘラ描きあり。
11 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、白色粒を含む。②酸化焰、硬調で須恵質に近い。③褐色。④外面赤色顔料およびヘラ描き。
12 円筒埴輪			タガ直上の破片で、外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、白色粒を含む。②酸化焰、硬調で須恵質に近い。③暗赤褐色。④外面ヘラ描き。
13 朝顔型埴輪			朝顔の受部の破片。外面上部は横ハケ、下部縦ハケ。内面横方向ナデ。	①砂礫が少量まじる。②固く焼き締まっている。③赤褐色。

遺物観察表編

7号古墳 (第445図 PL. 91)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯蓋 (S)	口 12.2~12.0 天 12.2~12.1 高 4.2	ほぼ完形	右回転ロクロ→天井部同回転ロクロ上のヘラ削り(内から外へ)。口縁端部は中央やや凹み、僅かに内傾。稜は鋭い。天井部内側はロクロ痕強い。	①素地やや緻密。細礫散見する以外に目立った混入物ない。細砂を含み器面はややザラザラ。②還元焰、やや硬調。③青灰2BG6/1。内面やや明度低い。
2 杯身 (S)	口 10.8~10.3 受 12.6~12.3 高 4.9	ほぼ完形	左回転ロクロ→天井部同回転ロクロ上へラ削り(内から外へ)。口縁端部平坦で、僅かに凹み内傾。受部に弱い丸み。天井内側ロクロ痕同心円状でやや強い。	①1に類似するが、長石・黒色鉱物粒等の混入物やや多い。②還元焰、やや硬調。受部上面にのみ降灰釉がかかり重焼きである。③暗青灰10BG4/1。外底部はやや暗く弱い光沢。
3 杯(H)	口 11.9	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{3}{4}$	全体に薄手で均整のとれた器形。口縁端部僅かに内傾し、中央凹む。口縁内面丁寧なナデで、口縁に細かな擦痕あり。外底削りやや粗く、範囲も狭い。	①素地緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂少量含む。細礫散見。②酸化焰、やや硬調。③外面橙7.5YR6/6。内面橙2.5YR6/6。外面に小さな黒斑あり。
4 杯(H)	口 12.6~12.4 高 5.4	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	3にほぼ同巧。外底は磨きに近い弱い削り。	①②3に類似する。③橙2.5YR6/6。黄色味の強いムラ広い。外面に小さな黒斑あり。
5 罎(H)	口 10.4~10.1 頸 6.3 胴 15.9 底 4.9~4.4 高 15.0	完形	外面は削りに近い幅広の丁寧なナデを施すが、中位でやや弱く、下半では鋭い。肩部付近無調整だが平滑。口縁は布状具の擦痕残る幅広のナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。外面下半は黄色味おびる。

8号古墳 (第451・453図 PL. 91)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 刀子	長 12.0 棟幅 0.29 柄径 1.6×1.1	主体部内 完形	柄の木質残存。柄の基部には鋸の痕が残る。身部は中程で強く研ぎ減っている。	①鉄地金は良好。錆化の影響はやや少ない。④鋸は幅10mm。木質は基部で残り良く、端部へ向かって尖っている。
2 壺(H)	口(24.0) 高 49.6	口縁の大部分と 胴約 $\frac{1}{2}$ 欠く	約2cm幅の粘土帯を単位として下から積み上げ成形。口縁は幅3mmの沈線を巡らす。胴全体にナデと斜へら削り。内面は剥落が激しく、整形不明。	①素地やや粗く、チャート・長石等の小角礫を多く含む。②酸化焰、やや硬調。③にふい橙色。④胴下半の一部に黒斑。

9号古墳 (第455図 PL. 91・92)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口(24.8)		3段構成で、ぎこちないつくりが目立つ。口縁端部断面は丸味をおびたコの字形。外面の第1・3段は縦ハケ、第2段は横ハケ。内面は口縁部横ハケ、それ以下は縦・横の指調整。	①緻密、白色粒を含む。②酸化焰、あまい。③明赤褐色。④第3段外面にへら描きあり。
2 円筒埴輪	口(22.2)		タガは断面コの字形に近く発達している。外面縦ハケ、内面不定方向ハケ。	①緻密、砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙色を呈す。
3 円筒埴輪			タガは2稜の山形で発達している。透孔は鈍い半円形である。外面は縦の弱いへら削りで、ハケ目が認められない。内面は縦・横の指調整で、粘土紐積み上げ痕を残す。	①緻密、砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。

3 古墳出土遺物と埴輪

4 円筒埴輪	口(25.2)		3段構成の第2～3段の破片。タガはやや細身で著しく発達。外面ハケ整形を施さず、縦方向のナデ。内面第3段横ナデ、第2段縦方向の指調整で、粘土紐積み上げ痕を残す。	③赤褐色。
5 円筒埴輪			タガは2稜の山形でやや発達し、透孔は鈍い半円形。外面縦の弱いヘラ削り。内面不定方向の指調整で、粘土紐積み上げ痕を残す。	③橙色。
6 円筒埴輪	底20.7～19.0		粗雑なつくりであり、タガが全体に剥離している。外面縦の弱いヘラ削り。内面不定方向の指調整で、粘土紐巻き上げ痕を残している。指の押圧により、面の凹凸が著しい。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焰、ややあまい。③橙色。
7 円筒埴輪	底(18.8)		外面縦ハケ、内面不定方向ハケ。	①緻密、砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。
8 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面不明。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④タガ寄り外面にヘラ描きあり。
9 円筒埴輪			外面縦ハケ。内面斜横方向の指調整、粘土紐の積み上げ痕を明瞭に残す。	①白色小礫を含む。②酸化焰、須恵質に近い硬調さである。③にぶい橙色。④外面ヘラ描き。
10 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面斜横方向の指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面にヘラ描き。
11 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①砂粒を混入する。②酸化焰、あまい。③明赤褐色。④外面赤色顔料及びヘラ描き。
12 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面斜横方向の指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④タガに近い上部外面にヘラ描き。
13 円筒埴輪			口縁部寄りの破片で、外面やや斜めの縦ハケ、内面横ハケ。	①白色小礫の混入が目立つ。②酸化焰、ややあまい。③明赤褐色。④外面赤色顔料及びヘラ描き。
14 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横方向の指調整。	①緻密、砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐色。④外面ヘラ描き。
15 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面ヘラ描き。
16 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面斜縦の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐色。④外面ヘラ描き。

遺物観察表編

10号古墳 (第459図 PL.92)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口25.3~24.8		3段構成で、第2段の中央に一对の円形透孔があり、第3段の下端寄りに第2段のものと直交し、これより一回り小さい円形透孔がある。タガは2稜の山形でしっかりしている。外面縦ハケ。内面第3段はやや斜め横ハケ。第2段以下、指調整により丹念に粘土紐積み上げ痕を消す。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焰、やや硬調。③あずき色に近い赤褐色。④外面全体と内面の口縁部寄りを赤色顔料塗彩。
2 円筒埴輪			タガは幅狭のM字形で、未発達。最上段に小型の円形透孔あり。外面縦ハケ。内面、口縁部上半が横ハケ後のナデ、口縁部下半横ハケ、それ以下は斜めハケ後粗い縦ハケ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
3 円筒埴輪			最上段に小型の円形透孔を施す。タガは細いM字形で、しっかりしている。外面縦ハケ、内面やや斜めの横ハケ。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、やや硬調である。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
4 朝顔型埴輪			外面頸部は縦ハケ、肩部は縦・斜横ハケを乱雑に施す。内面B種横ハケ。	①緻密、砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
5 朝顔型埴輪			外面頸部は縦ハケ、肩部は乱雑な横ハケ。内面横ハケ。	①緻密、砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④頸部外面に赤色顔料塗彩。
6 朝顔型埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密で細砂を含む。②良好。③赤褐色。④外面全体に赤色顔料塗彩。
7 円筒埴輪			口縁端部は横ナデ後、削り調整。外面やや斜め方向の縦ハケ、内面不定方向のハケ。	①緻密、やや大きめの砂を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙色。④内面ヘラ描き。
8 円筒埴輪			口縁端部は断面コの字形を呈す。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、砂粒を含む。②酸化焰、普通。③赤褐色。④外面に沈線があるが、他のヘラ描きに比べ鈍い。
9 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、砂粒を含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩及びヘラ描き。
10 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①砂粒多く含む。②酸化焰、普通。③赤褐色。④外面棒状具による沈線。
11 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩及びヘラ描き。
12 形象埴輪			極めて緩やかなカーブで、板状に近い。ヘラ描きによる交差する直線の交点に、棒状具による円形刺突を施す。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①小砂礫の混入が目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙色。
13 形象埴輪			三角板革綴あるいは鉾留式の甲冑形埴輪の破片である。大きさ・形状からすると衝角付冑を模している可能性がある。三角形をヘラ描きし、革綴あるいは鉾留部分を棒状具の円形刺突であらわす。外面は丹念なナデ仕上げ、内面は横方向の指調整。	①緻密。②酸化焰、やや硬調である。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。

11号古墳 (第456図 PL.92)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.9 高 5.3	ほぼ完形	外面強く細かい削り。内面ナデは上半で横位の鋭い擦痕、下半不明瞭で一部放射状の擦痕残る。厚手で重量。	①素地普通。細礫・赤褐色鉱物・チャート等の混入物雑多。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。一部に赤色味おびるムラあり。

遺構外出土埴輪 (第463～467図 PL.92～94)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪			タガはややくずれたM字形の断面で、丁寧なつくり。透孔は小さな円形と思われる。外面は目の整った縦ハケ目。内面は口縁下に斜めハケ目。他はナデ。	①緻密で粗砂を多く含む。②酸化焰。③橙～暗褐色。
2 円筒埴輪			タガは断面三角形で、つくりはやや粗雑。口縁はやや外反し、口唇は弱い凹面。最上段に横2本の刻線。透孔は小円形。外面と内面上位に縦ハケ目。	①やや粗く、粗砂が多い。②やや還元気味。硬調。③褐灰色。
3 円筒埴輪			タガは断面台形で、つくりは丁寧。外面は縦ハケ目。内面は縦ナデとハケ目。口縁下内面は斜めハケ目。	①やや粗く、粗砂が目立つ。②酸化焰、均質。③橙色。
4 円筒埴輪			タガはM字形のくずれた三角形断面で接合は粗雑。外面はヘラ状工具による縦ナデ。内面は縦・斜の指頭によるナデ。透孔は上が直線的な楕円形。	①緻密で粗砂の混入が目立つ。②酸化焰、比較的硬調。③淡橙色。
5 円筒埴輪			タガは2稜を有し、幅狭で低い。透孔は円形。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①緻密で細砂がまじる。②カマドに再利用されているため不明。③灰黄褐色。
6 円筒埴輪			断面三角形のタガ。透孔は円形か。外面縦ハケ目、内面斜めハケ目。	①やや粗く、粗砂を含む。②酸化焰。③にぶい橙色。
7 円筒埴輪			タガは断面三角形で、つくりはやや粗雑、透孔は角のある円形。外面は粗い縦ハケ目。内面は上半に斜めハケ目、下半はナデ。	①やや緻密で細礫や粗砂を含む。②酸化焰、均質。③橙色。
8 円筒埴輪			タガは低いM字形の断面で、つくりはやや雑。透孔はやや大きめで第2段目に穿つ。外面は整った縦ハケ目。内面は下位指ナデ。上位が鋭い縦ハケ目。	①やや緻密で、細礫～粗砂を含む。②やや還元焰。③黄褐色～褐灰色。
9 円筒埴輪			タガはややくずれた台形状の断面。透孔は不整形で、第2段に穿つ。外面縦ハケ目。内面縦ナデ。	①緻密で粗砂目立つ。②酸化焰、ムラが多く、全体に硬調。③暗褐色。
10 円筒埴輪			外面は浅い縦ハケ目。内面は縦ナデ。	①やや緻密で、細礫・粗砂を含む。②酸化焰、均質。③橙色。
11 円筒埴輪			外面はヘラ状工具による縦ナデ。内面は指頭とヘラ状具による縦ナデ。	①やや粗く、細礫・粗砂が多い。②酸化焰。③淡橙色。
12 円筒埴輪			外面に粗い縦ハケ目。内面は指頭によるナデ。1段目外面に長さ5cmの横位刻線。	①混合した白色粘土が縞状に残る。やや粗く、粗砂が多い。②酸化焰、やや軟調。③淡橙色。
13 円筒埴輪			外面に目の粗い縦ハケ目。内面縦ナデ、基底部内面に粘土紐積み上げ痕を残す。	①やや緻密で粗砂を含む。②酸化焰。③灰褐色～淡橙色。

遺物観察表編

14	形象埴輪 (人物)		器台部に大きめの円形透孔を穿ち、縦ハケ目。裳裾はやや張出し、斜めハケ目。一部に斜沈線がみられる。	①やや緻密で、粗砂を多く含む。②酸化焰、均質。③淡橙色。
15	円筒埴輪		タガは整った台形断面で、成形は丁寧。外面は目の整った縦ハケ目。内面斜めナデ。基底内面に粗砂の多い粘土を加えてナデつける。	①やや粗く、粗砂を含む。②酸化焰、均質。③橙色。
16	円筒埴輪		タガはM字形のくずれた断面形で、接合は粗雑。透孔は小さな円形で、2段目、3段目に互目に穿つ。外面は浅い縦ハケ目。内面斜めナデ。	①緻密で粗砂を含む。②酸化焰、ムラ多い。③灰褐色～橙色。
17	円筒埴輪		タガはややくずれた台形状の断面でつくりはやや粗雑。外面縦ハケ目、底付近横ナデ。内面は縦ナデで、底付近は粘土を付加して斜めナデ。	①緻密で粗～細砂を含む。②酸化焰、半分ほど黒斑。③にぶい橙～灰黒色。
18	円筒埴輪		外面に目の細かい縦ハケ目。内面は指頭による縦ナデ。基底部内面は横ハケ目。	①やや粗く、粗砂が目立つ。②酸化焰、均質。③灰黄褐色。④外面に部分的に赤彩痕が残る。
19	朝顔型 埴輪		全体に粗雑なつくり。タガ貧弱な山形。外面縦ハケ、内面平滑にナデ仕上げ。	①緻密、細砂がまじる。②ややあまい。③淡橙色。④外面へラ描きあり。
20	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面斜め横ハケ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡橙色。④外面へラ描きあり。
21	円筒埴輪		口縁部付近の破片である。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。外面赤色顔料塗彩。	①緻密で細砂がまじる。②普通。③淡黄褐色。④内面へラ描きあり。
22	円筒埴輪		タガは断面M字形でやや低い。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①細礫・赤色粒の混入が目立つ。②ややあまい。③橙色。④外面へラ描きあり。
23	円筒埴輪		厚手のしっかりしたつくり。タガはやや発達したコの字形。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面丹念な指調整。外面赤色顔料塗彩。	①緻密で砂礫がまじる。②良好。③淡黄褐色。④最上段外面にへラ描き。
24	円筒埴輪		口縁部の破片。外面縦ハケ、内面横ハケが口縁端部までおよぶ。内面へラ描きあり。	①砂礫の混入が目立つ。②良好。③淡赤褐色。
25	円筒埴輪		つくりの粗雑なもの。タガは2稜の山形で低い。外面縦ハケ、内面斜めハケ。	①細砂がまじり、ザラザラしている。②二次火熱を受けている可能性あり。③淡灰褐色。④外面へラ描きあり。
26	円筒埴輪		外面縦ハケ。内面粘土紐の積み上げ痕を残す、粗い指調整。	①緻密、細礫がまじる。②良好。③明赤褐色。④外面にへラ描き様の線あり。
27	円筒埴輪		タガは発達したコの字形。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面斜め横ハケ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡橙色。④外面にへラ描き、赤色顔料の塗彩あり。
28	円筒埴輪		基部の破片。タガはM字形。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①緻密、細砂の混入が目立つ。②良好。③淡橙色。
29	円筒埴輪		基部の破片である。タガはM字形でやや低い。外面縦ハケ、内面縦の指調整を丹念に施す。	①緻密、細砂の混入が目立つ。②普通。③淡橙色。
30	朝顔型 埴輪		タガはくびれ部は貧弱な山形で、それ以外はコの字形のやや発達したもの。透孔は円形。外面縦ハケ、内面横方向の指調整。	①細砂を多量に含みザラザラしている。②普通。③淡灰黄褐色。④外面へラ削りあり。

3 古墳出土遺物と埴輪

31	朝顔型 埴輪		受部付近の破片。丸味を持った饅頭形を呈する。タガは幅狭で断面M字形。外面縦ハケ、内面横ハケ。外面に赤色顔料を塗彩。	①緻密、砂礫が混入する。②良好。③赤褐色。
32	朝顔型 埴輪		受部付近の破片。31にくらべ直線的で丸味に欠ける。タガは幅狭のM字形。タガより上の外面は斜めハケ、下は縦ハケ。内面は横ハケ。外面に赤色顔料塗彩。	①緻密で砂礫が混入する。②良好。③赤褐色。
33	円筒埴輪		口縁部破片。口縁部内外面、口縁部に横ハケ。それ以外の外面やや斜めの縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂が少量まじる。②ややあまい。③橙色。④外面赤色顔料塗彩、内面ヘラ描き。
34	円筒埴輪		口縁端部の破片。内外面とも横ナデ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡橙色。④内外面とも赤色顔料塗彩、内面ヘラ描きあり。
35	円筒埴輪		口縁部寄りの破片。外面縦ハケ、内面横ハケで、外面に赤色顔料塗彩。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡黄褐色。④外面ヘラ削りあり。
36	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂が少量まじる。②普通。③淡橙色。④外面赤色顔料塗彩、内面ヘラ描きあり。
37	円筒埴輪		タガはM字形でやや低い。外面縦ハケ、内面指調整により平滑に仕上げる。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡橙色。④外面ヘラ描きあり。
38	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面きわめて粗雑な指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③明赤褐色。④外面ヘラ描きあり。
39	円筒埴輪		タガは稜が明瞭でやや発達したコの字形。透孔は明瞭な半円が推定される。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③明黄褐色。④最上段外面にヘラ描きあり。
40	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で細砂がまじる。②普通。③淡橙色。④外面赤色顔料塗彩、ヘラ描き。
41	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面不定方向のハケ後ナデ。	①砂礫の混入が目立つ。②ややあまい。③明赤褐色。④外面ヘラ描き様の線あり。
42	円筒埴輪		タガは断面コの字形で発達している。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①緻密、砂礫がまじる。②固く焼き締まっている。③明灰褐色。④外面ヘラ描きあり。
43	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面粗雑な指調整。	①細砂が少量まじる。②固く焼き締まっている。③灰赤褐色。④外面ヘラ描き。
44	円筒埴輪		タガ付近の破片。外面横ナデ。	①緻密、砂礫がまじる。②良好。③淡赤褐色。④外面ヘラ描きあり。
45	形象埴輪		人物埴輪の衣服の裾部付近の破片と思われる。円筒形の本体に外側に開く裾部が取り付く。外面縦ハケ、内面斜縦ハケ。	①細砂を多量に混入し、ザラザラしている。③カマド構造材に使用されているため、暗灰褐色を呈する。
46	形象埴輪 (軀)		小ぶりの軀形埴輪の上半部分。筒形の矢筒部分に矢を貼付した板状の部分が、ソケット状に差し込まれている。両側はひれ状の突出部が剥落している。筒部は外面縦ハケ。ひれ部は外面横ハケ。	①多量の細砂を混入し、ザラザラしている。②良好。③住居のカマド材として再利用されているため、二次火熱で暗灰褐色を呈する。

遺物観察表編

47 形象埴輪			円筒形の本体からひれ状の張り出しがつく。表面はひれ状部が横ハケ、本体が縦ハケ。裏面は指調整。靱形埴輪と思われる。	①砂礫がまじる。②カマドへの再利用のため二次火熱を受ける。③暗灰褐色。
48 形象埴輪			46(靱)の下部の破片と思われる。筒状の本体にひれ状の突出部が取り付け、両者の境界は沈線で区画される。中心寄りから斜めに結び紐を表現した、幅1.5cmの帯状の貼付がある。本体部分は外面縦ハケ。ひれ状部外面横ハケ。	①細砂・赤色粒を混入し、器面がザラザラしている。②良好。③淡赤褐色。
49 形象埴輪			筒形の本体の側部に貼付帯の剥落痕が認められる。また上端全体にも剥落痕あり。大刀形埴輪の把部が推定される。外面縦ハケ。	①砂礫を多量に混入し、ザラザラしている。②カマドへの再利用のため二次火熱を受ける。③灰褐色。
50 形象埴輪 (馬)			馬形埴輪の腰上部付近の破片と思われる。革帯を表現した帯状の貼付が錯綜し、鞍の後輪の剥落痕に取り付いている。外面は不定方向のハケ、内面は不定方向のハケ整形後、粗雑な指調整。	①緻密で砂礫がまじる。②普通。③カマドの構造材として再利用したため灰褐色を呈する。
51 形象埴輪			円筒状の本体に結び紐を表現した貼付が施され、その上には綾杉の刻線がヘラ描きされている。外面縦ハケ、内面縦のナデ。	①緻密で細砂の混入が目立つ。②カマドに使用されていたため二次火熱を受ける。③灰褐色。
52 形象埴輪			下ぶくれの円筒状を呈する。外面の長軸方向に平行する2条の貼付帯がある。	①砂礫を多量に混入し、ザラザラしている。②良好。③明赤褐色。
53 形象埴輪			半円筒状をなす本体の下端側部に、長軸と平行するコの字形の貼付がある。外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡橙色。
54 形象埴輪			断面が長円形の筒形の側部から張り出す、ひれ部分がある。表面は刻線・貼付帯があり、裏面は粗い指調整のままである。盾形埴輪の破片が推定される。	①緻密、砂礫・赤色粒の混入が目立つ。②良好。③明赤褐色。
55 形象埴輪			人物のミズラ。径2.8cm、断面がやや長円形の筒形で、上端に接着痕あり。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③赤褐色。
56 形象埴輪			本体から剥落したもの。細長い三角形の板状をなし、端部が折れまがる。表面は細かいハケ整形の上に赤色顔料の塗彩の三角文が並ぶ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡橙色。

4 土器集積跡出土遺物

1号土器集積跡(第477~479図 PL.95)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 12.6 底 4.1	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	器面の摩滅著しく、整形痕の観察は困難。	①ダスト状の素地に、やや大粒の赤褐色鉱物を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR7/6でほぼ一様。
2 杯(H)	口(12.8) 高 3.2	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削りやや強い。内底には指頭圧痕状の細かな凹凸あり。歪みあり傾き不安。	①ダスト状の極細土を素地とし、パミス・細礫まじりの砂粒多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR7/4。赤色味の強い部分も広く、一様でない。
3 杯(H)	口(15.0)	埋土7片 $\frac{1}{2}$ 個体	外底削り弱くやや雑。口縁内端は強く折り返すが、形状は一定でない。内面平滑に仕上げるがナデの痕跡不明瞭。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6で一様。
4 杯(S)	口(12.6) 底 7.1 高 3.6	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回へら無調整。内面のロクロ痕はコテ状工具の痕で、やや鋭い凹みになる。口縁薄く、端部尖る。	①素地普通。細礫まじりの細砂少量含むが良好。②還元焰、硬調。③灰N5/0。口縁外端のみ黒色味強い。
5 高台付杯(S)	口(13.2) 台(9.2) 高 3.7	埋土4片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底台 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→切離し不明→底部全面雑な回転へら削り後、ロクロ使用高台取付。高台内側と内底縁辺に鋭い工具痕残る。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1でほぼ一様。④口縁内端やや摩滅する。
6 杯	口(11.0) 底(6.8) 高 4.1	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	外底は砂底で縁辺と体部下端を雑な手持ちへら削り。型造りか。外面は端部付近のナデの後、指頭圧痕を加えている。内面やや丁寧な横位ナデ。	①素地やや粗い。パミス・石英まじりの砂粒やや多い。外底の砂粒にはパミス目立つ。②還元焰か。軟調。③灰7.5Y5/1。ほぼ一様。
7 杯	口(13.2) 底(6.8) 高 4.2	$\frac{1}{2}$ 個体	外面指頭圧痕上を鋭い削り、口縁端部のみ強いナデ。内面横位ナデで下半のみ削りに近い縦位擦痕。外底砂底で縁辺を削る。底部薄いため歪み強い。	①素地粗くボソボソ。赤褐色鉱物やや多い砂粒含む。外底はチャート・石英まじりの粗砂。②酸化焰、普通。③暗赤褐5YR2/3。内面下半赤色味をおびる。④内面にタール状にスス附着。
8 杯	口(11.8) 底(6.0) 高 3.8	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。外面上半のみロクロ痕やや強く、端部で小さく外反する。内底は平坦。	①素地やや粗い。輝石・石英等雑多な混入物含む粗砂やや多い。②還元焰か、普通。③灰7.5Y6/1。内外面に赤色味の強いムラあり。
9 碗	口 13.1 底 5.5~5.2 高 4.9	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で細かく、内面不明瞭で平滑。薄手で軽量。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②還元焰か、普通。③にぶい黄橙10YR6/3。赤色味おびるムラあり。内底は重焼き痕が灰白色に残る。
10 碗	口 13.6 底 6.6 高 4.3	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内面に接合痕明瞭。ロクロ痕極めて弱い。厚手でやや重量である。	①やや粗くボソボソしているが、砂粒以外の混入物は少ない。②還元焰か、やや軟調。③灰白5Y7/1で赤色味の強い部分あり。④外底摩滅する。
11 碗(S)	台 6.3~5.9	口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用やや雑な高台取付。内底と外面でロクロ痕強い。高台ややいびつ。	①素地普通。細礫まじりの細砂やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。底部内外面明度低い。③外面に薄い墨書あるが判読できず。
12 碗	口(15.6)	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕外面でやや強く、内面平滑。	①素地粗い。細礫のやや目立つ砂粒の混入多い。②中性焰か、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。黒斑状の薄い小さなムラあり。④細かな剥落多い。
13 碗	口(14.0) 台 6.4~6.1 高 5.1	口縁 $\frac{1}{2}$ と高台 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ不使用高台取付で高台不整。内底以外はロクロ痕極めて弱い。	①素地やや粗い。細礫散見の砂粒多く、気泡も含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3~黒褐10YR2/2。一様でない。

遺物観察表編

14 椀	口(15.2) 台(6.4) 高 6.0	3片 %個体	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。ロクロ痕は細かく弱く、下半では不明瞭。全体に平滑。	①やや粗く、細礫や土粒まじりの砂粒多い。②酸化焰か、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/3。黄色味・黒色味のムラあり一様でない。④高台摩滅。
15 長頸壺 (S)	口(10.0) 頸 5.1	図示部中上半% 欠く	内面の接合痕より巻上げか。上半のみ横ナデやや強い。下位の沈線は1条を意図したもののだが、極めて雑。	①素地緻密。砂粒以外混入物少ない。②還元焰、硬調。内面に偏って降灰釉あり、窯内で転倒状態の焼成。③暗青灰5B3/1。釉は灰白色。
16 甌(H)	口 17.1 孔 2.7~ 2.2 高 9.8	体部%欠く	口縁内端に弱い沈線巡る。底部の孔はいびつ。外面削りは幅広く鋭い。内面ナデはへら状工具の圧痕残る。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの細礫の混入多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。赤色味・黒色味の強いムラあり一様でない。
17 小型甕 (H)	口 11.1~10.9 頸 10.6	9片 図示部ほぼ完存	外面の削りやや強い。口縁と内面のナデ丁寧。	①ダスト状の素地で、赤褐色鉱物・輝石等を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。一部灰色味をおびるムラあり。
18 甕(H)	口(18.6) 頸(15.0) 底 3.5~ 3.2	上半% 下半%	外面削りは幅広く、強く鋭い。内面ナデはやや丁寧だが、底部付近に指頭圧痕状の凹凸多い。	①素地普通だが、細礫の混入やや多く粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。外面に黒色味をおびるムラあり一様でない。
19 甕(H)	口(24.0) 頸(19.2)	図示部%	接合痕より輪積みか。胴下半内面にやや強い接合の段残る。外面削りは幅広く息長い。内面にやや強いへら状工具のナデの痕が残る。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物・細礫等のやや大粒夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒色味をおびるムラ広い。④外面中位以下にスヤカマド粘土付着。
20 鉢(H)	口(13.8)	図示部%	口縁内面の端部と中位に沈線巡る。口縁のナデは強いが、外面下半に接合痕残る。外面削りは強くやや雑。	①素地普通。細礫・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。明度の低いムラあり。一様でない。
21 甕(H)	口(19.2) 頸(15.6)	3片 図示部%	頸部外面の屈曲やや強い。外面削りは粗く鋭い。内面ナデは丁寧で、器面は平滑。	①素地普通だが、長石・チャートまじりの細礫多く粗い。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。断面は一部で灰色味をおびる。
22 甕(H)	口(18.8) 頸(15.6)	図示部%	口縁外面は強く細かなナデ。肩部の削りはやや弱い。内面のナデは丁寧でやや強く、平滑に仕上げる。	①素地普通だが、細礫・赤褐色鉱物まじりの砂粒多く、ザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は灰色味をおびる。
23 甕(H)	口(23.0) 頸(19.4) 胴(22.2)	埋土15片 図示部%	外面鋭く息長い削り。内面丁寧なナデで幅広い工具使用か。	①甕類としては緻密な素地だが、粗砂の混入多く器面ザラザラ。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。内面黄色味をおびる。
24 甕(H)	口(16.6) 頸(13.6)	埋土 8片 図示部%	外面削りは息長く丁寧。口縁部のナデやや強く、端部は外反する。内面のナデも丁寧で平滑に仕上げる。	①やや粗い素地にパミス・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/2。断面に黒色味をおびる部分あり。
25 甕(H)	口 19.7 頸 18.8	11片 図示部%	頸部は上側のみ屈曲強く、下半は接合痕を雑にナデ消す。外面削り雑で強く一部に無調整部分残る。内面幅広い工具のナデでやや平滑。	①素地やや粗く、白色鉱物・輝石等雑多な混入物含む。②酸化焰、やや軟調。③褐7.5YR4/3。ムラ多く一様でない。④口縁内面凍てハゼ状の剝落あり。
26 大甕 (S)	胴 82.6	肩部以上を欠く が他はほぼ完存	粗く横位にナデした後、外面に浅い正格子叩目を残す。内面には弱い弧を描くあて具痕を残す。体の一部と肩全体に自然釉がかかる。	①素地やや粗く、長石の細礫～粗砂多く含む。②還元焰、やや軟調。③灰10Y6/1。自然釉はオリブ灰色で大部分は風化により白く変色。④内面下半は液体を貯蔵した痕が、やや黒色味をおびる色調の変化に現われる。
27 土錘	重 7.0g	埋土 %個体	粗くナデる以外、目立った整形は見られない。中央孔内面には軸方向の浅い条痕が見られる。	①素地普通。輝石・長石等の粗砂を多く含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。④先端部に偏摩痕が見られる。

4 土器集積跡出土遺物

2号土器集積跡(第480・482~485図 PL.96・97)

№・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (Y)		脚部小片	外面へラ磨きの後、鋭利な工具で直弧文を描く。内面はハケ目後へラ磨き。	①きめやや粗く、赤色粘土粒、赤褐色粒、チャート等の細礫・粗砂を含む。②やや硬調。③橙2.5YR6/6。
2 器台 (Y)		脚部小片	1に同じ。	①きめやや粗く、赤色粘土粒、赤褐色・黒色の粗砂を含む。②普通。③にぶい橙5YR7/3。④1と同一個体か。
3 杯(H)	口 11.2 高 4.5	7片 口縁欠く	口縁のナデやや粗く、内端は小さく凹む。外底削りは鋭くやや雑。内底はへラ状の工具痕が圧痕状に残る。	①素地やや粗い。パミス・輝石の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/3。赤色味の強いムラあり。
4 杯(H)	口 11.7 高 3.9	7片 %個体	外底削りやや強く、縁辺に削り残しあり。内面は平滑。	①ややダスト状。パミスまじりの少量の砂粒以外は混入物まれ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6。ほぼ一様。
5 鉢(H)	口(16.4) 高 7.5	9片 %個体	口縁と内面のナデは丁寧。外面の削りも丁寧でやや弱い。	①素地やや緻密。砂粒以外の混入物少なく良好。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。彩度の高い部分あり。
6 鉢(H)	口(17.0) 高 6.6	6片 口縁% 底部%	口縁のナデ強く、外面に粗い擦痕が巡る。外底削りやや弱い。内面ナデ丁寧だが、内底には凹凸多い。	①②5にほぼ同じ。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
7 長胴甕 (H)	口 21.1~20.2 頸 14.7~14.1 胴 17.2~17.0	下半欠く	口縁外面に強い接合痕あり。胴部内面下半にやや強い接合の段残る。頸部削りは息長くやや鋭い。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。外面胴部は黒色味、内面は灰色味をおびる。
8 長胴甕 (H)	口 21.7~21.4 頸 17.3 胴 18.0 底 5.2 高 34.3	54片 %個体	接合痕より輪積みか。外面の削りは雑でやや強い。口縁のナデも強く雑で、細かな歪みを生じている。内面幅広工具のナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・細礫まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面に黒色味・赤色味をおびるムラあり。④二次火熱を受け外底付近やや脆弱化する。
9 長胴甕 (H)	口 21.8~21.2 頸 17.1~16.4 胴 17.8~17.1	図示部 中上半欠く	口縁のナデ強い。外面削りは息長く、やや強い。内面ナデはやや粗く平滑さ欠く。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂・細礫多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。細かなムラ多い。④強い二次火熱受け外面脆弱化する。
10 長胴甕 (H)	口 22.5~22.1 頸 17.1~16.6 胴 19.7~18.6	図示部%	口縁外面の屈曲やや強い。外面不明瞭だが、かなり息の長い削りか。内面やや平滑で、幅広のへラ状工具痕残る。	①素地普通。輝石まじり粗砂の混入極めて多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面灰色味強い。④外面下半にカマド粘土の付着多い。
11 長胴甕 (H)	口 22.0~21.4 頸 16.9~16.3 胴 18.5	胴部%と底部欠く	外面削りは息長く、やや鋭い。口縁外面の横位ナデは強く、工具痕が2条の段を作る。口縁の歪みや大きい。	①素地普通。細礫・輝石・赤褐色鉱物等の雑多な混入物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面赤色味をおび、外面は明度低いムラ多い。
12 丸胴甕 (H)	口 22.2~21.6 頸 19.5~18.9 胴 29.1~28.3 高 32.7	胴部%欠く	接合痕より輪積み。頸部外面にごく弱い沈線が巡る。口縁内端も弱く凹む。外面削り弱い。内面ナデ丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面下半に黒斑広い。内面灰色味をおびる。
13 丸胴甕 (H)	口(21.4) 頸(17.6) 胴(29.0)	38片 図示部%	口縁内端に幅広の凹み、外面に弱い沈線巡る。外面削りやや鋭い。内面はへラ状工具のやや丁寧なナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい褐7.5YR6/3。内面灰色味強い。外面黒斑あり。

遺物観察表編

14 丸胴甕 (H)	口(21.8) 頸(18.2) 胴(27.4)	図示部ほぼ $\frac{1}{2}$	口縁両端に弱い凹み、外面に弱い沈線巡る。外面削りはやや鋭く丁寧。内面もやや平滑。	①素地普通。輝石・細礫等まじる粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面下半は黒色味強い。④二次火熱受けるか。内面頸部と胴下半に細かな剝落多い。
15 丸胴甕 (H)	口 19.8~19.2 頸 18.4~17.2 胴(26.0) 底 6.0	胴上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁外面に接合痕、胴部内面下半に接合の段残る。外面削りは幅広くやや鋭い。内面やや丁寧なナデで、工具痕を殆ど残さない。	①素地普通。パミスやや目立ち、赤褐色鉱物・細礫まじりの粗砂多い。②酸化焰、やや軟調。③褐7.5YR4/3。黒色味をおびるムラ広い。④二次火熱により全体が脆弱化している。
16 丸胴甕 (H)	口 22.3~21.4 頸 18.8~18.4 胴 27.8	胴部 $\frac{1}{2}$ と底部欠く	口縁やや厚手で、外面に小さな段ができる。外面削りはやや細かく丁寧。内面ヘラ状工具使用のナデも丁寧。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に彩度の低いムラあり。④二次火熱受け、外面下半にスス状の薄い付着物あり。
17 甕(H)	口 14.4~14.2 頸 13.3~13.0	8片 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	器面荒れて不明瞭。外面削りはやや弱い。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい褐7.5YR5/3。黒色味・赤色味をおびるムラあり。④二次火熱受けるか。
18 甕(H)	口 16.7~16.1 頸 13.6	5片 図示部完存	口縁部のナデ丁寧。外面削りはやや弱い。内面ナデはやや弱く、ヘラ状工具痕僅かに残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面は灰色味をおびる。
19 丸胴甕 (H)	口 20.5 頸 17.3	13片 口縁 $\frac{1}{2}$ 肩部 $\frac{1}{2}$	口縁外面に弱い沈線巡る。口縁内端も僅かに凹む。外面削りやや強い。内面ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや粗い。細礫やや目立ち、輝石・パミスのまじる粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/3。赤色味・黒色味強いムラ多い。
20 甕(H)	口(17.0) 頸(13.2)	7片 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁外端強く凹む。横位ナデは丁寧。外面削りやや強い。内面ナデも丁寧でやや平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・輝石まじりの粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面灰色味強い。
21 甕(H)	口 17.9~17.1 頸 15.2~14.6	7片 図示部ほぼ完存	口縁のナデやや粗く、外面に接合痕残る。外面削りは幅広く強い。内面ヘラ状工具使用のナデはやや雑。口縁に波状の歪みあり。	①素地普通。細礫・輝石等まじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおびるムラあり。
22 長胴甕 (H)	口 26.4~25.5 頸 20.7~20.0	11片 口縁ほぼ完存 胴上半 $\frac{1}{2}$	口縁外面に弱い沈線巡る。外面の削りはやや丁寧で細かい。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。赤色味・黒色味の強いムラあり。
23 甕(H)	口 13.0~12.8 頸 12.3~12.0 胴(15.6)	口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$	口縁内端に沈線巡る。外面削りは雑で強い。内面ナデも板状工具の強い凹み残る。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじり粗砂多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/4。下半は内外面とも黒色味強い。
24 丸胴甕 (H)	口 20.9~20.3 頸 18.8~18.4 胴 28.8	図示部ほぼ完存	口縁外面に弱い2条の沈線が巡る。外面の削りは雑でやや鋭い。内面ナデは丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・細礫等の雑多な夾雑物多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面黒色味の強いムラ多い。④二次火熱受けるか。外面下半やや脆弱化し、スス状付着物あり。
25 丸胴甕 (H)	口 20.6~20.2 頸 18.3~17.8	口縁完存 肩部 $\frac{1}{2}$	口縁内端に凹み巡る。外面はやや雑で細かな削り。内面ナデは幅狭の工具使用。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒斑広い。
26 甕(H)	口(26.6) 頸(21.2) 底(8.6)	27片 口縁 $\frac{1}{2}$ 体部 $\frac{1}{2}$	接合痕より輪積みか。底部内端に鋭いヘラ削り。外面削り下半でやや強い。内面ナデやや丁寧。	①素地やや粗い。パミス・輝石まじる砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。内面下半黒褐色。外面下半も灰色味をおびる。
27 大鉢 (H)	口27.0~26.1	33片 図示部ほぼ完存	接合痕より輪積みか。器面荒れて整形痕不明瞭。内面は凹凸多く、平滑さ欠く。外面削り強い。	①素地普通。パミス目立つ、輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通か。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味・黒色味強いムラあり一様でない。④二次火熱を受ける。

4 土器集積跡出土遺物

28 平瓶 (S)	口 6.7 肩 (18.0)	3片 口縁ほぼ完存 他は $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。外面下半に回転ヘラ削りか。胴部と肩部の接合痕は観察できない。外面口縁中位と肩部端にやや幅太の沈線巡る。	①素地普通。細砂の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。外面黒色味おびるムラあり。内面やや明度高い。
29 手づくね	口(4.8) 底 2.9~2.7	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	内面は指頭の強いナデ。外面は平滑に仕上げるが、細かなヒビが残る。	①素地やや緻密。石英まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。外面灰色味をおびるムラあり。
30 長胴甕 (H)	口(25.5) 高 39.7	口縁 $\frac{1}{2}$ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠く	体部全体に縦ヘラ削り、体部中位に斜ヘラ削り。口縁ナデ。内面は幅広の工具によるナデ。	①素地粗く、チャート・長石・赤褐色粒の細礫を含む。②酸化焰、普通。③橙色~灰黄褐色。
31 長胴甕 (H)	口(22.0) 高 39.2	38片 口縁 $\frac{1}{2}$ 体上半一部欠く	体部上半は縦、下半は斜ヘラ削り。内面は幅広工具による横位ナデ。口縁は二段のナデ。外底に木葉痕あり。	①素地普通。長石・チャート等の角張った細礫が多い。②酸化焰。③にぶい橙色~灰褐色。

5 中世館跡出土遺物

VI区 1号溝 (第489~494図 PL. 98・99)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(7.6) 底 4.8 高 2.1	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁外端は有段状になり、上端尖る。内底に指頭のナデか。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物含むが、夾雑物は少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。一様。
2 小皿	口 7.9 底 4.3 高 2.3	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕強い。内底に一方の強い指頭のナデ。外底に板状圧痕。	①素地緻密。輝石まじりの細砂を若干含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。一様。④口縁上面全面にスス付着。外面口縁に凍てハゼ。
3 小皿	口(9.0) 底 5.4 高 1.6	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は外反気味。薄手。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐5YR5/6。内面は黒色味強い。
4 小皿	口 8.2 底 5.2 高 2.1	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。薄手。	①素地やや緻密。輝石・金雲母・パミスを含む。②酸化焰か、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。口縁内外面に燈芯痕状のスス付着。
5 小皿	口 8.4 底 5.0 高 2.7	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	左回転ロクロか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸か。口縁外端は直立気味で弱く凹む。外底に細かい板状圧痕。内底にやや弱い指頭のナデ。厚手。	①素地普通。パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、やや軟調。③黒N2/0。断面まで一様。④内面にタール状の付着物があるが、破損後に強い二次火熱を受け不明瞭。内底剥落多い。
6 小皿	口 11.0 底 6.6 高 3.0	口縁 $\frac{3}{4}$ と底部一部欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕やや強い。外底に細かな圧痕僅かに残る。内底に指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石やや多くパミスを含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。一様。
7 小皿	口(11.0) 底 5.5 高 3.2	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内底のナデ、外底の板状圧痕は不明瞭。	①素地普通。輝石・パミスまじり細砂を含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙5YR7/4。一様。
8 小皿	口(11.0) 底(5.6) 高 2.6	$\frac{3}{4}$ 個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く内面平滑。	①素地やや粗くザラザラ。輝石・パミス等のまじり粗砂多い。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。ほぼ一様。
9 小皿	口(10.0) 底(6.6) 高 2.3	図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁端部は直立気味で、内側へ弱く肥厚する。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。断面まで一様。
10 小皿	口(12.0) 底(6.2) 高 3.2	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭。口縁上端は沈線上の細かい凹みが巡る。口縁は小さく波状に歪む。厚手。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス等まじり細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。内外面とも黒色味をおびるムラあり。
11 小皿	底(6.8)	図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。内底に弱い指頭のナデ。底部は厚い。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面は明度低い。
12 小皿	口 12.2~11.9 底 5.7 高 3.4	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁小さく歪む。外底に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指頭圧痕のナデ。口縁内端は弱く凹む。厚手で重量。	①素地普通。輝石やや多く、パミスまじり細砂を含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
13 小皿	口(11.6) 底 5.7 高 3.7	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	10にほぼ同巧。口縁端部の沈線状の凹みは見られない。切離しの糸が外底に深い凹みを作る。	①②10にほぼ同じ。③にぶい橙7.5YR7/3。口縁外面に黒色のムラあり。

5 中世館跡出土遺物

14 小皿	口 12.0~11.7 底 6.5 高 3.1	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。外面のロクロ痕やや強い。外底に細かい板状圧痕僅かに残る。内底弱い指頭のナデ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物の目立つ砂粒含む。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。④口縁上端を研ぎ込み水平に調整している。
15 小皿	底 5.3	図示部ほぼ完存	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕はコチ状工具痕が残り、細かくやや強い。内底に指頭の弱いナデあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。内面は明度低い。
16 小皿	口(11.6) 底(5.4) 高 3.3	口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱い。内底に弱い指頭のナデ。	①素地やや緻密。パミス・やや大粒の赤褐色鉱物含む。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。一様。
17 小皿	口(11.6) 底(7.8) 高 2.8		左回転ロクロか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸か。ロクロ痕は弱く不明瞭。口縁は大きく肥厚する。内底に指頭のナデ。外底に強い板状圧痕。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや硬調。③外面は浅黄橙10YR8/4、内面はにぶい橙7.5YR7/3。
18 花生 (陶器)	頸 4.3 胴 6.9 台(7.6)	北側埋土 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕やや粗い。鉄釉を施し、裾部付近は釉厚い。	①素地やや緻密。混入物は少ないが、気泡やや目立つ。③釉調は光沢欠くが胎釉に近い。胎土は灰白色。④瀬戸・美濃系。破損後に火熱を受けたと思われる、断面一部すすける。
19 鉄絵皿 (陶器)	口(13.0) 台(6.6) 高(2.7)	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	口縁部は口折れ状。鉄絵は唐草意匠か。長石釉を施すが、外底の一部には掛かっている。外底に2カ所、円錐ピンの痕跡あり。	①素地普通。③胎土は黒色を呈す。鉄絵は暗褐色に、長石釉は灰色に発色する。やや粗い貫入が見られる。④口縁端部・高台端部の剥落すすむ。瀬戸・美濃系。鼠志野。
20 碗 (陶器)	台(5.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	内面鉄釉。外面灰釉と思われる灰緑色の薄い釉で、掛け分けの碗となろう。接地部は釉ハギか。	①素地やや緻密。混入物少ない。③外面鉄釉は黒褐色。胎土灰白色。④瀬戸・美濃系。
21 おとし蓋	口(12.6)	$\frac{1}{2}$ 個体	円盤状の粘土貼り合わせか。器面は平滑で磨きを加えた可能性。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物を含む。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR6/4。黒色のムラあり。
22 内耳	口(35.8) 底(33.2) 高 6.0	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦。体部外端に細かな指頭の凹み巡る。内面段はやや弱い。内耳に強いスレあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②中性焰、やや軟調。③口縁部は内外面とも黒色。内底は橙7.5YR6/6。④口縁外端にスス附着。
23 内耳	口 36.0 底 31.0 高 5.8	$\frac{1}{2}$ 個体	口縁上端は平坦。口縁内面の段やや強く凹線状になる。外面に指頭状の細かな凹み多い。外底に板状の圧痕あり。	①素地やや緻密。輝石の多い砂粒を含む。②中性焰か、やや硬調。③橙7.5YR6/6。口縁外面黒色味強い。
24 内耳	口(27.0) 底 16.8 高 13.3	$\frac{1}{2}$ 個体	体部外面下半にやや粗な削り。内面は丁寧な布状具の擦痕だが、体部に指頭圧痕残る。内耳は細長く、口縁の凹み小さい。外底に糊状の圧痕あり。	①素地緻密。金雲母・パミスを含む。②中性焰、やや軟調。③外面は黒色。内面はにぶい黄褐10YR5/3。④外面下半に薄いススの附着多い。内底縁辺にも付着物あり。
25 内耳	底(20.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	内耳は小さく、取り付けは雑で、口縁の凹みも小さい。外面下端に弱い削りの跡が残る。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③内面黄灰2.5Y6/1。外面黒色。断面中央黒色。
26 内耳	口(32.4) 底(21.4)	口縁 $\frac{1}{2}$ 体部 $\frac{1}{2}$	口縁端部は外方へ強く突出する。内面稜やや強い。体部外面下半の削りやや強く、上半には指頭痕残る。	①素地普通。パミスまじりの細砂を含む。②中性焰、やや軟調。③灰5Y5/1。④外面下半に薄くスス附着。
27 内耳	口(33.0) 底(25.0) 高 20.0	$\frac{1}{2}$ 個体	口縁は内湾気味で上端は平坦。体部外面上半に指頭痕残る。	①素地普通。金雲母まじりの灰色砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③外面灰黄2.5Y6/2。内面橙7.5YR6/6。

遺物観察表編

28 火鉢	底(42.0)	脚部破片	輪積みか。体部下端の突帯は丁寧な貼り付け。脚部は貼り付け後、ヘラ状工具で調整。外面のみ雑なヘラ磨き。内面は平滑さ欠く。	①素地粗くザックリしている。パミス・赤褐色鉱物・細礫を含む。②中性焰、やや硬調。③外面黒色でイブシか。内面灰5Y5/1。断面は黄色味強い。
29 播鉢	口(26.0) 底 13.5 高 9.4	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	輪積みか。口縁上端に凹み巡る。卸し目は1.4cmに5本で、細く浅い。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焰か、普通。③灰白10YR7/1。断面は黒色。④内面の摩滅すすむ。
30 播鉢	口(33.6)	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁端部は外傾し、内外両側へ突出する。外面下端に弱い削り、内面卸し目は2.6cmに7本で、断面は逆台形。	①素地普通。金雲母まじりの砂粒を含み、細礫も散見。②酸化焰、硬調。③橙5YR6/6。彩度の低いムラ・黒斑あり。④残存部では摩滅少ない。
31 播鉢	底(13.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロか→回糸。ロクロ痕観察できない。内面平滑。内底に卸し目と思われる不明瞭な凹みあり。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③外面黒色、内面灰黄2.5Y6/2。④内面残存部分は研磨したように平滑。
32 茶臼 (下臼)		図示部 $\frac{1}{2}$	磨面とはんざり部欠く。接地部分やや平坦。	①粗粒安山岩。③ピンク色味をおびる。④火熱を受け、一部すすけている。
33 石臼 (上臼)	径(30.4) 上縁部下幅 4.7 芯穴上径 4.1 芯穴下径 (5.0) 供給口上径 4.1	$\frac{1}{2}$ 個体	芯穴を調整して貫通させており、中程に段ができている。供給口は上縁部に近い。目は切線主溝型で6分画。副溝数は7~8本。溝間隔16~14mm。下面縁辺を一部砥石として再利用。	①粗粒安山岩。石質やや細かい。③白色味をおびている。④上面中心に、破損前に火熱を受けている。
34 石臼 (上臼)	径(34.0) 供給口径 3.7 ふくみ 1.5	$\frac{1}{2}$ 個体	芯穴・供給口は円形。挽き手穴は小さく、四角形と思われる。挽き手穴付近には側面から上面に貫通する円孔がある。6分画と思われるが、一部目をたて直しているため、不明確。溝数は本来7本のようなのである。	①粗粒安山岩。④上面は被熱。
35 石臼 (上臼)	径(26.0) 上縁部下幅 3.4 挽き手穴幅 2.7 供給口上径 3.7 芯穴径4.3 深さ2.1	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁部は打ち欠いている。目は掘り直しによって放射状となる。溝幅は3mm前後で、溝内に敲打痕が残る。ものくぼりの痕跡僅かに残存。	①粗粒安山岩。
36 石臼 (上臼)	径(30.0) 高 7.9 上縁高 2.7 上縁上端幅 2.4 上縁下端幅 3.4	図示部 $\frac{1}{2}$	磨面の周縁は一部を残し欠損。溝間隔は1.7~2.7cm。幅は3cm。溝はV字形に刻まれ、深さは2mm。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
37 石臼 (上臼)	高 11.4 上縁高 3.2 上縁上端幅 2.6 上縁下端幅 3.7 芯穴深 1.8	$\frac{1}{2}$ 個体	溝は切線主溝型で、1.4cm間隔、2mm幅である。目は不明瞭。上縁は一部のみ遺存。	①粗粒安山岩。
38 石臼 (上臼)	径(31.0) 上縁高 2.2 上縁幅 3.3	図示部 $\frac{1}{2}$	高さは6.5~8.0cmで片減りが著しい。ものくぼりの一部残存。溝は不明。左回り。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
39 石臼 (上臼)		図示部 $\frac{1}{2}$	目は切線主溝型で左回り。溝間隔は2.2cm、幅は3mm、深さ1mm。磨面接触は平滑。上縁は欠損。上縁下端に貫通する小円孔がある。	①粗粒安山岩。石質は細かい。

5 中世館跡出土遺物

40 石臼 (上臼)	径(30.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	上縁は欠損。溝は5本以上、分画数は不明。芯穴は半分残存。他に周縁寄りに貫通しない不明円孔がある。また側面にも円錐形の凹みがあり。擦り合わせ面は非常に粗い。上縁下端に貫通する不明孔の一部が認められる。	①粗粒安山岩。
41 石臼 (上臼)	径(31.8) 上縁部上幅 3.9 上縁部高 3.6	$\frac{1}{4}$ 個体	上縁部下端から外側へ抜ける二つの補助孔あり。芯穴の一部残存。目不明。上縁部は高く、整っている。	①粗粒安山岩。④外面縁辺、及び内面がすすけている。
42 石臼 (上臼)	径(30.0) 上縁部下端幅 5.2	図示部小片	供給口一部残存。上縁部上端はアーチ状か。小片からの復元で径不安。大型品の可能性あり。	①粗粒安山岩。
43 石臼 (上臼)	上縁部下端幅 4.6 供給口径(4.1)	図示部 $\frac{1}{4}$	供給口一部残存。補助孔がかかっている可能性あり。磨面やや不整で目は不明。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。
44 石臼 (上臼)		図示部 $\frac{1}{4}$	目は切線主溝型。分画数不明。副溝間隔1.9~1.7cm。溝幅3mm、深さ1mm。	①粗粒安山岩。比較的石質は細かい。③灰白色。
45 石臼 (下臼)	芯穴径 3.1	$\frac{1}{4}$ 個体	目は不明瞭だが、切線主溝の6分画、副溝数は確認できないが、幅1.8cm程度と思われる。	①牛伏砂岩。石質は細かい。④破損後に火熱を受けている。
46 石臼 (下臼)	径(26.4) 芯穴径(3.6)	$\frac{1}{4}$ 個体	目は切線主溝型。8分画。副溝4本で溝間隔2.2cm。溝幅は5~2mmだが、いづれも浅い。片減り少ない。	①粗粒安山岩。ピンク色味をおびている。④底面を中心に、破損前に火熱を受けている。
47 石臼 (下臼)	径(34.0)	$\frac{1}{4}$ 個体	高さは9.0~10.2cmで片減り著しい。周縁は良く磨かれている。溝間隔1.7cm、幅は2mm。芯穴は僅かに遺存。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。
48 石臼 (下臼)	径(29.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	成形・調整ともに雑。溝間隔は2.3cm、溝幅は7mm。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。④欠損後に被熱。
49 石臼 (下臼)		図示部 $\frac{1}{4}$	ふくみやや大きい。磨面に擦痕多い。目は切線主溝型。溝間隔2.0~1.7cm。幅2mm、深さ1mm。	①粗粒安山岩。③白色味をおびる。④破損前に火熱を受け、磨面のみすすけている。
50 石臼 (下臼)	径(29.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	周縁部の小片。溝間隔2.1cm、溝幅4mm。溝方向から右回転と思われる。磨面は比較的平滑。	①粗粒安山岩。
51 石臼 (下臼)	径(28.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	磨面は欠損。高さ13.0cm以上と直径のわりには厚い臼である。	①粗粒安山岩。
52 石臼 (下臼)	径(28.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	ふくみやや大きい。目は不明瞭だが、残存部分の溝幅2mm、深さ1mm。下面は不整。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
53 石鉢	口(27.5)	図示部 $\frac{1}{4}$	外面は加工痕と思われる細かな凹凸が全面に見られる。	①粗粒安山岩。大粒の混入物は少ない。④上端と内面は摩滅し、極めて平滑。

遺物観察表編

54 板碑	厚 2.2	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。種子キリークはイーがアク点間を抜ける書体。種子・蓮座ともに浅い葉研彫り。線刻の二条線の一部残る。	①緑色片岩。長石を多く含む。④碑面はやや摩滅がすすむ。裏面に横方向のノミ痕を数条残す。ノミ巾は1.0~1.1cm。
55 板碑	幅 18.5 厚 2.0	中部破片 (上下欠)	主尊は欠損し不明。紀年銘は「嘉元□年」か。紀年銘の左右に華瓶あり、一茎。左右の華瓶は大きさ不均一。	①緑色片岩。微粒の長石を若干含む。④碑面はやや摩滅する。
56 板碑	厚 2.7	基(根)部破片	両面に斜方向のノミ痕を残すことから板碑の基部(地中埋没部)と考えられる。ノミ巾は1.2~1.3cm。	①緑色片岩。小粒の長石を少量、石英を微量含む。
57 五輪塔 (火輪)	柄穴 7.0 屋根 13.2~12.6 幅 20.3 厚 20.7 高 14.1	完形	柄穴内は皿底状に凹む。底面も丸味あり。工具痕は観察できない。	①粗粒安山岩。多孔質でやや軽量。④柄穴底面摩滅し、内面に焼土付着する。
58 五輪塔 (火輪)	高 13.0	図示部破片	稜に鋭さ欠く。孔内にやや強い工具痕残る。下方より丁寧な掘り込みをおこなっており、石鉢として再利用か。	①粗粒安山岩。
59 不明軽石 製品	長 15.5 幅 12.4	ㄨ個体	上面はやや丸味を持ち、4側面はいずれも平坦。下面のみ不整だが、割口部分の可能性あり。	①軽石(二ツ岳)。④破損前に火熱を受け、すすけている部分広い。
60 不明軽石 製品		図示部破片	一端だけ、雑な平坦面が作り出している。厚さより五輪塔などを想定している。	①軽石(二ツ岳)。④二次火熱を受けていて、表面は脆弱化している。
61 砥石	長 15.5 中厚 7.4×3.6 端厚 8.5×4.2 重 823.7g	完形	短軸断面長方形。使用痕は両側面のみ顕著。正面は幅13mmの工具痕が明瞭。裏面は大きな斜落面で使用痕なし。	①砥沢石。④全面強い火熱を受け、表面にスス付着。一側面のみ研ぎ減ってススが落ちている。擦痕細かい。
62 砥石	長 10.1 中厚 2.6×2.5 端厚 2.0×1.5 重 99.1g	埋土	短軸断面三角形だが、ねじれた研ぎ減りのため形状は様でない。小口面は未使用。	①砥沢石。きめ細かい。④使用痕は縦位が主体となる。
63 小刀か	棟 0.32以下	上層 身部破片	錆化著しく不明瞭。棟のあることや材質から、刀類と考えられる。	①鉄地金は良好。きたえは劣る。
64 古銭	径 2.39 孔幅 0.69 外輪部幅 0.27	ほぼ完形	元豊通寶。文字は不明瞭。背は無文。初鑄1078年。	①銅銭。錆化する。④外輪部は内外面とも剝落し、他の銭と重ねてあったものと思われる。

VI区 2号溝 (第496図 PL.99)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	幅 8.1 高 2.6	埋土 下半欠	外面側面に細かな、内面縁部に鋭い整形痕がある。他の面は平滑。	①泥岩。④火熱を受け、赤色味をおびる部分が多い。表面に降灰釉のような斑状の付着物あり。使用痕は明瞭でない。
2 小皿	口(11.2) 底(6.0) 高 3.0	北側埋土2片 口縁欠 底部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。内底はレンズ状に太る。外底幅狭板状圧痕。内底に弱いナデあり。	①素地普通。赤褐色鉱物のまじる砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③橙7.5YR6/6。内面赤色のムラあり。断面彩度低い。

5 中世館跡出土遺物

3 小皿	口(11.0) 底(4.8) 高 3.1	北側埋土 2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁端部は直立する。外底に細かな板状圧痕。内面に弱い指頭のナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙。外面5YR6/6、内面7.5YR7/6。④内面細かな剥落すずむ。
4 小皿	口 11.0 底 6.1 高 3.0	北側埋土 2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石の多くまじる砂粒を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。内外底に黒色のムラあり。④内底やや剥落する。
5 小皿	口(12.8) 底 6.2 高 3.1	北側埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁外端は弱く肥厚する。外底に幅狭な板状圧痕。内底に弱い指頭のナデ。	①素地普通。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は彩度低い。
6 小皿	口(11.1) 底(5.6) 高 2.6	北側埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。底部著しく薄い。	①素地やや緻密。輝石・パミス・赤褐色鉱物を含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。断面まで一様。
7 皿 (青磁)	台(5.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	全面施釉後、接地部釉ハギ。青磁釉はやや厚い。貫入は見られないが、細かな気泡が顕著。	①緻密。③釉調はややくすんだ淡青色。内外面に鉄足が表れる。胎土は灰白色。④龍泉窯系。
8 板碑	厚 2.3	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークのイーがアク点間を抜ける書体で、薬研彫り。種子の規模より小型板碑か。	①緑色片岩。細粒の長石を少量含む。④碑面はやや摩滅する。

VI区 3号溝 (第497・498図 PL.100)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(8.0) 底(6.6) 高 1.9	$\frac{1}{2}$ 個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③黒褐10YR3/1。一様。④口縁内外面に厚くスス付着。破損後に二次火熱を受ける。
2 石鉢	口(29.2) 底(16.0) 高 10.7	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平滑で、内面も丁寧仕上げ。外面下端に幅広く深い工具痕残る。	①粗粒安山岩。やや白色味をおびる。
3 石鉢	口(11.8) 底(14.0) 高 11.9	埋土	口縁は上方へ尖る。内面には長く鋭い縦位の擦痕あり。底面はやや平坦で安定性あり。	①軽石(二ツ岳)。④細かな傷が、外面下半に多い。
4 石鉢か		図示部 $\frac{1}{2}$	ハツリ痕は見られず、内外面とも調整が丁寧。内面は特に目が整う。	①粗粒安山岩。④石臼の可能性あり。
5 石臼 (上臼)	径(32.6)	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁欠損。溝間隔は2.1cm、幅は2～4mm。左回り。	①粗粒安山岩。
6 石臼 (上臼)	径(32.7) 高 13.0～8.1 上縁部上幅 4.0 上縁部高 3.7 補助孔外径2.9～2.4	図示部 $\frac{1}{2}$	形状の異なる補助孔2個あり。磨面やや不整で目は不明だが、ものくぼりの痕跡が残る。ふくみや大きい。片減り著しい。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
7 石臼 (下臼)	高 8.5 周縁厚 6.8～5.5	$\frac{1}{2}$ 個体	片減りが著しい。目は切線主溝型、7分画か4溝式である。左回転。溝間隔は3.3～2.2cm、幅4mm、深さ2.5mm。	①角閃石安山岩。

遺物観察表編

8 石臼 (下臼)	径(28.4) 高 10.8~ 8.5	1/2個体	溝は僅かに遺存するのみで、数・分画数は不明。片減りが著しく、比高差は2.3cmである。ふくみは1.2cm。	①粗粒安山岩。
9 石臼 (下臼)	高 6.0	1/2個体	溝は切線主溝型。溝間隔は1.7~2.3cmを基本とするが、一部に古い溝が残っているため、8mm前後となっている部分がある。周縁の磨面は磨き減って光沢を持つ。	①粗粒安山岩。④被熱後破損。

VI区 4号溝 (第499図 PL.100)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.0) 底(5.6)	図示部1/2	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底にゴザ状の圧痕僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。	①素地普通。パミス・輝石・赤褐色鉱物の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③明赤褐2.5YR5/8。一様。
2 甕 (陶器)	底(18.2)	図示部1/2	外底に粗砂やや多く付着。内面は平滑で霜降り状の降灰釉あり。	①素地やや緻密。白色砂粒含む。②還元焰、硬調。焼締。③黄灰2.5Y4/1。内面は明度高く、断面中央は灰色。④常滑の可能性。
3 鉢	口(35.0)	口縁部小破片	右回転ロクロか。口縁外面のナデやや強く、上端は僅かに外方へ反る。外面のナデは丁寧だが、接合痕を残す。内面ナデは布状具の擦痕顕著。	①素地やや緻密。黒色鉱物・白色砂粒少量含む。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1。断面まで一様。
4 石臼 (下臼)	径(30.0) 芯穴径 2.9	1/2個体	目はやや不明瞭。切線主溝型の6分画と思われる。溝間隔は14mm前後か。ふくみや大きい。芯穴は平面方形に近い形状に残存している。	①粗粒安山岩。④裏面中心に破損後に火熱を受けるか。
5 石鉢	口 29.5 高 20.2	埋土 2片 1/2個体	外面下半に粗い削りの痕跡残るが、他は細かな突きのような凹凸見られ、上面は部分的に研磨したように平滑。	①角閃石安山岩。④口縁部内面に帯状に黒色の付着物が見られる。内底中央にも同様の淡い付着物あり。
6 砥石	長 9.2 中厚 4.4× 2.6 端厚 2.8× 1.1 重 94.1g	埋土 ほぼ完形	長軸断面三角形で、両側面を除く3面使用。1側面に加工痕がやや明瞭に残り、他の側面は無調整。	①砥沢石。やや緻密。鉄分少ない。④擦痕弱いが横方向のものがやや目立つ。
7 砥石	中厚 3.6× 1.7 重 62.1g	両端欠く	長軸断面三角形と思われる。裏面は不整部分広く、側面も平滑さ欠く。使用面は平坦。割口は無使用。	①砥沢石。きめ細かい。④使用痕は不明瞭。側面裏面に断面U字状の鋭い傷あり。
8 古銭	径 2.39 孔幅 0.70 外輪部幅 2.8	ほぼ完形	元豊通寶。背は無文。初鋳1111年。	①銅銭。やや銹化する。④外輪端部に細かい剥落多い。
9 古銭	径 2.28 孔幅 0.68 外輪部幅 2.1	完形	寛永通寶。享保期の江戸袋江銭か。背は無文で孔郭太い。	①銅銭。銹化の影響少ない。
10 土錘	径(2.4)	1/2個体	外面に成形痕見えない。内面一部に絞り目状のヒビあり。	①素地緻密。パミス・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6。一様。

VI区 5号溝 (第501~507図 PL.100・101)

Na・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.6) 底(6.0) 高 2.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕はやや強い。外底にゴザ状の細かな圧痕僅かに残る。内底に指頭のナデ。	①素地普通。輝石・パミスまじりの細砂含む。②酸化焰か、普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
2 小皿	口(11.6) 底 6.3 高 3.6	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。横ナデ弱く砂粒の動き少ない。切離しの糸が外底に鋭い傷を付ける。厚手。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。一様。
3 小皿	口 11.3 底 6.4 高 2.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁は肥厚する。外底に幅広の板状圧痕。内底にやや強い指頭圧痕のナデ。厚手。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物の多いパミスまじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③明黄褐10YR7/6。一様。④口縁端部に割口も含めて燈芯痕状の薄いスス付着。
4 碗 (陶器)	台(6.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	体部外面に、細かく丁寧な回転ヘラ削りの痕が巡る。全面に鉄釉を施す。	①素地緻密。白色砂粒をまばらに含む。③胎土は灰白色。釉は褐色で、胎釉に近い発色。④瀬戸・美濃系。
5 皿 (陶器)	口(6.4) 台(7.2) 高 2.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$ 欠く	内底に3カ所、円錐ピンの痕あり。釉は志野釉で、外底は無釉となる。	①緻密。いわゆるモグサ土。③胎土は黄白色。釉は厚く、ガサガサしている。釉は光沢のない白色。④瀬戸・美濃系。口縁外端に燈芯痕状のスス付着。
6 香炉	口(11.4) 底 9.2	$\frac{1}{2}$ 個体	三足。口縁上端は平坦。内面のナデやや粗く、体部に細かな指頭痕残る。内底に強い指頭のナデ。外面幅広の丁寧な磨きの後に、線刻による施文。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・パミスを含む。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6。黒色・黄色味をおびるムラ広い。④軟質陶器。
7 香炉	口(17.2) 底(15.6) 高 6.0	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端平坦。口縁外面のナデは粗く上半に接合痕残す。脚部に指頭痕が残る。内底は丁寧な横ナデ状の擦痕が残る。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。黒色のムラあり。④軟質陶器。
8 大鉢 (陶器)		中層埋土 図示部小片	大型品としては薄手。口縁上端の凹み強い。外面のロクロ痕やや強い。残存部全面に長石釉を施している。	①モグサ土。砂粒を少量含む。③釉調は透明。胎土は黄白色。④瀬戸・美濃系。
9 壺 (陶器)		胴部小破片	外面に花卉意匠と思われるスタンプ施文あり。内面は弱いナデ。	①粗砂の混入多い。②酸化焰か、硬調。焼締。③外面は褐7.5YR4/3。内面は暗灰黄2.5Y5/2。④常滑系か。
10 大皿 (陶器)		図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→体部下端やや強い回転ヘラ削り。外面でロクロ痕強く、内底は平坦。植物意匠の鉄絵の上に、長石釉を施す。	①粗砂の混入やや多い。③鉄絵は黒褐色、釉は灰色味をおびた発色。素地は赤色味やや強い。④唐津系。
11 播鉢	底(13.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロの回糸と思われる。外面体部は細かな指頭痕が残り、ロクロ痕は不明瞭。残存部分に卸し目なし。	①素地やや粗い。白色砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③黄灰2.5Y5/1。断面灰色。④内面は使用痕顕著で平滑。在地系。
12 播鉢 (陶器)	口(34.0) 底(14.6) 高(15.6)	埋土21片 一部接合せず 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁内端に幅広でやや浅い沈線巡る。卸し目はいわゆる一本挽きで、断面U字状でやや深い。外面体部下端に回転ヘラ削りか。ロクロ成形痕は不明。	①素地緻密。細礫サイズの円礫の混入多く、やや粗い。③断面浅黄橙7.5YR8/3。器面赤色味強い。④内面下半は使用痕顕著で平滑。口縁内端も摩滅する。丹波系。
13 播鉢	底 10.0	図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。外面は細かな指頭痕状の凹凸多く、ロクロ痕不明瞭。卸し目は5~6単位で2.7cmに7本。	①素地緻密。パミスまじりの少量の砂粒以外、夾雑物は少ない。②還元焰、やや硬調。③灰5Y5/1。一様。④使用痕は底部縁辺で著しく剥落すすむ。在地系。

遺物観察表編

14 播鉢 (陶器)	底(9.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転クロー回糸無調整。卸し目はやや細かく、1.7cm幅で10本。全面に鉄釉を施す。	①素地緻密。夾雑物は希。②還元焰、硬調。③断面は灰黄2.5Y7/2。釉は紫色味をおびる褐色でややテリがある。④瀬戸・美濃系。
15 内耳	口(36.0) 底(33.6) 高 6.1	口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	口縁上端は平坦。外面下半は強い型膚状で細かな凹凸多い。口縁内面の段は弱く、沈線状になる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・輝石を含む。②中性焰、軟調。③外底は橙7.5YR6/6。内底はにぶい黄橙10YR6/4。口縁は内外面とも黒色。
16 内耳	口(36.0) 底(33.8) 高 6.3	小破片	15に同巧。同一個体の可能性あり。内耳にスレあり。	①②③15に同じ。
17 内耳	口(38.6) 底(36.4) 高 6.7	図示部 $\frac{1}{4}$	口縁上端はやや丸い。口縁外面中央に接合痕残る。内耳にスレあり。外面下半は型膚状。やや厚手。	①素地普通。パミス・輝石を含む。②中性焰、普通。③外底はにぶい橙7.5YR6/4。口縁は内外面とも黒色。
18 茶臼 (上白)	上縁部下幅 3.5	V区6 井戸出土 片と接合 上半 $\frac{1}{4}$ 下半 $\frac{1}{4}$	上縁部の残存僅か。目は切線主溝型。溝は8分画。副溝10本、溝間隔5～3mmでやや不整。	①粗粒安山岩。③黒色味をおびる。④芯穴不明瞭だが、径は3.0cmほどになりそうである。
19 茶臼 (上白)	上縁部上端径 2.1 供給口上径 2.9 挽き手穴高 2.2 挽き手穴幅 2.0 挽き手穴深 3.3	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	挽き手穴周辺に、幅広で厚みのある円形装飾あり。底面外端は打ち欠失。目は掘り直され、切線主溝型の痕跡を一部に残す。溝間隔4～2mm。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
20 茶臼 (下白)	芯穴上径 (2.6)	$\frac{1}{2}$ 個体	はんぎり部先端は、上方へ反る。磨面摩滅し目は不明だが、芯穴周辺に高まりが残る。外面は工具痕顕著。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
21 石臼 (上白)		図示部 $\frac{1}{4}$	径が小さく、茶臼型となる可能性。磨面摩滅し、目は不明。	①粗粒安山岩。茶臼型であれば、石質きわめて粗い。
22 石臼 (上白)		$\frac{1}{4}$ 個体	挽き手穴は方形。深さは7.1cm。上縁欠損。上縁下端から斜め下に向かう穿孔がある。摩滅により溝不明瞭。	①粗粒安山岩。
23 石臼 (上白)	芯穴径 4.0 芯穴深 1.8		周縁と上縁は欠損。上縁下端には周縁に貫通する小円孔がある。磨面の溝は不明瞭。上面には凹みがあるが、中心が芯孔とずれていることから、転用時のものと推定される。	①粗粒安山岩。
24 石臼 (上白)	高 13.0～12.4 上縁高 2.7 上端幅 3.0	図示部 $\frac{1}{4}$	供給口の一部残存。周縁は縦方向にノミで割られている。石質は細かく、磨面は平滑。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。④片減りが著しい。
25 石臼 (上白)	供給口径 4.7	図示部 $\frac{1}{4}$	武蔵型の上白。供給口が上縁部に接するように穿たれている。ものくぼり一部残存か。目は確認できない。	①牛伏砂岩。石質粗い。④片減り著しい。
26 石臼 (上白)		$\frac{1}{4}$ 個体。	供給口は4.0×4.5cmと大きい。片減りが著しく、比高は2.0cm。ものくぼりは摩滅し、回転方向は不明。溝は3本確認できるのみであり分画等は不明。	①粗粒安山岩。④摩滅は著しい。
27 石臼 (上白)		図示部 $\frac{1}{4}$	高さ12.3～10.8cmと片減りが著しい。上縁幅は4.0cmと広いが、高さは2.1cmである。供給口は大きい。ふくみは非常に大きい。溝間隔は2.4～2.0cmと広いが、幅は1～2mmと細い。	①粗粒安山岩。

28 石臼 (上臼)	高 9.9～6.8 芯穴深 2.0 上縁高 2.0 上縁上端幅 2.2 上縁下端幅 4.0	1/4個体	目は不明瞭。2カ所挽き手穴が認められるが、使用による摩滅により、磨面に露出している。	①粗粒安山岩。石質は粗い。④片減りが著しい。
29 石臼 (上臼)		図示部1/4	武蔵型石臼と思われる。上縁欠損。溝間隔2.2cm、溝幅5mm。	①牛伏砂岩。石質は非常に粗い。
30 石臼 (上臼)		図示部1/4	上縁欠損。溝は切線主溝型。周縁は比較的平滑で光沢がある。	①粗粒安山岩。
31 石臼 (上臼)		1/4個体	上縁欠損。溝間隔は3.4～2.6cm、溝幅は6mmと非常に粗い。ものくぼりの一部は遺存。左回り。割れ口の一方は磨かれており、転用されている。	①粗粒安山岩。
32 石臼 (上臼)		1/4個体	芯穴一部残存。上縁欠損。供給口は外側に斜めに穿っている。磨面にはものくぼりが浅く残存している。溝間隔は2.2～1.7cm、溝幅は3mmと粗い。左回り。	①粗粒安山岩。
33 石臼 (上臼)	高 13.3 上縁下端幅 3.5 上縁高 1.9	図示部1/4	上縁の断面形状や高さは場所によって異なる。磨面はごく一部残存。	①粗粒安山岩。
34 石臼 (上臼)	上縁高 3.1 上縁幅 3.2	図示部1/4	下面は欠損。	①粗粒安山岩。
35 石臼 (上臼)		図示部小片	上縁と外面の一部残存。上縁は僅かに形状がわかる程度で遺存が悪い。挽き手穴は整った方形で一辺2.1cm。深さは不明。	①粗粒安山岩。
36 石臼 (上臼)	径(28.0) 芯穴径 3.5 芯穴深 1.7	図示部小片	芯穴周辺破片。上面中央にも径7mm、深さ3mmの小孔残存。磨面平滑だが目は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すすけている部分広い。
37 石臼 (上臼)	上縁下幅 2.7	図示部小片	供給口一部残存。上縁部は幅の薄いもの。ふくみ大きい。目は不明。	①粗粒安山岩。重量。
38 石臼 (上臼)	上縁上端幅 3.5 上縁高 4.2	図示部1/4	図示部の下端は平滑で、挽き手の可能性強い。平面形状方形か。上縁部上端はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
39 石臼 (上臼)	芯穴径(4.2) 芯穴深(2.1)	図示部小片	芯穴一部残存。切線主溝型の目があるようだが、不明瞭。	①粗粒安山岩。
40 石臼 (下臼)	径 29.0 高 9.5 ふくみ 1.0	周縁の角を欠損	芯穴は円形。6分画で溝数は4本で、1カ所のみ5本。溝は太く、間隔も広い。芯穴下面はノミ痕明確に残る。	①粗粒安山岩。側面僅かに被熱。

遺物観察表編

41 石臼 (下臼)	芯穴中径(3.3)	⅔個体。	ふくみ小さい。切線主溝型で8分面。副溝は8本、溝間隔1.4~1.2cm。溝は幅3~2mm。裏面は大きく凹み、幅太の敲打痕が多い。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。③黒色味をおびている。
42 石臼 (下臼)	高 10.9~ 7.6 芯穴径(3.7)	⅔個体	ふくみ小さい。磨面不整で目は不明。裏面はやや平坦。片減りする。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
43 石臼 (下臼)	高 9.8 ふくみ 5.2	⅓個体。	芯穴一部残存。溝は切線主溝型。臼は左回り。溝間隔は3.1~2.1cm、幅は2.1mm、深さ1mm。溝の一部はノミで壊されている。	①粗粒安山岩。
44 石臼 (下臼)		⅓個体	目は観察できない。側面も細かな剥落多く、平滑さ欠く。	①牛伏砂岩。石質は粗い。④破損前に火熱を受けて、一部すすけている。
45 石臼 (下臼)		図示部片	磨面の形状から下臼と判断した。目は残存しない。径40cmほどの大型品か。ふくみは小さい。	①牛伏砂岩。④破損前に火熱を受けている。
46 石臼 (下臼)		図示部小片	側面は遺存しない。溝間隔は遺存部外側で2.6cm、溝幅は6~5mm、深さ2mmである。	①粗粒安山岩。
47 石臼 (下臼)		⅓個体	芯穴の下半一部残存。磨面は摩滅して目は不明。片減り著しい。底面はやや平坦。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受けている。下半縁部の大きな剥落多い。
48 石臼 (下臼)		⅓個体	芯穴・目は残存していない。ふくみや大きい。接地面の摩滅もすすみ、砥石等の転用の可能性あり。	①牛伏砂岩。④強い火熱を受けている。
49 石臼 (下臼)		⅓個体	口は残存しない。ふくみや大きい。底面の磨面すすみ平滑で、砥石の転用の可能性あり。	①牛伏砂岩。④強い火熱を受けている。
50 石臼 (下臼)			ふくみの状態から下臼と推定したが、目や芯穴等残存せず、縁部も欠失していて明瞭でない。	①牛伏砂岩。石質細かい。
51 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部下面に径1.8cm、深さ3cmの方形の穿孔あり。碑面はノミによる削り出し後に荒い磨き。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。③黒色味が強い。
52 宝篋印塔 屋蓋隅飾部			小型の屋蓋部破片。隅飾はやや開き立ち上がる。下部には3段の段を有す。碑面はノミによる削り出し後に、荒い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。
53 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部より隅飾部にかかる部位片。碑面はノミによる削り出し後に、荒い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。
54 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部下面、3段までの段が認められる。碑面はノミによる削り出し後に、荒い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。

5 中世館跡出土遺物

55 不明石造物			外形は立方体形を呈し、内部を上下に円筒状にくりぬき、正面に方形の通し穴をもつ。表面は丁寧な磨き。石幢もしくは石殿の一部か。	①粗粒安山岩。
56 五輪塔 (水輪)	中径 29.5 下径 22.5 高 16.3	完形	上面に小さく深い、下面に広く浅い凹みあり。上面の凹みに幅広の工具痕が残る。正面がやや偏平。	①角閃石安山岩。④強い火熱を受けて、一部黒色を呈す。また表面の剝落も多い。
57 五輪塔 (水輪)		図示部小片	天地不明。側面に工具痕と思われる細かな凹凸残る。	①粗粒安山岩。④破損前に側面に火熱を受け、一部すすけたように黒色味をおびている。
58 五輪塔 (地輪)		上面隅破片	天地不明だが、調整の丁寧さより上面と推定する。側面には弱い丸味あり。	①粗粒安山岩。④破損前に火熱を受け、一部赤変している。
59 五輪塔 (地輪)		図示部破片	天地不明。風化すすみ、加工痕は観察できない。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
60 五輪塔 (地輪)	高 14.5	図示部破片	上面・側面は平坦に仕上げているが、底面は細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。④破損前に火熱を受けており、上面の一部がすすけている。
61 板碑	厚 2.5	下部破片	下部柁線の一部が残る。柁線上に文字の一部あれど判読不可。	①緑色片岩。小粒の長石を少量含む。④碑面の摩滅は少ない。裏面に横方向のノミ痕が残る。ノミ巾1.3cm。
62 板碑	厚 3.0	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。葉研彫り。線刻の二条線あり。	①緑色片岩。小粒の長石を少量含む。④碑面は剝離はあるが、摩滅は少ない。
63 板碑	厚 2.2	紀年銘部破片	紀年銘は「月廿四」と記す。年号不明。	①緑色片岩。小粒の長石を若干含む。
64 板碑	厚 2.6	破片	碑面には文字・種子等の痕跡なし。裏面に横方向のノミ痕を数条残す。ノミ巾1.4cm。	①緑色片岩。大粒の長石と雲母を少量含む。
65 板碑	厚 2.1	主尊部破片	主尊は阿弥陀三尊種子。キリークは欠損、サ(観音)・サク(勢至)の脇侍のみ残る。葉研彫り、蓮座はなし。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。③碑面は酸化し赤味をおびる。
66 石鉢	口(25.0)	図示部小片	小破片からの復元で、径不安。内面に強い工具痕残り、器面に平滑さ欠く。	①粗粒安山岩。④破損後に二次火熱を受け、内面中心にすすけている。
67 石鉢	口(7.0) 高 5.6	片个体	器面は石質に比して極めて平滑に仕上げられており、整形痕は認められない。平面形は楕円形になるようだ。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④外底はすすけていて、破損前に火熱を受けた可能性。
68 不明軽石製品		片个体	鶏卵状の自然石の側面を、丁寧に凹みを掘り込んだ用途不明品。裏側にも小さな凹みあり。	①軽石(二ツ岳)。
69 砥石	長 9.9 中厚 3.8×2.8 端厚 2.8×1.1 重 127.1g	ほぼ完形	長軸断面菱形の手持ち砥で、4面全面使用。使用面には凸面・凹面の両者あり。	①砥沢石。鉄分多く表面は褐色味強い。④擦痕は短く方向も不定。削り込むような鋭い傷がある。

遺物観察表編

70 砥石	長 9.4 中厚 3.7×2.6 端厚 3.4×0.5 重 101.0g	ほぼ完形	長軸断面菱形の4面全面使用。側面の み平坦である。	①砥沢石。鉄分多い。④擦痕は両側面で縦位、他は 方向不定である。割口も一部研ぎ減って平坦になっ ている。
----------	-----------------------------------------------	------	------------------------------	------------------------------------------------------------

VI区 6号溝 (第508図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	高 7.5	1/2個体	芯穴一部残存。挽き手穴は方形を呈す るが、一辺は2cm前後と小さい。目は 不明瞭。上縁は欠損後に調整されてい るためか、高さは4mmと非常に低い。	①粗粒安山岩。

VI区 7号溝 (第510図 PL. 102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.8) 底 5.4 高 3.2	口縁1/2 底部1/2	左回転ロクロ→回糸無調整。外底に幅 狭の板状圧痕。内底に一方の強い指 頭のナデ。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物を含む。②酸化焰か、 やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。内面彩度低い。④ 内底に薄いスス状の付着物あり。
2 小皿	口 11.7 底 6.5 高 2.5	口縁1/2欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。内面指頭 の弱いナデ。外底の一端に板状圧痕。 厚手。	①素地やや粗い。輝石・パミス・赤褐色鉱物を含む。 ②酸化焰か、やや軟調。③橙5YR6/6。断面まで一様。
3 小皿	口(12.0) 底 5.8 高 3.1	埋土3片 1/2個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。外底に幅狭な板状圧痕。内底に 指頭のナデ。	①素地普通。輝石やや多く、赤褐色鉱物を含む。② 酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。内面は彩度低 い。
4 播鉢	底(14.0)	図示部1/2	外面下端に弱い指頭圧痕巡る。内面に 波形と斜格子を組み合わせた卸し目あ り。底部薄い。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物・輝石を含む。 ②中性焰、やや軟調。③内面下端はにぶい黄橙10 YR6/3。外面・断面・内面一部黒色。④内面は全体 に使用痕顕著で平滑。
5 茶臼 (上臼)	高 10.7 上縁上端幅 2.4 挽き手穴一辺 2.0 挽き手穴深 3.8	図示部1/2	菱形で幅の厚い挽き手穴周辺装飾を持 つ。磨面は摩滅すすみ、目は不明。	①粗粒安山岩。茶臼型としてはやや粗い。④破損後 に火熱を受ける。
6 石臼 (上臼)	上縁幅 3.4	図示部1/2	上縁部は平坦。	①粗粒安山岩。④内面中心に、破損前に火熱を受け、 すすけている。

VI区 8号溝 (第511図 PL. 102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕		西側埋土 胴部小破片	紐造り。外面に正格子の叩き目。内面 に接合痕顕著。	①素地やや緻密。白色粗砂の混入多い。気泡まじる。 ②還元焰、硬調。焼締に近い。③暗灰黄2.5Y5/2。内 面は灰5Y5/1。④在地系か。

2 石臼 (上臼)		図示部 $\frac{1}{2}$	正面形状方形の挽き手が残存。円形の挽き手も隣接して配置か。全体に剥落多い。磨面は平滑だが目は不明。	①粗粒安山岩。石質粗い。④強い火熱を受けている。
3 茶臼 (下臼)	④芯穴上径 2.7	図示部 $\frac{1}{2}$	はんぎり部欠く。目は8分画と思われるが規則的でない。副溝数7~8本、溝間隔は4mm前後である。	①粗粒安山岩。2mm大の鉱物多く、茶臼としては極めて石質粗い。
4 石臼 (下臼)	芯穴上径 3.2 下径 3.0	$\frac{1}{2}$ 個体	目は切線主溝型。6分画。副溝は7本以上か。溝間隔は1.8~1.5cm。芯穴は中端で強い段ができる。	①粗粒安山岩。④破損前に強い火熱を受け、剥落多い。

VI区 9号溝 (第512図 PL.102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 2.1	上左部破片	主尊は阿弥陀種子、キリークのイーがアク点間を抜ける書体。薬研彫り。二条線及び左右端の切り込みあり。側端部の面取りあり。	①緑色片岩。混入物は少なく微粒の長石・石英・雲母をごく少量含む。④碑面の磨滅は少ない。

VI区 11号溝 (第514~519図 PL.102・103)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(9.8) 底(5.6) 高 2.4	$\frac{1}{2}$ 個体	左回転クロー→回糸無調整。外面のクロー痕やや強い。外底端に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。	①素地やや粗い。輝石やや多く、赤褐色鉱物まじる。②中性焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。ほぼ一様。
2 小皿	口(8.2) 底(5.2) 高 2.2	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転クロー→回糸無調整。口縁端部は直立気味。	①②1にほぼ同じ。③にぶい橙7.5YR7/4。断面まで一様。
3 小皿	口 9.4 底 5.5 高 2.9	ほぼ完形	左回転クロー→回糸無調整。クロー痕弱い。口縁は波状に大きく歪む。やや厚手。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物・輝石を含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。断面まで一様。
4 小皿	口10.0~9.8 底 6.4 高 2.2	完形	左回転クロー→回糸無調整。口縁内外に緩い凹み巡る。内底に渦巻き状の整ったクロー痕残る。	①素地やや粗い。輝石多く含み、赤褐色鉱物・パミスまじる。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。外面一部黒色味をおびる。
5 小皿	口(10.0) 底(5.4) 高 2.5	西側中層埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転クロー→回糸。クロー痕弱い。口縁外端小さく凹む。3に類似する。	①②1にほぼ同じ。③にぶい黄橙10YR6/3。
6 小皿	口(9.8) 底(5.0) 高 2.8	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転クロー→回糸無調整。クロー痕弱い。内底に弱いナデ。	①素地粗くボソボソ。輝石・パミス等のまじる砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。断面まで一様。
7 鉄絵皿 (陶器)	口(11.2) 台(6.0) 高 2.6	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	鉄絵は口縁上端と見込に圏線、体部に唐草風の植物意匠。長石釉を全面に施す。外底に円錐ピンの破片が溶着している。	①やや緻密。③鉄絵は淡い褐色に発色。長石釉はやや灰色味をおびる。大粒の気泡が多く、貫入は少ない。④瀬戸・美濃系。

遺物観察表編

8 鉄絵皿 (陶器)	口(11.4) 台(6.2) 高 2.9	埋土 1/4個体	鉄絵は口縁内端と見込に太い圈線、体部に植物意匠を加える。内底に円錐ピンの痕跡あり。全面に長石釉を施す。	①素地やや緻密だが、細礫まじる。③鉄絵は暗褐色に発色。長石釉はやや灰色味をおびる。貫入は細かい。④瀬戸・美濃系。
9 皿 (陶器)	口 11.6 台 6.4 高 2.6	完形	厚手で重量である。高台は低い。志野釉は全面に施され、灰色味が強く、鼠志野風である。細貫入顕著。3カ所の円錐ピン痕あり。	①モグサ土。粗砂の混入やや多い。③釉調は灰色で一部白色。④瀬戸・美濃系。口縁端部に細かな剥落多く、一部で燈芯痕状のスス付着。
10 天目茶碗 (陶器)	口 10.6 台 4.6 高 6.6	口縁3/4欠く	やや厚手で、重量である。高台の削り出しはやや少ない。鉄釉をやや薄く施している。	①素地やや緻密。気泡含み、ブクを生じている。③釉調は胎釉に近い。一部黒色味をおびている。胎土は灰白色。④瀬戸・美濃系。
11 皿 (陶器)	口(14.6) 台(7.8) 高 2.9	1/2個体	口縁端部は小さく外へ折れる。高台端部と外底を除いて厚く長石釉を施す。見込に円錐ピンの痕跡あり。	①モグサ土。混入物少ない。③長石釉は乳白色。無釉部分は赤色味をおびる。やや粗い貫入が見られる。④瀬戸・美濃系。
12 香炉 (陶器)	口(10.4)	図示部3/4	ロクロ痕やや強い。釉は長石釉か。内面下半は無釉。下面下端は釉ハギか。細貫入あり。	①モグサ土に近い。③釉調は透明で、やや灰緑色味をおびる。胎土は灰白色。④瀬戸・美濃系。口縁端部の剥落すすむ。
13 天目茶碗 (陶器)	台 5.4	図示部中高台3/4欠く	高台は細くやや高い。外底中央は突出気味。鉄釉を施す。	①モグサ土。粗砂少量まじる。③鉄釉は黒色で光沢は弱い。④瀬戸・美濃系。接地部は摩滅がすすむ。内底ややカセている。
14 瓶子 (陶器)		図示部3/4	外面肩縁部に3条の沈線巡る。内面より粘土塊を貼付し、器壁の薄くなった部分を補強している。釉は長石釉か。	①素地やや緻密で、細砂混入する。③胎土は灰色味が強い。釉はオリーブ色で透明。④瀬戸・美濃系。
15 徳利か (陶器)	台(11.0)	中層埋土2片	底部回糸無調整。内面ロクロ痕粗く、無釉であることから袋物。外面灰釉と思われる。明瞭な細貫入あり。	①緻密で混入物少ない。③素地は灰白色。釉は透明で灰緑色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
16 陶硯		中層埋土 図示部小片	上端はすべて欠失し、底面も剥落すすみ、形状の観察難しい。内面にはやや粗い擦痕が残る。	①素地やや緻密。夾雑物少なく良好。②還元焰、普通。須恵器より軟質陶器に近い。③灰7.5Y6/1。ほぼ一様。
17 大甕 (陶器)		体部小片	接合痕より、体部下半の破片。内面に指頭痕状の小さな凹み多い。外面にスタンプの施文あり。	①素地緻密。白色細礫の夾雑やや多い。②還元焰、焼締。③外面にふい赤褐5YR4/4。内面黄灰2.5Y4/1。④常滑系。
18 火鉢	直径50cmほどか	口縁部小片	右回転ロクロか。外面に半球と14葉のスタンプ施文を施し、直下に沈線が巡る。上面は平滑。	①素地普通。バミス・輝石まじりの細砂多い。②酸化焰、普通。③にふい褐7.5YR5/4。断面中央黒色。④在地系。
19 播鉢	口(28.4)	図示部3/4	ロクロ使用の痕跡認められない。内面に弧状の卸し目が僅かに残る。	①素地普通。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③にふい褐7.5YR6/3。断面中央黒色。内面上半に剥落多い。
20 播鉢 (陶器)		図示部3/4	右回転ロクロ。外面体部下半に削りあり。卸し目は3.3cm幅で17本。外面下端を除く全面に鉄釉を施す。	①素地緻密。細礫を少量含む。②還元焰、硬調。③内面下端及び断面は浅黄2.5Y7/3。釉は紫色味をおびる褐色で、ややテリがある。④瀬戸・美濃系。
21 内耳	口(30.0) 底(27.0) 高 5.6	図示部3/4	口縁上端は平坦で浅い凹み巡る。口縁外面下半に接合痕鋭く残り、下端に弱い圧痕あり。口縁上半は内湾気味で外端は弱く突出する。	①素地普通。細砂を少量含む。②中性焰、やや軟調。③内底は灰黄褐10YR6/2。口縁は内外面とも黒色。

5 中世館跡出土遺物

22 内耳	口(34.0) 底(31.2) 高 6.0	口縁 $\frac{1}{4}$ 底部図示部 $\frac{1}{4}$	口縁上端は平坦で弱い凹みあり。口縁外面は端部に細かな指頭痕巡り、上半に接合痕残る。下半に強い指頭圧痕。内耳は幅広く取付けは雑。	①素地やや緻密。細砂を少量含む。②中性焰、普通。③内底はにぶい黄橙10YR7/3。口縁外面・断面中央は黒色。
23 内耳	口(38.6) 底(34.2) 高 5.7	口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	口縁上端は平坦。外面下端は強い型膚状で圧痕多い。内耳は幅広く取付けはやや雑。口縁内面のナデは雑で鋭い。内底は横ナデ状。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物やや多くまじる細砂を含む。②中性焰、普通。③内底はにぶい黄褐10YR5/3。口縁は内外面とも黒色。
24 内耳		耳部破片	口縁上端は平坦で内傾する。内耳は細く、口縁の凹み小さい。薄手。	①素地やや緻密。金雲母細粒の目立つ砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/8。一様。
25 茶臼 (上臼)	上縁部下幅 2.5 芯穴径(2.1) 挽き手穴縦幅 2.0 挽き手穴深 3.0	$\frac{1}{4}$ 個体	挽き手穴は方形で、やや上向きに穿たれる。周囲に円形の装飾あり。目は10分画と思われる。副溝は不明瞭だが、溝間隔2mm以内で、極めて狭い。	①粗粒安山岩。
26 茶臼 (下臼)	芯穴径(2.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	はんぎり部欠く。磨面やや不整で目は不明。摩滅すすみ、低い。接地面極めて平坦になっている。	①粗粒安山岩。④底面中心に、破損後に火熱を受けている。
27 石臼 (上臼)	高 9.9 上縁高 4.5 上縁上端幅 3.1 上縁下端幅 4.5	図示部 $\frac{1}{4}$	挽き手穴是一片3.3cmと考えられ、遺存部に認められるものは、使用不能になっていると考えられる。挽き手穴両側には貫通する小円孔がある。目の遺存は良好である。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
28 石臼 (上臼)	上縁下幅 3.7	図示部 $\frac{1}{4}$	上縁部欠失。供給口の一部ともくぼりが残存。目は観察できない。供給口の穿孔は、中ごろに段差を生じる。	①粗粒安山岩。④一部火熱を受けている。
29 石臼 (上臼)	供給口上径 4.6	$\frac{1}{4}$ 個体	上縁部欠失し、痕跡を残さない。目は不明で磨面も不整。	①粗粒安山岩。石質極めて粗い。
30 石臼 (上臼)		図示部片	挽き手穴の縁辺が残存。径2.5cmほどの小さな穴のようだ。上縁部は欠失部分広い。ふくみ大きい。目は不明。	①粗粒安山岩。④火熱を受け、上面と底面がすすけている。
31 石臼 (上臼)	高 11.1 上縁高 3.1 上縁上幅 2.6	図示部小片	上縁部は高く整っている。目は不明瞭だが、幅3mmほど。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。やや軽量。
32 石臼 (上臼)	高 7.4~6.4 上縁幅 2.8 供給口上径(4.8)	図示部 $\frac{1}{4}$	上縁部は外方へ弱く傾斜している。磨面不整で目は不明。片減り著しい。	①粗粒安山岩。石質粗い。
33 石臼 (上臼)		図示部片	供給口ともくぼり一部残存。磨面は不整だが使用痕顕著。目は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に強い火熱を受け、すすけている部分広い。全面に剥落すすむ。
34 石臼 (上臼)	高 12.6 上縁高 2.5 下端幅 3.6 上端幅 3.0		溝は2.5cm間隔3mm幅で明瞭に残る。磨面の周縁から3cm程内側は、0.6mm程溝状に凹んでいる。	①粗粒安山岩。
35 石臼 (上臼)	上縁下幅(3.9)	図示部 $\frac{1}{4}$	正面形状方形の挽き手穴半分残存。上縁部欠失。裏面やや不整で目も不明。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。

遺物観察表編

36 石臼 (上臼)	高 7.7～6.9 上縁部下幅 3.9	図示部小片	武蔵型石臼。上縁部は外傾気味。磨面不整で、目は不明。片減りが著しいものと思われる。	①牛伏砂岩。④破損後に、下面中心に強い火熱を受けている。
37 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.6 補助孔外径 2.9 最狭部径 (0.9)	図示部小片	上縁部片で、補助孔が一つ穿たれている。補助孔は外側で広く、中央で細くなる。上縁部内側の削りも強い。	①粗粒安山岩。③ピンク色味をおびる。④破損前に火熱を受けている。
38 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.3 補助孔外径 (2.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁部上面は平坦。磨面の残存は僅かで目は不明。ふくみのかなり大きなものと思われる。補助孔一部残存。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
39 石臼 (下臼)	芯穴上径 5.0 芯穴中径 3.4	$\frac{1}{2}$ 個体	磨面不整で目は不明。底面にはノミ状の工具痕が、放射状に息長く残る。芯穴は中程で段ができる。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
40 石臼 (下臼)	高 8.4～7.5	$\frac{1}{2}$ 個体	芯穴部分不明瞭。磨面は平滑。目は溝間隔2.5cm、幅1mm。分画数不明。下面に息長い工具痕残る。片減りする。	①粗粒安山岩。石質はやや細かい。④火熱を受けている。
41 石臼 (下臼)		$\frac{1}{2}$ 個体	ふくみは小さい。目は溝間隔3.0cm、幅3mm、深さ1mm。下面は平滑で、砥石に転用している可能性あり。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。側面の剝落すすむ。
42 石臼 (下臼)	高 6.0～5.3	$\frac{1}{2}$ 個体	片減りが認められる。磨面中央(芯穴と周縁の中央)は、1mm程凹んでおり変形している。目は不明瞭。接触部のみ平滑。	①粗粒安山岩。
43 石臼 (下臼)	高 7.0～5.9	図示部 $\frac{1}{2}$	片減り著しい。ふくみはあまり大きくないようだ。目は不明。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④火熱を受けている。
44 石鉢	口(32.6)	図示部 $\frac{1}{2}$	石材の細かな凹凸が表面に残り、調整痕は観察できない。内面やや平滑。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④外面一部に、破損前の火熱を受けた痕跡あり。
45 石鉢	口(21.2)	図示部 $\frac{1}{2}$	傾き不安。径30cmを超える大型品の可能性あり。内面に細かな突きの痕跡が顕著。	①粗粒安山岩。③黒色味強い。④上端がやや摩滅するが、他に使用痕は観察できない。
46 石鉢	口(13.8) 高 5.5	$\frac{1}{2}$ 個体	内面に幅広で顕著な工具痕が放射状に並ぶ。外面もハツリ状の工具痕が、不明瞭だが観察できる。	①粗粒安山岩。④内面やや摩滅する。破損前に火熱を受け、外面中心に黒色味をおびる。
47 石鉢	底(15.1)	図示部 $\frac{1}{2}$	表面は細かな凹凸多いが加工痕は観察できない。外底は僅かに上げ底状か。	①粗粒安山岩。④内面はやや摩滅する。
48 石鉢	高 8.7	$\frac{1}{2}$ 個体	4足の付く方形の容器である。内底は皿底状で、外底も丸味がある。底部中心付近まで残存すると思われ、大型品にはならないようだ。	①軽石(二ツ岳)。③破損前に火熱を受け、内外面とも一部すすけている。脚の接地部分はやや摩滅している。口縁部内側の細かな剝落が多い。
49 板碑	厚 2.1	主尊～紀年銘部破片	主尊は阿弥陀一尊種子。キリークの一部が残る。種子・蓮座は薬研彫り。紀年銘は「文和三(1354)年」	①緑色片岩。細粒の長石を少量含む。④碑面の磨滅は少ない。裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は0.9～1.0cm。
50 板碑	厚 3.4	中部破片	3～4cmの厚さより大型の板碑か。碑面は磨滅。脇侍の蓮座らしきものが残る。裏面にはノミ痕は残らず。	①緑色片岩。

5 中世館跡出土遺物

51 板碑	厚 2.7	中部破片	蓮座のみ残る。葉研彫り。厚さとの関係から三尊脇侍の蓮座か。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④碑面は磨減が著しい。
52 板碑	厚 2.2	中部破片か	主尊不明。「十」の文字が残るが、紀年銘ではなく、十方世界の一部か。	①緑色片岩。細～小粒の長石を多く含む。④碑面はやや磨滅する。
53 五輪塔 (空風輪)	空径 17.5×16.0 中径 13.6×12.7 風径 15.8×14.8 下径 11.6×10.3 高 18.5	完形か	柄のない形態か、欠失したものかは不明。表面平滑さ欠くが、工具痕観察できない。ややいびつ。	①粗粒安山岩。多孔質。④側面に火熱を受けていると思われ、一部黒色味をおびる。
54 五輪塔 (火輪)	柄穴(5.4)	3隅欠く	屋根高く、稜の鋭い整った形態。底面に細かな工具痕が残るが、屋根や軒部は平滑に仕上げている。	①粗粒安山岩。黒色鉱物やや目立つ。④破損後に火熱を受け、部分的に黒色味をおびたり、薄く赤変している。
55 五輪塔 (火輪)	軒高 4.5	図示部破片	屋根部・軒部に不明瞭な工具痕残る。底部に息長く、強い工具痕残る。	①粗粒安山岩。黒色鉱物やや目立つ。
56 五輪塔 (火輪)		図示部小片	表面不整だが加工痕は観察できない。底面は平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
57 五輪塔 (火輪)		図示部破片	屋根が高く、反りの弱いものと思われる。底部は僅かに凹む。表面は平滑さにやや欠く。	①粗粒安山岩。③灰色で割口は一部でピンク色がかかる。
58 五輪塔 (火輪)		図示部破片	屋根が低く偏平である。柄穴の下半が残存し、かなり径の大きなものになると思われる。器面不整で底面の凹凸が大きい。	①粗粒安山岩。多孔質。④柄穴内部がやや磨滅するか。破損前に火熱を受け、一部ですすけたように黒色味をおびる。
59 五輪塔 (水輪)		図示部破片	表面細かな凹凸で平滑さ欠くが、調整痕は観察できない。	①粗粒安山岩。③白色味が強い。④破損前に火熱を受け、一部ですすけたように黒色味おびている。
60 五輪塔 (地輪)	幅 26.9～26.1 厚 25.1～24.4 高 21.1	ほぼ完形	上面4隅は面取り状に角を落とす。上面は大きく凹み、粗い工具痕残る。底面は鋸の痕のような、直線的で深い傷が多い。	①粗粒安山岩。やや大粒の混入物含む。④側面に火熱を受け、黒色味をおびる部分あり。
61 五輪塔 (地輪)	幅 24.5 厚 24.4 高 20.6	ほぼ完形	幅と厚みが等しく、稜の鋭い整った形態。上面は大きく凹み、幅広の工具痕が僅かに残る。	①粗粒安山岩。多孔質。④全面に強い火熱を受けており、黒色味をおびた部分あり。一部に焼土付着する。
62 五輪塔 (地輪)	高 14.6	3隅欠く	表面の平滑な面を上面とした。底部は凹凸多いが、隅は面取り状に角を落とし平坦になる。	①粗粒安山岩。白色味が強い。黒色鉱物やや目立つ。
63 砥石	中厚 3.1×2.5 重 114.6g	両端欠く	長軸断面菱形で、主な使用面は正面と裏面。両側面は調整の工具痕残り、使用面は狭い。割口は無使用。	①砥沢石。鉄分やや多い。④横方向の使用痕やや目立つ。
64 砥石	長 11.7 中厚 4.4×3.7 端厚 1.8×0.7 重 206.8g	埋土 完形	長軸断面菱形の手持ち砥の4面全面使用である。使用面には凸面と凹面の両者あり。	①砥沢石。混入物少なく良質。鉄分も少ない。④擦痕は短く、方向不定。正面のみやや鋭い。

遺物観察表編

65 砥石	中厚 3.8×3.0 重 155.0g	埋土 両端欠く	長軸断面菱形で裏面の一部を除く全面使用。使用面は平坦、もしくは凹面。割口は無使用。	①砥沢石。鉄分多く赤褐色を呈す。④使用痕は正面のみ縦位で他は横位、または斜位中心。正面のみ長い擦痕が残る。
66 砥石	長 10.1 中厚 3.7×3.4 端厚 2.8×1.2 重 133.6g	ほぼ完形	長軸断面三角形の手持ち砥で、3面使用。不使用面は不整面だが、原石面ではない。使用面は凸面と凹面の両者あり。	①砥沢石。鉄分は少ない。④擦痕は短く、方向もやや不定。
67 砥石	長 11.4 中厚 3.5×2.9 端厚 2.6×0.6 重 126.0g	ほぼ完形	長軸断面菱形で、両側面に幅1cmの調整痕あり。全面使用だが、側面の使用は僅かである。	①砥沢石。鉄分多く表面の褐色味強い。④擦痕は方向不定で、短く不明瞭である。
68 砥石	長 16.2 中厚 8.0×3.8 端厚 9.4×4.0 重 747.3g	完形	下白の転用品。砥石としての使用が明瞭なのは一側面のみ。上面は長い凹みが重なった状態。	①粗粒安山岩。④強い火熱を受けている。ススの付着多い。側面の擦痕は不明瞭。
69 砥石	長 14.8 中厚 4.6×3.8 端厚 2.9×1.0 重 222.4g	中層埋土 端部欠く	長軸断面三角形の手持ち砥で、4面全面使用。両側面平滑さ欠く。正面一部丸く凹む。背面は中央から端へ凹面。	①砥沢石。鉄分多く表面は褐色。④擦痕は不規則だが、両側面でやや鋭い。
70 砥石 (荒砥)	長 11.7 中厚 7.6×7.3 端厚 6.0×5.3 重 501.8g	半欠品	短軸断面五角形で、小口側を除き全面使用。長軸断面は糸巻き状となる。使用面は凹面になる。	①粗粒安山岩。1cm大の角礫を含有する。④細かな擦痕は不明瞭。短いが鋭い傷がある。ベンガラ状の付着物あり。
71 古銭	径 2.34 孔幅 0.68	完形	至和元寶か。文字不明瞭。背は無文。初銭1054年。	①銅銭。④外輪部幅表1.9mm、背4.4mm。

VI区 12号溝 (第520図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(30.6)	図示部欠	内面胴部に輪積み状の凹凸あり。口縁上端は平坦。口縁ナデは粗い擦痕が残る。外面下半にナデに近い弱い削り。	①素地やや粗い。バミスの多い細砂を含む。②中性焰、軟調。③内面はにぶい黄褐10YR5/3。外面は黒色。④外面全体にスス付着。
2 石臼 (上臼)	高 8.6~6.2 上縁上幅 3.6	図示部欠	上縁部内側下端は丸味が強い。磨面やや不整で目は不明。片減り著しい。ふくみもきわめて大きい。	①粗粒安山岩。多孔質で軽量。③黒色味強い。

VII区 4号溝 (第521・523図 PL.103)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗 (磁器)	台(3.6)	図示部欠	印版。高台の外側2条、内側1条の圏線を加える。高台端部釉剥ぎ取り。	③呉須はベロ藍。白磁釉は透明。
2 小杯 (磁器)	口(8.0)	図示部欠	いわゆるクロム青磁。外面に縦位の不規則な削りの後、全面に厚く施釉。釉には不揃いの気泡を多量に含む。	①素地緻密。③釉は淡く鮮やかな青緑色。胎土は白色。④大正期以後。
3 皿 (磁器)	口 11.2 台 6.0 高 2.7	口縁欠く	内面は銅版型摺りの上に、手描きの呉須で水を書き加える。外面は体部下端に呉須の2条圏線。高台端部釉剥ぎ。	③型摺り部分は黒色。呉須はベロ藍で鮮やかな発色。釉は透明。
4 火鉢	口(24.0)	図示部小破片	外面は磨きの後に植物意匠のレリーフあり。花は同型の刻印、他は線画である。内面は平滑さ欠く。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。外面黒色のムラ広い。
5 鉢	口(30.0)	口縁小破片	右回転ロクロか。口縁は丸く、横ナデは丁寧。	①素地緻密。パミスを含むが夾雑物少ない。②還元焰、硬調。③灰N6/0。断面中央は暗赤灰色。④内面平滑。在地系軟質陶器。
6 火鉢	口(38.0)	口縁欠	口縁上端はやや内傾している。内端は幅広の凹み巡る。外面のナデやや雑。外側より穿孔している。	①素地やや緻密。細礫を含むが夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰10Y4/1。一様。④在地系軟質陶器。
7 石臼 (上臼)	上縁下径 4.3 上縁高 3.4	図示部欠	上縁部上端はアーチ状。内側に片口状の凹みあり。ふくみはやや小さい。磨面やや不整で目は不明。	①粗粒安山岩。
8 板碑	厚 2.0	主尊付近破片	主尊は阿弥陀三尊種子。脇侍(観音)のサのみ残る。薬研彫り。脇侍にも蓮座あり。右側に枠線あり。文字は「光明圖圖十方世界」の一部。	①緑色片岩。長石は殆ど含まず、雲母を含む。④碑面の磨滅は少ない。
9 板碑	厚 4.2	右上部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークの一部残る。二条線及び左右端の切り込みが残る。枠線あり。大型板碑。	①緑色片岩。混入物少なく、細粒の長石を僅かに含む。

VII区 5号溝 (第524図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢 (陶器)	口(32.8)	図示部欠	口縁のナデはやや雑。内面のナデは工具使用で、強く丁寧。内面に霜降り状の降灰釉。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒を含み、やや大粒の長石散見。②中性焰、硬調、焼締。③にぶい赤褐2.5YR5/3。内面は褐色味強い。④常滑か。
2 内耳		耳部小片	口縁は平坦で内傾している。耳の取り付けも丁寧で、口縁部の凹み大きい。	①素地普通。②酸化焰、やや硬調。③浅黄2.5Y7/3。内面はにぶい黄橙10YR7/3。

6 道路跡出土遺物

I 区 1号溝 (第527図 PL. 104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(11.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロか。天井部は左回転ロクロ上でヘラ削り。口縁端部はやや平坦。カエリ直下に沈線が巡る。	①素地やや粗い。石英・パミスまじりの粗砂やや多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。一様。④口縁端部やや摩滅。
2 杯 (S)	口 13.1 底 6.3 高 3.9	埋土 5片 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁僅かに外反する。ロクロ痕は弱く、内面は平滑。口縁に歪みあり。	①素地普通。パミス・長石まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③暗緑灰10GY4/1。底部は内外面とも重焼き状に褐色味強い。
3 壺か (S)	底(4.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	手づくねか。内面は強いナデ。器面に平滑さ欠く。外面全面火表となっており釉付着。窯道具の可能性もあり。	①素地極めて緻密で磁器に近い。砂粒の混入まれ。②還元焰、硬調に焼き締まる。③緑黒5G17/1。光沢あり。内面は灰白10Y7/1。断面はセピア色。
4 皿 (陶器)	口(11.2) 台(5.8) 高 2.6	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→高台削り出し。外面下半に2段の鋭い回転ヘラ削り。施釉は灰釉を外面上半と内面全面。内底は重焼きの高台部分で釉が剥がれる。	①素地緻密。黄白色の粗砂まじる。③釉は緑色味をおびた灰色。素地は灰黄色。④瀬戸・美濃系。
5 砥石	端厚 4.2× 2.0	埋土 半欠品	長軸断面糸巻き状。短軸断面長方形で割口を除く5面使用。小口以外の各使用面は弱い凹面となる。	①砥沢石。混入物あり。鉄分やや多い。④擦痕は長軸方向が主体。

I 区 2号溝 (第527図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底(6.6)	埋土 2片 口縁下半 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面ともやや強い。	①素地やや緻密で夾雑物は少ない。②中性焰か、軟調。③黒7.5YR2/1。割口まで一様。④破損後強い二次火熱を受ける。

III区 4号溝 (第528図 PL. 104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	幅 2.6 長 4.7	埋土 完形	指頭の押圧痕僅かに観察できる。内面に棒状の圧痕残る。	①素地普通。輝石含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。一様。

III区 5号溝 (第528図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (陶器)		肩部破片	外面上半には、強いナデによる縦位の圧痕あり。内面は平滑さ欠く。外面に降灰釉多い。	①細礫等を含むが、大型品としては混入物は少ない。③表面褐色。自然釉は黄緑色。胎土暗灰色。④常滑系。

7 溝出土遺物

I区 3号溝 (第530図 PL.104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(13.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→天井部回転ヘラ削り。ロクロ痕弱い。小破片からの復元で歪み著しく、口径・傾きとも不安。蓋杯の蓋である。	①素地普通。パミスまじりの砂粒多い。②還元焰、やや硬調。③暗青灰5BG3/1。断面明度高い。
2 杯 (H)	口(13.6) 高 3.0	埋土 5片 $\frac{1}{2}$ 個体	口縁のナデ粗い。口縁上端内側に肥厚するが、厚み一様でない。外面の削りは摩滅し不明瞭。内面のナデ丁寧。雑な造りで器面の凹凸大きい。	①素地はやや緻密で、少量の砂粒以外に夾雑物少ない。②酸化焰、やや軟調。③褐7.5YR4/6。一様。
3 杯 (H)	口(13.2)	埋土 3片 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁は丁寧でやや強いナデ。端部は内側へ小さく肥厚。外底の削り摩滅し不明瞭。内底は僅かな凹凸あり。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、軟調。③橙7.5YR6/6。断面まで一様。

II区 1号溝 (第532図 PL.104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口(13.6) 底(7.0) 高 2.8	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	右回転ロクロ→回糸か→ロクロ使用の丁寧な高台取付。ロクロ痕は外面にしか残らない。口縁端部は小さく外反。	①素地普通。砂粒含む。気泡が若干まじる。②還元焰、硬調。③灰10Y5/1。断面は白色味が強い。
2 椀 (S)	口(14.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用の高台取付。ロクロ痕は内外面とも強く細かい。底部は薄く、歪んでいる。	①素地は緻密で細砂以外の夾雑物は少ない。②還元焰、やや軟調。③灰7.5Y6/1。ほぼ一様。
3 甕 (S)	口(42.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕は内外面とも弱く、外面では布状具の擦痕残る。口縁端部は外折れし、下方へ尖る。	①素地普通。白色砂粒・長石等を含む。②還元焰、硬調。③灰10Y4/1。断面暗赤灰色。④口縁上端に細かな剥落多い。
4 甕 (S)	口(40.0)	埋土 図示部小片	右回転ロクロ。ロクロ痕は内面ではやや強い。口縁端部の尖りは弱い。内面は降灰釉顕著。小破片からの復元で、傾き・径とも不安。	①素地普通。細礫まじりの砂粒を含む。②還元焰、硬調。③黒10Y2/1。内面の釉は白色味強い。④口縁端部は上面・下面とも摩滅している。
5 土錘	長 5.2 径(3.1)	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	外面の成形痕は見えない。内面に粗いナデ状の整形痕あり、小口面は削る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒や細礫やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内外面とも黒色のムラあり。
6 雁股鉄	莖径0.65~0.31 関 0.92	埋土 図示部片	錆化と欠失のため、形状は不明瞭。関は方形のものが隅が落ちて、原状では丸に近くなったものと思われる。	①鉄としては鉄地金はやや劣る。基部破片が同一個体の破片であるかは確定できない。
7 刀子	棟 0.33 幅 1.50	埋土 図示部小片	細身の刀子の身部破片。研ぎ減りは少ないようである。	①鉄地金は良好で、錆化すすむが、ふくれは少ない。④基部側の欠失は調査時のものである。

遺物観察表編

II区 2号溝 (第534図 PL. 104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.5 底 5.3 高 3.3	ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも強く細い。口縁僅かに歪む。底部厚く重量。	①素地普通。輝石・金雲母・パミス等のまじる細砂を含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4で一樣。
2 皿 (S)	口(14.0) 底 7.4 高 2.8	口縁 $\frac{1}{2}$ 底台部 $\frac{1}{2}$	1溝-2に同巧。糸切り痕が明瞭に残る。口縁端部の外反は弱い。	①②1溝-2にはほぼ同じ。細砂の混入多く、胎土はやや悪い。③灰10Y6/1。内面は明度高い。
3 甕 (S)	口(28.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	頸部・肩部にカキ目に近いやや粗いナデを施す。内面肩部に細かな圧痕が帯状に残る。	①素地普通。黒色鉱物・パミス以外の夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰N4/1。口縁と内面は明度高い。
4 甕 (S)	口(29.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕は内外面ともやや強い。口縁は外折れし、内面上端のナデは強い。	①素地緻密。パミス以外の夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰10Y4/1。内面は降灰釉で白色味をおびる。
5 鉢	口(30.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁内外面とも丁寧でやや強いナデ。外面のナデの下に、不明瞭なヘラ状の圧痕残る。内面は平滑。	①素地普通。パミスまじりの砂粒以外の夾雑物は少ない。②還元焰か。軟質陶器としては極めて硬調。③灰褐5YR4/2。断面は赤色味をおびる。内外面ともムラあり一樣でない。
6 土錘	長 6.0 径 3.4	一端の $\frac{1}{2}$ 欠く	雑な造りで、外面は剥落すすむ。幅狭の圧痕あり。小口面は平坦に削る。内面は竹管状のやや歪んだ圧痕あり。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。小黒斑あるが、ほぼ一樣。

IV区 1号溝 (第536図 PL. 104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(7.3) 底 4.9 高 2.1	埋土 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物・輝石等夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。④残存する口縁上端の全面にスス付着。
2 小皿	口 7.8 底 3.7 高 2.5	完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも細かく強い。内底に弱い指頭のナデ。	①素地緻密。金雲母の目立つ細砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。④口縁上端3カ所に燈芯痕状のスス付着。
3 小皿	口(9.6) 底(5.2) 高 2.6	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に細かな板状圧痕、内底に強い指頭のナデあり。	①素地普通。パミス・輝石含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR6/6。一樣。
4 青磁碗	台(5.8)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ上での高台削り出し。接地部は釉ハギ。釉はやや薄く、貫入・気泡ともやや粗い。	①精緻な素地で、混入物も殆ど含まない。③釉はくすんだ青緑色。素地は灰白色。④龍泉窯系か。
5 長頸壺か	台(9.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→同回転利用の高台取付けと底部のナデで切り離し痕不明。内外面とも降灰釉多い。	①素地やや緻密。黒色鉱物等散見するが、夾雑物少ない。②還元焰、普通。③表面灰赤2.5YR4/2。断面は灰黄色。④釉は灰緑色。
6 内耳	口 27.0 底 16.6 高 15.1		口縁は平端で上端に浅い溝が巡る。内面口縁下端の段強い。外面の削り息長く丁寧。内面体部下端に工具状の強いナデ残る。	①素地普通。パミス・黒色鉱物・金雲母等夾雑物多い。②中性焰、やや軟調。③灰黄2.5Y6/2。④体部全面と口縁一部にスス付着。

7 溝出土遺物

7 砥石	長 12.1 中厚3.7×2.4 端厚1.9×1.4 重116.4g	一端欠く	長軸断面三角形の手持ち砥。正面の使用が顕著。両側面は調整痕が残り、裏面同様一部だけの使用となる。	①砥沢石。鉄分やや多く、平坦面ほど褐色味が強い。 ④使用痕は不明瞭だが方向不定のようだ。両側面に鋭い傷が並ぶ。
8 石臼 (上臼)	径(29.2)		上縁欠損。供給口ものくばり一部遺存。溝は使用により、殆ど摩滅。左回転。欠損後被熱。	①粗粒安山岩。
9 板碑	長 35.7 幅 13.5 厚 1.7	完形	主尊は阿弥陀一尊種子、キリークのイーがアク点間を抜ける書体。蓮座・種子ともに浅い竹彫り。線刻二条線ありか。紀年銘は判読不可。小型板碑。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④碑面はやや摩滅する。裏面のほぼ全面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は0.6~0.7cm。

IV区 2号溝 (第537~540図 PL.104・105)

Na・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(8.6) 底(5.8) 高 1.7	図示部残	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭。小破片からの復元で口径不安。	①素地普通。パミス・輝石やや多い。②酸化焰か、やや硬調。③橙7.5YR6/6。口縁上端に燈芯痕状にスス付着。
2 小皿	口(10.0) 底(5.0) 高 2.7	残個体	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁の歪みや強い。ロクロ痕は内外面とも弱く不明瞭。底部のみ薄い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。外面黒色味強い。
3 椀		体部小片	右回転ロクロ。外面にのみ強く細かなロクロ痕残る。	①素地普通。パミス・石英等やや大粒の夾雑物目立ち粗い。②還元焰か、普通。③灰白5Y7/2。断面彩度低い。④外面に横書き墨書あり。「形井」か。内面に凍てハゼ状の剥落あり。
4 青磁碗		埋土 図示部小片	内面にへら描き施文が見られる。釉は薄く、透明。気泡は少ないが、細貫入が見られる。	①緻密。③素地灰白色。釉は灰緑色味をおびている。 ④龍泉窯系。
5 染付碗 (磁器)	台(3.8)	埋土 図示部残	染め付けは外面高台に2条、体部下端に1条の圏線と、植物意匠の組合せ。高台端部以外全面に白磁釉を施す。	①緻密で夾雑物を殆ど含まない。③呉須はやや淡い発色。白磁釉は乳白色で気泡は細かい。④伊万里系。
6 碗 (陶器)	台(4.4)	埋土 図示部残	外面下半に呉須による二重圏線を施した後、全面透明釉を施す。接地部のみ釉ハギ。気泡・貫入とも粗い。	①モグサ土か。やや粗い。③素地は灰黄色。呉須はやや淡い藍色。透明釉は厚い部分で緑色味をおびている。④瀬戸・美濃系。
7 乗燭 (陶器)	底 5.4	図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕極めて弱い。外底を除く全面に長石釉をやや薄く施す。	①素地やや緻密で混入物を殆ど含まない。③長石釉は透明。外底は赤色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
8 鉢 (陶器)	台(11.0)	図示部残	内面白土のハケ目上に透明釉、外面は高台中位以上で薄い透明釉を施す。高台は厚手でどっしりしている。	①素地普通。白色鉱物を少量含む。③素地はレンガ色を呈す。釉は内面で乳濁、外面でやや黒色味をおびる。④唐津系。
9 皿 (磁器)	口(10.8) 台(6.6) 高 2.0	埋土 残個体	いわゆるクロム青磁。釉はやや厚い。内面に太鼓の意匠の銅版プリントか。外底は白磁釉。接地面のみ釉ハギ。	①素地緻密で混入物を含まない。③胎土は白色。クロム釉は淡い緑色。文様は緑色を呈している。④大正期以降。

遺物観察表編

10 鉢 (陶器)	口(13.2)	図示部 $\frac{1}{4}$	口縁は外方へ大きく肥厚する。口クロ痕弱い。長石釉を全面に施す。	①モグサ土。混入物少ないが、気泡まじる。③釉は淡い褐色で透明。一部乳白色。④瀬戸・美濃系か。
11 皿 (陶器)	口(13.4) 台(7.0) 高 3.0	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	菊皿。口縁端部の刻みは鋭い。内底は段皿状。目跡あり。外底以外に灰釉を施す。	①素地やや緻密。混入物少ない。気泡が僅かにまじる。③灰釉は緑黄色を呈し、厚い部分では緑色味が濃い。④瀬戸・美濃系。
12 内耳	口(33.6) 底 33.0 高 6.1	口縁 $\frac{1}{4}$ 底部 $\frac{1}{4}$	口縁は平坦で内傾している。内底の同心円状ナデやや強く、小さな凹凸ができる。	①素地普通。輝石の目立つ砂粒を含む。②中性焰か、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。④口縁部は大きく剥落しているが残存部にはスス付着。
13 内耳	口(32.2) 底(21.4)	口縁 $\frac{1}{4}$ 体部 $\frac{1}{4}$	口縁は平坦で上端はやや外傾する。外面体部上半に布状具の擦痕巡り、下端に弱い削り。内面のナデ丁寧。	①素地普通。パミス・輝石を含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。
14 茶臼 (上臼)	④上縁上幅 2.7	図示部 $\frac{1}{4}$	磨面の残存僅かで見目は不明瞭だが、溝間隔6～3mmと狭い。	①粗粒安山岩。
15 茶臼 (下臼)		図示部 $\frac{1}{4}$	はんぎり部の割口は、やや平滑。接地面も平滑になっている。供給口が僅かに残存。	①粗粒安山岩。
16 石臼 (上臼)	径(23.4) 高 15.0	$\frac{1}{4}$ 個体	分画数は不明であるが、溝数は7～8本。すり合わせ部は粗い。側面から上面に貫通する円孔あり。左回転。	①粗粒安山岩。④側面被熱痕。
17 石臼 (上臼)	高 24.0 上端高 4.0 上端幅 3.1 下端幅 4.0	$\frac{1}{4}$ 個体	目は切線主溝型、分画と副溝数不明。溝間隔は2.6cm、幅3mm、深1mm。磨面は薄く、使いべりとも考えられる。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
18 石臼 (上臼)	径(26.0) 上縁上幅 3.6	図示部小片	補助孔部分の破片である。上端は平坦で、内側に細かな整形痕残る。	①粗粒安山岩。
19 石臼 (上臼)	径(33.0) 高13.2～12.3 上縁下端幅 4.8 上端幅 3.7	$\frac{1}{4}$ 個体	片減りが認められる。上縁高2.3cm。挽き手穴一辺2.5cm、深3.7cm。供給口一部残存。溝の分画や副溝数は不明。右回転臼であり、希少例である。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
20 石臼 (上臼)	高 9.7 上縁下端幅 4.3 上端幅 3.4 高 3.4 挽き手穴は一辺 3.1 の方形。深 5.5	$\frac{1}{4}$ 個体	溝間隔は2.1cm・幅2mm。目は不明瞭。	①粗粒安山岩。
21 石臼 (上臼)	径(28.6) 高 9.7～8.8 上縁高 4.1 上縁幅 3.1	図示部 $\frac{1}{4}$	片減りが著しい。上縁高に比して中央は薄い。溝間隔は10mm、幅は3～2mm。上縁下端から外面に貫通する小孔あり。挽き手穴の深さは4.6cm。奥部上面は上縁下端と貫通する。	①粗粒安山岩。
22 石臼 (上臼)		図示部 $\frac{1}{4}$	武蔵型臼と思われる。上縁部欠失。磨面の剥落すすみ、目は不明。供給口が一部残存。	①牛伏砂岩。④火熱を受けている。
23 石臼 (上臼)	径(32.0)	$\frac{1}{4}$ 残存	芯穴・挽き手穴は残存せず。供給口の一部ともくばりは遺存し、形状から左回転。溝は遺存しない。	①粗粒安山岩。④摩滅は著しくない。

7 溝出土遺物

24 石臼 (上臼)	挽き手穴径(2.8) 上縁上幅 4.1	図示部片	武蔵型臼。挽き手穴周辺破片。挽き手穴はやや歪んで穿たれている。	①牛伏砂岩。石質細かい。④片減りややすすむ。
25 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.5	図示部小片	武蔵型石臼。目・供給口等は残存しない。	①牛伏砂岩。④下面に火熱を受けている。
26 (石鉢)	上縁上幅 4.7	図示部 $\frac{1}{2}$	形状は上臼に類似するが、軽量であり石鉢となろう。縁部は平滑さ欠く。	①デイサイト質凝灰岩金山石。
27 石臼 (上臼)	高 11.8 上縁高 3.0 上端幅 5.6~3.7		供給口一部遺存。溝は刻まれているが不明瞭。	①粗粒安山岩。
28 石臼 (上臼)	径(28.0)		上縁欠損。供給口一部残存。溝は観察できない。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
29 石臼 (下臼)	径(35.0) 芯穴径(3.2)	$\frac{1}{2}$ 個体	ふくみやや大きい。磨面不整だが、切線主溝型の目の痕跡が僅かに残る。	①粗粒安山岩。
30 (石鉢)		図示部片	自然石に雑な孔を穿ったような用途不明品。底面やや平滑。	①軽石(二ツ岳)。④外面側面の剝落すすむ。
31 板碑	厚 3.0	上左部破片	主尊は阿弥陀種子か。キリークの上一部残る。葉研彫り。二条線と左側部の切り込み、枠線を残す。	①緑色片岩。大粒の長石含み、雲母も微量含む。④碑面はやや摩滅する。
32 宝篋印塔 塔身部			18×18cm程の方形を呈する小型の塔身部。種子は摩滅のため判読不可。塔碑面は丁寧な磨き。	①粗粒安山岩。
33 不明軽石 製品	高 15.6	図示部片	上・横・底の3面が平坦に加工されており、地輪の可能性はある。	①軽石(二ツ岳)。④側面上端に細かな剝落が多い。
34 五輪塔 (地輪)		上面隅破片	上面に小さな凹みがあり、不明瞭な工具痕残る。他の面はやや平滑で、稜も鋭い。	①軽石(二ツ岳)。④火熱を受け上面のみすすけている。割口には墨のような付着物あり。下端と側面の割口はやや平坦。
35 砥石	中厚3.0×2.5 重 86.5g	両端欠く	長軸断面三角形で本来の使用面は正面のみ。裏面と両側面は縦位の長い凹みで覆われ表面は不整。割口無使用。	①砥沢石。混入物やや多い。④表面は斜位の擦痕中心。他の面の凹みは断面U字状で、丸ノミ様の工具痕状。
36 砥石	端厚 2.7×1.9 重 73.1g	埋土 半欠品	長軸断面長方形。小口含めた5面使用で、主な使用面は両側面。正面は剝落すすみ不明。裏面に調整工具痕残る。	①砥沢石。混入物やや多い。④擦痕は不明瞭だが使用面は縦位が中心になる。
37 砥石	重 92.3g	埋土 半欠品	長軸断面糸巻き状の半欠品。主な使用面は正面と側面で、小口も雑な使用痕。他は剝落多く不明。	①砥沢石。鉄分多く表面は褐色。④短いがやや粗い擦痕が残る。
38 古銭	径 2.29 孔幅0.69	完形	寛永通寶。文字不明瞭で鑄造年代等は不詳。	①銅銭。やや脆弱化すすむ。④外輪部幅2.1mm。外輪部に細かな剝落多い。

遺物観察表編

IV区 3号溝 (第542図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.0) 底(6.6) 高 3.7	埋土2片 図示部 $\frac{1}{4}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕強い。内底は平坦。薄手。	①素地普通。細礫まじりの細砂含む。②還元焰、普通。③灰10Y5/1。断面は白色味強い。④接地面摩擦する。
2 紡錘車	径 4.6 厚 1.1	完形	器面に指頭のナデ、縁部に弱い削りの痕跡残る。	①素地やや緻密。輝石・パミス含む。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。黒色のムラあり。④孔の縁部に細かな剝落あり。

IV区 4号溝 (第541図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 青磁碗		上層 体部小片	外面に蓮弁を刻んだ龍泉窯系青磁。釉はやや薄い。気泡はやや細かい。外面に縦方向の長い貫入あり。	①緻密な素地で、微細な黒色鉱物を僅かに含む。③釉調は淡い青色で粘土に近い。胎土は灰白色。④龍泉窯系。
2 小刀	長 17.0 厚 4.4	完形	切り出し型の片刃の小刀で、目釘穴の痕跡ない。研ぎ減りも少ない。	①鉄地金はやや良好。錆化の影響も少ない。
3 五輪塔 (地輪)		一隅のみ残存	天地不明。稜はやや鋭く整っている。側面は研磨を加えたと思われる、平滑で工具痕残らない。	①粗粒安山岩。③灰白色。
4 石臼 (下臼)	径(28.8) 高 6.4 周縁厚 5.7~4.8 芯穴径 3.8	$\frac{1}{4}$ 個体	片減りが認められる。目は6分画5溝式切線主溝型。片減り部分の溝は不明瞭。溝間隔は2.3~2.0cm、幅1.5mm、深さ0.25mm。	①粗粒安山岩。④火熱を受ける。

IV区 5号溝 (第544図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 天目茶碗 (陶器)	口(12.2)	西側埋土 図示部 $\frac{1}{6}$	口縁端部で小さく屈曲する。ロクロ痕は弱く細かい。残存部分全面に鉄釉を施す。	①モグサ土状。気泡少ない。③胎土は灰白色。釉はやや褐色味をおび、柿釉と鉄釉の中間的な発色。④瀬戸・美濃系。
2 砥石	長 10.2 中厚3.5×3.5 端厚2.1×1.1 重158.0g	埋土 一端を欠く	長軸断面菱形の4面使用だが、1側面の使用少なく、僅かに調整痕が残る。小口は原石面。	①砥沢石。鉄分やや多い。④使用痕は短く弱く、方向も不定。
3 茶臼 (下臼)	磨面径(18.0) 芯穴径(2.4)	図示部 $\frac{1}{4}$	はんぎり端部欠く。目は切線主溝。溝は8分画。副溝数は9本前後か。副溝は不整で溝間隔は8~5mm。底面には強いノミ痕が放射状に息長く残る。	①粗粒安山岩。③明るい灰白色を呈している。

V区 3号溝 (第548図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径 31.2 ふくみ 2.0 擦り合わせとの供給 口径 4.8	㉔個体	6分画で溝数は8本。側面には円形と 方形の挽き手穴がある。方形の方は摩 滅により、擦り合わせ面に表れている ため、当初のものと考えられる。また この対角線にも小円孔がある。	①粗粒安山岩。④被熱。上面と供給口・擦り合わせ 面の一部にスス付着。
2 石臼 (上臼)	径(28.1)	㉔残存 上縁は一部のみ 残存	芯穴と挽き手穴は残存し、挽き手穴は 四角形と考えられる。溝間隔は粗いが 遺存が良好でないため、分画・溝数は 不明。	①粗粒安山岩。④摩滅は著しい。
3 五輪塔 (火輪)		図示部破片	上端は残存面か、割口か明確でない。 底部は僅かに凹む。表面に調整痕と思 われる不明瞭な凹みあり。	①粗粒安山岩。③ピンク色味がかかる。④正面に鋭い 傷あり。
4 砥石	中厚3.3×1.3 端厚2.6×0.5 重 81.6g	一端を欠く	短軸断面長方形で4面使用。使用面は 側面で平坦、他は弱い凹面になる。小 口は不使用。	①砥沢石。③黒色味が強い。④裏面に横位中心の粗 い擦痕が多い。他の面では不明瞭。
5 砥石 (荒砥)	中厚6.4×6.0 重245.4g	両端欠く	短軸断面五角形の5面使用で、各面は 平坦。両端の割口に使用痕なし。	①粗粒安山岩。④使用痕は不明瞭。正面のみやや不 整である。割口も含めベンガラ状の褐色付着物あり。
6 砥石 (荒砥)	中厚7.8×7.6 重440.4g	両端欠く	短軸断面五角形の5面使用。各使用面 は平坦。両端は割口で不使用。	①粗粒安山岩。きめやや細かい。④1側面に溝状の 凹みがあるが、内部に擦痕なし。全体に擦痕傷状に深 く、裏面は器面不整になる。

V区 4号溝 (第549～556図 PL.106～108)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(6.8) 底(3.8) 高 2.5	口縁㉔ 底部㉔	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱く不明瞭。口縁上端は尖り、僅かに 直立気味となる。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物・パミスを含む。 ②中性焰か、やや硬調。③浅黄橙7.5YR8/4。内面彩 度低い。
2 小皿	口(7.7) 底 4.7 高 1.9	埋土 口縁上半㉔欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 は内外面とも弱く、内面では不明瞭。 外底にやや幅広い板状圧痕。内底の指 頭のナデは強い。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化 焰か、普通。③橙5YR6/6。一様。
3 小皿	口(7.3) 底 4.5 高(2.1)	口縁㉔欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。内底にや や強いナデ、外底に弱い板状圧痕。口 縁部割口を研ぎ込んで再利用する。	①素地やや緻密。夾雑物少ない。②中性焰か、普通。 ③黒5Y2/1。一様。④強い二次火熱を破損後に受け、 全面すすけている。内外面とも剥落部分あり。
4 小皿	口(9.8) 底 4.7 高 2.0	埋土4片 口縁㉔欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。外底に切り離しの糸と思われる 圧痕状の凹みあり。	①素地緻密。金雲母多く、パミスまじりの細砂を含 む。②酸化焰か、やや硬調。③明赤褐5YR5/8。一様。
5 小皿	口 7.6 底 4.2 高 1.9	口縁㉔欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 は内外面とも弱い。薄手。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒 多い。②酸化焰か、軟調。③におい橙7.5YR7/4。外 面に黄色のムラ広い。

遺物観察表編

6 小皿	口(3.7) 底(4.7) 高 2.1	埋土 口縁欠 底部欠	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁上端はやや平坦。内底に弱い指頭のナデ。	①素地緻密。パミス・輝石等を少量含むが他の夾雑物少ない。②酸化焰か、やや硬調。③橙5YR6/6で断面まで一様。
7 小皿	口 7.3 底 3.3 高 2.4	ほぼ完形	右回転ロクロか→回糸無調整。ロクロ痕やや強い。外底は極めて雑な切離しのため歪む。板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭のナデ。	①素地普通。輝石多く、パミスを若干含む。②中性焰か、硬調。③浅黄橙10YR8/4。彩度の低いムラあり。
8 小皿	口 8.1 底 5.7 高 1.8	口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底片側にゴザ状の細かい圧痕あり。内底に強い指頭のナデ。	①素地普通。輝石やや多くパミス・赤褐色鉱物・金雲母含む。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。一様。
9 小皿	口 7.9~7.6 底 4.4 高 2.0	完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に幅広いの弱い板状圧痕。内底に弱いナデ。	①素地粗く、ザラザラ。輝石多く、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。一様。
10 小皿	口(8.4) 底 5.5~5.2 高 2.5	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱いが横ナデは強い。切離し痕が重なっており、切り直しを行っている。	①素地普通。パミス・輝石・赤褐色鉱物等混入。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/8。外面一部彩度低い。④口縁内面一カ所燈芯痕状スス付着。
11 小皿	口(8.3) 底(4.4) 高 2.0	図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁は弱く外反する。ロクロ痕やや強い。外底に板状圧痕、内底に強い指頭のナデあり。薄手。	①素地やや粗い。パミスを含む細砂や多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。④口縁内外面に燈芯痕状のスス付着。
12 小皿	口(7.9) 底 3.9 高 2.2	%個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕内外面ともやや強い。外底は細い板状圧痕。内底に弱い指頭のナデ。	①素地普通。パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。一様。
13 小皿	口 7.6 底 5.0 高 2.3	口縁欠 底部欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁上端やや尖る。ロクロ痕弱く厚手で器形に鋭さ欠く。	①素地やや粗く、チャート質粗砂の混入多い。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/8。断面彩度低い。
14 小皿	口 7.8 底 4.7 高 2.2	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱い。外底に幅狭の板状圧痕が僅かに残る。内底にやや強い指頭のナデあり。	①13に同じ。②酸化焰か、やや硬調。③橙7.5YR6/8。内底に黄色と赤色味のムラあり。
15 小皿	口(8.8) 底 5.4 高 2.4	下層内7片 口縁欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱い。口縁端部は直立気味で上方へ尖る。口縁は小さく歪む。外底は僅かに上げ底。内底は平坦。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、軟調。③明赤褐5YR5/8。断面までほぼ一様。
16 小皿	口(8.8) 底 4.9 高 2.0	口縁欠 底部欠	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁の波状の歪み強く、一部で片口状を呈す。	①素地普通。輝石・パミスを多く含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。一様。
17 小皿	口(9.2) 底(4.8) 高 2.5	東側埋土2片 口縁欠 底部欠	左回転ロクロ→回糸無調整。内面口縁上半に工具痕が沈線状の歪みとなって巡る。口縁部は内湾気味。	①素地普通。輝石の多い砂粒含む。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/6。一様。
18 小皿	口(9.6) 底(6.5) 高 1.7	埋土上層 口縁欠 底部欠	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕はやや強い。口縁上端は外方へ肥厚する。	①素地普通。パミスまじりの細砂がやや多い。②酸化焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。④内底にタール状の不明瞭な付着物あり。
19 小皿	口 8.4 底 5.3 高 2.0	口縁欠く	15に同巧。口縁端部のつまみ上げはやや弱い。内底縁部に沈線状の凹みが巡る。	①②③15に同じ。

7 溝出土遺物

20 小皿	口 8.6 底 5.2 高 2.1	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は波状に小さく歪み端部肥厚する。外底に幅広板状痕、内底に指頭のナデが僅かに残る。	①9に近い。混入物やや少ない。②中性焰か、硬調。③浅黄橙7.5YR8/6。一様。
21 小皿	口 10.0 底 5.3 高 2.7	ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底に幅狭の板状圧痕僅かに残る。内底に指頭の弱いナデ。	①素地粗くザラザラ。輝石・赤褐色鉱物等のまじる粗砂多い。②中性焰か、普通。③浅黄橙10YR8/4で、外面一部赤色味をおびる。
22 小皿	口 11.0 底 6.0 高 2.8	口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕やや強く、内底縁辺の凹みは弱い。内底は平坦。口縁内側に弱く広い凹み巡る。	①素地普通。混入物少なく、胎土はさらに良好。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
23 小皿	口(8.7) 底 5.7 高 2.1	埋土 口縁欠く	15にほぼ同巧。口縁内端の凹み弱い。	①②③15にほぼ同じ。
24 小皿	口(9.8) 底 4.8 高 3.3	埋土3片 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁は外方へ肥厚する。外底に幅広の板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭のナデで布状具の擦痕が残る。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物多い。②中性焰か、普通。③浅黄橙10YR8/4。外底に黒色、内面に赤色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
25 小皿	口(9.8) 底 5.4 高 2.5	口縁欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭。厚手だが口縁端部やや尖る。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等のまじる細砂やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内外面とも暗色のムラ広い。④二次火熱を受けるか。
26 小皿	口 10.9 底 6.0 高 3.0	口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱く、内面では不明瞭。口縁に大きな歪みあり。内底は平坦。	①素地粗く、赤褐色鉱物・バミスまじりの砂粒の夾雑多い。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐5YR5/8。一様。
27 小皿	口(10.6) 底 6.8 高 2.9	東側埋土3片 口縁欠 底部欠	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕強い。底部は指頭による押圧で不整。口縁にも歪みあり。薄手。	①素地普通。バミス・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。内面は赤色味強い。
28 小皿	口(10.0) 底 5.4 高 2.6	口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕はやや弱く不明瞭。外底に幅狭の板状圧痕僅かに残る。内底ナデやや強い。	①素地やや粗い。バミスまじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③灰白5Y8/2。内外面とも黒色味おびるムラ広い。④破損後に強い二次火熱を受ける。内面上半にスス状の付着あり。
29 小皿	口 11.6~11.4 底 6.6 高 2.4	欠個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は弱く外反する。内底は広いが平滑さやや欠く。薄手。	①素地やや緻密。金雲母・やや大粒のバミス少量含むが混入物少ない。②酸化焰か、軟調。③橙5YR6/6。断面まで一様。
30 小皿	底 6.5~6.1	口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭だが、内面には工具使用の横ナデによる鋭い擦痕が沈線状に残る。内底に指頭の弱いナデ。	①素地普通。バミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。一様。④内面に小さな剥落多い。
31 小皿	口 11.3~10.9 底 6.6 高 2.7	完形	左回転ロクロ→回糸無調整。横ナデは外面に鋭い沈線状の傷をつくる。内底縁辺は凹む。外底に幅広の板状圧痕僅かに残る。	①素地普通。バミス・輝石まじりの細砂を少量含み、やや良好。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
32 小皿	口(11.3) 底 6.9 高 2.7	口縁欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。横ナデは粗い布状具の擦痕残る。内底は広く平坦。薄手。	①素地緻密。金雲母・細粒まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。④両面に不均等に薄いスス状の付着物あり。
33 小皿	口 11.0 底 7.0 高 2.6	口縁欠く	32に同巧。外面上半に緩い屈曲。底部に歪みあり。器面やや不整。	①②③32に同じ。外面に黒斑あり。④内底やや摩滅する。

遺物観察表編

34 小皿	口(12.0) 底(6.8) 高 2.8	口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面でやや強い。口縁外面下端の屈曲強い。内底は広く平坦。やや薄手。	①素地緻密。細砂以外の夾雑物少ない。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR6/4。内外面とも黒色部分広い。④破損後、強い二次火熱を受ける。内底にタール状のスス付着。
35 小皿	口(11.6) 底 6.2 高 3.0	口縁上半%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。内底やや強い指頭のナデあり。口縁端部やや平坦。歪み強い。やや薄手。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙5YR6/6。断面までほぼ同様。
36 小皿	口 11.9 底 6.7 高 2.8	口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は弱い。口縁外端に凹みが巡る。内底は平滑で広い。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙5YR6/8。内外面とも黄色味をおびるムラあり。
37 小皿	口 12.3 底 5.7 高 3.4	埋土5片 口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底に僅かに板状圧痕残る。内底は指頭の強いナデ。厚手。	①素地普通。赤褐色鉱物のやや多い砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面赤色味をおびる。
38 小皿	口(10.8) 底 5.8 高 3.6	口縁%欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕内面でやや強く細かい。口縁端部は尖る。内底に強い一方の指頭のナデあり。	①素地普通。赤褐色鉱物のやや多い砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。一部赤色味をおびるムラあり。
39 小皿	口 11.5 底 5.4 高 3.3	口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁内端に弱くやや広い凹み巡る。内底にやや弱い指頭のナデ。厚手で重量。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・パミスを含む砂粒多い。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外底やや明度低い。
40 小皿	口 10.9 底 4.9 高 3.1	完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強い。口縁上端はやや外傾し平坦気味。内底にやや弱いナデ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス等夾雑物多い。②酸化焰か、硬調。③橙5YR6/6。内外面とも赤色のムラ広い。
41 小皿	口(10.8) 底 5.5 高 3.5	埋土4片 口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強く、外面不明瞭。外底に板状圧痕あり。内底に強い指頭のナデあり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物多く、細砂を若干含む。②中性焰か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/4。ほぼ同様。
42 小皿	口(11.2) 底(4.6) 高 2.9	口縁% 底部%	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内底縁部の凹みや強い。平面楕円形に歪み、口径不安。	①素地普通。輝石多く、パミス・赤褐色鉱物を含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。同様。④内面は剝落し、荒れている。
43 小皿	口(11.0) 底(5.0) 高 2.7	%個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は強く細かい。口縁は弱く外反する。内底に指頭のナデの痕跡残る。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。同様。④内底剝落多い。
44 小皿	口(10.5) 底(6.0) 高 3.4	口縁% 底部%	左回転ロクロ→回糸無調整。外底に弱い板状圧痕。内底縁部は幅広く凹む。やや厚手。	①素地やや粗い。輝石・パミス・赤褐色鉱物含む砂粒やや多い。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/6。内面黄色味強い。
45 小皿	口 11.6 底 7.0 高 2.6	口縁%欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面でやや強く細かい。口縁内端は小さく凹む。内底は広い。	①素地緻密。金雲母多く、パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/6。同様。
46 小皿	口(11.7) 底(5.7) 高 3.2	口縁% 底部%	39に同巧。	①②39にほぼ同じ。③39に近い。外底の黒色味強い。
47 小皿	口(12.3) 底 7.7 高 3.0	口縁% 底部%	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。底面広く平坦。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス・輝石多く混入し、石英・細礫少量含む。②酸化焰か、軟調。③明赤褐5YR5/8。同様。④内面下半に細かな剝落著しい。

7 溝出土遺物

48 小皿	口(12.0) 底 5.2 高 3.6	東側埋土3片 口縁 $\frac{3}{4}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。外底にゴザ状の細かい圧痕が僅かに残る。内底に指頭の弱いナデ。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物等のまじる砂粒を含む。②酸化焰か、硬調。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
49 小皿	口 11.8 底 6.2 高 3.2	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕内面でやや強い。口縁は大きく歪む。外底に幅狭の板状圧痕顕著。内底に一方方向の強い指頭圧痕のナデ。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙5YR6/6。一様。
50 小皿	口 11.3 底 6.3 高 2.8	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも強く細かい。口縁端部は平坦。外底はゴザ状の細かい圧痕。内底中央は指頭のナデ。	①素地普通。パミス・輝石まじりの細砂がやや多い。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。断面まで一様。
51 小皿	口 11.2 底 6.7 高 2.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	31にほぼ同巧。外底に板状圧痕は観察できない。	①②③31に同じ。
52 小皿	口(11.3) 底 4.8 高 3.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁端部は直立気味。外底にゴザ状の細かな圧痕。内底に強い指頭のナデ。薄手。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物の多い砂粒を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR7/6。内外面・断面に黄色のムラあり。
53 小皿	口 11.3 底 4.9 高 3.9	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は強い。切離しがやや斜めになったため、底部歪む。内底にやや強い指頭のナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石等のまじる細砂を含む。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/6。一様。
54 小皿	口(12.0) 底 5.8 高 2.8	口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱く、外面では不明瞭。外底はゴザ状の圧痕あり。内底に一方方向で強い指頭のナデあり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや軟調。③浅黄橙10YR8/4。④外底に二次火熱を受け黒色味をおびる。外底の摩滅すすむ。
55 小皿	口 12.4 底 5.6 高 3.2	ほぼ完形	52に近い。口縁上端の屈曲強く、横ナデも強い。52に比べやや厚手。器形のみ歪みも大きい。	①素地やや粗くザラザラ。チャート質の砂粒を含み夾雑物多い。②酸化焰か、やや硬調。③52に同じ。
56 小皿	口(12.0) 底(6.3) 高 2.8	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強く細かい。口縁端部やや平坦で外傾する。外底に幅広の板状圧痕。内底は指頭の強いナデ。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒が多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は赤色味をおびる。
57 小皿	口(11.7) 底(5.6) 高 3.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	39にほぼ同巧。ロクロ痕やや強い。	①②③39にほぼ同じ。外底も色ムラなく、ほぼ一様。
58 高台付 小皿	口(10.0) 底(6.0) 高 2.2	$\frac{1}{2}$ 個体	左回転ロクロ→回糸→回転利用の丁寧な高台取付。口縁は大きく外反する。内底は指頭の鋭いナデあり。	①素地緻密。金雲母の目立つ細砂含む。②中性焰か、やや硬調。③黄灰2.5Y6/2。④口縁上端2カ所にスス附着。
59 小皿	口(10.2) 底(5.2) 高 2.7	上層 $\frac{1}{2}$ 個体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で強く細かい。口縁端部はやや平坦。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物多く、輝石まじりの砂粒を含む。②中性焰か、軟調。③浅黄橙10YR8/4。④口縁部は割口を含め、燈芯痕状のスス附着。
60 皿 (陶器)	台 7.4	上層埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	削り出し高台だが、高台の形状は一様でない。外底を除く全面に長石釉を施す。志野釉に近いが買入は少ない。円錐ピン使用。	①モグサ土。黒色の粗砂含む。③釉は乳白色で、素地の鉄分より褐色の斑を生じている。胎土は黄白色。④瀬戸・美濃系。
61 皿 (陶器)	口(11.7) 台(7.3) 高 2.3	埋土上層 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	高台端部は焼成時に剥がれているが、内底に高台の痕跡なし。外底にリング状のトチン融着。全面に灰釉を施す。	①モグサ土。細礫まじる。③釉調は乳濁した黄緑色で、厚い部分で緑色味強い。④瀬戸・美濃系。

遺物観察表編

62 皿 (陶器)	台(6.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	薄手で歪みややや大きい。体部外面には丁寧な削り。内面に鉄釉を施すが、濃淡が顕著。	①素地普通。黄色味をおびる粗砂や多い。③釉は暗褐色。胎土は淡赤褐色。④製作地不詳。
63 猪口 (磁器)		埋土上層 図示部 $\frac{1}{2}$	染付で外面やや鮮やかに発色しているが、山呉須であろう。白磁釉は薄い。口縁端部平坦。	①緻密だが細砂まじるか。③呉須は藍色で内面はくすんでいる。釉調は白。④伊万里系。
64 土錘	径 2.5~2.3	ほぼ完形	外面、製作痕は不明瞭。孔は断面形状ややいびつ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含み、ザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙5YR6/4。黄色味の強いムラあり。
65 火鉢		埋土 脚破片	底径40cm程の大型品と思われるが、底部は薄手である。外面より、内面・側面の方が平滑に仕上げている。	①素地普通。細砂の混入多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。外面黒斑あり。断面一部黒色味強い。
66 内耳	口(44.2) 底(40.0) 高 5.8	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁は内側に折り返し、上端は丸い。底部外端と体部下端に鋭い削り。内面丁寧な横ナデ状の擦痕。	①素地普通。輝石・金雲母まじりの細砂・赤褐色鉱物含む。②中性焰か、やや軟調。③口縁外面は灰褐5YR4/2。外底と内面はにぶい黄橙10YR6/4。
67 内耳	口(38.6) 底(36.0) 高 5.5		口縁上端は平坦で内傾し内側にやや尖っている。外面口縁下端に細かな指頭圧痕による凹みが二段になって巡る。内面口縁のナデは工具使用で鋭い。	①素地やや緻密。輝石の多い細砂を含む。②中性焰、普通。③外面口縁は黒色、底部はにぶい橙7.5YR6/4。内面はにぶい黄橙10YR6/4。
68 内耳	口(40.0) 底(32.6) 高 6.7	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦で内傾気味。口縁全体に布状具の丁寧なナデあり、外底にやや粗い削り。内面口縁のナデは丁寧で弱い段ができる。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの細砂を多く含む。②酸化焰、普通。③口縁外面は黒色、外底は橙7.5YR6/6。内面はにぶい黄橙10YR6/4。④口縁外面にスス付着。内底摩滅する。
69 内耳	口(41.6) 底(35.0) 高 5.7	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁のナデはやや雑で、外面下半に無調整部分あり。口縁内面のナデやや強く、工具痕残る。内耳は小さく傾いて取付けられる。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③外面はにぶい黄橙10YR7/4で黒色味をおびる。内面は灰黄2.5Y7/2。
70 内耳	口(38.0) 底(32.0) 高 5.9		口縁上端は丸く内傾気味。内耳は小さく断面は丸に近い。傾いて取付けられる。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒を含むが、夾雑物は少ない。石英散見。②中性焰、軟調。③口縁外面は黒色、外底はにぶい橙5YR7/4。内面はにぶい黄2.5Y6/3。
71 内耳	口(33.4) 底(32.4) 高 6.0		口縁上端は平坦で中央に弱い凹みがある。外面口縁は丁寧な布状具の擦痕が巡り、上半に強い接合痕あり。内面口縁上半にナデによる凹み巡る。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③口縁は黒色、外底と内面はにぶい橙7.5YR7/4。④口縁上端に亀裂生ずる。
72 内耳	口(39.0) 底(33.6) 高 5.9	$\frac{1}{2}$ 個体	口縁上端は平坦で弱く内傾する。外面口縁上半のナデやや粗く、細かな指頭圧痕の凹み巡る。内底に強いナデの跡あり。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒が多い。②中性焰、軟調。③外面は黄褐10YR5/6、内面は灰黄2.5Y7/2で、内外面とも口縁は黒色味をおびる。④内耳右側上部にやや強いスレの跡あり。
73 内耳	口(43.0) 底(39.0) 高 5.9	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦で内側に尖っている。外面口縁下半に指頭圧痕残る。内面口縁のナデ強い。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒が多い。②中性焰、普通。③外面と断面は黒色味をおび、外底と内底はにぶい黄橙10YR6/4。
74 内耳	口 36.6 底 31.0 高 5.5	ほぼ完形	口縁上端は平坦で内側に僅かに尖り、内傾気味。口縁内面中位の段はやや強い。内耳の中央に強い指頭圧痕あり。口縁歪む。底部の反りきつい。	①素地普通。パミスの多い細砂含む。②中性焰、やや軟調。③黄灰2.5Y5/1。内面は彩度高い。④口縁外面にスス付着。

7 溝出土遺物

75 内耳	口 28.6~27.0 底 18.4 高 14.5	体部一部と底部 中央を欠く	耳は2個で小さく傾く。口縁は内湾気味で上端は平坦。口縁外面のナデやや粗い。体部内面は接合痕が残り、布状具の擦痕あり。口縁の歪みや大きい。	①素地やや緻密。パミス目立ち、金雲母まじりの砂粒を含む。②中性焰、やや軟調。③外底はにぶい褐7.5YR5/4。内面はオリーブ黒5Y3/2。④外底を除く外面全体にスス付着。外面体部下端の剥落著しい。
76 内耳	口(36.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁端部は平坦で内傾する。口縁のナデは内外面とも丁寧。口縁外端は弱く突き出し、直下に弱い沈線が巡る。内耳は小さく、耳下の凹みも弱い。	①素地やや緻密。金雲母まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③灰黄2.5Y6/2。内面明度低い。④胴部内外面にスス付着。
77 内耳	口(33.6) 底(24.2) 高 17.3	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は弱く凹む。内面の段はやや強い。外面体部下半と底部縁部に鋭い削り。体部内面はやや強い指頭による斜位のナデ。補修孔あり。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。黒色味の強いムラ広い。
78 内耳	口(36.0)	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦で、外方へ強く突出する。口縁外面のナデ丁寧。内面は丁寧な布状具の擦痕あり。内耳は小さく断面は丸に近い。	①素地緻密。金雲母・パミスまじりの細砂含む。②還元焰か、やや硬調。③外面は灰黄2.5Y6/2。内面は灰5Y6/1。④外面にスス付着あり。
79 内耳	口 33.0	図示部 $\frac{1}{2}$	口縁端部は平坦。口縁のナデはやや粗い。内外面とも布状具の擦痕あり。内耳は弱く傾いて取り付けられる。	①素地普通。赤褐色鉱物・金雲母・輝石まじりの砂粒含む。②中性焰、やや軟調。③外面は黒褐10YR3/1。内面はにぶい黄褐10YR5/4。④外面胴部にスス付着。
80 片口	口 (28.0)	片口部破片	口縁上端は幅広い凹みが巡り、内側に突出する。片口部は内側より指頭の強い押圧。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの細砂やや多い。②還元焰、硬調。③灰黄2.5Y6/2。口縁部・内面・断面は灰10Y4/1。
81 石白 (上白)	芯穴径(3.7)	図示部 $\frac{1}{2}$	茶白型の上白。芯穴には矢の痕のような縦の深い刻みがある。目は磨面の縁辺のみに残存し、間隔2.2~2.0cm。	①粗粒安山岩。石質は細かい。③やや黒色味をおびる。
82 茶白 (下白)		図示部小片	側面上部にははぎりをつけるが、欠損。茶白型の白と思われる。石質は粉挽き白より細かいが、茶白にしてはやや粗い。	①粗粒安山岩。
83 石白 (上白)		図示部小片	径26cmほどの小型品か。ふくみは小さい。磨面やや不整。目は間隔1.7cm。	①粗粒安山岩。③ややピンク色味をおびる。
84 石白 (上白)	上縁上端幅 3.4 上縁高 1.9	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁部の極めて低い、特異な器形。上端は平坦である。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すすけている部分多い。
85 石白 (上白)	径(33.0) 上縁上幅 4.0 上縁高 4.7	図示部小片	上縁部が高く、上端は平坦。やや丁寧な作りである。小片からの復元で径不安。	①粗粒安山岩。③白色味強い。
86 石白 (上白)	上縁上端幅 2.8 上縁高 3.8	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁部はやや尖り気味で、端部は内傾している。補助孔の痕跡が2カ所で観察できる。	①粗粒安山岩。
87 石白 (下白)	径(30.4)	$\frac{1}{2}$ 個体	磨面薄く、ふくみや大きい。目は5分画か。溝間隔は2.4~1.7cmと不規則。幅1~2mm。	①粗粒安山岩。ややピンク色味をおびている。④芯穴推定下径3.5cm。上側はさらに細い。
88 石白 (下白)	径(30.0)	西側埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	破損後、磨面にタガネを入れている。転用しようとしたと考えられる。調整も丁寧である。	①粗粒安山岩。石質は比較的細かい。

遺物観察表編

89	石臼 (下臼)	図示部 $\frac{1}{2}$	高さ5.6~4.2cmと片減り著しい。溝は確認できない。	①粗粒安山岩。石質は比較的細かい。
90	石臼 (下臼)	図示部 $\frac{1}{2}$	溝間隔2.4cmの粗い目が、僅かに観察できる。細かな剝落多い。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④破損後に火熱を受けている。
91	石鉢	図示部 $\frac{1}{2}$	茶臼型挽き臼のはんぎり部に類似している。粗い造りで平滑さ欠く。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④破損前に火熱を受けた可能性あり。
92	口(27.4) 底(18.0) 石鉢	図示部 $\frac{1}{2}$	外面はハツリの痕跡と思われる凹凸あり。上面・内面やや平滑。	①粗粒安山岩。④外面に破損前に火熱を受けた痕跡あり。底面やや摩滅している。
93	口(30.8) 石鉢	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	小破片からの復元で、径・傾きとも不安。表面はやや平滑に仕上げたてである。	①粗粒安山岩。気泡は少ない。④表面に摩滅の痕跡等、認められない。
94	石鉢	図示部小片	内面やや平滑。外面は細かな凹凸多いが、整形痕は認められない。	①粗粒安山岩。大粒の混入物は含まない。③黒色味強い。
95	厚 1.0 板碑	中右部剝片	主尊は阿弥陀三尊種子か。脇侍のサの一部と蓮座のみ残る。葉研彫り。蓮座の下に光明・真吾の一部残る。枠線あり。碑面の剝離片。	①緑色片岩。大粒の長石を多く含む。④碑面はやや摩滅する。
96	厚 1.0 板碑	主尊部破片	主尊は阿弥陀三尊種子。脇侍のサ(観音)のみ残る。脇侍に蓮座なし。碑面の剝離片。	①緑色片岩。混入物は少なく、小粒の長石を若干含むのみ。
97	厚 1.5 板碑	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーがアク点間を抜ける書体で葉研彫り。蓮座は欠損。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む、黒色の雲母を少量含む。
98	厚 2.6 板碑	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子か。キリクの一部と蓮座の一部を残すのみ。葉研彫り。蓮座の規模より大型板碑と思われる。	①緑色片岩。細~大粒の長石、雲母を含む。
99	厚 1.5 板碑	左上半部破片	主尊は欠損のため不明。蓮座の一部僅かに残る。線刻の二条線、枠線あり。	①緑色片岩。細粒の長石・石英・雲母多く含む。④碑面はやや摩滅する。
100	孔径 6.3 屋根厚11.6×11.3 屋根幅11.3×10.8 幅 21.4 厚 23.2×20.8 高 13.1 軒高 6.4 五輪塔 (火輪)	完形	天井部は内側へ弱く傾斜している。柄穴は大きくて平坦。底面も平坦。加工痕と思われる細かな凹凸が柄穴内や側面に残る。	①粗粒安山岩。白色味をおびる。④柄穴の底部中央と、側面の上半が摩滅している。
101	重 128.6g 砥石	埋土	短軸断面方形になるとと思われる。正面のみ使用顕著で、側面と小口面には調整の工具痕残る。裏面やや不整。	①砥沢石。④正面は縦位主体の使用痕あり。裏面は強い横位の擦痕があり、面もやや波打つ。二次火熱を全体に受ける。
102	端厚 2.9×1.8 重 69.5g 砥石	半欠品	長軸・短軸とも整った長方形で、小口を含む5面使用。各使用面は平坦。割口は無使用。	①頁岩か。砥石としては硬い。④表面は細かな擦痕多い。両側面は深く長い擦痕が全面を覆い、表面の平滑さ欠く。
103	中厚 4.7×2.8 重 89.2g 砥石	両端を欠く	短軸断面台形、主な使用面は正面のみで僅かに凹面となる。側面に調整痕残り、裏面は原石面。	①砥沢石。やや大粒の混入物多い。④正面は縦位の使用痕。側面の工具痕はやや幅広く最大11mm。二次火熱受け、正面と割口以外は黒色。

7 溝出土遺物

104 砥石	長 8.9 中厚 3.8×2.8 端厚 2.2×1.0 重 110.8g	埋土 ほぼ完形	長軸断面菱形の手持ち砥で全面使用だが、両側面の使用痕は弱く不整。正・背面は中央から両端へゆるく凹む。	①砥沢石。鉄分は少ない。④擦痕は短く方向も不定。
105 砥石	長 10.8 中厚 5.9×3.4 重 168.5g	ほぼ完形	屈曲の著しい変形の砥石。主な使用面は5面で、小口は無使用。各面は研ぎ減り強い凹面になる。	①砥沢石。混入物少ない。④使用痕は方向不定。二次火熱を受け、正面以外は黒色味をおびる。裏面の鋭い傷は被熱後のもの。
106 砥石 (荒砥)	中厚 5.4×4.7 重 442.3g	埋土 半欠品	断面六角形の6面使用。各面は平坦、もしくは弱い凹面になる。小口及び割口は無使用。	①牛伏砂岩。④平坦面では長軸方向、やや不整面では斜位に、擦痕は明瞭に観察できる。正面脇に幅太の溝状の凹みあり。
107 砥石	中厚 4.0×3.0 重 174.9g	埋土 両端欠く	大きくよじれた形で、短軸断面長方形の4面使用。割口に擦痕は観察できない。	①砥沢石。鉄分少ない。③黒色味強い。④裏面のみ縦位の息長く鋭い擦痕が明瞭だが、他の面は方向不定。
108 砥石 (荒砥)	端厚10.8×7.9 重 567.2g	半欠品	長軸断面糸巻き状の4面使用。各使用面は凹面になる。小口面不整だが、細かな使用痕あり。割口は無使用。	①粗粒安山岩。混入物やや粗い。④裏面は横位、他は縦位主体のやや強い擦痕が残る。
109 砥石 (荒砥)	中厚 8.0×7.0 重 624.4g	埋土	短軸断面は八角形に近く、小口側を除いて全面使用。平坦面と不整部分がある。使用面は平坦。	①粗粒安山岩。④細かな擦痕は観察できない。不整面に斜位の鋭く深い傷が並ぶ。
110 石鉢	口(8.0) 底(5.6) 高 4.1	埋土 多个体	平面は楕円形になるものと思われる。口縁は波打ち、高さは一様でない。	①粗粒安山岩。やや多孔質で軽量。
111 鞆羽口	径(12.0)	埋土 先端部小片	棒付成形。先端部に溶融物、炭化物が付着。	①粗砂を多く含む。②二次還元。③灰褐色。

V区 5号溝(第558～560図 PL.109)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 7.5～7.2 底 4.2～3.8 高 2.1	口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや強い。内底は平坦。口縁小さく歪む。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂を含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5 YR7/4。一様。
2 小皿	口 7.7～7.5 底 4.2～3.9 高 2.0	ほぼ完形	1にほぼ同巧。	①②1に同じ。③橙5YR6/6。一様。
3 小皿	口(10.6) 底 5.1 高 2.4	埋土 口縁多欠く	左回転ロクロか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸。切離し痕は殆ど残らない。外底は平滑で板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭のナデ。	①素地普通。パミス・輝石・赤褐色鉱物を含む。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/8。内面黒色味をおびる。

遺物観察表編

4 小皿	口(11.6) 底 6.0 高 2.8	埋土 2片 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面上半でもやや強い。	①素地普通。輝石やや多く、パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
5 小皿	底 5.6	埋土 図示部ほぼ完存	左回転ロクロ→回糸、切離し痕は不明瞭。ロクロ痕やや強い。外底にゴザ状の圧痕残る。内底に強い指頭のナデ。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③橙5YR6/6。断面まで一様。④口縁割口の一カ所に燈芯痕状のスス付着。
6 小皿	口(11.4) 底 6.3 高 2.8	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強く細かい。外底に幅狭な板状圧痕が僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。口縁端部やや平坦。	①②③④にほぼ同じ。混入物やや多い。
7 小皿	口(11.0) 底(6.0) 高 2.8	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	6にほぼ同巧。外底の板状圧痕は不明瞭。	①②③④に同じ。
8 小皿	口(10.4) 底(5.9) 高 2.6	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強く細かい。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焰か、硬調。③橙7.5YR7/6。断面まで一様。
9 小皿	口(11.7) 底 4.9 高 3.7	完形	左回転ロクロ→回糸、切離し痕は不明瞭。内面のロクロ痕やや強い。外底に細かなゴザ状の圧痕。内底に強い指頭のナデ。口縁に歪みあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石の多い細砂を含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐5YR5/6。内外面とも黄色のムラあり。内底は明度低い。
10 小皿	口 12.2~12.0 底 5.4 高 3.7	完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底全面にきわめて強い幅狭の板状圧痕。内底にやや強い指頭のナデ。口縁端部は直立気味。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。外面に黄色のムラ。内面は明度低く、底部は黒色味をおびる。
11 小皿	口(11.4) 底(5.0) 高 3.0	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	10にほぼ同巧。切離し痕不明瞭。外底にゴザ状の細かい圧痕が僅かに残る。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物含む。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/8。ほぼ一様。
12 小皿	口(12.2) 底 5.4 高 3.3	埋土 2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	10にほぼ同巧。口縁外端の屈曲やや強い。	①②③④に同じ。④内底やや荒れる。薄いスス状の付着物あり。
13 小皿	底 6.0	埋土 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸、切離し痕は不明瞭。ロクロ痕やや強い。外底に細かな板状圧痕。内底に指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの粗砂やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一様。
14 小皿	底 5.2~4.9	埋土 図示部ほぼ完存	左回転ロクロか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸、切離し痕は殆ど残らない。外底にゴザ状の細かな圧痕。内底に強い指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石・パミスを含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙5YR6/6。一部に黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
15 小皿	口(12.0) 底 6.2 高 2.8	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	6に同巧。外底の圧痕やや強い。	①②③④に同じ。
16 小皿	口(12.6) 底(7.4) 高 3.0	埋土 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕やや強い。	①素地やや緻密。輝石のやや多い砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一様。
17 香炉 (陶器)	台(3.4)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	高台はやや丸く、底部極めて薄い。外面体部に長石釉を施し、他は無釉。	①モグサ土に近い。黄色味をおびる砂粒を含む。②釉は透明で、やや灰色味をおびる。胎土は黄色味をおびた白色。④瀬戸・美濃系。

7 溝出土遺物

18 碗 (青磁)	台(4.6)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	全面に施釉後、接地部を釉ハギ。青磁釉はやや薄く、やや粗い貫入が見られる。	①緻密。僅かに気泡を含む。③釉は淡い青緑色。胎土は灰白色で、高台部分はセビア色。④龍泉窯系。
19 天目茶碗 (陶器)	台 4.3	埋土 2片 底部完存 口縁 下半 $\frac{1}{2}$	外底の凹み小さい。外面は鉄釉で素地部分を全面着色ののち、施釉する。	①モグサ土。混入物少ない。③釉は厚い部分で黒色、薄い部分で褐色を呈す。外面無釉部分は暗褐色。④瀬戸・美濃系。
20 播鉢	底(15.6)	図示部 $\frac{1}{2}$	外底及び体部下端は型膚状。卸し目は1.8cmに6本で、断面U字状で深い。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②酸化焰、普通。③明赤褐5YR5/8。内底は彩度低い。外面と断面に黒色のムラ。
21 播鉢	底(15.2)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	内面摩滅し不明瞭だが、卸し目は断面U字状で、斜格子状か。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/8。断面は黒色。内外面とも黒色のムラあり。
22 火鉢か		口縁小破片	口縁は外方へ強く折り返した後、指頭による強い押圧。上端に幅太の凹み巡る。内面は布状具の丁寧なナデの後、深い刺突あり。	①素地緻密。輝石まじりの細砂含む。②中性焰、普通。③灰黄2.5Y6/2。内面彩度低い。断面中央黒色。
23 内耳	口(35.6) 底(31.8) 高 5.8	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦で内側へ僅かに尖る。外面のナデやや粗く、口縁上半に接合痕を残し、中位に指頭圧痕あり。内面口縁に工具使用の強いナデ。	①素地緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③口縁は内外面とも黒色。外底はにぶい褐7.5YR5/4。内底はにぶい黄橙10YR7/3。④内耳上方にスレあり。
24 内耳	口(39.2) 底(34.0) 高(6.3)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁上端は平坦。外面口縁下半に強い圧痕あり、下端に鋭い削りあり。やや厚手。	①素地やや緻密。パミスの目立つ細砂を含む。②中性焰、普通。③口縁は内外面とも黒色。外底はにぶい赤褐5YR4/3。④内耳に弱いスレあり。
25 内耳	口 32.0 底 23.3	口縁端部 $\frac{1}{2}$ と底部中央を欠く	3耳で2耳を欠いている。口縁上端は平坦で内傾する。外面口縁下端に指頭圧痕による凹凸がある。内面体部下半に工具による強いナデ。	①素地やや緻密。輝石の多い細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。内面体部黒色。
26 内耳	口 33.0 底 23.0	体部 $\frac{1}{2}$ と底部中央を欠く。	3耳で1耳を欠いている。口縁は内湾気味で上端は平坦で内側へ僅かに尖っている。外面体部下端にへら状工具痕残る。内面口縁下端の段明瞭。	①素地やや緻密。パミスまじりの細砂を少量含むが、他の混入物まれて良好。②中性焰、軟調。③内面はにぶい黄橙10YR7/3。④外面全面スス付着し、体部下端では特に厚い。
27 輪羽口	径(10.3)		窯壁の一部が溶着し、上端はスラグ状。	①素地粗い。中礫等混入物極めて多く、粗悪。②酸化焰。③にぶい黄橙10YR6/3。
28 輪羽口	径 8.5 孔径 3.0		棒付成形。先端部に灰、溶融物付着。	①粗砂を多く含む。②二次還元。③灰～灰褐色。
29 輪羽口		図示部小片	内面に方向不定のナデの痕あり。外面に縦位の鋭い沈線。上端のみガラス化している。	①素地粗く軽量。細かなササ状雑物多い。パミス・赤褐色鉱物・土粒等含む。②酸化焰。③にぶい黄橙10YR7/3。内面赤色味おびる。
30 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.4 上縁高 2.1 供給口径 4.1 芯穴口径(5.4) 挽き手穴外径4.4～3.9 挽き手穴深 5.1	$\frac{1}{2}$ 個体	切線主溝型。目はやや不規則だが、6分画、副溝数3本。溝間隔2.4～1.9cm。溝は幅3～2mm、深さ1mm。ふくみ極めて大きい。片減りしている。挽き手穴は奥へ向かって尖っている。	①粗粒安山岩。
31 石臼 (上臼)	高 13.4～11.9 供給口径(3.9) 上縁高 3.7	図示部 $\frac{1}{2}$	上縁部外面の丸味が強い。目は残存しない。やや片減りする。	①粗粒安山岩。④上縁部や供給口内面がすすけている。

遺物観察表編

32 石臼 (上臼)	径(28.0) 上縁下端幅 3.8 高 9.8	1/4個体	芯穴一部残存。上縁は殆ど欠損。石質やや粗い。磨面に溝は確認されない。	①粗粒安山岩。
33 石臼 (上臼)	供給口上径(4.5) 供給口下径 3.2 芯穴径(4.7)	1/4個体	芯穴・供給口・ものくぼりの一部が残存。目は切線主溝。上面中央に凹み、上縁部に接して皿底状の凹みあり。	①牛伏砂岩。④割口に火熱受ける。溝間隔2.6cm、幅6mm、深さ2mm。
34 石臼 (下臼)		1/4個体	ふくみはやや大きいが、丸味がない。磨面やや不整。目は不明瞭だが、残存部分で溝間隔1.8cm。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④火熱を受けているようだ。
35 石臼 (下臼)		図示部1/4	磨面やや不整で目は不明。ふくみはごく小さい。	①粗粒安山岩。やや多孔質。石質やや粗い。
36 石鉢	底(19.8) 高 17.1	埋土2片 図示部1/4	外底も含め、表面はやや丁寧に仕上げられている。	①粗粒安山岩。やや大粒の鉱物目立つ。④破損後に二次火熱を受けているようだ。
37 石鉢	口(20.6) 底(16.2) 高 17.7	口縁1/4 底部1/4	外底は平坦。形状より水輪の可能性もある。内面やや平滑に仕上げている。	①軽石(二ツ岳)。
38 板碑	厚 1.9	下部破片	「主□」の文字のみ残る。	①緑色片岩。微粒の長石・雲母を多く含む。
39 砥石	長 11.4 中厚 3.8×2.9 端厚 2.3×1.0 重 111.8g	埋土 ほぼ完形	長軸断面菱形。下面は不明だが、両小口を含めた全面使用と思われる。使用面は凹面になる。	①砥沢石。鉄分少ない。④火熱を受け、裏面は大きく剥がれる。擦痕不明瞭。
40 土錘	長 5.3 径 2.8	ほぼ完形	端部に指頭痕僅かに残る。中央にはやや強い板状の圧痕あり。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物を含む。②中性焰、普通。③浅黄橙10YR8/3。赤色・灰色のムラあり。

8 方形竪穴遺構出土遺物

V区 1号竪穴 (第567図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉄絵皿 (陶器)	台(6.2)	埋土 1/6個体	鉄絵は不明瞭。同巧の他の皿と異なり口縁部に圈線は見られない。長石釉を全面に施す。内面にブクを生じる。	①やや緻密。気泡が僅かにまじる。③鉄絵は黒色味をおび、長石釉はやや灰色味をおびている。④瀬戸・美濃系。
2 小皿	口(12.0) 底(4.9) 高 2.5	周辺2片 1/6個体	左回転ロクロ→回糸。外底にやや細かな板目残るが、内底のナデは不明瞭。薄手で、口縁端部やや平坦。	①素地普通。砂粒以外の夾雑物少ない。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙2.5YR7/4でほぼ一様。
3 播鉢	口(26.8) 底(11.5) 高 12.8	上半1/2下半1/2他に同一個体の口縁1/6あり	幅1.8cmに7本の卸し目を2方向から弧状に引いて、斜格子を作っている。口縁端部は内側に鋭く尖り、片口のあるものと思われる。	①素地やや緻密。混入物少ない。②中性焰か、やや硬調。③浅黄2.5Y7/3。灰黒色味をおびる部分広い。断面中央は黒色。④使用痕は明瞭でない。

V区 2号竪穴 (第568図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.2) 底(5.3) 高 3.1	埋土3片 図示部1/6	右回転ロクロ→回糸。幅広の板目があるものと思われる。外面でロクロ痕やや強い。口縁端部丸い。	①素地普通。土粒・金雲母細片等含む。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。

VI区 1号竪穴 (第570図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉄絵皿 (陶器)	口 11.2 台 6.2 高 2.6	埋土2片 口縁1/6 底部1/6	鉄絵は見込に五弁花、体部に唐草か。口縁部の圈線は幅太。全面に長石釉を施す。内面に円錐ピンの痕跡あり。	①やや緻密。③鉄絵は暗褐色・長石釉はやや灰色味をおびる発色。細かな貫入見られる。④瀬戸・美濃系。

9 井戸跡出土遺物

I区 2号井戸 (第576図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.4)	下層埋土3片 図示部✕	外面体部の削り丁寧だが、削り残し広く、型膚状の無調整部分あり。内面ナデも丁寧で、布状具の擦痕残る。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3でほぼ一様。

IV区 4号井戸 (第585図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石鉢		埋土 図示部片	湾曲の度合と断面の厚さより、径は30cmほどの大型品と思われる。内面はやや平滑。	①粗粒安山岩。重量。④破損後に火熱を受け、内面中心に広くすすけている。

IV区 11号井戸 (第588図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径(36.1) 高(15.1) 上縁部上幅 4.0 上縁高 4.4 挽き手穴一辺 2.6 挽き手穴深 6.7 供給口上径 5.8 芯穴径4.4 深さ3.2		上縁部は高さに比して幅狭。挽き手穴は供給口の側方。補助孔の痕跡あり。磨面やや不整。目は切線主溝。6分画副溝10本で溝間隔1.8cm前後。上面中央に径5mm、深さ7mmの凹みあり。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
2 石臼 (上臼)	径(32.6) 高(8.0)		周縁厚さ6.4~7.7cmと片べりが著しい。溝間隔は1.8~2.1cm、幅は2mmで芯穴は一部遺存。目はあまり明瞭でない。	①粗粒安山岩。

IV区 12号井戸 (第589図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 3.2	中左部破片	主尊は欠損し不明。紀年銘は「弘安七(1284年) 甲申十一月日」、特長的な書体。下部に枠線あり、大型板碑。	①緑色片岩。微粒の長石を含む。④碑面の摩滅は少ない。裏面に数条のノミ痕が残る。ノミ巾は、1.2~1.3cm。

IV区 14号井戸 (第591図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 五輪塔 (地輪)	幅 21.2 厚 22.7 高 17.8	2隅を欠く	小さな凹みのある面を上面とした。上面と底面は隅を面取り状に落とし、丸味をつけている。側面は平坦。	①粗粒安山岩。白色味おびる。黒色鉱物の混入やや目立つ。④破損前に火熱を受け、上面と側面は黒色味をおびる。

IV区 18号井戸 (第593図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 白磁碗	台 4.4	埋土 図示部ほぼ完存	白磁の底部片で器肉はきわめて薄く、2.5mmの箇所あり。高台・内底に、部分的に露胎あり。内面に輪状刻文。	①胎土は緻密で灰白色。③釉調はやや青白磁釉がかかる。④13～14世紀代の福建周辺の産か。
2 石臼 (上臼)	径(29.3) 高 10.3		挽き手穴の断面形は円錐形で、深さ5.5cm。目は6分画であるが、副溝は10～11本と多い。供給口はあるが、ものくぼりは認められない。芯穴は貫通している。	①粗粒安山岩。

IV区 19号井戸 (第594図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径(31.0) 供給口径 3.9	底面直上 図示部欠	上縁部欠失。供給口と、ものくぼりの一部残存。目は不明瞭だが、溝間隔が1.6cmほどか。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受けており、割口がすすけている。

V区 1号井戸 (第596図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底(6.0)	埋土3片 口縁欠 底部欠	左回転クロー→回糸無調整。クロー痕は内面でやや強く、コテ状工具使用の可能性。内底平坦。薄手。	①素地普通。黒色砂粒多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。断面黒色味強い。④全体に摩滅すすむ。
2 内耳	口(36.4) 底(32.0) 高 5.6	埋土 図示部欠	口縁上端は小さく凹む。耳は幅広で、がっしりしている。口縁下半にやや強い指頭圧痕あり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・白色砂粒等を少量含む。②中性焰、普通。③黒褐7.5YR3/1。底部は灰褐色。④口縁外面にスス付着。
3 板碑	幅 15.4 厚 1.9	上部破片	主尊は阿弥陀種子、浅い薬研彫り。二条線あり、やや右上がりです水平にあらず。小型板碑。	①緑色片岩。微粒の長石を多く含む。④碑面はやや摩滅し、裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は1.1cm。
4 砥石	中厚 3.3×3.0 端厚 2.4×0.8 重 107.9g	埋土 一端を欠く	長軸断面菱形で主な使用面は正面と裏面。両側面は調整の工具痕を明瞭に残している。割口は無使用。	①砥沢石。混入物やや多い。鉄分少ない。④使用痕は不明瞭。主な使用面は凹面になる。裏面に深い傷あり。

V区 2号井戸 (第597図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 6.9 底 3.5 高 2.0	埋土 ほぼ完形	左回転クロー→回糸無調整、口縁端部は上方へ僅かに尖る。内底に指頭による幅広の弱いナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物含む砂粒やや多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。ほぼ一様。④口縁端部全体に厚く、燈芯痕状のスス付着。
2 青磁碗		埋土上層 体部小片	外面に劃花文あり。口縁端部は僅かに欠損しているが、丸く返るか。器肉は厚い。釉は一般的。	①胎土は緻密で白色。③釉調は若葉色。④14世紀代の龍泉窯。

遺物観察表編

3 板碑	厚 1.3	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークはイーが アク点間を抜ける書体。葉研彫り。碑 面の剝離片。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。
---------	-------	-------	--------------------------------------------------	-------------------

V区 3号井戸 (第599図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.6) 底 6.8	埋土 口縁上半 $\frac{1}{2}$ 口 縁下半～底部 $\frac{3}{4}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。外底に幅広の板状圧痕が僅かに 残る。内底に弱い指頭のナデがあるが平 坦。やや薄手。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒 やや多い。②酸化焰か、普通。③にぶい赤褐5YR4/ 4。外面黒色味をおびるムラ広い。
2 砥石	端厚 3.0×0.8 重 36.4g	埋土 半欠品	薄い板状で、小口を含む5面使用。断 面糸巻き状の可能性あり。主な使用面 は正面と裏面。割口は無使用。	①砥沢石。混入物・鉄分ともやや多い。④使用痕は 横位がやや目立つ。強い擦痕がない。

V区 4号井戸 (第600図 PL.110・111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (陶器)	口(14.4) 台(7.8) 高 3.2	底面埋土 口縁 $\frac{3}{4}$ 底部 $\frac{1}{2}$	全体に厚手だが、高台は細い。ロクロ 痕は外面で強い。志野軸は厚く全面に かかり、粗い貫入が入る。内底に円錐 ピンの痕あり。	①モグサ土。混入物少ない。③軸は乳白色。貫入は 赤色味が強い。素地は黄色味をおびる。④瀬戸・美 濃系。
2 小皿	口(10.0) 底 4.2 高 3.3	埋土 口縁上半 $\frac{3}{4}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。外底に幅 広の板状圧痕。内面はロクロ痕細かく 強い。内底の指頭のナデも強い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰 か、やや硬調。③灰白7.5Y8/1。外底にやや黒色味が 強い。
3 五輪塔 (火輪)		図示部破片	軒反りの少ない、屋根の高いものと思 われる。稜は鋭く整美であるが、平面 形のコーナー部は直角にならない。	①軽石(二ツ岳)。④割口・軒面・底面が研ぎ減って おり、破損後は砥石に転用している。

V区 5号井戸 (第601図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 砥石	中厚 3.2×1.6 重 101.4g	埋土 半欠品	長軸断面三角形の半欠品と思われる。 小口側も割口。一側面と割口を除く3 面使用。	①砥沢石。鉄分やや多い。④使用後は横位・斜位が 主体で全体に不明瞭。無使用の側面には調整痕はな いが、強い凹凸見られる。

V区 6号井戸 (第602図 PL.111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.4) 底 5.2 高 3.0	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 内面でやや強い。内底に弱い指頭のナ デ。外底に板状圧痕僅かに残る。	①素地やや粗くザラザラ。輝石・パミスまじりの砂 粒多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR6/ 4。内面全面灰色味強く、外面も灰色味おびるムラあ り。

V区 7号井戸 (第604図 PL.111)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(33.0)	埋土 口縁部 体部欠	口縁端部僅かに凹む。外面削りは弱いがやや鋭い。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/4。外面に細かなムラあり。
2 小皿	口 11.0 底 4.8 高 3.6	埋土 完形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内面で強い。内底にやや強い指頭のナデ。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、硬調。③橙5YR7/6。赤色味のやや強いムラあり。

V区 13号井戸 (第607図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(30.6) 底(16.8)	埋土 図示部欠	口縁端部は平坦で外傾する。口縁内面の段はやや強い。内面体部は指頭痕状の凹みあり、下端で強くナデつけている。外面削り弱い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②中性焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒色味の強い部分広い。断面中央一部黒色。④外面全面にスス付着する。

V区 14号井戸 (第609・610図 PL.111)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 播鉢 (陶器)	口(29.6)	埋土 図示部欠	右回転ロクロ。ロクロ痕は外側で強く器面の凹凸大きい。卸し目は2.8cmで12本、残存部全面に鉄釉を施す。	①モグサ土。長石やや多い。③断面はやや黄色味をおびる。灰白色。釉は紫色味がかかる褐色で弱いテリあり。④瀬戸・美濃系。
2 播鉢 (陶器)		埋土 図示部欠	右回転ロクロ。卸し目は幅2.5cmに15本。断面U字状で浅い。残存部全面に鉄釉を施す。	①モグサ土。混入物少ない。気泡まじる。③断面明るい灰白色。釉は外面褐色、内面暗灰色で、弱いテリがある。
3 砥石 (荒砥)	中厚 6.1×5.9 重 525.5g	埋土 完形か	短軸断面七角形で両小口を除く全面使用。各使用面はいずれも平坦である。小口は割口。	①粗粒安山岩。④縦位の擦痕が主体となる。ベンガラ付の付着あり、顔料粉砕用の砥石か。ベンガラは小口にも付着している。
4 砥石	中厚 4.5×4.0 端厚 4.2×4.0 重 267.4g	埋土 完形か	短軸断面方形の、片側小口を含む5面使用。使用面はいずれも平坦。他の小口は割口。	①牛伏砂岩。④使用痕は不明瞭だが、長軸方向の擦痕が多いようだ。
5 砥石 (荒砥)	中厚 6.8×4.5 重 260.3g	埋土 完形か	断面はほぼ長方形で両小口を除く4面使用。使用面はいずれも弱い凹面になる。小口は割口。	①粗粒安山岩。軽量である。灰白色の安山岩質鉱物の混入多い。擦痕は不明瞭だが長軸方向が主体である。
6 木器 (鎌)	現存長 31.0 現存幅 10.8 柄取付角 50°	周縁部と柄の過半を欠損	先端部は鉄刃先嵌入のため、主に裏面より削って整形。柄つぼは3.4×8.5cmの長方形に穿ち、ほぼ同大の柄柄を嵌め込む。接着は「にかわ」状。	①証目板を使用。柄は厚い板材から作出。②柄の中心が細るが、使用による手擦れか、腐食かは不明。
7 五輪塔 (空風輪)	空径 15.4~14.7 中径 13.3~12.9 柄径 4.3~3.8 高 27.4	埋土 完形	V字状の粗い掘り込みで空・風部を区切った雑な造りである。いびつ。	①粗粒安山岩。多孔質で大粒の混入鉱物多い。

遺物観察表編

8 五輪塔 (火輪)	孔径 5.7 屋根 10.7~10.1 幅 20.5 厚 20.8 高 14.8	ほぼ完形	軒反りやや強く、高さのある整った形態を呈す。軒部と柄穴部に斜位の細かな工具痕残る。底面も平滑で丁寧に仕上げる。	①粗粒安山岩。白色味をおびる。④柄穴中央はやや摩滅する。
9 五輪塔 (地輪)		図示部破片	上面は残存部分か、割口か判断できない。表面は不整だが、調整痕は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すすけたように黒ずみ、その後さらに破損が加わる。
10 石臼 (上臼)	芯穴径(4.0) 供給口径(4.5) 上端部上幅 3.9	埋土 片個体	武蔵型石臼。芯穴・供給口の一部が残存するが、目は不明。ふくみ大きい。片減りする。	①牛伏砂岩。石質は粗い。
11 茶臼 (下臼)	残存径(33.0) 芯穴上径(2.5) 芯穴下径(4.4)	埋土 図示部片	はんぎり端部欠失。ふくみ小さい。目は掘り直して不明瞭になっているが、8分画、副溝数7~8本、溝間隔8~6mm。底面に工具痕顕著。	①粗粒安山岩。④破損後に、強い火熱を受けている。
12 石臼 (下臼)	径(25.6) 高 14.5 ふくみ 1.2	片個体	溝は摩滅が著しく、本数・分画数は不明。溝は細い。すり合わせ面はやや粗い。割口被熱。	①粗粒安山岩。
13 茶臼 (下臼)	径(32.8)	図示部片	はんぎり部先端は、上方へ反る。磨面残存少なく、目は不明。底面はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや軽量。④破損前に強い火熱を受ける。
14 石臼	径(32.0)	埋土	磨面の摩滅著しく平滑になっている。ふくみは小さい。側面の剥落多い。	①粗粒安山岩。
15 くぼみ石	径 14.7~12.9 厚 7.6	埋土 ほぼ完形	偏平な自然石の一面に2孔が穿たれている。一孔は逆円錐形、一孔は円柱状の形孔を呈している。	①金山石か、デイサイト質溶結凝灰岩。④孔のある反対側の面は火熱を受け、割口を含めてすすけている。

V区 15号井戸 (第611図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(35.8) 底(31.2) 高 4.6	埋土 図示部片	口縁上端は平坦。内耳はねじれて取付けられる。口縁内面の段はやや弱い。	①素地普通。細礫の少量まじる砂粒含む。②中性焰、普通。③灰7.5Y6/1。内底淡黄5Y8/3。④口縁外面上半にススがこびりつく。耳は若干摩滅。
2 石臼 (上臼)	径(28.0) 高 7.8		挽き手穴は隅丸方形で一辺2.5cm。深さは4.3cm。溝は粗く周縁で2.5cm間隔、幅は4mm前後である。上縁高は2.4cm、幅は3.1cm。被熱。左回転。	①粗粒安山岩。

V区 16号井戸 (第612図 PL.111・112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.6) 底 6.1~ 6.4 高 3.1	下層埋土 口縁欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも弱く不明瞭。口縁は波状に小さく歪む。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つパミスまじりの砂粒を含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内外面とも赤色味おびるムラあり。

9 井戸跡出土遺物

2 小皿	口(12.2) 底 5.2 高 3.1	埋土2片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠 底部 $\frac{1}{2}$	左回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕やや弱い。外底全面に板状圧痕強い。内底に指頭のナデあり。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。断面までほぼ一様。
3 小皿	口(11.4) 底 6.8 高 2.8	埋土3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	右回転クロー→回糸無調整。外底に幅の狭い弱い板状圧痕。内底に弱い指頭のナデ。口縁に歪みあり。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。断面までほぼ一様。
4 小皿	口 12.0 底 5.1~5.4 高 3.6	下層埋土5片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	左回転クロー→回糸無調整。口縁端部やや平坦。外底に板状圧痕が僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
5 小皿	口(10.2) 底 5.6 高 2.2	上層埋土5片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	右回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。内底に弱い指頭のナデ。厚手。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒、やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。断面まで一様。
6 小皿	口 10.8 底 7.2 高 2.7	埋土3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	右回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕ごく弱く不明瞭。外底に幅の狭い板状圧痕。内底に強い指頭のナデあり。やや厚手で重量。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや軟調。③赤褐5YR4/6。ほぼ一様。
7 青磁碗		埋土下層 体部片	外面に鎗手蓮弁文あり。器内は厚く、釉は薄い。気泡やや大きい。	①胎土は緻密で灰色。③釉調は暗いオリーブ色。④13世紀代の龍泉窯系。

VI区 1号井戸 (第613図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 砥石	中厚 4.5×1.6 重 93.9g	埋土 両端欠	短軸断面長方形の4面使用。各使用面は平坦もしくは弱い凹面。両割口は無使用。	①砥沢石。④一側面がやや不整で、他はすべて平滑に研ぎ減りしている。擦痕はやや強く、方向は不定。
2 石臼 (下臼)	径(32.0)		周縁厚さ2.9cm。最大厚4.9cm。芯穴が貫通し、ふくみが凸形であることから下臼と考えられるが、非常に薄いため、断面形状が異なること下面調整が丁寧で磨かれていることから、転用の可能性もある。	①粗粒安山岩。④溝間隔は1.1cm前後、幅は2mm程である。

VI区 3号井戸 (第615~616図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.2 底 6.2 高 3.4	中層埋土3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	左回転クロー→回糸無調整。口縁内端に強い横ナデ。外底に幅の狭い板状痕僅かに残る。内底は強い指頭のナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰か、普通。③橙2.5YR6/6。断面までほぼ一様。
2 小皿	口(11.4) 底(5.2) 高 3.3	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	左回転クロー→回糸無調整。口縁端部は内湾気味でやや細る。ロクロ痕内面でやや強い。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。赤色味おびるムラあり。
3 板碑	厚 2.4	上右部破片	薬研彫りのアク点のみ残る。	①緑色片岩。微粒の長石を含む。④碑面はやや摩滅する。

遺物観察表編

4 石鉢		中層埋土	直径20cm程の不整形の平面形状の容器と思われる。上面は平坦だが、内面に粗いノミの痕跡残る。	①軽石(二ツ岳)。④火熱を受け、外面に赤色味をおびる部分あり。
5 石臼 (上臼)			上縁内側の厚さは5.6~5.9cmとやや片べりする。上縁は欠損。石質は細かい。溝は殆ど確認できない。周縁部はよく磨かれている。	①粗粒安山岩。
6 石臼 (下臼)	径(29.4) 高 8.4 ふくみ 1.3	中位	溝は切線主溝型から放射型に変更していると考えられる。変更後の溝間隔は4~6cm。幅5mm、深さ1.5cm。接触部は平滑。	①粗粒安山岩。
7 石臼 (下臼)	径(29.5) 芯穴径(3.2)	中層埋土 瓦个体	芯穴一部残存。中ほどで弱い段ができています。側面の剥落多い。やや片減りしている。	①粗粒安山岩。
8 石臼 (上臼)		中位	挽き手穴の一部と磨面の一部のみ残存。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。

VI区 4号井戸(第618図 PL.112)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (陶器)	口 11.2~11.4 台 6.9 高 2.2	埋土 口縁一部欠く	高台部削り出しはごく僅か。外底の一部を除き、全面に薄い灰釉を施す。内外面に円錐ピンの痕跡残る。	①モグサ土。砂粒を少量含む。③釉調は透明で、濃い部分で灰緑色味をおびる。胎土は白色。④瀬戸・美濃系。口縁端部に燈芯痕状のスス付着。
2 砥石 (荒砥)	端厚 8.2×7.5	下層 半欠品	長軸断面長方形もしくはやや糸巻き状で欠けの部分多い。小口もやや摩滅するが使用によるか整形かは不明。	①粗粒安山岩。乳白色の混入鉱物粒多い。④使用痕殆ど観察できないが、面は平坦。
3 板碑	厚 2.2	上右部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークのイーがアク点間を抜ける書体。粗い葉研彫りで、二条線なし。全体に粗製。	①緑色片岩。微~小粒の長石を含む。④碑面は摩滅する。
4 五輪塔 (火輪)	衾穴径 6.6 屋根幅 9.8 幅 26.7 高 11.7	中層の2片 一端を欠く	平面形状に歪み大きく、衾穴も中心を外れる。衾穴内面にやや鋭い工具痕残る。底面は平坦で細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。大粒の混入物含む。底面は平坦。
5 五輪塔 (地輪)	高 18.6	中層 一隅のみ残存	弱い凹みのある面を上面と推測する。幅狭の工具痕が残る。他の面に工具痕ないが平滑さ欠く。	①粗粒安山岩。大粒の透明な混入鉱物含む。④下面中心に破損後に火熱を受け、黒色味をおびる。
6 不明石製品		埋土 図示部片	凸面状になる面を上と考えた。側面に細かな凹凸多いが、上面はやや平滑。	①牛伏砂岩。④側面に火熱を受け、赤色・黒色に変色している。細かな剥落も多い。
7 不明石製品		下層	3面は表面遺存。下面は欠損。一面は欠損後に擦っている。	①粗粒安山岩。

VI区 8号井戸 (第621図 PL. 112)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	幅 28.8 厚 2.6	上部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーが アク点を抜けない書体。葉研彫り。二 条線は浅く、ノミ痕を残す。左右の切 り込みあり。大型板碑。	①緑色片岩。細～小粒の長石を含む。④裏面は剝離 し、一部に旧面を残し横方向にノミ痕が認められる。 ノミ巾1.4cm。碑面はやや摩滅する。
2 板碑	厚 2.3	下左部破片	「月日」の文字と枠線のみ残る。	①緑色片岩。小～大粒の長石を多く含む。④裏面に 横方向のノミ痕 (巾1.2～1.3cm) を残す。

VI区 14号井戸 (第622図 PL. 112)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 五輪塔 (地輪)	幅 18.4 高 15.5	埋土 一辺を欠く	上面・底面とも隅は面取り状に角を落 としている。上面にやや粗い工具痕が 観察できる。底面は細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。ややピンク色味をおび、黒色鉱物も やや目立つ。④破損前に火熱を受け、両脇がすすけ たように黒色味をおびる。

VI区 15号井戸 (第624図 PL. 112)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.8) 底 5.6 高 2.6	中層埋土 3片 口縁%欠く	VI区 3号井戸-1 にほぼ同巧。内底の ナデはごく弱い。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つ砂粒を含む。②酸 化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。内外面とも黒色 のムラあり。
2 小皿	口(9.8) 底(5.8) 高 2.5	中層埋土 図示部%	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱い。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物まじりの砂 粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/ 4。ほぼ一様。
3 砥石	端厚 2.5×2.3 重 84.0g	埋土 半欠品	短軸断面方形。正面・裏面が主な使用 面で両側面には調整の工具痕が明瞭に 残る。小口平坦だが使用痕不明。割口 は不使用。	①砥沢石。きめやや細かい。④使用痕は明瞭だが方 向不定。両側面は細かな擦痕あるが使用痕かどうか 不明。

VI区 19号井戸 (第627図 PL. 112)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(9.8) 底(7.0) 高 2.2	中層埋土 図示部%	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 弱く不明瞭。内面平滑。口縁上端は平 坦で外傾。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒少量含 む。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR6/4、黒 色味をおびるムラあり。
2 内耳	口(31.0) 底(19.4)	上層埋土 2片 図示部%	口縁端部は平坦。外面下端の削りはご く弱い。内耳は丁寧な取付で、指頭状 の凹みや多い。	①素地普通。黒色砂粒やや目立つ。②中性焰、やや 硬調。③淡黄2.5Y8/3。内外面に赤色味の強いムラと 広い黒斑あり。
3 刀子	棟 0.53～0.20 茎幅 1.19～0.76 茎上幅 0.38～0.14	埋土上層 切先と茎端部欠 く	刃部は均等に研ぎ減りしている。茎も 断面三角形を呈しているが、剝落して いる可能性もあり原形不明。	①鉄地金はやや良好。

遺物観察表編

4 砥石	中厚 3.3×3.1 重 120.3g	上層 ほぼ完形か	短軸断面は台形に近い。主な使用面は正面のみで、裏面は深い傷が並び面は不整。一側面に調整工具痕残る。他の側面と小口、割口は無使用。	①砥沢石。鉄分少ない。混入物は小粒。硬い。④正面の擦痕やや鋭い。側面の傷は断面V字状で数度にわたって刻まれる。二次火熱を受け割口を含めて黒色。無使用面に一部ベンガラ付着。
---------	------------------------	-------------	------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

VI区 22号井戸 (第630図 PL. 112・113)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 2.6	右上半部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークはイーがアク点間を抜けない書体。葉研彫り。二条線及び左右切り込みあり。枠線あり。	①緑色片岩。混入物は少なく僅かに微粒の長石を含むのみ。④碑面の摩滅は少ない。
2 板碑	幅 19.5 厚 3.0	上部破片	主尊は阿弥陀種子。葉研彫り。二条線及び左右の切り込みあり。二条線はノミ痕を残す。碑面の左右端部を面取りし平坦部を造り出す。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④碑面は平坦に磨かれ、摩滅は少ない。裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ痕は0.9cm。
3 板碑	幅 18.8 厚 2.0	下部破片	中型板碑の基根部破片。裏面と表面の一部に横方向のノミ痕が数条残る。ノミ巾は1.3mm程。造立時には直接地中に埋め込む部分。	①緑色片岩。
4 板碑	幅 18.6 厚 2.2	上部破片 (頂部欠損)	主尊は阿弥陀種子。竹彫り。キリークの書体はイーがアク点間を抜ける。蓮座欠損。線刻の二条線の一部残る。	①緑色片岩。大粒の長石を少量含む。④碑面はやや摩滅。

VI区 23号井戸 (第631図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 擂鉢	口(31.4)	中層埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	外面口縁は強い横位ナデ。下端に僅かな削り痕残る。内面卸し目なく、指頭の強く息長いナデが器面に凹凸作る。	①素地普通、赤褐色鉱物・土粒・細礫等の混入物多く、やや粗い。②中性焰、やや硬調。③にぶい橙10YR7/3、灰色味・赤色味おびるムラあり。

VI区 26号井戸 (第632図 PL. 112)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	長 4.4 径 2.0	埋土 完形	表面は平滑で、端部付近に小さな指頭痕を残すのみ。孔は細い。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物等を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。一様。

VI区 27号井戸 (第633図・PL 112)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土錘	径 1.3~1.2	埋土 一端を欠く	平面形はいびつで不整だが、孔は通っている。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。土錘としてはやや粗い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4で黒色味おびるムラあり。

VI区 32号井戸 (第636図 PL113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 播鉢	口(28.0)	埋土2片 図示部 $\frac{1}{6}$	口縁外面の凹み広く、凹み内にロクロ痕状の弱い凹凸あり。卸し目は幅広く幅2.8cmの残存部に5本あり。断面U字状で深い。	①素地粗い。赤褐色鉱物・細礫・パミス等のやや大粒混入物多い。②中性焰か、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。外面黒色味の強いムラあり。
2 土製円盤	径 7.0×5.3	埋土 完形	内耳土器底部の再利用。側面は部分的に弱い研磨が加えてある。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等の目立つ砂粒多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。断面は赤色味をおびる。
3 砥石	中厚 4.5×3.3 重 196.7g	埋土 ほぼ完形	短軸断面三角形で、顕著な使用面は一面のみ。正面は部分的に研ぎ減っているが不整面が多い。	①砥沢石。鉄分多い。④擦痕は縦位主体で、息長く鋭いものが多い。
4 砥石	中厚 3.2× 2.6 重 127.6g	埋土 完形	裏面が大きく剝落した長軸断面菱形の手持ち砥と思われる。正面と一側面を主な使用面とし、他は不明瞭。	①砥沢石。混入物やや多いが、きめは細かい。鉄分やや多い。④使用痕は縦位中心で、比較的息長い擦痕が観察できる。

VI区 33号井戸 (第637図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 長頸瓶 (S)	肩(19.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{4}$	三段成形の痕が断面で明瞭に観察できる。右回転ロクロ。外面に断面U字状の3条の沈線が巡り、縁辺に列点文を配す。端部は上方へ尖る。	①素地普通。少量の細礫まじりの白色砂粒の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③青灰5B6/1。外面一部明度低い。④外面の一部研ぎ減っている。

VI区 34号井戸 (第638図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甌	底(15.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{6}$	ロクロの回転方向や器面から、鐳付甌の底部と判断した。外面のロクロ痕は弱いカキ目状となっている。	①素地やや粗い。砂粒等の混入物を含む。②還元焰か。須恵器としては軟調。③灰白色。④甌としての使用痕は観察できない。
2 石臼 (下臼)	高 6.1		目は不明瞭。欠損後被熱。接触部のみ摩滅して平滑。	①粗粒安山岩。
3 石鉢	口(8.6) 底(5.7) 高 6.5	$\frac{1}{2}$ 個体	表面風化して、整形痕不明。全体に丁寧な仕上げである。	①軽石。混入する鉱物や、気泡は小さい。④破損前に火熱を受けている。

VI区 38号井戸 (第641・642図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.4 底 5.8 高 3.6	埋土 完形	左回転ロクロ→回無調整。ロクロ痕内外面ともやや強く細かい。内底弱い指頭のナデ。外底に狭い板状圧痕。	①素地やや粗くザラザラ。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、硬調。③淡黄2.5YR8/4。内面黒色のムラ広い。

遺物観察表編

2 小皿	口 11.6 底 6.3 高 2.9	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも弱く不明瞭。外底に弱い板状圧痕、内面に弱い指頭のナデ。	①素地やや粗い。やや大粒の赤褐色鈹物まじり、夾雑物多い。②中性焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。黄色味をおびるムラあり。
3 小皿	口(11.2) 底(6.2) 高 2.7	埋土 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面でやや弱く、内面では不明瞭。内底のナデ弱い。	①素地やや粗い。赤褐色鈹物・パミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/8。断面まで一様。
4 播鉢	口(30.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁端部は凹み内側へ弱く突出する。親指の指頭大の片口あり。外面の削りはきわめて弱い。卸し目は幅1.6cmに5本。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鈹物まじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面中央黒色。
5 内耳	口(35.0) 底(31.6)	埋土 4片 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁は中位で肥厚する。口縁内側の段は弱い。内耳取付は丁寧で、内耳下の凹みも深い。	①素地普通。輝石・パミス等のまじる砂粒やや多い。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。口縁内外面とも黒色味強い。断面中央黒色。口縁外端のススやや厚い。
6 石臼 (上臼)	径(32.5) 高 10.7~8.7 上縁上端幅 3.0 下端 4.7 高 2.7	埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	芯穴の平面形は方形を呈し、深さは2.5cm。調整は粗く上面は平坦ではない。石質も非常に粗い。目は不明瞭。	①粗粒安山岩。
7 五輪塔 (水輪)	上径22.3×22.0 中径27.8×30.3 下径22.0 高 14.8	埋土 ほぼ完形	上下両面とも中央が緩やかに凹む。製作痕は殆ど判らないが、器面に平滑さ欠く。最大径は下方にくると考え上面を推測した。	①粗粒安山岩。④弱い火熱を破損後に受け、一部で赤色味をおびている。

VII区 1号井戸 (第644図 PL.113)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 11.8~11.6 高 3.2	上層埋土 完形	薄手で、指頭痕状の凹凸が全面に見られる。口縁外面上半は粗いナデで、下半は型膚状。内面丁寧なナデ。外底の削りは幅広く雑。	①素地普通。細砂以外の混入物少なく、良好。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4で内面一様。外底は黒色味強い。
2 播鉢	底(14.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	体部外面は全面指頭状の凹凸。外底は弱いヘラ削りか。卸し目不明。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒やや多く、やや粗い。②中性焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/3。断面灰白色。内面全面剥落著しい。
3 砥石	中厚 4.3×2.8 重 110.6g	埋土 一端欠く	長軸断面糸巻き状と思われ、割口を除く全面使用。使用面は平坦もしくは弱い凹面。	①砥沢石。鉄分やや多い。④擦痕粗く、断面V字状の深い溝になっている部分あり。

VII区 2号井戸 (第645図 PL.113)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 播鉢	底(12.4)	埋土 2片 体部下半 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	卸し目不明だが、割口より斜格子状であったと推定できる。	①素地普通。大粒赤褐色鈹物や細礫等の混入やや多く、粗い。②中性焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。灰色味強いムラあり。④全面剥落著しい。
2 播鉢	底(12.0)	埋土 4片 図示部 $\frac{1}{2}$	ロクロ痕は右回転の立ち上がりだが、外面に反対方向の擦痕残る。卸し目は不明。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②中性焰か、普通。③暗灰N3/0。断面は赤色味強い。④全面に凍てハゼ状の剥落多い。

3 砥石	端厚 4.4×2.8 重 101.2g	埋土	長軸断面糸巻き状。5面使用だが、小口の使用痕は僅か。両側面平滑さ欠く。各使用面は弱い凹面。割口無使用。	①砥沢石。混入物及び鉄分やや多い。④使用痕は縦位中心。側面に鋭い縦位の傷あり。
---------	------------------------	----	-----------------------------------------------------	-----------------------------------------

VII区 4号井戸 (第646図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 15.9~15.7 高 4.4	上層埋土11片 %個体	口縁外面は上半やや粗いナデ。下半は型膚状。外底の削りやや丁寧。内面ナデも丁寧。	①素地普通。パミス・輝石のやや多い砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR6/6。外底は黒色味強い。④口縁内面一部にスズ状の薄い付着物あり。内面に凍てハゼ状の剥落あり。
2 杯 (H)	口(13.4) 底(7.4) 高 4.0	上層埋土 %個体	右回転ロクロ→回糸→縁辺幅広の回転ヘラ削り。ロクロ痕は外面で強い。内底平坦。	①素地普通。白色砂粒の混入目立つ細砂がやや多い。②還元焰、やや軟調。③灰白7.5Y7/1。外面は黒色味の強い部分広い。④口縁内端摩減する。

VII区 7号井戸 (第648図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.4 底 8.7~ 8.5 高 3.7	底面2片 口縁%欠く	右回転ロクロ→底部全面丁寧な回転ヘラ削り。ロクロ痕弱い。内底に小さな凹凸あり。	①素地やや粗い。砂粒等の混入やや多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。④二次火熱受けるか。口縁上半内側摩減。外底にやや薄い墨書「宜」。
2 杯 (S)	口 13.2 底 7.6~ 7.4	上層 口縁%欠く	右回転ロクロ→切離し不明→底部全面弱い回転ヘラ削りか。ロクロ痕弱いが内底のみ渦巻き状の凹凸あり。	①素地普通。細礫僅かにまじる砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③灰オリーブ7.5Y6/2。内底摩減し平滑。外底に薄い墨書あり「方」か。
3 甕 (H)	口(20.4) 頸(17.4) 胴(19.8)	底面20片 図示部%	内面胴部下半に接合の段明瞭。口縁のナデは接合痕を消しきれないが、ナデ残しなし。外面削りはやや弱い。	①素地普通。細礫・輝石等の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰、軟調。③橙5YR6/6。外面黒斑広い。ムラ多く一様でない。

10 土坑出土遺物

I区 1号土坑 (第652図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	底 7.8	埋土 底部のみ	右回転ロクロ→回糸無調整。底部厚くロクロ痕は弱い。	①長石・チャート等の細礫～粗粒を含む。②軟調で、やや酸化焰ぎみ。③灰白5Y8/1。
2 高台付杯 (S)	台(11.0)	埋土 底部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ→回糸→回転利用高台取付けで、工具により周辺も削り込む。底部歪む。	①やや粗く、石英・チャート・バミスの細砂を含む。②やや軟調。③褐灰10YR4/1。
3 甕 (H)		埋土 口縁約 $\frac{1}{2}$ 破片	口縁を3～4回の横位ナデ。肩部に横ヘラ削り。体内面ナデ。	①やや粗く、石英・チャート・輝石・バミス等の粗砂を多く含む。②普通。③橙5YR6/6。

I区 2号土坑 (第653図 PL. 114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(13.0) 頸(10.2) 胴(20.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁と外面肩部に強い横位ナデ。外面縦位ヘラ削りは不明瞭。内面にヘラ状工具のナデ施すが、器面は凹凸。	①輝石・長石まじりの粗石多く、粗い。②酸化焰、普通。③淡黄2.5Y8/3。外面に暗褐色部分広い。④二次火熱受け、外面体部器面荒れる。

I区 3号土坑 (第654図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(25.0) 頸(23.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	口縁部は丁寧な横位ナデで平滑。外面の削りは弱い。内面板状工具のナデでやや平滑。	①輝石まじりの細砂多い。やや粗い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。明度・色相に幅あり、一様でない。

I区 4号土坑 (第656図 PL. 114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.7) 高 3.8	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 欠く	口縁は弱く外折して、やや肥厚する。右回転ロクロ。糸切り痕は不明瞭。	①素地粗く、長石・軽石・黒色粒を含む。②弱い還元焰、ほぼ一様で軟調。③灰5Y6/1。
2 椀 (K)	口(14.6) 台 8.4 高 4.5	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部完存	内底縁辺に重焼き痕残る。釉は剥落し不明瞭だが、内底縁辺まで痕跡残る。底部と体部下端まで回転ヘラ削り。	①黄白色の夾雑鉱物粒やや目立つ。②還元焰、普通。③灰白5Y8/2でほぼ一様。④二次火熱を受け器面やや脆弱化、釉は剥落する。外底に墨書か。
3 甕 (H)	口(18.4) 頸(16.6) 胴(20.4)	図示部 $\frac{1}{2}$	外面の削り強く、頸部に指頭状の圧痕が残る。外端は棒先状工具により丁寧に沈線を巡らす。	①素地やや緻密だが、不揃いの粗砂多く含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。暗褐色部分外面に広い。④歪みあり、口径不安。

II区 1号土坑 (第657図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	台く 7.2)	口縁部下半 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	体下半は弱く膨らみ、高台断面は丸味の強い形状。全体にナデ。軸は内面全体にかかる。内面には重焼きによる高台跡が残る。	①素地粗く、夾雑物は少ない。②硬調。③灰黄2.5Y7/2。軸は灰オリーブ色に発色する。
2 甕 (H)	口 22.0~21.3 頸 19.3 胴 22.8 底 5.0 高 28.0	体部 $\frac{1}{4}$ 欠く	口縁ナデ。口唇を更につまみナデ。体外面は鋭いヘラ削り。内面は幅広工具による横位ナデと思われるが、工具痕は殆ど残さない。	①素地普通。大きさの均等な細砂を多く含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。④胴中位以上はススが付着する。

II区 7号土坑 (第660図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)		図示部 $\frac{1}{2}$	円盤状の杯底部に杯立ち上がり部を接合し、外面に稜をつくり出す。全体にナデ。	①素地はやや緻密で、粗〜細砂を多く含む。②酸化焰、一部に黒斑。③明赤褐2.5YR5/6。

II区 9号土坑 (第661図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 (器台) (H)	口(20.9)	埋土 器受部 $\frac{1}{2}$	内外面とも丁寧な横位ナデ。下位で外側に強く張り出す。口唇部外側に弱い沈線を巡らす。	①素地やや粗く粗〜細砂を含む。②酸化焰、ややムラあり。③にぶい橙〜明赤褐色。④北陸系か。
2 (高杯) (H)	口(20.9)	埋土 器受部 $\frac{1}{2}$	内外面とも丁寧な横位ナデ。口唇は外側に鋭い沈線を巡らし、外面有段部には垂下する幅の狭い凸帯を付す。内面有段部は接合痕が残る。	①素地やや粗く、粗〜細砂を含む。②酸化焰、ほぼ一様で、やや硬調。③赤味がかかった橙5YR6/8。④北陸系か。

II区 12号土坑 (第662図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口 13.2 頸 10.3	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	接合痕より輪積みか。外面斜ハケ目→口縁ナデ。頸部〜口縁内面に横ハケ目→口縁と肩内面に横位ナデ。	①素地普通。チャート・パミス・赤褐色鉱物・長石等の砂粒を多く含む。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/4。断面は還元されて黒い。

II区 13号土坑 (第664図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 14.9~14.4 台 9.0~ 8.3	埋土 完形	右回転ロクロか。ナデで仕上げるが極めて粗い。内底は不規則なロクロ痕により器面不整。水をつけてナデた痕跡を明瞭に残す。	①素地やや緻密で、赤褐色鉱物・輝石・長石等の粗砂や細礫を含む。②酸化焰、内面一部に黒斑。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 甕	口(25.4) 鏝(26.8) 孔径(0.9)	埋土 口縁部小片	輪積み成形。口縁中位に内外両面から回転による穿孔。内外面ともに横位ナデ、粘土帯貼付による稜の弱い鏝をつくる。	①素地粗く、赤褐色鉱物・長石・チャート・パミスの粗砂が目立つ。②酸化焰、やや軟調でムラあり。③橙5YR6/6。

遺物観察表編

II区 18号土坑 (第665図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.3 高 4.5	埋土 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺と体部下端回転ヘラ削り。厚手。ロクロ痕弱い。	①素地やや粗く、長石・軽石の粗砂を含む。②還元焰、軟調。③灰白5Y7/1。一様。④底に「足」と解説不能文字（「門がまえ」あるいは記号ともとれる。）の墨書。
2 杯 (H)		埋土 体部片	外面は横位の丁寧なヘラ削りとナデ。内面は丁寧な横位ヘラ磨き。	①素地やや粗く、長石・軽石等の細砂を含む。②やや軟調。③外面はにぶい橙色、器壁～内面は灰黒色。④内面黒色処理。
3 皿 (K)		埋土 図示部欠	口唇部は、小さく折れて外反する。釉は漬掛けと思われるが、剥落が激しい。	①素地は緻密。夾雑物少ない。②還元焰、硬調。③灰白2.5Y8/1。釉はオリブ褐。釉剥落部分は白く変色。
4 小皿	口(10.6) 底(6.2) 高 2.6	図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。	①石英・長石・パミス等の粗砂を含む。②酸化焰、普通。③明赤褐5YR5/6。ややムラあり。④口縁の一部に黒斑。
5 碗 (H)	口(8.8) 底 2.1 高 4.3	埋土 口縁欠く	外面斜位削り→縦位磨き。内面ナデ。底面に粗い磨き。	①素地やや粗く、角張った長石・チャートの細礫を多く含む。②酸化焰、体部の一部に黒斑。③明赤褐2.5YR5/6。
6 小皿	口(10.0) 底(5.4) 高 2.6	図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面でやや強い。内底平坦。	①素地やや粗く、粗砂を多く含む。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR6/6。一様。

II区 26号土坑 (第667図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土鍾	径 1.0 孔径 0.4 重 3.3g	埋土 両端欠く	手づくねによる成形。	①素地普通。細砂を含む。②還元焰、硬調。③黒褐5YR2/1。④一方の端部付近は欠損後の使用による摩滅が見られる。
2 土鍾	長 4.0 径 1.1 孔径 0.3 重 4.0g	埋土 完形	手づくねによる成形で、特に整形痕は見られない。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物等の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。④端部が孔に直行して摩滅する。
3 土鍾	長 3.4 径 1.0 孔径 0.2 重 2.4g	埋土 完形	手づくねによる成形。孔内面に植物茎状の条痕が残る。	①素地普通。砂粒を含む。②やや還元気味。③暗赤褐5YR3/2。④端部の一方向が極端に摩滅。

II区 27号土坑 (第668図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	底 5.2 孔径 1.0~0.6	埋土 体部下半	外面は縦ハケ目後浅いヘラ削り。内面は斜ハケ目後斜ヘラ削り。底の孔は粘土塊を付加して、形と大きさを調整している。	①素地普通で、赤褐色鉱物等の粗～細砂を含む。②酸化焰。器壁と内面はやや還元気味。③外面は橙色、内面は黒～褐灰色。

II区 31号土坑 (第670図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)		埋土 図示部完存	脚柱は輪積みで、内面にしぼり目を残す。裾部は大きく開く。外面に放射状の粗い磨き。	①素地やや粗く、チャートと赤褐色鉱物目立つ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6。一様。

II区 32号土坑 (第671図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚上 2.9 脚下(5.8)	埋土 図示部中裾欠く	「朝顔」形に開く脚に粘土塊を充填して、杯部と接合。全体にナデ。脚内面上位は横位削り。	①素地細かく、チャートの細礫含む。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR7/6。全体に一様。④杯外面と脚内面に二次火熱痕あり。

II区 33号土坑 (第672図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 10.3~9.7 底 5.1 高 3.4	底面直上 口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内面に接合痕が明瞭に残る。ロクロ痕弱く、内底以外では殆ど判らない。	①粗くザラザラしている。チャートまじりの細礫やや多い。②中性焰か、やや硬調。③灰白5Y7/2。黒色味・黄色味の弱いムラあり。

II区 36号土坑 (第674図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚下(20.0)	埋土 裾部欠	外面は丁寧な放射状の磨き。内面は横ハケ目→裾部ナデ。裾端は面取り状の磨き。脚中位に穿孔(3カ所と思われる)。	①素地普通。赤褐色鉱物やチャート・石英の粗砂を含む。②酸化焰、やや硬質。③外面橙色、内面は赤味の強い橙色。④内面は二次火熱を受けた可能性あり。

II区 39号土坑 (第675図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)		埋土 器受部 裾部欠く	外面は丁寧な放射状ヘラ磨き。内面は成形時の粗いナデを残す。脚部円孔は3カ所。	①素地普通で、輝石等の粗砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR6/3。

II区 44号土坑 (第677図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.8) 底 5.6 高 3.6	口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内底と口縁外面でロクロ痕強い。薄手でシャープな作り。	①素地粗く、パミス・細礫まじりの砂粒がやや多い。②中性焰か、やや硬調。③暗灰黄2.5Y5/2。口縁付近は明度・彩度とも高い。

遺物観察表編

2 椀	口(14.0)	埋土 図示部%	輪積みか。ロクロ不使用。外面粗い横位ナデ後、下半弱いヘラ削りで下端に横位ナデの痕跡あり、高台の付く可能性あり。	①素地やや粗く、土粒・パミス等混入物雑多。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。赤色味・灰色味おびる不均等なムラあり。
3 椀	口(13.8)	埋土 図示部%	ロクロ痕極めて弱い。内面平滑。高台の付くものと思われる。	①素地粗く、パミス・細礫まじりの砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③暗青灰5B3/1。内面・断面は黄色味強い。

II区 64号土坑 (第684図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.0) 高 3.3	埋土 口縁～底部%	口縁弱いナデ。外底はほぼ一方向のヘラ削り、縁辺は無調整。内面ナデ。底内面は押圧による凹凸が残る。口縁がやや歪む。	①素地普通。細砂を含む。②酸化焰、一様。③橙5YR6/6。一様。
2 杯 (H)	口(13.0)	埋土 口縁～底部%	口縁ナデ。底は鋭いヘラ削り。内面ナデ。底内面は押圧による凹凸が残る。	①素地やや緻密で、細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/3。
3 杯 (H)	口(13.0)	図示部%	底外面削り、口縁ナデ。内面ナデ。底内面には押圧による凹凸が残る。	①素地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰、外面黒斑。③橙5YR6/6。
4 杯 (S)	底(7.8)	埋土 図示部%	右回転ロクロ→回転ヘラ削り→底部縁辺回転ヘラ削り。	①素地普通。パミス等砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。一様。
5 甕 (H)	口(21.0)	埋土 口縁～胴上部%	口唇と頸部に横位のナデ。胴上半は横位の強いヘラ削り。胴内面は幅広工具による横位のナデ。	①素地普通で、細砂を多く含む。②酸化焰、均一でやや硬調。③橙5YR6/6。

II区 65号土坑 (第685図 PL. 114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付杯 (S)	口(13.0) 台(9.2) 高 4.3	埋土 %個体	右回転ロクロ→回糸→周縁部回転ヘラ削り後、ロクロ使用高台取付。	①素地やや粗く、パミス・長石の粗砂多く含む。②還元焰、硬調。③灰N6/0。器面に比べ、断面はやや明るい。
2 杯 (S)	口(13.6) 底 8.5 高 4.3	埋土 4片 口縁% 底部%	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺に雑で弱い回転ヘラ削り。	①素地やや粗く、パミス・長石等の砂粒目立ち、底部には1cm大の黒色鉱物(還元鉄を含む)が見られる。②還元焰、やや不十分。③灰オリーブ7.5Y6/2。一様。
3 杯 (H)	口(15.8)	埋土 図示部%	底外面弱い削り。口縁と内面はナデ。口縁と底の境は丸味をもつ。	①素地普通で、粗～細砂を多く含む。②酸化焰、普通。③やや暗い橙5YR6/6。④口縁の一部は弱く赤変しており、二次火熱を受けた可能性がある。
4 杯 (H)	口(13.4) 高 3.5	口縁% 底部%	口縁は内湾し、外面に弱い沈線が巡る。底外面は削りで、口縁と内面は丁寧なナデ。内面に凹凸を残す。	①素地やや緻密で、赤褐色鉱物・長石・輝石等の粗～細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。全体に一様。

10 土坑出土遺物

5 杯 (H)	口 14.4	図示部 $\frac{1}{2}$	底と体部外面に削り。口縁と内面丁寧なナデ。口縁と体の境は丸味をもって屈曲し、外面に縦位の細かい「しわ」が残る。	①素地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰。③橙5YR7/6。
6 杯 (H)	口(13.0)	埋土 3片 口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	底外面は削り、口縁と内面はナデ。底内面に僅かな凹凸を残す。	①素地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。
7 杯 (H)	口(13.6)	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部 $\frac{1}{2}$	底外面弱い削り。口縁と内面はナデ。口縁と底の境部外面に未調整部分を残す。底内面に弱い凹凸を残す。	①素地普通で、粗～細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③ややにぶい橙5YR6/6。
8 杯	口(13.2)	埋土 2片 図示部 $\frac{1}{2}$	底外面削り。口縁と内面ナデ。体部に無調整部分を残す。	①素地やや緻密で、粗～細砂を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。
9 椀	口(14.8)	図示部 $\frac{1}{2}$	右回転ロクロ。ロクロ痕弱い。内面は丁寧な弧状の磨きの後、黒色処理を施す。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・チャート等粗砂・他に細砂を含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR3/7。内面黒色。
10 土錘		埋土 $\frac{1}{2}$ 個体	手づくねによる成形。孔内面は軸方向の浅い条痕が見られる。	①素地普通。輝石・パミス・酸化鉄鉱物を含む。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR6/6。ややムラあり。

II区 67号土坑 (第686図 PL. 114)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.0)	埋土下層 ほぼ完形	右回転ロクロ→底部全面回転ヘラ削り。	①素地やや粗く、長石・パミス等細砂を含む。②還元焰で、やや軟調。③灰10Y6/1。断面色調は灰白色に近い。
2 杯 (H)	口(15.4)	$\frac{1}{2}$ 個体	底外面は一方向への削り。口縁と内面は丁寧なナデ。	①素地やや粗く、輝石・パミス・チャート・長石等の砂粒を多く含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。
3 杯 (H)	口(13.0)	埋土 図示部 $\frac{1}{2}$	底外面はほぼ単一方向の削り。口縁と内面ナデ。	①素地やや緻密で、細～粗砂を含む。②酸化焰、硬調。③橙7.5YR7/6。ほぼ一様で縁の一部黒斑。
4 釘か	長 6.6 厚 0.48×0.35	埋土 ほぼ完形か	先端が扁平で不自然だが、頂部がやや潰れ、身部も小さくねじれていることから、釘と推定した。	①鉄地金はあまり良くないが、錆化の影響は少ない。

III区 11号土坑 (第690図 PL. 114)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.6) 高 3.6	$\frac{1}{2}$ 個体	外底削りやや強い。口縁部の外反やや強い。内面ナデも強く、布状具の鋭い擦痕が残る。	①素地普通。細砂やや多いが他の混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面は赤色味・黒色味のムラ多い。④二次火熱を受ける。
2 杯 (H)	口(11.4)	$\frac{1}{2}$ 個体	1に同巧。口縁の外反は端部のみ。外底削りやや強く、無調整部分広い。内面ナデも強いが器面は不整。	①1に近い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外底に黒斑広い。内面も暗いムラ多い。

遺物観察表編

3 杯 (H)	口(11.2)	図示部 $\frac{1}{4}$	1にほぼ同巧。口縁部やや低く、外面下半に小さな稜あり。外底削りやや強い。内面丁寧なナデ。	①素地やや粗い。輝石・パミスの少量まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/4。黒色味の強いムラ多い。
4 杯 (H)	口(12.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	外底削りやや強く、無調整部分は少ない。内面ナデ丁寧で細かな布状具の擦痕を残す。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。やや黒色味をおびるムラあり。
5 杯 (H)	口(10.4)	図示部 $\frac{1}{4}$	1とほぼ同巧だが、口縁部やや低く、外反も弱い。外底の削りはやや弱い。口縁に小さな歪みあり、口径不安。	①素地普通。混入物少なく精選。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおびる薄いムラあり。
6 杯 (H)	口(12.0)	図示部 $\frac{1}{4}$	外底削り鋭いがやや粗く、無調整部分を残す。口縁ナデもやや雑で、外面不整。内面ナデもやや粗い。	①素地普通。砂粒以外混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/3～黒褐5YR3/1。④破片毎に色調異なり、破損後二次火熱か。
7 杯 (H)	口(12.6)	図示部 $\frac{1}{4}$	外底息の長い鋭い削りだが、無調整部分広い。内面ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ同様。
8 鉢 (H)	口(14.8)	図示部 $\frac{1}{4}$	器面摩滅し不明瞭。削りやや強い。口縁外面にやや粗い磨きを施す。内面ナデ丁寧で、口縁付近に磨きの可能性。	①素地やや粗く、チャートや粗砂の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。内外面に黒色味をおびるムラあり。④二次火熱受けるか。
9 杯 (H)	口(12.6)	図示部 $\frac{1}{4}$	外底幅広のやや強い削り。口縁外面のナデやや弱く、下半無調整部分に接合痕残る。内面ナデ丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面は黄色味強い。
10 杯 (H)	口(13.2) 高 3.7	$\frac{1}{2}$ 個体	外底削りやや強く鋭い。無調整部分をほとんど残さない。内面ナデも強い。	①素地普通。細礫・パミス等のまじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面に黒斑あり、内面にもシミのような暗いムラあり。
11 鉢 (H)	口(17.8)	図示部 $\frac{1}{4}$	外面雑で、強い削りで器面にヒビを生じている。無調整部分を残さない。内面丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石・パミス等まじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4で、断面までほぼ同様。
12 鉢 (H)	口 24.5	埋土 口縁～体上半 $\frac{1}{2}$	口縁ナデ。口唇上面はナデで浅い沈線を廻らす。体部は鋭いヘラ削り。内面は丁寧な横位ナデ。	①素地粗く、長石・輝石等の大きさの均等な細砂を多く含む。②酸化焰、ムラが多い。③灰黄褐10YR5/2。

III区 19号土坑 (第692図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.3	図示部完存	脚内面は削りに近い鋭いナデ。他は放射状の丁寧な磨き。脚上方に3孔を穿つ。身底部は雑な穿孔。	①素地やや粗く、細礫・赤褐色鉱物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6。脚内面は赤色味弱い。

11 遺構外出土遺物

(1) 弥生式土器 (第705~709図 PL. 117・118)

№・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺		II区 口縁と胴一部欠く	口縁付近と肩部に直線文。その間の頸部に連続山形文を2段に重ねる。施文具は6本単位の櫛状I種。胴は横位の羽状縄文。原体はLRとRLを使用。底部木葉痕。	①きめ粗く、無色鉱物の細礫が目立つ。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
2 (壺)		口縁部	口縁全体に横位縄文。内面はナデ。下端に縄文原体の押捺。原体は附加条第1種RL+2Lと思われる。	①きめ粗く、長石の細礫が目立つ。②普通。器壁は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
3 (壺)		口縁部	口唇と口縁下端に縄文原体押捺。口縁に羽状構成の縄文。内面ナデ原体は附加条第1種LR+2R。	①長石の細礫が目立つ。②やや硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。
4 (壺)		口縁部	口唇と口縁下端に縄文原体の押捺、下端に2個1対の瘤状浮文。内面ナデ。原体は細かいLを巻いた附加条第1種と思われる。	①きめ粗く、長石とチャートの細礫が目立つ。②やや硬調。③橙7.5YR6/6。
5 甕		口縁部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2L。	①長石・石英等の細粒を含む。②普通③灰黄褐10YR5/2。
6 (甕)		IV区 口縁部	口縁を肥厚させ、口唇にかけて縄文、下端に爪先による押捺を巡らす。内面ナデ、原体はR2条をまいた附加条第1種と思われる。	①きめ粗く、長石・軽石の細礫、輝石・石英等の粗粒を多く含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
7 甕		III区 口縁部	横羽状縄文を施し、口唇部にも縄文押捺が見られる。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L、LR+2Rを用いる。	①石英・長石等白色～無色鉱物と、黒色鉱物の粗砂を含む。②普通。③橙5YR7/6。
8 甕		III区 口頸部	横位縄文の後に、山形文と思われる沈線。下位にはへら状具による刺突を巡らす。原体は無節R。	①きめやや粗く、粗～細砂を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR4/4。
9 甕		I区 胴部	頸部は無文で粗い縦位のナデ。胴部との境に直線文。胴部に横位縄文。施文具は5本単位櫛I種。原体LR。	①長石・石英・チャートの粗粒が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
10 甕			櫛描直線文。横位縄文。内面ナデ。原体はLR。	①きめ粗く、粗～細砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
11 甕		II区 胴部	頸と胴部の境に櫛描直線文。胴部に横位の羽状縄文。原体は附加条第1種、LR+2RとRL+2L。内面ナデ。	①白色・無色鉱物の粗砂や細礫が多い。②普通。③黒褐7.5YR3/1。
12 甕		I区 頸～胴部	櫛描直線文。その下位に縄文原体末端の刺突、横位の縄文。内面はナデ。原体はLRと思われる。	①粗～細砂を含む。②普通。③黒褐7.5YR3/2。

遺物観察表編

13 (甕)		頸部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lの結節第1種。	①長石と石英の細礫～粗粒が多い。②内面還元。③橙5YR6/6。
14 (甕)		I区 頸部	羽状縄文。中位に原体末端の押捺。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2L。	①長石・石英の粗粒が多い。②普通。③灰褐7.5YR4/2。
15 甕		体上部	横位縄文の後原体末端部の押圧を巡らす。原体は附加条第1種と思われる。	①きめやや細かく白色・無色の粗～細砂を含む。②やや硬調。③褐灰7.5YR4/1。
16 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面はへら状具によるナデ。原体はLR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の細礫が多い。②やや硬調。③黒褐2.5Y3/1。
17 甕		III区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色鉱物の細礫多い。②普通。③褐7.5YR4/3。
18 甕		II区 胴部	横位の縄文。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lと思われる。	①白色・無色鉱物の粗砂を多く含む。②普通。③に ぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR6/1。
19 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂を含む。②普通。③暗褐7.5YR3/3。
20 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①長石・石英等の白色・無色鉱物の細礫を含む。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
21 甕		胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①白色・無色鉱物や岩石の粗砂、細礫を含む。②普通。③暗褐10YR3/3。
22 甕		II区 胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①白色・無色鉱物、岩石の細礫や粗砂を含む。②普通。③灰褐7.5YR7/2。
23 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂多く含む。②やや硬調。③灰黄褐10YR6/2。
24 甕		II区 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体はLR+2R、RL+2L。	①長石・石英の細礫～粗粒多い。②内面は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
25 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①白色・無色鉱物の粗砂を多く含む。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
26 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①細砂を含む。②普通。③にぶい橙5YR6/4。
27 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂、細礫が多い。②普通。③黒褐10YR2/2。
28 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第2種と思われるが、不明瞭。右捺と左捺の2種を用いる。	①きめやや粗く、粗砂を多く含む。②やや硬調。③器面はにぶい黄橙10YR7/4、器壁は黒色。
29 甕		I区 胴部	横位の縄文、内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①白色・無色鉱物の粗砂が多い。②やや硬調。③黒色。
30 甕			横位の縄文。内面は粗いナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①きめやや粗く石英・長石の細礫～粗砂を含む。②普通。③灰褐5YR4/2。

11 遺構外出土遺物

31 甕		II区 底部付近	横位縄文。原体は附加条第1種RL+2L。底面に木葉痕あり。	①きめ細かい粘土に細砂を含む。②普通。③明赤褐5YR5/6。
32 (甕)		II区 頸部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①長石・軽石の細礫～粗砂が多い。②硬調で還元気味。③灰黄褐10YR5/2。
33 甕		II区 体上位	横位縄文を施す。中央に縄文原体端部と思われる回転押捺あり。原体は附加条第1種LR+2R。内面ナデ。	①白色・無色鉱物の細礫や粗砂が多い。②普通。③褐灰7.5YR4/1。
34 (甕)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第2種RL+2L。	①長石の細礫～粗砂を含む。②やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。
35 (甕)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①長石・石英の細礫～粗粒が多い。②やや還元気味。③明褐灰7.5YR7/2。
36 (甕)		III区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①軽石・長石・石英・輝石等の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい橙5YR6/4。
37 (甕)		II区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①赤褐色粒の粗粒と石英・輝石等の細粒を含む。②還元。③黒色。
38 (甕)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①長石・石英の粗粒が多い。②普通、やや還元気味。③にぶい黄褐10YR5/3。
39 (甕)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①長石・石英等の粗粒が多い。②やや軟調。③黒褐10YR3/1。
40 (甕)		II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①チャート・長石の細礫～粗粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
41 甕		IV区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の細礫が多い。②硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。
42 甕		II区 胴部	横位の縄文。原体は附加条第1種RL+2L。	①石英・赤色粒・細砂を含む。②普通。③器面は橙色、器壁は黒色。
43 甕		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面は粗いナデ。原体はRLで0段多条と思われる。	①粗～細砂を含む。②やや軟調。③黒褐7.5YR3/1。
44 甕		I区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は単節LR+RL。	①粗砂が多い。②普通。③暗褐7.5YR3/3。
45 甕		III区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①5ミリ大の長石・石英が多い。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
46 甕		II区 底部付近	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は単節LRとRL。	①石英・長石の細角礫を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
47 甕		胴部	横位の羽状縄文。原体はLRとRL。	きめ粗く、粗～細砂を含む。②やや軟調。③橙5YR6/6。
48 甕		II区 頸部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①白色の粗砂が目立つ。②硬調。③黒色。④II区146住-7と同一か。
49 甕		II区 胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体はRLと思われるが摩滅のため不鮮明。	①きめ細かく、石英・長石・赤褐色粒等の粗砂を多く含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/2。

遺物観察表編

50 (甕)	I区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条L R + 3 Rか、L R直前段4条で1条見えないものか。	①長石・石英の粗粒が多い。②還元気味。③黒褐10 YR2/2。
51 甕	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種L R + 2 R。	①長石・石英の細粒が多い。②還元気味。③褐灰10 YR4/1。
52 甕	II区 頸部	横位縄文。内面ナデ。原体はL R直前段4条。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調、還元。③黒色。
53 甕	III区 胴部	縦位の縄文と思われる。内面ナデと粗い磨き。原体は無節R。	①きめ粗く、粗～細砂を多く含む。②やや硬調。③橙5YR6/6。
54 甕	II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第2種で右撚と左撚の2種を用いる。	①きめ粗く、石英・長石の粗砂が多い。②普通。③淡黄2.5Y8/4。
55 甕	III区 胴部	54と同じ。	①②③54と同じ。
56 壺	II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体は附加条第1種L R + 2 Rと思われる。中位に末端部の回転痕が残る。	①チャートの細礫・長石・石英等の粗粒を含む。②器壁は還元。③にぶい黄橙10YR7/2。④器壁に繊維痕。
57 甕	II区 胴部	54と同じ。	①②③54と同じ。
58 甕	II区 体部	表面全体と内面の一部に縄文を施す。原体はL Lと思われるが、一部で複節状に見えるため、L L Rの可能性もある。	①きめやや粗く、チャート・赤褐色粒等の粗～細砂を含む。②普通。③表面橙2.5YR6/6、内面にぶい橙7.5YR7/3。
59 甕	II区	横位縄文。内面は粗いナデ。原体は附加条第1種R L + 2 Rと思われる。	①きめやや粗く、粗～細砂を含む。②やや硬調。③灰褐7.5YR5/2。
60 甕	IV区 底部付近	横位の縄文。原体は附加条だが種判別困難。	①ややきめ粗く、石英・長石等の粗砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
61 甕	II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体はR Lと思われる。	①きめ粗く、長石の細礫・石英・チャート等の粗粒を含む。②やや軟調。③にぶい黄褐10YR4/3。
62 甕	II区 底部	横位縄文。内面に指頭押圧痕を残す。原体は附加条第1種L R + 2 R。底面に木葉痕あり。	①長石・石英等の粗粒、細礫多い。②やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
63 甕	I区 底部	外面に右撚りの縄文を施すが、原体は不明。底面に木葉痕。内面ナデ。	①きめ粗く、細礫～粗砂が多い。②軟調。③にぶい黄橙10YR6/4。
64 甕	I区 底部	横位縄文。内面ナデ。底面に木葉痕、原体はL R。	①長石・石英・軽石・輝石等の、粗～細粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
65 甕	底部	横位の縄文。底面は無調整。原体は附加条第2種右撚の軸縄に、Rを付加する。	①②③54と同じ。
66 壺	III区 口縁部	3段の粘土帯貼付による口縁成形、内面と頸部は横へら磨き。口縁に縄文、原体は複節L R L。	①きめ粗く、赤褐色鉱物含む。②良好。③浅黄褐10 YR8/3。
67 壺	I区 口縁部	3段の粘土帯貼付による口縁成形、内面と頸部は横へら磨き。口縁に縄文、原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石・軽石等の粗砂を含む。②二次火熱を受ける。③にぶい橙5YR7/4。

11 遺構外出土遺物

68 壺		Ⅱ区 口縁部	外面には装飾的な2段の積上げ痕を残し、縄文を施す。頸部無文部と内面は、粗いへら磨き。原体はL R。	①やや粗く粗砂を含む。②普通。③橙5YR6/7。
69 壺		Ⅱ区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横へら磨き。口縁に縄文、原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石・軽石・角閃石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい橙5YR7/4。
70 壺		Ⅱ区 口縁部	69と同文を入れる。	①きめ粗く、チャート・長石等の粗砂を含む。②良好。③橙5YR6/6。
71 壺		口縁部	口縁に粘土帯を貼付し成形。内面は横へら磨き。口縁に縄文、原体はR L。	①きめやや粗く、赤褐色鉱物を含む。②良好。③橙5YR6/6。
72 甕		Ⅱ区 口縁部	内面は横へら磨き。口唇と外面に縄文、原体R L。	①きめ粗く、チャート・長石・石英等の粗砂を含む。②良好。③黒褐5YR2/1。
73 壺		Ⅱ区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横へら磨き。口縁に縄文、原体R L。	①きめ粗く、チャート・長石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい橙7.5YR7/3。④Ⅱ区22住-1と同一個体の可能性あり。
74 壺		Ⅱ区 口縁部	口唇外側に面取り状のナデ。内面は横へら磨き。口唇と口縁に縄文、原体はR L。	①きめ細かく、長石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい褐7.5YR5/3。
75 壺		Ⅱ区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横へら磨き。口縁に縄文、原体はR L。	①きめやや粗く、長石等の小砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
76 壺		Ⅱ区 口縁部	内面は横へら磨き。口縁に縄文、原体R L。	①きめやや細かく細砂を含む。②やや還元気味。③灰褐5YR4/2。
77 壺		Ⅱ区 口縁部	3段の粘土帯を段状に付加する。内面はナデ。	①きめ粗く、赤褐色粒軽石の細礫が目立つ。②やや硬調で還元気味。③褐灰7.5YR6/1。
78 壺		Ⅱ区 口縁部	2段の粘土帯を段状に付加する。頸部内外面はへら磨き。	①チャート・赤褐色粒・軽石・長石等の細礫～粗粒を含む。②普通。③にぶい橙5YR7/3。
79 壺		Ⅱ区 頸部	肩部に横位縄文。頸と内面は横位へら磨き。原体は複節R L R。	①長石・石英・パミス・輝石等の粗～細砂を含む。②普通。③橙5YR6/6。
80 壺		Ⅱ区 肩部	横位の縄文を施し、原体R L。内面はへら磨きと思われるが不鮮明。	①きめはやや細かく、チャート・長石等の粗砂を含む。②やや軟質。③橙7.5YR7/6。
81 壺		Ⅱ区 肩部	2段の横位縄文。無文部と内面は粗いナデ。原体は複節R L R。	①きめやや粗く、パミス・石英・輝石等の細砂を含む。②普通。③橙5YR6/6。
82 壺		Ⅱ区 肩部	横位の縄文。無文部はナデ。内面もナデ。原体R L。	①きめ細かく、長石の細礫を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
83 壺		Ⅱ区 胴部	胴下位まで横位縄文、原体はL R。無文部は横へら磨き。内面はナデ。	①きめやや細かく、赤褐色粒と粗砂を含む。②やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。
84 甕		Ⅱ区 頸部	横位の縄文。内面は横位のへら磨き。原体は節のそろったR L。	①きめやや細かく、粗砂を含む。②普通。③褐10YR4/4。
85 (壺)		Ⅲ区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体はL R L。内面は粗い磨き。	①きめやや粗く、赤褐色粒の粗砂が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
86 甕		Ⅱ区 肩部	横位縄文。内面へら磨き。原体はR Lと思われる。	①石英・パミスの粗砂多い。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。

遺物観察表編

87 壺		II区 頸部	肩部に横位縄文。無文部と内面に粗いヘラ磨き。原体はR L。	①長石・チャート・石英・赤褐色鉱物の粗～細砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
88 (甗)		III区 胴部	横位の縄文。内面は横位ヘラ磨き。原体は複節L R L。	①きめやや粗く、赤褐色粒・石英・輝石等の細砂を含む。②やや還元、硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。
89 壺		VI区 肩部	縄文帯を廻らし無文部は横ヘラ磨き。原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石の細礫を多く含む。②良好。③外面黄橙10YR8/6。内面黒褐10YR3/1。
90 甗		II区 胴部	横位縄文。内面は粗い磨き。原体はR L。	①赤褐色鉱物・長石・石英の細砂が多い。②普通。③明赤褐5YR5/8。
91 甗		II区 胴部	横位縄文。内面ヘラ磨き。原体R L。	①きめ粗く、軽石・長石の粗～細粒を含む。②普通。③褐7.5YR4/4。
92 甗		II区 胴部	横位の縄文を施し、原体は附加条第1種L R + 2 Rと思われる。	①きめはやや粗く、チャート・長石・赤褐色鉱物の細礫を含む。②硬質。③にぶい橙7.5YR7/4。
93 甗		II区 頸部	横位縄文。内面はナデ。原体は0段4条R。	①長石・石英・輝石等の細砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
94 (壺)		III区 肩部	横位縄文。無文部は粗い磨き。原体はL R。下端に糸による結束部の回転圧痕を残す。	①長石・石英の粗～細砂が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
95 壺		肩部	横位の縄文を施し、原体L R。内面調整は不明。	①きめはやや粗く、チャート・長石等の細礫を含む。②二次火熱を受ける。③にぶい橙7.5YR7/4。
96 壺			横位斜縄文。原体は単節L R。内面ナデ。	①やや粗く、粗砂が多い。②やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。
97 (甗)		III区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体はL R。	①石英・長石・輝石・パミスの粗～細砂を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR5/4。
98 甗		II区 胴部	横位縄文。無文部と内面はナデ。原体はL R。	①パミス・輝石・石英等の粗～細砂とチャートの細礫を含む。②普通。③にぶい橙5YR7/4。
99 甗		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はL R。	①長石・軽石・石英の細砂を多く含む。②普通。③褐7.5YR4/4。
100 甗		II区 頸部	横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原体はL R。	①きめ粗く、石英・長石・輝石・パミス等の粗～細砂を含む。②普通。③にぶい褐7.5YR5/3。
101 甗		I区 胴部	横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原体は単節L Rと0段4条L Rの2種を使用。	①石英・パミスの粗砂多い。②普通。③灰黄褐10YR7/2。
102 甗			横位縄文。内面ナデ。原体は複節L R Lと思われる。	①きめやや粗く、細砂を多く含む。断面に繊維痕あり。②やや軟調。③にぶい黄褐10YR6/4。
103 (甗)		II区 胴部	横位縄文。原体はL R。	①石英・長石の粗砂が多い。②軟調。③橙7.5YR6/6。
104 甗		II区 胴部	横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原体はL R。	①赤褐色鉱物・石英等の粗～細砂を含む。②普通。③明赤褐5YR5/8。
105 甗		胴部	横位縄文。内面ナデか。原体はL R。	①きめやや粗く、石英・長石・輝石等の粗～細粒を含む。②やや軟調。③橙7.5YR6/6。
106 (甗)		II区 胴部	上下2段の横位縄文。内面ナデか。原体は複節R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。

11 遺構外出土遺物

107 甗		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複節R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
108 (甗)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複節R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。器壁は還元気味。③にぶい黄橙10YR6/4。
109 甗		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複節R L Rと思われる。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/3。
110 (甗)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複節R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
111 (甗)		II区 胴部	110と同じ。	①②③110と同じ。
112 (甗)		II区 胴部	110と同じ。	①②③110と同じ。
113 甗		肩部	上下3段の横位縄文。内面ヘラ磨き。原体は前々段反燃R L R。	①石英・長石の細礫粒が目立つ。②やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。
114 (甗)		III区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複節L R L。	①きめ粗く、長石・石英・輝石等の細粒を含む。②普通。③暗褐10YR3/3。
115 (壺)		II区 胴部	横位に帯状の縄文を施す。内面ナデ。原体は複節あるいは複々節の可能性はあるが、不明瞭。	①きめやや粗く、黒色鉱物の粗～細砂が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR7/3。
116 甗		I区 肩部	縦位に押し引き状の刺突を施し、その上からR L単節斜縄文を施す。上位はナデ。内面ナデ。	①きめ細かく、長石・石英等の細粒を少量含む。②やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/2。
117 (壺)		II区 肩部	上下2段の横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原体はL R L R。	①きめ粗く、石英・輝石・軽石の粗粒が多い。②普通。③赤褐5YR4/6。
118 壺		II区 肩部	横位縄文。無文部はヘラ磨き。内面ナデ。原体は附加条第1種R L + 2 R。	①石英・長石・輝石等の細砂含む。②普通。③橙7.5YR6/6。
119 (甗)		IV区 胴部	横位縄文。内面粗いナデ。原体は前々段反燃L R L。	①きめやや粗く、輝石・石英の粗粒が多い。②普通。③赤褐5YR4/8。
120 甗		II区 頸部	横位の浅い縄文を施す。内面横位ヘラ磨き。原体はR L。	①きめ粗く、チャート・石英・長石等の粗砂、細礫を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
121 (甗)		II区 胴部	横位縄文。不明瞭だが原体はL Rと思われる。	①きめ細かくチャート・長石の細砂を少量含む。②軟調。③明褐灰7.5YR7/2。
122 甗		II区 胴部	横位縄文。内面ヘラ磨き。原体はR Lか。	①きめやや粗く、石英・長石・輝石等の粗～細粒を含む。②軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。
123 (甗)		II区 胴部	横位縄文。内面はヘラ磨き。原体はR L。	①きめ粗く、軽石・長石の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR5/4。
124 (甗)		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は不明瞭。	①長石の細礫粒と、石英・軽石の粗粒が多い。②普通。③明赤褐5YR5/6。
125 壺		II区 肩部	上位に縄文施文、下位に赤色塗彩。原体は無節R。	①きめやや粗く、石英・長石の粗砂が多い。②やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。

遺物観察表編

126 壺		II区 口縁部	幅広の粘土帯を付加して二重口縁とする。口唇上面に平坦面をつくる。口唇と口縁外面に横位縄文、原体はL R。内面は横へら磨き。	①きめやや粗く、チャートの細礫を含む。②普通。③橙5YR6/6。
127 壺		III区 肩部	3段の羽状縄文を横位に施し、原体はL RとR Lの2種を用いる。節中に見える束が比較的正しく均質の太さ。	①きめやや粗く、チャート・赤褐色粒の細礫～粗砂が多い。②普通。表面に黒斑あり。③橙7.5YR7/6。
128 壺		III区 肩部	3段の羽状縄文を横位に施し、原体はL RとR Lの2種を用いる。縄文の上に楕円状の赤色塗彩。	①②③127と同一。
129 壺		I区 口縁部	折り返しの口縁の外側先端に鋭い工具により2段の刺突列点文を巡らす。内面へら磨き。	①きめの粗い素地に長石・石英・軽石・輝石等の小砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
130 甕		II区 頸部	横線の間に2段の波状文。内面ナデ。施文具は5本単位の櫛状I種。施文順は下から上。	①きめ粗く、長石・石英・チャートの粗～細粒が多い。②普通。③褐灰7.5YR4/1。
131 甕		I区 口縁部	6本単位の櫛状I種で波状文を重ねて施す。施文方向は上から順に時計回りで、内面は横へら磨き。	①きめの粗い素地に軽石・石英・長石・輝石・角閃石等の小砂を含む。②普通。③灰白2.5Y8/2。
132 甕		II区 口縁部	8本単位の櫛状I種で波状文を施す。施文方向は時計回りで、内面はナデとへら磨きを施す。	①有色鉱物（輝石・角閃石）・チャート・石英・軽石等の小砂を、多く含む。②軟質。③灰白10YR7/1。
133 壺		II区 頸部	櫛描連弧文を上下に重ねる。内面は粗いへら磨き。施文具は9本単位の櫛状I種。	①きめやや粗く、粗砂を多く含む。②普通。③橙7.5YR6/6。
134 壺		II区 頸部	4本単位の櫛状I種で等間隔の簾状文を反時計回りに施す。頸部下位に櫛描波状文がわずかに見られる。内面は粗いへら磨き。	①きめの粗い素地にチャート・長石等の細礫を多く含む。②硬質。③にぶい橙7.5YR6/4。
135 甕		II区 肩部	8本単位の櫛状I種で3連止簾状文と波状文を施す。施文方向は時計回り。内面は粗いへら磨き。	①チャート・長石・石英・輝石・角閃石等の小砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10Y7/4。
136 甕		II区 体部	頸部簾状文、以下に波状文を施す。施文具は8本単位の櫛状I種。内面は横へら磨き。	①赤褐色粒・白色、黒色の粗～細砂を含む。②普通。③灰褐7.5YR4/2。
137 甕		頸部	14本単位の櫛状I種で波状文と2連止め簾状文を施す。施文方向は反時計回り。胴部にハケ目を残す。内面は斜位ハケ目。口辺付近内面はへら磨き。	①やや粗い素地に石英・長石・軽石等の小砂を多く含む。②やや軟質。③にぶい黄橙10YR6/3。
138 甕		胴部	斜ハケ目の後、櫛描波状文を施す。内面へら磨き。施文具は7本単位の櫛状I種。	①きめ粗く、チャート・長石等の細礫～粗砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
139 (甕)		II区 頸部	波状文を重ねる。内面ナデ。施文具は7本単位の櫛状I種、施文順は上から下。	①きめやや細かく、長石・石英の粗粒を含む。②普通。③灰黄褐10YR4/2。
140 甕		II区 頸部	櫛状波状文を施す。内面へら磨き。施文具は櫛状I種。	①きめ粗く、粗砂を多く含む。②普通。③にぶい褐7.5YR5/3。

11 遺構外出土遺物

141 甕		頸部	波形の小さな波状文を重ねる。内面ナデ。施文具は7本単位の櫛状I種と思われる。	①きめ粗く長石の粗粒が多い。②普通。③褐7.5YR4/3。
142 甕		II区 胴上部	頸部に簾状文、その後波状文を施す。内面ヘラ磨き。施文具は8本単位の櫛状I種。	①きめ粗く、赤褐色粒・石英等の粗砂が多い。②普通。③にぶい橙5YR7/4。
143 甕		II区 胴上部	簾状文の後波状文を施す。内面はハケ目の後ヘラ磨き。施文具は櫛状I種。	①きめやや粗く、細砂を含む。②やや硬調。③暗褐7.5YR3/3。
144 甕		II区 体部	6本単位の櫛状II種で波長の大きい波状文を間隔をあけて施す。内面ナデ。	①ややきめの細かい素地土に軽石・チャート・石英・輝石等の小砂を含む。②普通。③明褐2.5YR5/6。
145 甕		II区 体部	5本単位の櫛状I種で波長の大きい波状文を間隔をあけて施す。施文方向は不明。内面は横ナデ。	①きめの粗い素地土に長石・石英・輝石・角閃石・チャート等の小砂を多く含む。②良好。③暗赤褐2.5YR3/6。
146 甕		II区 体部	5本単位の櫛状II種で波長の大きい波状文を間隔をあけて施す。施文方向は時計回りと思われる。内面粗いナデ。	①粗い素地に軽石・長石・石英・輝石・角閃石等の小砂を多く含む。②普通。③明赤褐2.5YR5/6。
147 甕		体部	6本単位の櫛状（I種か）で波長の大きい波状文を施す。内面は粗いヘラ磨き。	①やや細かい素地土に長石・石英・赤色粒等の粗砂を含む。②ややあまく軟質。③外面浅黄橙7.5YR8/3、内面は黄灰2.5YR5/1。
148 (甕)		II区 頸部	波長の短い波状文。内面ナデ。施文具は櫛状I種。	①きめやや粗く、長石の細礫、粗粒が多い。②やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。
149 甕		III区 胴部	7本単位の櫛状I種でやや乱れた波状文を施す。下位に浅いハケ目を残す。内面ナデ。	①ややきめの粗い素地土に石英・軽石・輝石・角閃石等の小砂を含む。②やや軟質。③橙7.5YR6/6。
150 甕		II区	8本単位の櫛状I種で時計回りに波状文を施す。上位には直径1ミリ強の管状具を束ねた施文具で刺突を施す。内面横ヘラ磨き。	①ややきめの粗い素地土にチャート・軽石・石英・長石等の粗砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
151 甕		II区 胴部	櫛状波状文を施す。内面は粗いヘラ磨き。施文具は8本単位の櫛状I種。	①きめ粗く、赤褐色粒・長石等の粗砂が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
152 甕		II区 胴部	9本単位の櫛状I種で波状文を施す。内面は丁寧なナデ。	①きめの粗い素地土に石英・長石・輝石等の粗砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR5/4。
153 甕		II区 胴上部	幅10ミリ、5本単位の櫛状I種で波状文を重ねて施す。施文方向は不明。胴中位はヘラ磨き。内面ヘラ磨き。	①きめの粗い素地土に長石・石英等の小砂を多く含む。②普通。③黄灰2.5Y4/1。
154 甕		II区 胴部	櫛状波状文を施し、下半はヘラ磨き。内面ヘラ磨き。	①きめ粗く、チャート・長石・岩石片等の細礫を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
155 甕		II区 体部	櫛状I種で大きな単位の交差文とその後横位の波状文を施す。交差文は下から上の方向で施文。内面は軟質棒状具の先端によるナデ。	①きめの粗い素地土に軽石・石英・輝石等の粗砂を含む。②普通。③淡橙5YR8/3。
156 甕		II区 胴部	6本単位の櫛状I種で波状文と直線文を施す。胴部は粗いヘラナデ。施文方向は反時計回り。内面はヘラナデ。	①軽石・長石・石英・その他有色鉱物の小砂を含む。②普通。③橙5YR6/8。

遺物観察表編

157 甕		III区 頸部	櫛状II種による縦位スリット文。	①きめ粗く、長石・石英等白色、無色鉱物多い。②やや硬調。③灰黄褐10YR6/2。
158 甕		IV区 頸部	櫛状II種でスリット文と横位波状文を施す。スリット文→波状文の施文順。	①きめやや粗く、長石・石英の粗砂が多い。②普通。③にふい黄橙10YR6/3。
159 甕		II区 口縁部	口縁に横櫛描波状文。施文具は5本単位の櫛状II種。内面ナデ。	①きめ粗く、長石の粗粒が多い。②やや硬調。③明褐灰7.5YR7/2。
160 (甕)		II区 頸部	縦位区画（スリットか）と横波状文を重ねる。内面は工具によるナデ。施文具は5本単位の櫛状II種。施文順は縦区画から波状文。	①きめやや粗く、長石の細粒～粗粒を含む。②やや硬調。③灰白2.5Y8/2。

(2) 外来系土器 (古墳時代初頭) (第710・711図 PL.119)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺		口縁部	外反する頸部端の下に幅広の粘土帯を付けて二重口縁とする。外面にナデによる弱い凹線を巡らし、4本単位の棒状浮文を貼付する。	①ややきめの粗い素地土に赤色粒・石英・有色鉱物の細砂を含む。②良好、やや軟質。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 壺		Ⅲ区 口縁部	幅広の粘土帯による二重口縁部で、外面はナデによる弱い凹線を残し、棒状浮文を貼付する。	①ややきめ粗い素地土に赤色粒・石英・その他有色鉱物の細砂を含む。②やや軟質。③橙5YR7/6。
3 壺		Ⅰ区 口縁部	外反する頸部に粘土帯を付加して、垂下する二重口縁をつくり出す。内外面ナデ。	①きめ細かく、細砂を含む。②やや軟調。③灰白5Y8/1。
4 壺		Ⅳ区 口縁部	幅広の粘土帯を付加して口縁を二重にする。横ハケ目の後、縦位の沈線3本を施す。内面はハケ目の後放射状ヘラ磨き。	①きめやや細かく、赤褐色粒・チャート・石英等の細礫、粗砂が多い。②やや軟調。③橙5YR7/6。
5 壺		Ⅱ区 口縁部	上縁に平坦面をつくり、櫛状具の押圧を巡らす。頸部外面にハケ目、内面はナデ。	①粗砂が多い。②普通。③橙色～灰褐色。
6 壺		Ⅱ区 口縁部	口縁は1条の粘土帯を巻き、下に折り返す形状。外面に2個1対の円形貼付文を8カ所に付す。貼付文には直径5mmの管状具を押圧する。内面には17本前後の櫛歯状具で描き縋いで直線文を施す。調整は内面ヘラ磨き。外面横ナデ。	①チャート・石英・軽石等を含む。②ほぼ均質で焼き締まり、良好。③器壁がにぶい褐7.5YR4/3で内面に黒斑が見られる。
7 高杯		Ⅱ区 口縁部	外方に大きく開き、口縁部で内側に弱い段をつくる。外面は部分的に縦ハケ目の後口縁付近と底部付近を横ナデ。内面は丁寧な横ヘラ磨き。文様は口縁内面に板状具木口によると思われる列点文を巡らす、羽状構成か。	①きめ細かい素地土に大粒の長石を含む。②硬質(内面は還元される)。③灰黄褐10YR6/2。内面は黒10YR2/1。
8 壺		Ⅱ区 頸部	「く」字状に屈曲する頸部に凸帯を巡らし、指頭による押圧を加える。調整は、内外面ともに丁寧なナデ。	①石英・黒色鉱物・赤色の粗～細砂含む。②やや軟調。③灰黄褐10YR4/2。
9 壺		Ⅱ区 頸部	頸部に断面円形凸帯を巡らし、上下交互に先端の鋭い工具で刺突を施す。内外面は粗いヘラ磨き。	①きめやや粗く、白色・赤褐色・黒色の粗砂が多い。②やや軟調。③器面は浅黄褐10YR8/4。器壁は黒色。
10 壺		Ⅲ区 口縁部	大きく外方に開く口縁で、上面に櫛描波状文Ⅱ種aと糜状文を施す。櫛描文の上に楕円形の赤彩文を施す。施文具は7本単位の櫛Ⅱ種。	①きめやや粗く、赤色粘土粒・白色、黒色鉱物の粗～細砂を含む。②やや軟調。③灰白10YR8/2。
11 (壺)		Ⅲ区 口縁部	10と同じ。	①②③10と同じ。

遺物観察表編

12 壺		Ⅲ区 口縁部	口縁は段状にくびれて、大きく外方に開き、上面に櫛描波状文と簾状文を施す。楕円形の赤彩を施す。施文具は7本単位の櫛Ⅱ種。	①きめやや粗く、赤色粘土・白色、黒色の粗～細砂を含む。②普通。器壁と器面一部黒斑。③灰白10YR8/2。
13 壺		Ⅱ区 口縁部	強く屈曲して外反し、口縁下位に断面三角形の凸帯を付加して、段状につくる。上面に櫛描波状文を三重に施す。施文具は8本単位の櫛Ⅰ種。	①石英・チャート等の細礫が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
14 壺		Ⅱ区 頸部	口縁を有段状に作り出し、頸部には1条の粘土紐を巻き、木片状具の木口面を上下から交互に連続して押捺する。肩には目の細かい櫛描直線文を施す。施文具は木片状具と考えられる。	①石英等の無色鉱物を多く含む。②良好。③浅黄橙10YR8/4。
15 壺		Ⅱ区 肩部	幅1.9cm大の櫛Ⅱ種による横線と波状文の交互施文。上から順に時計回り施文。描き継ぎが見られる。内面ナデ。	①赤色粒・チャート・長石等の細礫を多く含む。②やや軟質、器面の一部に黒斑。③器面、器壁ともにぶい橙10YR7/3～6/4。
16 壺		Ⅳ区 肩部	幅1.5cmの櫛状施文具による横線と波状文の交互施文。施文方向は時計回りで、内面ナデ。	①赤色粒子・角閃石・輝石・軽石等の細砂含む。②やや軟質。③器面、器壁とも浅黄橙7.5YR8/4。
17 壺		肩部	幅1.3cmの櫛Ⅱ種により波状文、直線文と刺突列を巡らす。胴部は横へら磨き。内面ナデ。	①チャート・赤色粒等の細礫～粗砂を含む。②良好堅緻。③器面にぶい橙5YR6/4。器壁がぶい黄橙10YR7/2。
18 壺		Ⅱ区 肩部	上から波状文、直線文、刺突の順で施文。胴部は横へら磨き。内面ナデ。施文具は歯数14本の櫛Ⅱ種を用いる。施文方向は反時計回り。	①やや緻密で、石英・チャート等の細礫を含む。②やや硬調。③橙5YR7/6。
19 壺		Ⅲ区 肩部	櫛描波状文と横線の交互施文。施文具はⅡ種、表面に丹彩らしき痕跡を残す。内面はナデ。	①赤色の細礫・チャート・長石等の小砂を含む。②やや軟質。③にぶい黄橙10YR7/3。
20 壺		Ⅱ区 肩部	櫛Ⅱ種による横線と刺突列を巡らす。内面は粗いナデ。胴部は丁寧な縦へら磨き。	①長石・石英・輝石・チャート等の細礫を多く含む。②良好でやや硬質。③にぶい橙10YR7/4。
21 甃		Ⅳ区	先端の鋭い櫛状施文具による間隔の粗い波状文を横位に施す。内面ナデ。	①きめの細かい素地に赤色粒子・チャート・輝石・角閃石等の細砂を含む。②良好堅緻。③器面、器壁とも赤褐2.5YR4/6。
22 壺		Ⅱ区 肩部	外面は横位のハケ目の後、胴部に縦へら磨き、肩部に波長の短い櫛描波状文を反時計回りに施す。肩と胴の境は鋭利な工具による刺突列点文を2段に施す。内面は横位のハケ目を施すが不鮮明。	①酸化鉱物・石英・長石・パミス等を含む。②良好、内面やや還元。③外面が橙5YR7/4。内面が黄灰2.5Y6/1。
23 甃か		Ⅲ区 胴部	外面は斜位ハケ目の後、間隔の粗い櫛状具による直線文を施し、その間に植物の茎様の棒状具による鋸歯文。内面は斜位のナデ。	①素地土はきめ細かく、軽石・長石・石英・輝石・角閃石・赤色粒子を含む。②還元気味で堅緻。③器面は暗赤褐5YR3/6。器壁は黒色。
24 器台		Ⅱ区 器受部	器受部底部はやや外上方向に張り出し、端部を面取りして櫛状具による列点文を巡らす。内外面とも丁寧なへら磨きを施すが底内面はナデのみ。	①軽石・チャート・有色鉱物等の小砂を多く含む。②硬質。③明赤褐2.5YR5/6。

11 遺構外出土遺物

25 甕		II区 口縁部	外反する口縁は2段の粘土紐を積み上げて成形し、口唇外面を面取り。外面指頭押圧痕を残したまま、内面及び口唇には幅1.8cm程の工具による目の細かいハケ目を施す。	①1mm大の赤色粘土粒・黒色鉱物等を含む。②良好。③浅黄橙7.5YR8/4。器面の一部は明赤褐7.5YR8/4。
26 甕		II区 口縁部	外反する口縁を2段の粘土紐を積み上げて成形し、口唇外面を面取り。外面に指頭圧痕を残し、内面に幅1.5cm程の工具による目の細かいハケ目を施す。	①赤色粘土粒・黒色鉱物を含む。②良好。③浅黄橙7.5YR8/4。

(3) 瓦 (第712図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 丸瓦	縁部厚 1.3 中央厚 1.7	図示部片	玉縁付き。内面に細かく鋭い布目が残る。面取りは端部・側部とも2回で鋭い。	①細礫まじりの白色砂粒含む。素地やや緻密。②還元焰、硬調。③外面青灰5BG5/1。断面暗紫灰5RP4/1。④笠懸系。
2 丸瓦	縁部厚 1.3 中央厚 2.0	図示部片	玉縁付き。1にほぼ同巧。面取りやや細かい。	①②③④1に同じ。同一個体の可能性あり。
3 丸瓦	厚 1.3	VII区	凹面の布目は細かいが深い。側面平滑で、凹面側に丁寧な面取りを加えている。凸面も平滑。	①②③④1にほぼ同じ。同一個体ではない。
4 丸瓦	厚 1.5		凹面の布目は細かいが深い。側面は平滑で、凹面側に弱い面取りを加えている。凸面は不整。	①細礫・砂粒等を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰5BG4/1で断面までほぼ一様。④笠懸系。
5 丸瓦	厚 1.1	VII区	凸面弱い削りで、擦痕やや目立つ。凹面は布目の上にナデを加える。	①素地緻密。白色粗砂まじりの砂粒含む。石英散見。②還元焰、硬調。③青灰5BG5/1。断面灰赤7.5R4/2。
6 丸瓦	厚 1.9～1.6	VII区	凹面の布目は縁部付近以外で不明瞭。凸面平滑。縁部も平滑で、面取りは雑で2回。厚み一様でない。	①白色粗砂やや目立つ砂粒含むが、瓦としては、夾雑物少ない。②還元焰、硬調。③黄灰2.5Y4/1、断面暗赤褐7.5R3/2。④笠懸系。
7 丸瓦		VI区	器面剥落多く不明瞭。側面は平滑。	①バミス・赤褐色鉱物・夾雑物多い。②中性焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。④笠懸、太田等の東毛地区のものか。
8 丸瓦	厚 1.9		凹面布目はきわめて粗い。凸面は平滑だが、横位の弱い段が生じている。	①白色粗砂やや目立つ砂粒含む。②中性焰気味。硬調。③灰赤2.5YR5/2。断面にぶい褐7.5YR6/3。
9 丸瓦	厚 0.9	VII区	5にほぼ同巧。厚み異なるが、同一個体の可能性あり。	①細礫散見するが、5にほぼ同じ。②③④5に同じ。
10 丸瓦	厚 2.6	IV区	凹面の布目粗い。側面には3回、強く丁寧な面取りを加えている。凸面は指頭状の凹凸あり。	①細礫・赤褐色鉱物等の雑多な夾雑物含む。②還元焰か、やや不充分。③褐灰7.5YR4/1。断面にぶい褐7.5YR6/3。④笠懸系。
11 平瓦	幅 28.8 厚 2.6～2.3	図示部2片	一枚造り。凹面は布目の上から細かなナデを加える。端部と側部にやや雑な面取り。凸面に正格子の叩きが2カ所に見られる。	①細礫・赤褐色鉱物等、雑多な夾雑物多い。②還元焰、やや不充分。③外面灰黄褐10YR4/2。ムラ多く一様でない。断面灰褐5YR6/2。④笠懸系。
12 瓦	厚 1.7	図示部片	凹面細かな布目の上に雑なナデ。凸面叩き目の上に細かなナデ。側面に面取り3回。	①細礫まじりの砂粒やや多い。②還元焰、普通。③灰白2.5Y7/1でほぼ一様。④笠懸系か。
13 平瓦	厚 1.3	VII区	一枚造り。凹面布目。凸面横位の弱い削りで平滑に仕上げ、縁部に細い面取り加える。	①白色粗砂のやや目立つ砂粒を含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y7/1。断面灰赤2.5YR5/2。④笠懸系。
14 平瓦	厚 1.7～1.1	図示部片	一枚造り。凹面粗い布目。凸面縦位のナデだが平滑に仕上げる。縁部2段の削り。厚み一様でない。	①白色粗砂・片岩質細礫等まじる砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1でほぼ一様。④笠懸系。
15 平瓦	厚 1.7	図示部小片	上面布目は一部で不明瞭。下面は縦位のやや鋭い擦痕が残る。	①素地やや粗い。片岩質細礫やチャート等の混入目立つ。②還元焰、普通。③暗灰黄2.5Y5/2。下面は灰色。④笠懸系。

11 遺構外出土遺物

16 平瓦	厚 1.7	図示部片	凹部に細かな布目残る。凸部は縦位のやや鋭いナデ。	①片岩質細礫・赤褐色鉄物・砂粒等の夾雑物が多い。 ②還元焰、やや不充分。③凸面暗青灰5BG4/1。凹面・断面灰黄褐10YR5/2。④吉井系。
17 瓦	厚 1.8	図示部片	器面風化し、凸面は不明瞭。凹面はやや細かな布目残る。	①細砂多いが、他の混入物少ない。②還元焰、普通。 ③灰黄2.5Y7/2。④吉井・藤岡系か。

(4) 古墳時代～平安時代の遺物 (第713図 PL. 120)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 紡錘車	径 4.2～4.1 厚 1.2 重 28.6g	ほぼ完形	側面に、ハツリ状のやや粗い工具痕が残っている。	①滑石か。
2 管玉	長 2.2 厚 0.66	II区 完形	側面はほぼ長方形で、断面は楕円形に整形。穿孔は両端から行ない、中央で相方からの孔がずれる。研磨は丁寧で擦痕等はほとんど見られない。	①蛇紋岩製と思われる。
3 白玉 未製品	厚 1.0 重 5.7g	II区 完形	表面の研磨はごく粗いもので、用途は不明。器面の凹凸も著しい。大きさに比して厚く、孔も太い。	①白色味の強い滑石か。
4 白玉	径 0.97 厚 0.22	III区 ほぼ完形	側面に細かな縦位の整形痕残るが、上下両面は不明瞭。孔は一方から穿っている。	①滑石。④孔の端は僅かに摩滅している。
5 有孔円盤	径 2.0～1.7 厚 0.5～0.3 重 2.6g	埋土 完形	完成品と思われるが、雑な作りで器面の凹凸著しい。平面形も歪み大きく、丸みがない。	①滑石。
6 勾玉	厚 0.88	II区 1/2個体	表面に剥落多く、不明。孔は一方から穿っている。	①石材不明。③白色及び灰白色。④上下両面の剥落著しい。
7 勾玉 未製品	長 4.0 厚 0.8～0.6	表採 完形	全面に鋭い研磨が及び、勾玉状を呈しているが、有孔円盤の再調整品である可能性もある。	①滑石。黒色味を帯びている。
8 石帯 (巡方)	上面 3.73×3.62 下面 3.93×3.70 厚 0.62	II区 完形	4対の紐通しの孔を持つが、配置はやや不規則になる。	①石材不明。大理石に類似した質感を持つ。④裏面の縁辺に細かな割れが多い。
9 瓶か (R)	台(9.0)	II区 図示部小片	高台の形状より袋物である。外面の磨き強い。釉は薄く均一だが、内底で露胎の可能性あり。	①精選され緻密。気泡僅かにまじる。②いわゆる硬陶。③素地は灰色。釉は深緑で外面光沢あり。
10 椀 (R)	口(14.4)	II区 口縁上半片	右回転ロクロ。薄手でシャープな作りである。全面にやや鋭い磨き。釉は薄く均等。	①素地精緻で混入物もまれ。②いわゆる硬陶。③素地はやや青色味を帯びた灰色。釉は深緑色で弱い光沢あり。
11 椀 (R)		II区 口縁部小片	右回転ロクロ。内面立ち上がり部に弱い沈線巡る。外面下端に弱い削り。内面の磨き丁寧。内面一部で無釉。	①素地やや緻密。細砂の混入多い。②いわゆる軟陶。③素地は赤色味を帯びている。釉は淡く薄い緑色。
12 椀 (R)	口(19.0)	表採 口縁部小片	右回転ロクロ。全面に磨きを加える。釉は薄く、外面でムラあり、一部に気泡を生じている。小片からの復元で、口径不安。	①精選され緻密な素地。②いわゆる硬陶。③素地は灰黒色。釉は深緑色。④口縁内端が摩滅している。
13 杯 (S)	底 8.1	VI区 底部完存	左回転ロクロ→回糸→底部縁辺と体部下端に幅広の回転ヘラ削り。内底は平坦。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの細砂やや多い。②還元焰、やや不十分。③灰黄2.5Y6/2。外面やや赤色味を帯びる。④外底に墨書「大」。

(5) 中世～近世の遺物 (第714～717図 PL. 120・121)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 白磁碗		II区 口縁部小片	11～12世紀代の舶載磁器と思われるがそれを模倣した国産品の可能性あり。口縁外端で釉厚い。	①精緻。②やや硬調。③素地白色。釉調は乳白色で光沢やや弱い。
2 青磁碗		V区 口縁部細片	内面に劃花文あり。釉は一般的な厚さで、細貫入が見られる。	①胎土は灰色。③釉調は淡い灰緑色。④13世紀代の龍泉窯系。
3 青磁碗		表採 口縁部片	鎗手蓮弁文碗の口縁部片で、青磁釉は厚く、内外各1mm。口縁端部は紫口となる。	①胎土は緻密で純白。③釉調は淡い青色。④13世紀代の龍泉窯。
4 青磁碗		表採 口縁部片	鎗手蓮弁文碗の口縁部片。端部に口禿げあり。釉は薄い。	①胎土は緻密で淡灰色。③釉調は淡い空色で美しい発色。④13世紀代の龍泉窯。
5 青磁碗		表採 体部細片	外面に鎗手蓮弁文あり。器肉は薄く、釉は厚い。	①胎土は緻密で淡灰色。③釉調はオリーブ色。④13世紀代の龍泉窯系。
6 青磁碗		表採 口縁部片	外面に鎗手蓮弁文あり。釉は薄い。内外面に使用時の擦痕、顕著に残る。	①胎土は緻密で灰色。③釉調はオリーブ色。④13世紀代の龍泉窯系。
7 青磁皿	口(9.8)	VII区 図示部片	いわゆる猫描き手になると思われる。外面下側に露胎部分あり。釉は薄い。	①胎土は淡灰色。③釉調は薄い灰緑色。④13世紀代の同安窯系。
8 梅瓶 (陶器)		表採 図示部破片	肩部破片。内面には紐造り痕の上に指頭圧痕が残る。器面に凹凸強い。外面は断面V字状の鋭い線刻で蕨手文を描き、灰釉を施す。	①素地緻密。僅かな黒色鉱物粒以外の混入物は少ない。②還元焰、硬調。③灰白色。釉は淡い黄緑色で透明度高い。細かな貫入あり。④古瀬戸。
9 青磁碗		表採 体部小片	外面に鎗手蓮弁文あり。器肉は厚く、釉は薄い。貫入あり。	①胎土は緻密で灰色。③釉調は暗いオリーブ色。④13世紀の龍泉窯系。
10 青磁碗		表採 体部細片	外面に鎗手蓮弁文あり。釉は薄く、気泡やや大きい。	①胎土緻密で淡灰色。③釉調は淡いオリーブ色。④13世紀代の龍泉窯系。
11 青磁碗	台(5.8)	II区 図示部片	内面に劃花文を施す。釉は薄く均一。気泡を生じる。接地部分は釉ハガキ。高台内側に黄白色の砂粒付着。	①精緻。②硬調。③素地は灰色で、一部暗い。釉調はくすんだ青緑色。④龍泉窯系。
12 青磁碗		VII区 体部下半片	高台部は旧時欠損(打ち欠きか)。内面に劃花文、外面に鎗手あり。釉は平均的な厚さ。	①胎土は灰色。③釉調は淡青色。④13世紀代の龍泉窯系。
13 天目茶碗 (陶器)	口(11.4) 台 4.4 高 6.2	表採 口縁部欠く	右回転ロクロ→削り高台は幅広→外面体部中位まで回転ヘラ削り。鉄釉は厚く、ロクロ痕不明瞭。	①素地やや緻密。混入物殆ど含まない。②鉄釉は黒色で、厚い部分は表面褐色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
14 碗 (陶器)	口(8.0)	III区 図示部片	外面にロクロ痕の強い、上下掛け分けの薄手の小碗である。外面上半と内面は長石釉、外面下半に鉄釉を施す。	①素地普通。細砂を混入する。③素地は灰色味が強い。鉄釉は光沢のない暗褐色、長石釉は透明で厚い部分のみ緑色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
15 播鉢 (陶器)	口(24.8) 底 15.8 高 11.5	III区 体部片欠く	ロクロ痕は観察できない。外底は砂底で凹凸多い。口縁上端は小さく凹む。片口部は両脇が外方から押圧されるようだ。卸し目なく、内面降灰釉厚い。	①素地普通。細礫まじりの白色粗砂の混入多い。③器面赤褐色。断面灰黄色。降灰釉は黄色味強く厚い部分ではオリーブ色になる。④使用痕は不明瞭。

遺物観察表編

16	把手	IV区 図示部完存	鑄形土器の把手破片。外端は平坦に仕上げられてある。内面は幅太の研磨後、黒色処理を施している。	①素地やや緻密。細礫まじりの砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒斑あり。内面黒色で、光沢は弱い。
17	石鉢	VII区 1/2個体	外面下半に粗い工具痕が残る以外は、丁寧な作り。	①粗粒安山岩。③白色味が強い。④内面の使用痕顕著で、底部付近を中心に平滑になっている。破損後に火熱を受けている。
18	石鉢	1/2個体	器面凹凸多いが、調整痕は観察できない。口縁は尖るが、上端はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④口縁外端に火熱を受けている。
19	石臼 (上臼)		「ものくばり」は殆ど摩滅。目は切線主溝型6分画7溝式である。副溝数は部分的には異なる。左回り。挽き手穴両側に、上縁に貫通する小孔がある。上面中央には中心の目印がある。	①粗粒安山岩。
20	茶臼 (上臼)	完形	方形の挽き手穴が2個穿たれている。磨面は摩滅し、目は不明。ふくみはやや小さい。	①粗粒安山岩。④挽き手穴は一片2.9cm、深さ4.2cmと、一片3.5×3.2cm、深さ3.1cm。
21	石臼 (上臼)	1/2残存	芯穴は円形。挽き手穴は丸味を帯びた方形。上縁は一部のみ遺存。挽き手穴付近には側面から上面に貫通する小孔あり。芯穴上の上面にはノミによる浅い小孔がある。溝は7～8本で6分画と思われる。左回転。	①粗粒安山岩。すり合わせ面はやや粗い。
22	石臼 (下臼)	1/2個体	切線主溝型で6分画と思われる。副溝は5本。ふくみは小さい。	①粗粒安山岩。④溝は幅4mm、溝間隔2.8cm。破損後に火熱を受けている。ススの付着も多い。
23	五輪塔 (空風輪)	II区 ほぼ完形	表面風化著しく、加工痕は観察できない。平面形状は楕円形に歪む。底部は小さく凹み、柄は付かない。	①凝灰岩。貝の化石を含む。脆い。
24	五輪塔 (空風輪)	完形	表面やや平滑。空・風輪の区切り部分に横位、風輪部に斜位の擦痕残るが、不明瞭。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
25	五輪塔 (火輪)	ほぼ完形	表面風化し、工具痕は残らない。底面は平坦。	①軽石(二ツ岳)④一側面に火熱を受け、黒色味をおびる。柄穴側面と底面中央が摩滅している。
26	板碑	中右部破片	主尊は阿弥陀三尊種子。キリークは上半欠。蓮座はキリークのみであり。種子・蓮座ともに薬研彫り。紀年銘は「元徳元年(1329)年十二月」	①緑色片岩。混入物は少なく、僅かに雲母・長石細粒を含む。④碑面の摩滅は少ない。
27	板碑	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子(一尊か)。キリークはイーがアク点を抜ける書体。種子・蓮座とも薬研彫り。右側に粹線がある。	①緑色片岩。細粒の長石・雲母を少量含む。④碑面の摩滅は少ない。
28	板碑	V区 主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークはイーがアク点の間を抜ける書体。種子・蓮座ともに薬研彫り。種子の規模より中大型の板碑。	①緑色片岩。大粒の長石を少量含む。④碑面はやや摩滅する。

11 遺構外出土遺物

29 板碑	厚 1.5	紀年銘部破片	主尊は不明。「康永□十一月」の紀年銘が残る。月を年号の右に、日を左に記す型式か。	①細粒の長石・雲母を含む。④元号の康永は1342～1344年。
30 硯	長 10.1 幅 4.1	Ⅵ区 上面欠	内面縁部に鋭い整形痕残る。他の面は平滑。	①泥岩か。軟質。④上面は摩滅し平滑。墨状の付着物が一部で認められる。
31 煙管		図示部片	一側面に合わせ目が残る。先端はラセン状の凹凸あり。薄手で軽量。	①銅製で内側面とも緑青が顕著。④表面は殆ど剥落しているようだ。
32 雁首	外端径1.2～1.1 長 5.2	Ⅵ区 完形	厚手でガッシリしている。	①銅製。全面に緑青が吹いている。④胴部の木質部と一部に煙草が残存している。
33 鉄砲玉	径 1.33～1.29 重 13.35g	Ⅰ区 完形	中央に弱い合わせ痕が観察できる。片側には湯口の痕が顕著。細かな歪みがあり、形状はやや不整。	①鉛製で表面に白色の錆が見える。④一端がやや凹み、二条の圧痕が僅かに残る。発砲したものと思われる。

(6) 古 銭 (第718図 PL.122)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 古銭	径 2.21 孔幅0.53	VII区 ½個体	開元通寶か。径小さく、私鑄銭の可能性。又は會昌開元(初鑄 845年)か。背に文字のある可能性あるが不明瞭。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.0mm。
2 古銭	径 2.47 孔幅0.69	III区 ほぼ完形	開元通寶。背に一の文字か。	①銅銭。錆により、外輪部中心に脆弱化する。④外輪部幅2.1mm。
3 古銭	径 2.52 孔幅0.56	VI区 ほぼ完形	開元通寶。背に一の文字か。	①銅銭。錆化する。脆弱化している。④外輪部幅2.5mm。
4 古銭	径 2.47 孔幅0.70	II区 下方一部欠く	開元通寶。背は無文。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅1.5mm。
5 古銭	径 2.43	III区 完形	淳化元寶。楷書体。背は無文。初鑄は990年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅3.0mm。
6 古銭	径 2.48 孔幅0.60	II区 ほぼ完形	至道元寶。背は無文。初鑄995年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④背面は強く研ぎ込んだように平滑になっている。外輪部幅3.1mm。
7 古銭	径 2.46 孔幅0.60	完形	至道元寶。行書体。背は無文。初鑄は995年。背は型ズレし、外輪部は一樣でない。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅表3.6mm、背4.5~2.6mm。
8 古銭	径 2.45 孔幅0.65	完形	景德元寶。背は無文。初鑄1005年。孔はやや変形。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅3.4mm。
9 古銭		II区	祥符元寶。背は無文と思われる。初鑄1008年。	①銅銭。風化により脆弱化している。④外輪部幅3.6mm。
10 古銭	径 2.49 孔幅0.67	III区 完形	天禧通寶。背は無文。初鑄1018年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.2mm。表面文字部分がやや摩滅している。
11 古銭		IV区 ほぼ完形	皇宋通寶。篆書体。背は無文。初鑄は1039年。	①銅銭。錆化著しい。④外輪部幅7.2mm。
12 古銭	径 2.41 孔幅0.70	VI区 ほぼ完形	皇宋通寶。背は無文。初鑄1039年。	①銅銭。錆化する。皇の字は不明瞭。④外輪部幅1.5mm。
13 古銭	径 2.38 孔幅0.64	III区 完形	皇宋通寶。背は無文。初鑄1039年。	①銅銭。錆化する。④外輪部幅2.3mm。
14 古銭	径 2.33 孔幅0.66	VI区 完形	嘉祐通寶。背は無文。	①銅銭。錆化の影響は少ない。④外輪部幅表1.6mm、背4.5~2.5mm。
15 古銭	径 2.42	ほぼ完形	嘉祐通寶。背は無文か。初鑄1057年。孔幅は計測できない。	①銅銭。錆化する。④外輪部幅2.7mm。
16 古銭		II区	熙寧元寶。背は無文か。初鑄1068年。	①銅銭。錆化する。背面は研ぎ込んだように平滑になる。
17 古銭	孔幅0.67	½個体	熙寧元寶。篆書体。背は無文か。初鑄1068年。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.6mm。

11 遺構外出土遺物

18 古銭	径 2.47 孔幅0.70	VI区 完形	元祐通寶か。祐の字は不明瞭。背の型のズレ著しい。初鑄1093年。	①銅銭。やや錆化すすむ。④外輪部幅表2.3mm、背6.1~0mm。
19 古銭	径 2.47 孔幅0.60	V区 完形	元祐通寶。背は無文。初鑄は1093年。背は摩滅し平滑。	①銅銭。やや錆化すすむ。④外輪部幅3.5mm。
20 古銭	径 0.51 孔幅0.61	VI区 ほぼ完形	政和通寶。背は無文。初鑄1111年。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.8mm。背は平滑になっている。
21 古銭	径 2.33 孔幅0.58	VI区 完形	洪武通寶。背は無文。初鑄1368年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.0mm。
22 古銭	径 2.51 孔幅0.55	VI区 完形	宣徳通寶。背は無文。初鑄1433年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.4mm。
23 古銭	径 2.32 孔幅0.56	VI区 完形	寛永通寶。文字やや不明瞭だが、太く大きい特徴から、寛永13年(1636年)以後の古寛永通寶か。背は無文。	①銅銭。やや錆化すすむ。④外輪部幅2.2mm。
24 古銭	径 2.29 孔幅0.71	III区 完形	寛永通寶。文字一部不明瞭だが、宝永5年(1708年)江戸亀戸銭造銭と思われる。背は無文。	①銅銭。緑青が全面に見られる。④外輪部幅1.9mm。
25 古銭	径 2.37 孔幅0.69	III区 完形	寛永通寶。文字は不鮮明。背は無文。	①銅銭。錆化は少ない。④外輪部幅2.5mm。
26 古銭	径 2.36 孔幅0.67	VI区 完形	寛永通寶。背は無文。元文2年(1738年)以後の江戸亀戸銭造銭。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.0mm。
27 古銭	径 2.34 孔幅0.67	III区 完形	寛永通寶。文字は不明瞭だが、永の字の特徴より元文期(1737年~)の鑄造か。	①銅銭。鉄錆付着する。④外輪部幅2.3mm
28 古銭	径 2.24 孔幅0.66	VI区 完形	寛永通寶。永の字の特徴から元文期(1737年~)の鑄造。背は無文。孔郭は背側で幅広。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.3mm。
29 古銭	径 2.68 孔幅0.66	完形	文久永寶。いわゆる草文。背は波状文である。初鑄1863年。	①銅銭。錆化少なく、遺存状態良い。④外輪部幅2.4mm。

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第114集

下淵名塚越遺跡
(遺物観察表)

一般国道17号(上武道路)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3年3月22日 印刷

平成3年3月29日 発行

編集・発行／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社